

14  
94

# 大正八年度事業報告

(第二十三卷)

福島縣水産試験場

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5

# 始



1421-94

# 大正八年福島縣水產試驗場事業報告

(第二十三卷)

## 目次

### ◎經費豫算、決算及職員

- 一、大正八年度收入決算
- 二、大正八年度經常部、臨時部支出豫算及決算
- 三、大正九年度經常部、臨時部支出豫算
- 四、現在職員

### ◎漁撈試驗

- 一、鯉漁場調査及鯉釣漁業試驗
- 二、秋刀魚漁場調査及流網漁業試驗
- 三、鮪漁場調査及流網、延繩漁業試驗
- 四、目秋魚漁場調査及延繩漁業試驗
- 五、漁況速報

### ◎製造試驗

- 一、鯉節製造試驗
- 二、鯉魚浸漬試驗
- 三、罐詰製造試驗
- (一) 鯉大和羹罐詰製造試驗

一 一  
二 三  
三 三  
四 四  
五 五  
二〇 二〇  
二八 二八  
三〇 三〇  
三六 三六  
三九 三九  
四〇 四〇  
四三 四三  
四四 四四

### (二) 秋刀魚罐詰製造試驗

- (イ) 秋刀魚大和羹罐詰
- (ロ) 燻製油漬
- (ハ) 燻製酢漬
- (ニ) 南光貝大和羹罐詰試驗
- (四) 櫻桃ジャム罐詰製造試驗

### 四、秋刀魚燻製試驗

### 五、竹輪蒲鉾製造試驗

### 六、雜魚利用製造試驗

### (一) 濱千鳥(一名あられ)製造

### (二) 鯛味噌製造

### 七、分 析

### ◎養 殖 試 驗

- 一、猪苗代湖養殖經營
- (一) 鱒人工孵化放養
- (二) 虹鱒養成試驗

四六 四六  
四七 四七  
四八 四八  
四九 四九  
五一 五一  
五二 五二  
五三 五三  
五三 五三  
五六 五六  
五八 五八  
六一 六一  
六一 六一  
六五 六五



(11)

六七	(三) 鱈族漁獲試驗並ニ漁場調査	八六
六九	(四) 公魚移殖	一二七
七〇	(五) 小鮎移殖豫備試驗	一二七
七一	二、養鱈經濟委託試驗	一三七
七三	三、淺海利用	一四三
七四	四、松川浦養蠟試驗	一四六
七六	五、鮭聯絡調査	
八五	◎講習講話及指導設計	
八五	一、漁業見習生養成	
八五	二、鯉節製造傳習	
八六	三、水產教育	
八六	四、指導設計	

六七	◎海洋觀測	
六九	一、北海道、東北六縣及茨城縣聯絡海洋觀測	八六
七〇	二、沿岸海洋觀測	一二七
七一	(一) 小名濱網取崎沖合海洋觀測	一二七
七三	(二) 原釜沖合海洋觀測	一三七
七四	◎氣象觀測	
七六	一、小名濱氣象觀測	一三七
八五	◎漁業調查	
八五	一、石油發動機附漁船表	一三九
八五	二、打瀬漁船表	一四三
八六	三、沖手線網漁船表	一四六



# 大正八年度福島縣水産試験場事業報告

## ◎經費豫算決算及職員

一金壹万五千參百四拾七圓七錢

內

金八拾四圓五拾四錢

金壹万五千貳百參拾參圓五拾參錢

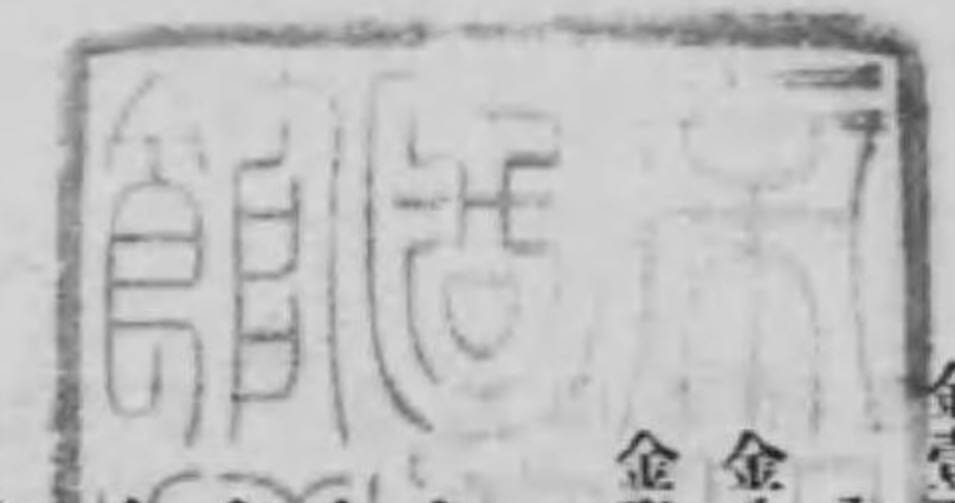
內

- 金七百五拾圓拾七錢
- 金參百四拾五圓八拾錢
- 金百五拾貳圓九拾四錢
- 金壹万百七拾參圓壹錢
- 金參千五百四拾圓五拾八錢
- 金貳百七拾壹圓參錢

雜收入	物品賣拂代	不用品賣拂代	製作品漁獲物賣拂代
	鯉節賣拂代 (七十八貫四百八十匁)	各種罐詰賣拂代 (八百八十三個)	各種製品賣拂代 (一萬三千六百)
	秋刀魚賣拂代 (五十二尾)	雜魚賣拂代 (七千九百)	縣吏員職員納付金

## 一、大正八年度經常部臨時部支出豫算及決算

科	目	決算額	豫算額	比
水産試験場費	四、〇六、六〇〇	四、七六、五〇〇	〇 六九、九四〇	減
	給	二、九〇、八〇〇	三、三三、〇〇〇	減
				〇 二三、一〇〇



技師給	一,099,900	一,100,000	0	八〇
技手給	一,496,400	一,710,000	0	二一三,〇〇〇
書記給	三三三,000	三三三,000	0	0
雜給	二,三六一,六五〇	二,三〇三,〇〇〇	三三,六五〇	0
助手給	二八,〇〇〇	三六,〇〇〇	〇	〇
雇員給	一六七,九〇〇	一六八,〇〇〇	〇	〇
小使給	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	〇	〇
小使被服費	三,〇〇〇	三,〇〇〇	〇	〇
旅費	一,七九,〇〇〇	一,四九,〇〇〇	三〇,〇〇〇	〇
漁夫死傷手當	一九六,〇〇〇	一〇,〇〇〇	九,六〇〇	〇
惠與	四四,〇〇〇	四四,〇〇〇	〇	〇
場費	一,四二,二〇〇	一,二八,〇〇〇	二四,二〇〇	〇
備用品費	六,六六〇	六九,〇〇〇	〇	二四〇
消耗品費	三九,〇〇〇	三五,〇〇〇	〇	五,九七〇
印刷費	二七,八八〇	二九,〇〇〇	〇	一,一二〇
通信運搬費	八五,一九〇	八〇,〇〇〇	五,一九〇	〇
賄費	二九,二八〇	二九,〇〇〇	〇	〇
點燈料	六,八七〇	六九,〇〇〇	〇	〇
雜費	三〇四,二〇〇	二七五,八五〇	二八,三五〇	〇
製造試驗費	四,六二,七五〇	四,六六,〇〇〇	〇	三,二五〇
備夫給	八七,九五〇	七八,六〇〇	九,三五〇	〇
備用品費	一,四八,八〇〇	一,五六,〇〇〇	三,八〇〇	〇
消耗品費	四三,六〇〇	四三,〇〇〇	〇	四〇〇
原料購入費	一,七四五,八〇〇	一,八〇,〇〇〇	〇	六〇,六〇〇
通信運搬費	二九,五五〇	三〇,〇〇〇	〇	四五〇
委託販賣手数料	八,〇〇〇	八,〇〇〇	〇	〇

漁撈試驗費	三〇,七五八,九〇〇	三〇,九四〇,〇〇〇	〇	一八〇,一〇〇
船長給	五〇〇,〇〇〇	五〇〇,〇〇〇	〇	〇
機關長給	四八〇,〇〇〇	四八〇,〇〇〇	〇	〇
漁夫給	四,二二,四五〇	四,二六八,〇〇〇	〇	四五,三五〇
漁業見習生給	三六,〇〇〇	三六,〇〇〇	〇	〇
漁具費	九八七,三八〇	九八八,〇〇〇	〇	二二〇
船具費	八六,六〇〇	六九〇,〇〇〇	〇	六〇三,四〇〇
消耗品費	一八,四〇八,三〇〇	一八,六〇八,六五〇	〇	二〇〇,三五〇
餌料費	九〇〇,七七〇	九〇一,〇〇〇	〇	二三〇
通信運搬費	一〇,三三〇	九四,〇〇〇	〇	八三,六七〇
漁夫獎勵費	二,〇九七,六〇〇	二,二五〇,〇〇〇	〇	一五二,三〇〇
諸損料	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	〇	〇
漁船修繕費	二,一四四,八〇〇	一,九四五,〇〇〇	一九九,八〇〇	〇
養殖試驗費	一,七四九,二〇〇	二,三六七,〇〇〇	〇	六一七,八〇〇
備夫給	二二,三五〇	四六,二〇〇	〇	二四,八五〇
備用品費	二二六,七〇〇	二六,八〇〇	〇	二〇〇,九〇〇
消耗品費	二七四,四七〇	二六,八〇〇	〇	二,六七〇
通信運搬費	三三,九四〇	三五,〇〇〇	〇	一,〇六〇
種苗費	六六,六九〇	一,〇八三,六〇〇	〇	一,〇一六,九一〇
雜費	九七八,〇〇〇	二六,〇〇〇	〇	九五二,〇〇〇
修繕費	四六五,九七〇	四七,五〇〇	〇	四一八,四五〇
指定修繕費	四三〇,三八〇	四三,一九五〇	〇	三八六,一八五〇
普通修繕費	三五,五九〇	三五,五九〇	〇	〇

(ロ) 大正八年度臨時部支出豫算及決算

科	目	決算額	豫算高	比
水産試験場費		六,四二六,八〇〇	六,九〇一,〇〇〇	〇 四八五,一七〇
短艇建造費		二三三,〇〇〇	二五五,〇〇〇	〇 二二,〇〇〇

三、大正九年度經常部臨時部支出豫算

(イ) 大正九年度經常部支出豫算

科	目	豫算額
水産試験場費		四八,六一五,〇〇〇
俸給		四,五五六,〇〇〇
技師給		一,一〇〇,〇〇〇
技手給		三,〇〇〇,〇〇〇
書記給		三三六,〇〇〇
雜給		二,九一〇,〇〇〇
助手給		二六,〇〇〇
雇員給		一六二,〇〇〇
給仕給		三三,〇〇〇
小使給		一四四,〇〇〇
小使被服費		三,五五〇
旅費		二,三三三,〇〇〇
漁夫死傷手當		一〇,〇〇〇
場費		一,八三一,〇〇〇
備用品費		六,〇〇〇
消耗品費		二七,〇〇〇

科	目	決算額	豫算高	比
臨時手當		六,一九三,八三〇	六,六七七,〇〇〇	〇 四八三,一七〇
印刷費		二八五,〇〇〇		
通信運搬費		八〇,〇〇〇		
賄費		六二,〇〇〇		
點燈料		八一,〇〇〇		
雜費		二七〇,三三〇		
製造試驗費		四,六六六,〇〇〇		
備夫給		九六,〇〇〇		
備用品費		四四,〇〇〇		
消耗品費		四三,一九〇		
原料購入費		二,三五五,〇〇〇		
通信運搬費		八〇,〇〇〇		
漁撈試驗費		三〇,三七〇,〇〇〇		
機關手給		五〇〇,〇〇〇		
漁夫給		四,九四〇,〇〇〇		
漁業見習生給		三六〇,〇〇〇		
漁具費		二,〇〇五,六〇〇		
船具費		一,四四二,〇〇〇		

消耗品費	一六、四四、〇〇〇	備夫給	五七、五〇〇
餌料費	五八、四〇〇	備品費	九七、〇〇〇
通信運搬費	九四、〇〇〇	消耗品費	五三、八〇〇
漁夫獎勵費	一、五〇〇、〇〇〇	通信運搬費	三九九、二〇〇
諸損料	一〇、〇〇〇	種苗費	二、五九五、〇〇〇
漁船修繕費	二、〇〇九、〇〇〇	雜費	二四三、一〇〇
養殖試驗費	五、七五、〇〇〇		

水產試驗場費	二四、七四、〇〇〇	屋外稚魚飼育地	一〇〇、〇〇〇
建築費	五、三三、〇〇〇	番小屋	一五〇、〇〇〇
便所	一四、〇〇〇	雜費	一七〇、〇〇〇
孵化場	三、八四、四七〇	發動機据替費	一〇、四五〇、〇〇〇
寒天釜場移轉	七四、五八〇	和船建造費	九七五、〇〇〇
引用水及排水	五〇、〇〇〇	臨時手當	七、九七五、〇〇〇

四、現在職員

場長	技師	中平	貞次郎
庶務、會計	主任主事補	土田	留藏
	係雇	小野	長司
		大場	新吉
漁撈	主任技手	照井	賢三
	技手	青木	京一郎

係兼	技手	山本	正
係助	手	松澤	勇吉
係技術員		紺野	顯
		岩谷	義光
		渡邊	鶴次
主任技手		中村	悌二郎
係技術員		青木	佳年

猪苗代湖鱒孵化場  
主任技手 越田秀包  
養殖

氣象事務 福島測候所技手 太見周平  
主任技手 小林忠太  
取扱囑託

◎漁撈試驗

本漁撈試驗ハ「ケツチ」型補助機關附帆船磐城丸（三十六噸二、五十馬力附）ヲ以テ漁期ニ依ル漁場調査、漁業試驗並ニ海洋調査ヲ施行シ乗組員ハ平時ハ十五名内外ナルモ鯉漁期中ハ臨時漁夫十名内外ヲ乗船セシム而シテ漁場ニアリテハ最適漁場ヲ各漁船ニ實地指導ヲナシ歸港後ハ漁況及ビ海洋狀態ヲ一般營業者ニ速報シ斯業經營上營業者ノ利便ヲ圖ルコトニ努メタリ本年度ニ於テ施行セシ試驗調査項目ハ左記ノ如クニシテ尙ホ其ノ他各漁村ニ場員ヲ派シ講習講話ヲ行ヒ漁船漁具ノ設計指導ヲナシタリ

磐城丸ハ漁場調査ノ傍ラ漁業試驗ヲナシ本年度ハ總漁獲高金壹万參千九百八拾四圓六拾貳錢ニ達シ經ハ其ノ大部分ヲ占メ金壹万百九拾貳圓壹錢ヲ算シ秋刀魚漁獲高之ニ亞ギタリ 本年度ニ於ケル試驗調査項目及ビ其ノ他ヲ記セバ左ノ如シ	調查期間及回数	調查中漁獲高
一、鯉漁場及鯉釣漁業試驗	自六月 至十月 四十二回	金壹万百九拾貳圓壹錢
二、秋刀魚漁場調査及流網漁業試驗	自十月 至十二月 十七回	金參千七百拾八圓六拾壹錢
三、鮪漁場調査及流網延繩漁業試驗	自一月 至三月 三回	金七拾四圓也
四、目拔魚漁場調査及延繩漁業試驗	自一月 至三月 二回	漁獲ナシ
五、漁況速報		

一、鯉漁場調査及鯉釣漁業試驗

(イ) 趣 旨

晩近諸物價騰貴ノ爲メ各營業者ニ於テハ漁業經營上ニ大ナル支障ヲ來シ休漁又ハ他ノ事業ニ轉ズルモノ續出シ漸次出漁船數ノ減少ヲ見ルニ至レルハ遺憾トス從ツテ自然漁獲ノ僅少ナルトキハ出漁ヲ躊躇スルノ止ムナキニ至リ本場磐城丸ノ漁場調査ノ結果ニ依リ漸ク出漁ノ可否ヲ決スルモノ、如キテルヲ以テ本場ニ於テハ磐城丸ヲシテ魚群去來ノ狀況及ビ海洋調査ヲ一層

細密ニ調査シ併ヒテ漁業試験ヲナシ最適漁場ヲ指示シ各當業者ニ速報ヲナスト共ニ出漁上ノ便益ヲ計リ本漁業ヲ適切ニ遂行セシメントスルニアリ

(ロ) 方法

- 一、調査船 磐城丸
- 二、乗組員 二十七名
- 三、調査區域 千葉、茨城、宮城、岩手、本縣ノ各沖合
- 四、調査期間 自六月 至十月

從來漁場ハ主トシテ本縣沖合ヲ調査セシガ本年度ヨリハ初期ニアリテハ千葉縣沖合ニ出漁調査シ漸次岩手縣沖合迄調査區域ヲ擴大セリ而シテ調査セシ漁況及ビ海洋ノ水温水色其ノ他ハ歸港直チニ電信又ハ電話ニ依リ各當業者並ニ重要漁村ニ周知シ詳細ナル漁況ハ更ニ報告書ヲ以テセリ

(ハ) 結果

前述ノ方法ニ依リ試験調査ハ六月初旬ヨリ着手シ六月十九日本縣鹽尾崎南東八十哩(茨城縣久慈郡東八十八哩)ノ海區ニ於テ鯉參千參百五拾九尾金貳千貳百四拾七圓九拾五錢ノ釣獲ヲ初メトシ前後四十二回ニ亘リ本縣沖合ハ勿論前記調査區域ヲ調査シ漁況及ビ海洋狀態ハ其ノ都度前述ノ方法ニ依リ縣下當業者並ニ主要漁村ニ速報シ斯業經營者ニ對シ相當ノ利便ヲ與ヘタリ

而シテ九月末日ヲ以テ豫定ノ如ク臨時漁夫ヲ解雇下船セシメ十月以降ハ秋刀魚漁場ノ調査ヲ兼テ少量ノ餌料ヲ蓄養シ引キ續キ鯉漁場調査ニ從事シタルガ十月十二日ノ漁獲ヲ最終トシ午後ハ專ラ秋刀魚漁場調査ニ移レリ而シテ本漁期中漁場調査ノ傍ラ漁獲試験ヲナシ左ノ漁獲高ヲ上ゲタリ

- 一、調査回数 四拾貳回
- 二、調査中漁獲高 金壹萬百九拾貳圓壹錢

金壹萬百八拾圓壹錢  
金拾貳圓也

鯉一萬三千六百六十六尾  
鮪四尾

大正八年度磐城丸別鯉漁獲高表

魚種	尾數	金額
鮪	三、四一尾	五、〇五
鯉	二、三六、四〇	四、二五、二〇
計	三、四一尾	九、三〇、四〇
計	二、三六、四〇	四、二五、二〇
計	三、四一尾	九、三〇、四〇

漁業表 (大正八年度磐城丸)

月日	天候	漁場	漁具	回數	海面	比	比	潮流	餌料	漁獲	漁獲	漁獲	摘	要
九日	風力	符號	時	同數	溫度	速度	方向	種類	水深	種類	數量	均重	價	額
六月二日	B.2													小名濱碇泊鯉漁業ノ準備ヲナス
六月三日	B.3													午前六時四十五分小名濱出帆海洋觀測ニ向
六月四日	C.4													午前四時觀測終了鯉漁場調査ヲナシタルモ
六月五日	R.1													魚群ヲ認メズ歸港ノ途ニ就ク
六月六日	R.1													午前六時四十分小名濱へ歸港
六月七日	B.1													小名濱碇泊
六月八日	R.1													同
六月九日	C.1													同

廿七日	廿六日	廿五日	廿四日	廿三日	廿二日	廿一日	二十日	十九日	十八日	十七日	十六日	十五日	十四日	十三日	十二日	十一日	十日
R.4	B.3	B.2	B.2	B.3	C.4	C.1	B.2	B.1	C.1	C.2	C.2	B.3	C.4	C.4	C.5	C.3	C.2
	ハ				ロ			イ									
	一九、五二、九、〇二五				二〇、五			二二、〇八、七、〇五									
		鯷			鯷			鯷									
		表面鯷			表面鯷			表面鯷									
	四二				八二			三、五九									
	八〇〇				七〇〇			七〇〇									
	一九、三六〇				六、一〇			二、四七、九〇									
午前九時小名濱歸港投錨ス	午前九時二十五分鯷群ヲ認メ釣獲セリ	終日漁場調査ヲナス	午前六時久慈着港鯷購入ノ上沖合ヘ向フ	午後十時三十分小名濱出帆鯷購入ノ為メ茨城縣久慈ヘ向フ	午後八時三十分小名濱出帆鯷購入ノ為メ同八時三十分小名濱出帆鯷購入ノ為メ同八時三十分小名濱出帆鯷購入ノ為メ同八時三十分小名濱出帆鯷購入ノ為メ	午後八時三十分小名濱出帆鯷購入ノ為メ同八時三十分小名濱出帆鯷購入ノ為メ同八時三十分小名濱出帆鯷購入ノ為メ	午前〇時三十分歸港	鯷ヲ釣獲ノ上歸港ノ途ニ就ク	午前四時三十分同港出帆午後三時三十分小名濱ヘ歸港	同	同	同	同	同	同	午前一時三十分小名濱出帆鯷購入ノ為メ那珂港方面ヘ向フ午後一時四十分銚子入港	午前一時三十分小名濱出帆鯷購入ノ為メ那珂港方面ヘ向フ午後一時四十分銚子入港

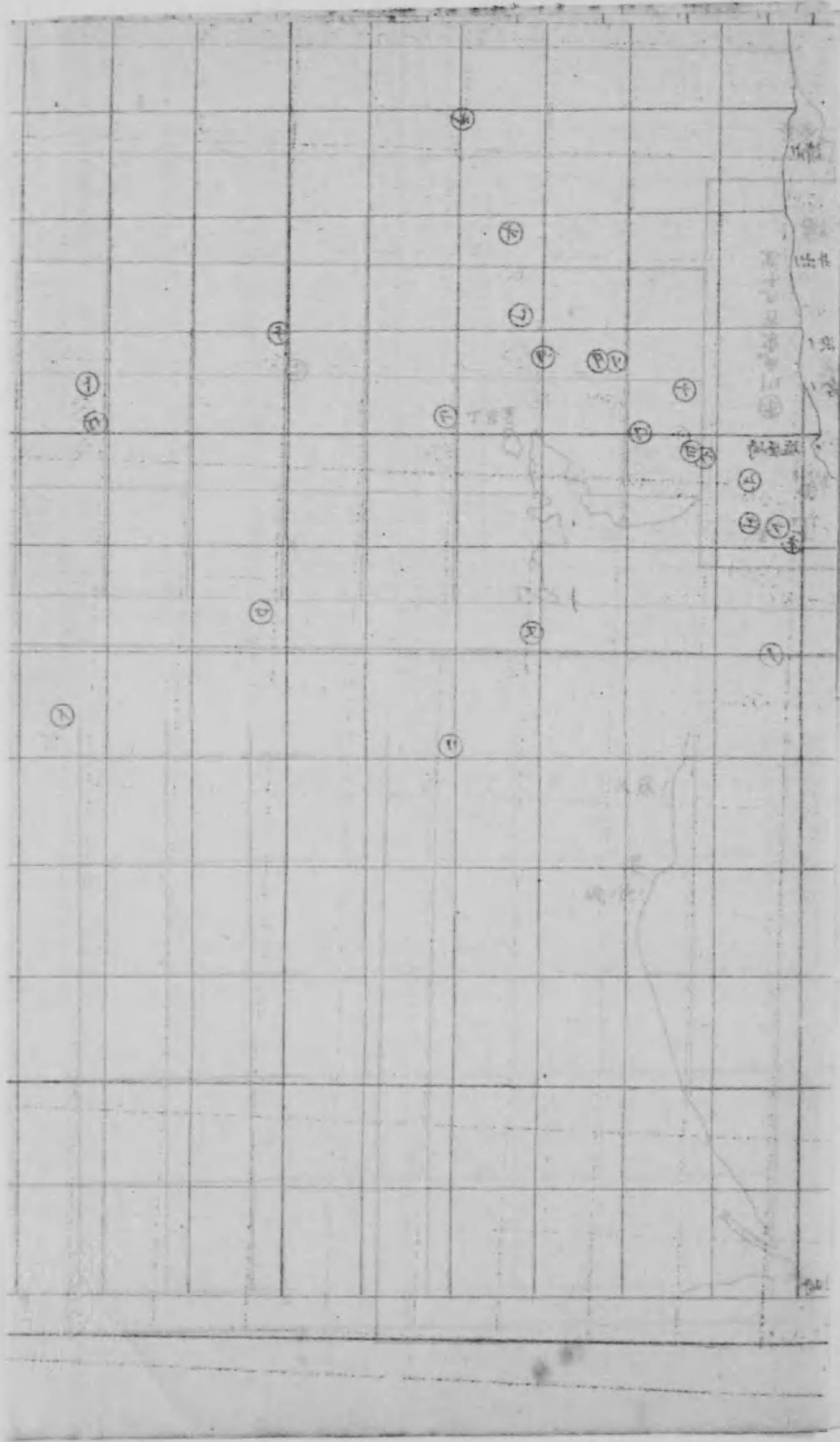
十四日	十三日	十二日	十一日	十日	九日	八日	七日	六日	五日	四日	三日	二日	一日	計	三十日	廿九日	廿八日
C.3	BC.3	B.1	BC.1	R.2	BC.1	BC.2	R.2	B.2	B.2	C.2	B.1	C.1	BC.1		C.1	R.1	C.1
	ト			ヘ				ホ				ニ					
	二、〇二五、〇二五			二、〇二五、〇二五				二、〇二五、〇二五				二、〇二五、〇二五					
	同			鯷				同				鯷					
	同			表面鯷				同				表面鯷					
	四			三七				九八二、〇〇〇				一、〇五					
	〇〇〇			九〇〇				五八二、一九〇				八五					
	三、〇〇〇			三、八〇〇				五八二、一九〇				七〇					
午前一時四十分小名濱ヘ歸港	鯷ヲ認メ釣獲ス	終日漁場調査	午前九時歸港午後九時出漁	午後二時三十分魚群ヲ認メ釣獲ス	漁場調査ノ上漂泊ス	午後七時五十分小名濱投錨出漁ス	午後二時十分小名濱ヘ歸港	鯷ヲ漁獲シ歸港ノ途ニ就ク	同	終日漁場調査ヲナス	午前四時二十五分歸港漁獲物ノ陸揚ゲヲナシ午後八時二十分出漁	午前四時二十五分歸港漁獲物ノ陸揚ゲヲナシ午後八時二十分出漁	午前十時海洋観測ノ為メ出帆	観測終了後漁場調査ヲナシ漁獲ノ結果歸港ノ途ニ就ク	午前探餌ヲナシ午後石油其他ノ積載ヲナス	菊田浦前ニテ探餌ヲナス	江名濱前ニ於テ探餌ニ従事ス

十八日	十七日	十六日	十五日	十四日	十三日	十二日	十一日	十日	九日	八日	七日	六日	五日	四日	三日	二日	一日
B.2	C.3	C.4	R.3	C.4	B.2	B.2	B.2	B.1	B.2	B.3	C.2	B.1	B.2	B.1	C.3	C.3	C.2
										ヨ				カ			
										二、六三、五、〇四				三、一三、七、〇二			
										同				鯉			
										同				表面鯉			
										一七〇				六四二			
										六〇〇				六〇〇			
										二、〇〇、六〇〇				三、三六〇			
漁場ヲ調査中	午前五時沖合へ向フ	探餌ヲナシ月ノ浦へ投錨	同港碇泊	午前十一時二十分宮城縣女川へ入港	魚群ヲ認メタルモ漁獲ナク歸港ノ途ニ就ク	未明出漁	飲料水其ノ他ノ積ミ込ミヲナス	小名濱碇泊石油ノ積載ヲナス	出漁々場調査ヲナシタルモ漁獲ナク歸港	午後四時五十分歸着ス	江名前ニテ探餌ノ上午後九時漁場へ向フ	未明同港出帆探餌ヲナシ午後七時四十五分小名濱投錨	午前一時小名濱へ歸港セシモ天候不良ノ爲メ同六時半瀨港へ避難セリ	午前九時投錨海洋観測ニ向フ	午前四時三十分観測終了午後漁場ノ調査ニ着手	午前五時同港出帆菊田浦ニ於テ探餌ノ上同十一時小名濱投錨	天候不良ノ爲メ平潟碇泊

十五日	十六日	十七日	十八日	十九日	二十日	廿一日	廿二日	廿三日	廿四日	廿五日	廿六日	廿七日	廿八日	廿九日	三十日	卅一日	計
B.2	R.5	BC.2	B.2	C.1	B.1	R.2	B.2	B.2	B.2	R.1	C.2	R.1	R.1	R.2	C.2	R.1	計
			チ		リ		ヌ			ル		ヲ		フ			
			二、〇四、二、〇五		三、〇四、二、〇五		三、五四、七、〇五			二、〇三、五、〇四		三、五三、〇、〇二		二、〇五、三、〇二			
			鯉		同		鯉			同		同		同			
			表面鯉		同		表面鯉			同		同		同			
			五三〇		一、二三		四三			一九		一七		一七			
			六〇〇		七〇〇		六〇〇			六〇〇		六〇〇		六〇〇			
			四、五、九八〇		三、〇四、七、五〇		三、五、四、〇〇			二、三、五、二		一、〇八、三〇〇		九、〇〇〇			
探餌ニ従事	午前〇時三十分小名濱出帆沖合へ向フ	鯉漁場調査ノ上漂泊	午前七時四十五分鯉ヲ漁獲シ午後十時五分歸港	午前五時四十分小名濱投錨探餌ノ上午後出漁ス	早朝漁獲シ午後四時十分歸港	探餌ヲナシ小名濱碇泊	午前一時四十分出漁鯉ヲ釣獲夕刻小名濱へ歸港	午前三時二十五分小名濱投錨探餌ヲナシ午後十時漁場へ向フ	沖合へ漂溺	午後八時歸港	探餌ノ上午後十一時二十五分出漁	鯉漁場調査ヲナス	午後四時二十分小名濱へ投錨	午前二時出漁魚群ヲ認メ釣獲ノ上歸港	終日探餌ニ従事	午後二時三十分小名濱出帆港探餌ノ上平潟へ投錨	





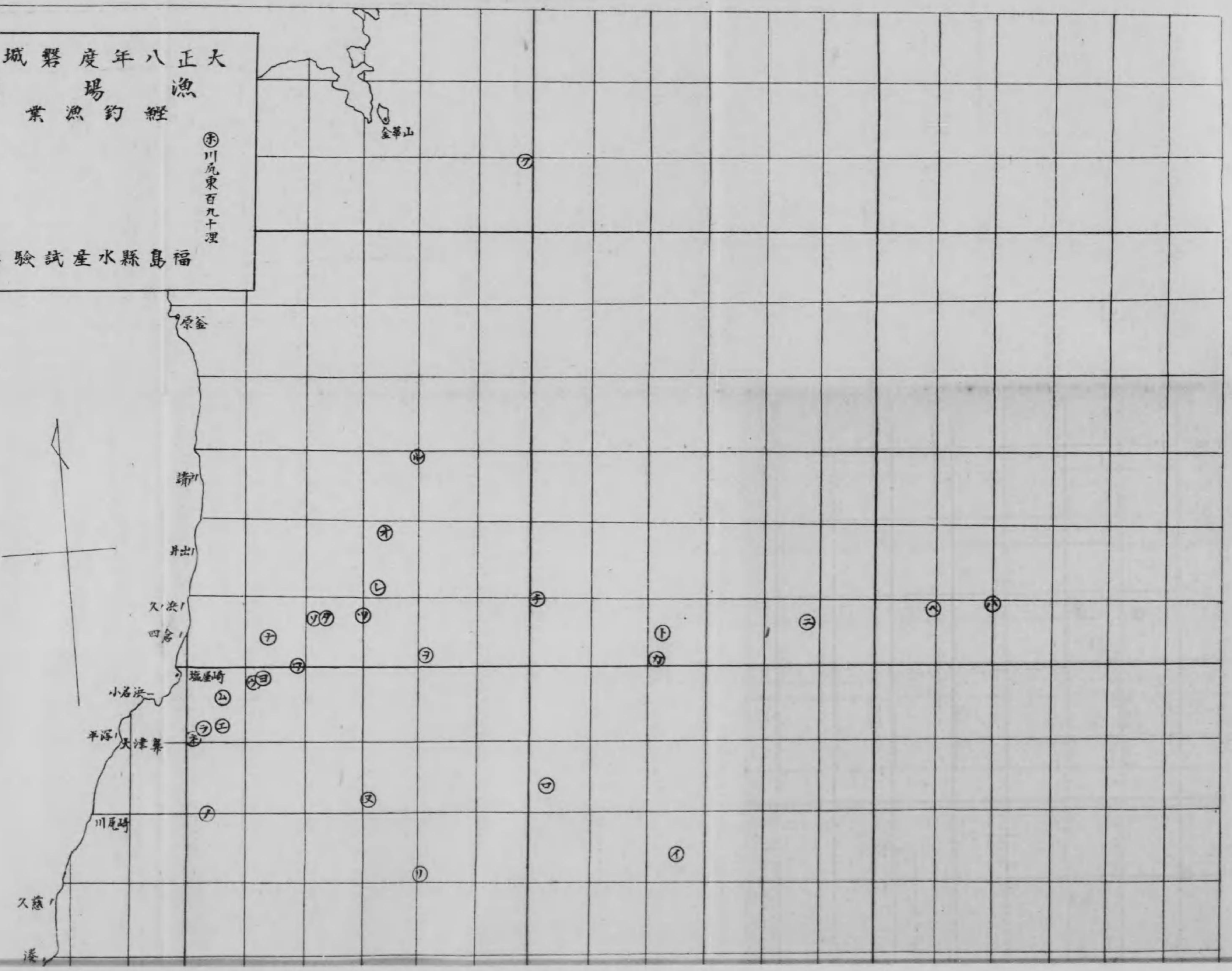


十日	九日	八日	七日	六日	五日	四日	三日	二日	一日	計	三十日	廿九日	廿八日	廿六日	廿五日	廿四日	廿三日
B.2	B.2	R.6	C.5	C.4	C.2	B.4	C.1	C.2	C.3		C.2	C.2	B.1	B.1	R.4	C.4	B.4
																オ	
																三、六〇、五、一〇、五二	
																鯧	
																表面鯧	
																一、一六	
																六〇〇	
																五、一六八〇	
																	午後一時三十分小名濱へ歸港
																	午前一時三十分出漁午後九時十五分歸港獲物ノ陸揚ダラナス
																	小名濱灣内ニ於テ採餌ヲナス
																	午前三時出漁沖合へ向ヒ午後八時歸港
																	出漁セシモ前日ノ如ク不況ニシテ小名濱へ歸港
																	午前〇時五十分出漁夕刻歸港
																	小名濱港内ニ於テ採餌ヲナス
																	小名濱碇泊
																	同
																	午前五時三十七分小名濱出帆海洋觀測ニ向
																	午後五時三十五分海洋觀測終了ス
																	午前八時鹽釜入港午前十時三十分同港出帆夕刻鮎川入港碇泊
																	天候不良ノ爲メ萩ノ濱へ錨地ヲ換へ
																	同港碇泊
																	同
																	午前六時四十分沖合へ向フ
																	午前四時小名濱歸港

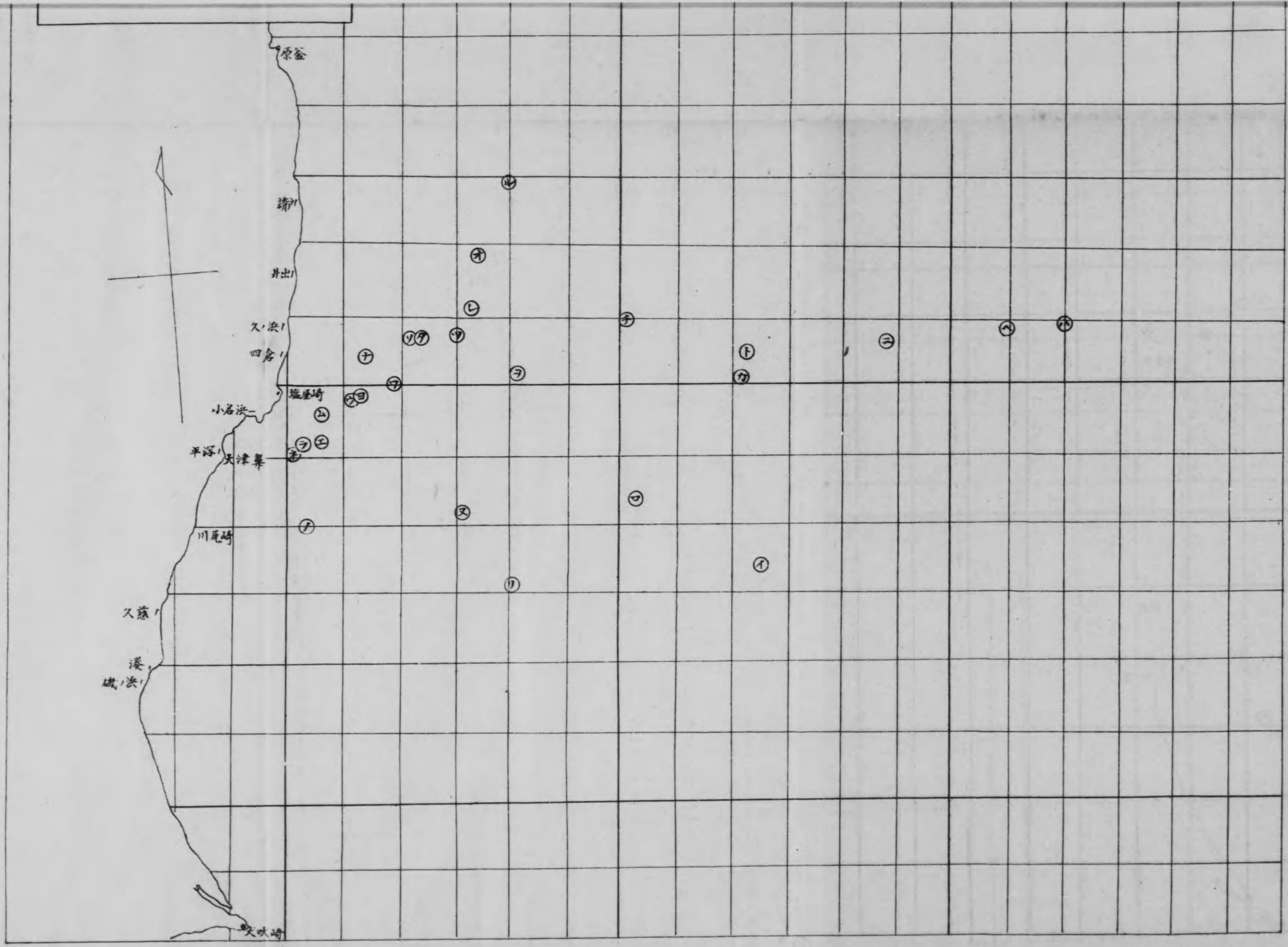
大正八年八月  
 福島縣水産試驗場  
 經釣漁業  
 圖

①川尻東百九十哩

場驗試產水縣島福



十	九	八
日	日	日
B.2	B.2	R.6



十	九	八
日	日	日
B.2	B.2	R.6

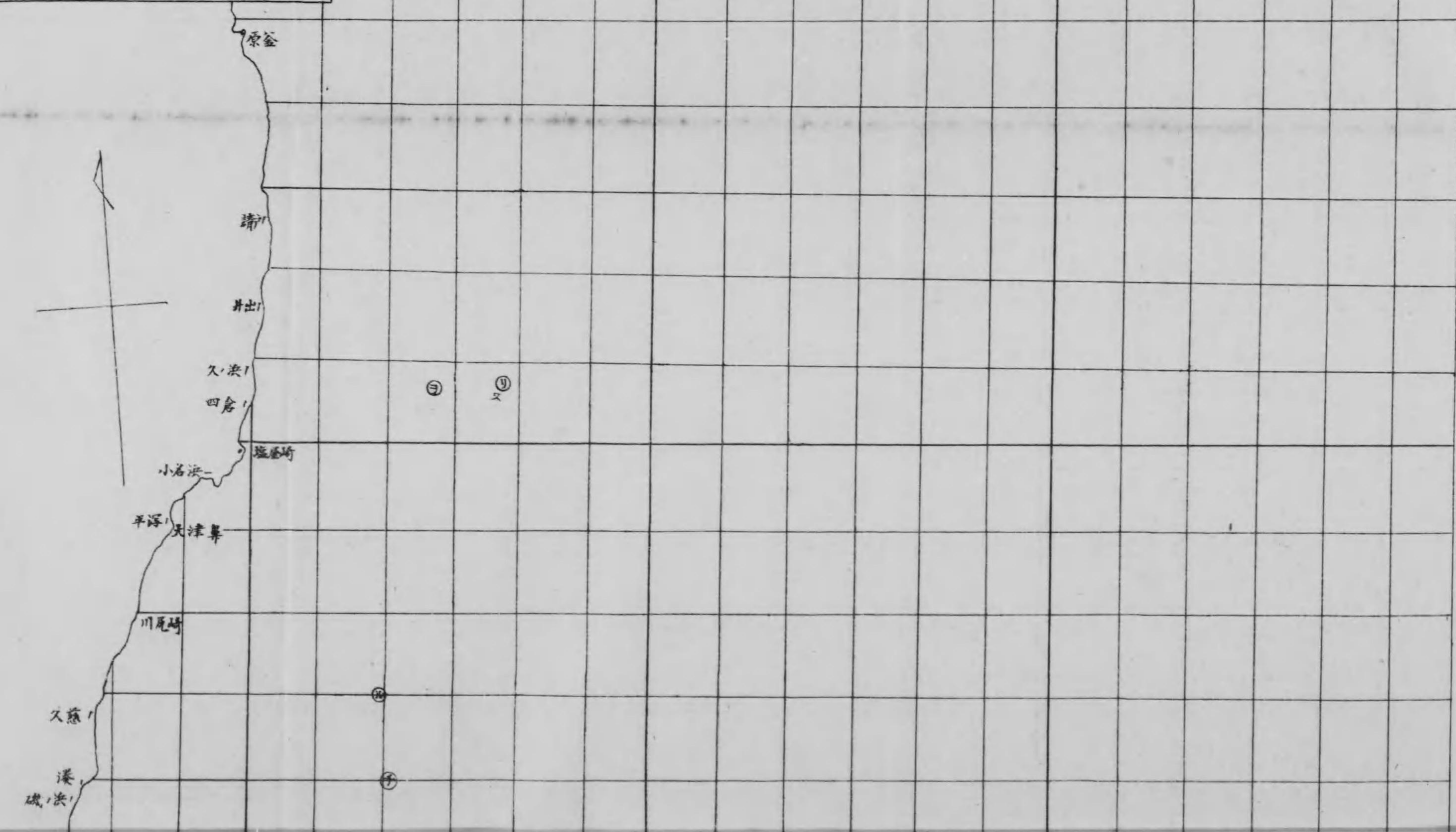
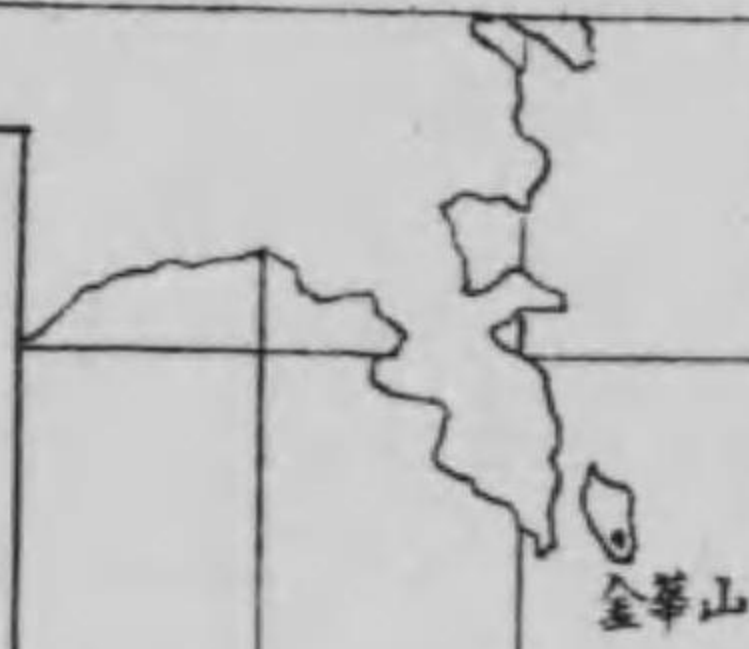
午前六時四十分沖合へ向フ  
 午前四時小名濱歸港  
 同

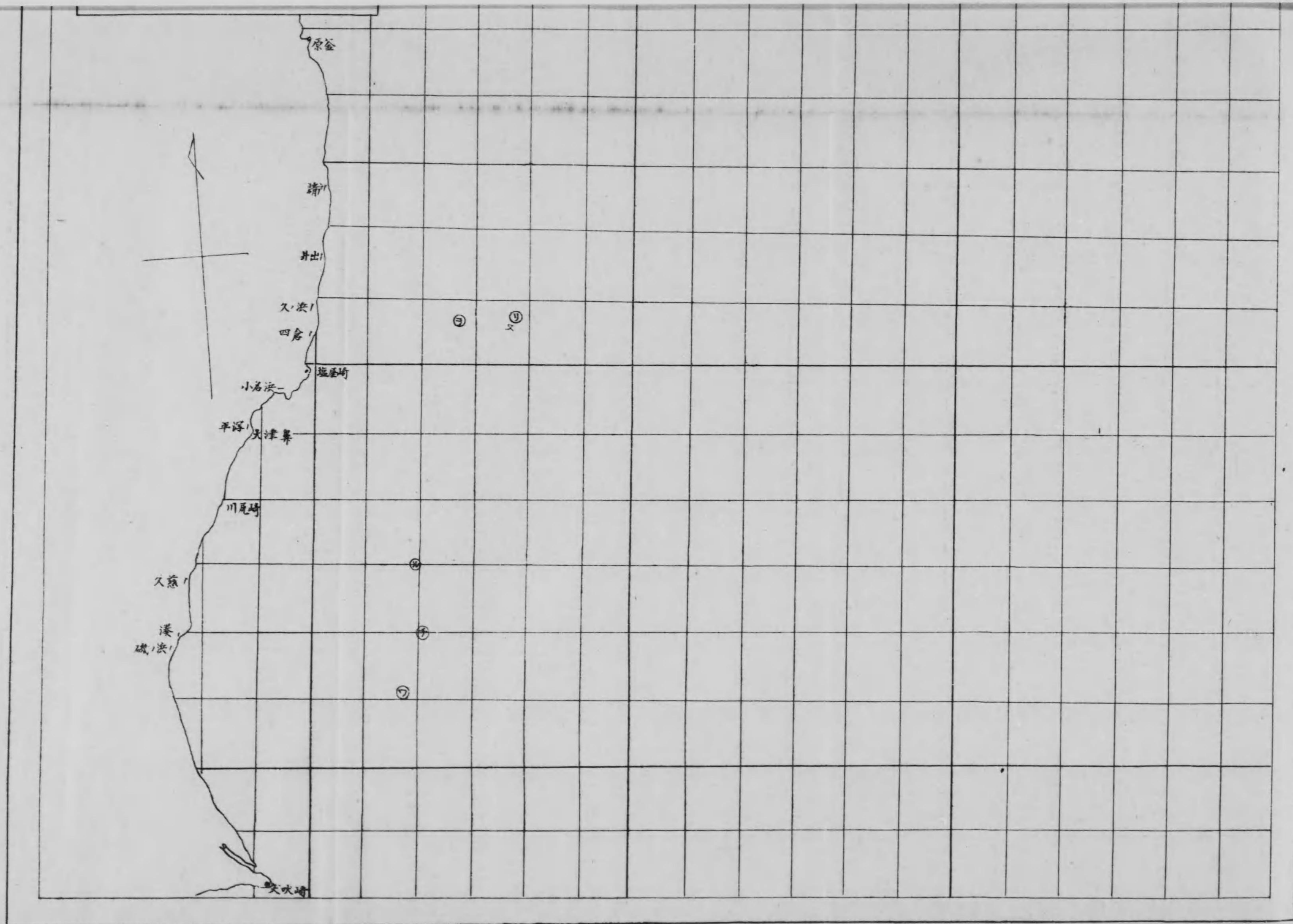
大正八年度磐城丸  
漁業試驗場

秋刀魚流網漁業

- ① 岩手縣青島東七漁
- ② 全 北東七漁
- ③ 全 首崎五里
- ④ 全 釜石東半里
- ⑤ 全 公間保崎東半里
- ⑥ 全 公宮古東半里

福島縣水産試驗場





十一日	十二日	十三日	累計
B.3	B.I ク	C.4	
	一九.五		
鯉	鯉	鯉	鯉
一九.五〇	一九.五〇		一三、六六六 四
			一〇、八〇、〇 一〇、〇〇〇
午後二時小名濱出帆沖合ニ向フ	午前四時五分新ノ濱入港飲料水其ノ他ノ積 ミ込ミヲナシ同七時十三分出漁	午前六時卅五分女川入港(鯉釣漁業切揚)	

(二) 漁 況

磐城丸ノ調査セシ本年度ニ於ケル鯉漁況並ニ海洋状態ヲ綜合スルニ本年五月二十日前後本縣沖合距岸四十哩以内ハ水温十二度乃至十五度ノ間ヲ昇降シ以上ノ沖合ハ漸次上昇シ八十哩ノ海區ニ及ビテハ十八度五分ヲ示シタルガ六月初旬ニ至リテ水温再度下降シ五月下旬ニ比シ各海區ニ亘リ一般ニ低下シ就中四十哩ヨリ六十哩ノ區間其ノ差大ナルモ茨城縣沖合ハ比較的高温ヲ示シ殊ニ湊八十哩内外ノ海區ハ最も高ク二十度五分ヲ表ハシ暖流ハ稍々瀾漫シタルモノ、如ク本縣及茨城縣沖合七十五哩内外迄影響ヲ及ボシ北上シツ、アツタリ

左ニ前二ク年及ビ本年六月分ノ表面水温ヲ列記シ比較セントス

自大正五年 至同 八年 各年六月分表面水温比較表

年次	五哩	十哩	二十哩	三十哩	四十哩	五十哩	六十哩	七十哩	八十哩	九十哩	百哩	平均
大正五年	一	一七.五	一七.五	一八.〇	一五.〇	一四.五	一七.〇	一七.三	二〇.〇	一六.二	一七.五	一六.二
大正六年	一三.五	一一.八	一三.五	一三.九	一三.〇	一三.〇	一一.八	一三.五	一三.七	一八.〇	一七.〇	一三.七
大正七年	二〇.〇	一一.二	一〇.一	一〇.一	一二.六	一六.〇	一五.五	一五.〇	一五.六	一五.六	一六.五	一三.九
前三ヶ年平均	一一.二	一四.〇	一三.八	一三.九	一三.五	一四.五	一五.一	一五.三	一三.八	一六.六	一七.〇	一四.六
大正八年	一一.三	一一.八	一一.六	一一.一	一〇.五	一一.五	一一.三	一三.〇	一八.〇	一八.五	一八.一	一三.八
平年トノ差	(+) <sup>〇</sup> .二	(-) <sup>〇</sup> .二	(-) <sup>〇</sup> .二	(-) <sup>〇</sup> .二	(-) <sup>〇</sup> .八	(+) <sup>〇</sup> .〇	(-) <sup>〇</sup> .二	(+) <sup>〇</sup> .三	(+) <sup>〇</sup> .二	(+) <sup>〇</sup> .九	(+) <sup>〇</sup> .一	(-) <sup>〇</sup> .八

(十)ハ本年(大正八年)高キヲ示シ(一)ハ低キヲ示ス

前表ニ依ルニ本年ハ昨大正七年ニ比シ距岸五哩ヨリ三十哩迄ハ大差ヲ認メサルモ四十哩ヨリ七十哩迄ハ二三度内外ノ低温ニシテ八十哩以上ノ沖合ハ之レト正反對ノ現象ヲ示シ高温ヲ表ハシ平均ニ於テハ僅カコ一分ノ低キニ過ギザルモ下層ニアリテハ其ノ高低ノ差大ニシテ且ツ平年ニ比較スル時ハ一般ニ本年ハ低温ナリキ而シテ六月中旬ニ至リ本縣及ビ茨城縣ノ沖合ハ暖流卓越スルト共ニ鯉群ノ來游ヲ見本縣漁船ノ一隻ハ十六日日本縣鹽尾崎南東七十哩ノ海區ニ於テ鯉二千六百尾ヲ釣獲セリ之レヲ本年ノ初漁トス

記

大正二年	六月十四日
同三年	六月二十六日
同四年	六月十四日
同五年	五月二十五日
同六年	七月二日
同七年	六月十日
同前六ヶ年平均日	六月十五日

大正八年(本年)

六月十六日(鹽屋崎南東七十哩)

要之本年度ハ前記ノ如ク水温比較的寒冷ナル爲メ鯉群ノ來游概シテ遅延ヲ來シ昨大正七年六月十日ノ初漁ヲ比シ六日平年ニ比シテハ一日何レモ遅キヲ見タリ

然ルニ六月十八日以來水温ハ急激上昇シ本縣鹽屋崎以南茨城縣久慈沖合ニ至ル距岸七十哩ノ間ハ二十度以上ヲ示シ暖流ハ漸次卓越シ本縣北岸迄接シタルモノ、如ク茨城縣川尻距岸六十哩ヨリ百哩ノ區間ニ鯉群ヲ誘致シ殊ニ同川尻東七十哩ノ海區ハ魚群密集シ十九日日本縣中ノ作漁船一隻ノ五千尾ヲ最多トシ四倉漁船ノ四千尾之ニ亞ギ其ノ他平均三千尾内外ノ漁獲數算シ之カ好漁ハ二十二日迄支持シタルモ午後南風雨強ク荒天ト化シ出漁スルヲ得ズ荒天後ハ海洋ニ變化ヲ來シ出シ眞潮(東流)急速ニシテ速方一時間ニ距岸内外トナリ暖流ハ荒天前ニ比シ稍々衰へ爲メニ魚群ハ鹽屋崎八十哩ヨリ百十里ニ至ル北方遠洋ニ移動シタルモ潮流急ニシテ餌付キ思ハシカラズ六七百尾ヲ最多トシ平均ニ三百尾ノ漁況ヲ呈シ月末ニ至リ漁場ハ四倉以北原釜間距岸百哩内外トナリ漸次北方ニ移動スル共ニ漁況追テ不況ニ陥リ多クノ漁船ハ空シク歸港スルニ至リ各漁村ハ閑散ヲ呈シタリ然ルニ七月七日ニ至リ漁況稍々挽回シ請戸百五十哩ノ沖合ハ比較的良好ニシテ一隻最多二千五百尾其ノ他各漁船モ相應ノ漁獲ヲ占メ漁場ハ逐次遠洋トナリ遠キハ二百哩内外ニシテ普通百二十三十哩ニ出漁シ爲メニ歸港ニ多クノ日子ヲ費シ

從ツテ漁獲物ノ腐敗免レズ中ニハ鹽漬トナシタルモノアリ又水産庫設置ヲ有スル漁船ハ三四百貫ノ水ヲ積載シ鮮度ノ保全ヲ計リタリ而シテ中旬ニ及ビテ前記急速ナル出シ眞潮漸ク消滅スルト同時ニ水温ハ上昇シ遠洋ニアリシ魚群モ急激三四十里ノ近海ニ來游シ就中請戸三十哩内外ノ海區良好ヲ呈シタルモ須臾ニシテ魚群ノ一部ハ北進シ宮城縣方面ノ好漁ヲ見タリ

越ヘテ十八日以來魚群ハ距岸二十哩ヨリ三十五哩ノ近海ニ來游シ日歸リノ漁船ヲ往々見ルニ至リタルモ漁況思ハシカラズ當時本縣警城丸調査ノ結果川尻久慈間好況ヲ齎ラスト共ニ各漁船ハ同海區ニ於テ好漁ヲ見ツ、アリシガ下旬ニ至リ魚群ハ本縣沿岸十八哩乃至三十哩ノ海區一帶ニ來游セシモ八月初旬ニ至リ水温著シク上昇スルヤ之ガ魚群ハ突如鹽屋崎五六哩ノ極メテ沿岸ニ來游セルガ多クハ餌付キ不爲メ餌付キ不良ヲ呈シ特記スベキ漁事ナク殊ニ十七日前後ハ漁獲全ク中絶シ縣下各漁村ヲ通ジ一尾ノ漁獲ヲ見ズ休船續出セリ此ノ際本縣警城丸ハ鏡意漁場及ビ海洋調査ヲナシ二十一日四倉二十五哩ニ於テ稍々濃厚ナル魚群ヲ認メ相當ノ漁獲ヲ收メ中旬來不振ナリシ漁況ハ稍々活氣ヲ呈シタルモ二十五日ニ至リ井出以南ノ水温ハ俄然著シキ上昇ヲナシ距岸五哩ノ沿岸ニアリテ既ニ二十五度以上ノ示度ヲ見二十五哩ノ海區ハ近年稀ナル二十八度ノ高温ヲ示シ水温高キニ失シ魚群ハ井出以北比較的水温寒冷ナル原釜十五哩乃至三十哩ノ沖合ニ移動シ本月ハ概シテ不況ニ終レリ

九月ニ入リテ魚群ハ再度四倉小名濱間五六哩迄來游シ小名濱漁船ノ如キハ同日一日ノ中二回沖合ニ出漁シ何レモ五六哩ノ沿岸ニテ相當ノ漁獲ヲナシタリ而シテ十日前後ヨリ魚群ハ出來魚ト化シ稍々好況ヲ見タルモ中旬ハ荒天ノ襲フ所トナリ天候恢復後ハ鹽屋崎二三十哩ノ海區好漁ニシテ一隻最多約四千尾ノ漁況ヲ呈シ且ツ又各漁船モ相當ノ漁獲ヲナシツ、アリシガ二十一日以後ハ漁獲少ク月末ハソダ鯉及鰯ヲ混ゼリ

本縣警城丸ハ十月分海洋觀測終了後天候不良ノ爲メ宮城縣鮎川ハ避難シ同船歸途九日金華山南東十五哩ニ於テ鯉ノ稍々大群ヲ發見餌付概シテ良好ナルヲ報導スルニ及ビテ同方面ハ多少ノ出漁船ヲ見タルモ魚群ハ本縣沿岸ニ南下シ九月末以來不況ナリシ漁況モ十日頃ヨリ稍々活氣ヲ呈シ江名濱漁船ノ如キハ十四日久ノ濱三十哩ノ海區ニ於テ一隻最多五千八百尾最少一千二百尾ヲ漁獲セシモ之カ好漁ハ永續セズ加之水温追日低下セルヲ以テ鯉漁ノ傍ラ秋刀魚流網ヲ積ミ込ミ十一日以來本縣及ビ宮城、岩手ノ沖合ヲ調査中同十六日岩手縣三貫島沖合ニ於テ秋刀魚ノ初漁スルニ至リテ各漁船モ鯉漁等ヲ兼テ秋刀魚流網ヲ搭載出漁スルニ至リ十一月ニ入リテハ漸次不況ニ陥リ月初メヨリ十日前後迄ハ平均二百尾ノ漁況ナリシガ爾後水温降下スルト共ニ見ル可キ漁事ナク各漁船ハ鯉漁業ヲ切り揚グ秋刀魚流網漁業ニ移リ本縣ニ於ケル本年度鯉漁業ハ十一月十七日(中ノ作三十哩)全ク終漁ヲ告ゲタリ

本年ハ八月迄水温稍々低カリシ結果鯉ノ初漁モ多少ノ遅キヲ見タリシモ九月以來ハ之ト反對ニ高温ヲ持續セシ爲メ昨年十一月三日ノ終漁ニ較ブレバ本年度ハ前述ノ如ク漁期ノ延長ヲ示セリ

要スルニ初漁當時ハ茨城縣川尻七十哩内外ニテ好漁ヲ占メタルモ七月ニ入リ該魚群ハ本縣沖合ニ北上スルト共ニ漁場ハ近年



稀ナル遠洋トナリ遠キハ二百哩普通百二十哩ニ出漁獲物ノ腐敗セルモノ多カリシガ中旬ニ至リ急激近海へ來游シ七月中ハ盛漁ヲ呈シ漁獲高ハ各月ノ最高ヲ示シ八月初旬ニ及ビテ群魚ハ益々沿岸五六哩ニ來游シタルモ八月中心ハ概シテ不況ニ終リ九月ニ比シ好漁ヲ見爾後漸次不況ニ陥リ特記スベキ漁事ナカリキ

初漁當時ニ於ケル魚体ハ大壹貫百匁平均七百匁内外ナリシガ七月中旬以來漁場沿岸ニ接近スルニ從ヒ小魚トナリ八百匁ヲ最大トシ小ナルモノハ三百五十匁トシ爾後五六百匁ヲ普通トセルガ九月中旬ニ至リテハ極メテ不況ニシテ大貳貫五百匁小二百五十匁ヲ表ハシ月末ハソド鯉及鯿ヲ混スルト共ニ一般ニ小魚トナリ本年ハ昨年ニ比シ初期以來概シテ小魚ノモノ多カリキ魚價ハ初期當時即チ六月中ハ十一割ヲ示シタルモ漸次高價ヲ唱ヘ七月中ハ十五割ニ昂リ八月中旬殊ニ十八、十九日ノ漁況不振ノ場合ハ俄然二十五割以上ヲ示シ近年稀ナル高價ヲ傳ヘ時々三十割以上ニ達シタルモ普通ハ十五割内外ヲ以テ普通濱相場トナシ昨年ニ比シ其ノ差大ナリキ

本年ハ餌鯿ノ漁獲ニ用ユル鈔ハ比較的好漁ニシテ五月十三日初漁ヲ見タリシモ鯉漁期ニ入りテ餌鯿ノ漁獲更ニナク多クハ千葉縣銚子及比茨城縣ノ各地方ニ於テ張送網又ハ揚繰網ニテ供給ヲ受ケツ、アリシガ二十二、二十三日ニ至リテ漸ク當地地方ニ於テ張送網ニテ捕獲スルヲ得タリシモ月末ニ及ビテ中ニハ自ラ棒受網ヲ以テ少量ノ鯿ヲ捕獲スルノ状態ニアリテ多クノ漁船ハ先ヲ鯿ヲ張送網ニ依リ供給ヲ受ケ出漁スル爲メ普通六七十圓乃至四十圓ヲ以テ一航海ノ餌料ヲ購入シツ、アリシガ七月ニ入りテモ棒受網ニ依ル漁獲極メテ少ク本月中ハ依然張送網ニ依リ供給ヲ受ケタルモノ多カリシ

而シテ八月ハ前記ノ如キ困難ヲ見ズ各自棒受網ヲ以テ採取シ殊ニ豐間附近概シテ探餌容易ニシテ爾後大ナル支障ヲ來サザリシガ十月中ハ鯿ヲ捕獲スルニ用ユル鈔ノ價格近年稀ナル騰貴ノ爲メ直接宮城縣地方へ廻船鯿ヲ購入出漁スルモノ多少アリタリ

本年度縣下總漁獲高ハ八百八十九千四百七十尾金八拾貳萬壹千八百四圓ニシテ之ヲ昨年ノ總漁獲高ニ比スル時ハ尾數ニ於テ貳拾參萬八千七百六拾八尾ノ減收ヲ見金額ニ於テハ之ト反シ金拾萬四千八拾貳圓ノ増額ヲ表ハシタルハ之物價騰貴ノ必然ノ結果ナルモ昨年ニ比シ稍々不況ナリシハ尾數ノ減收ニ照シ明カナルベシ

左ニ本年度漁村別漁獲高及ビ昨年度漁獲高ヲ列記比較セントス

大正八年度漁村別各月鯿漁獲高表

漁村及漁獲高	月次	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	計
請戸	尾數	一、三〇五	一、三〇〇	一、四八一	三、四四八	三、三三五	一〇、五九九	一〇、五九九
	金額	七、六	一、四〇〇	一、五八八	三、四〇七	二、五〇六	九、五六一	九、五六一

漁村	尾數	金額	尾數	金額	尾數	金額	尾數	金額	尾數	金額	尾數	金額	尾數	金額	尾數	金額
久ノ濱	八、二二六	二八、八七	二〇、一六八	二〇、一六八	二〇、一六八	二〇、一六八	二〇、一六八	二〇、一六八	二〇、一六八	二〇、一六八	二〇、一六八	二〇、一六八	二〇、一六八	二〇、一六八	二〇、一六八	二〇、一六八
四ツ倉	二、三〇〇	二九、一八〇	七、五〇〇	四八、三〇〇	一、一四〇	一、一四〇	一、一四〇	一、一四〇	一、一四〇	一、一四〇	一、一四〇	一、一四〇	一、一四〇	一、一四〇	一、一四〇	一、一四〇
豐間	三、三六九	一四、一七五	一四、一七五	一四、一七五	一四、一七五	一四、一七五	一四、一七五	一四、一七五	一四、一七五	一四、一七五	一四、一七五	一四、一七五	一四、一七五	一四、一七五	一四、一七五	一四、一七五
江名	二、三三九	一〇、八六六	三、三七一	一、一〇四	一、一〇四	一、一〇四	一、一〇四	一、一〇四	一、一〇四	一、一〇四	一、一〇四	一、一〇四	一、一〇四	一、一〇四	一、一〇四	一、一〇四
中ノ作	二、四〇〇	二九、〇〇〇	五、三〇〇	八、一七九	二、〇六五	二、〇六五	二、〇六五	二、〇六五	二、〇六五	二、〇六五	二、〇六五	二、〇六五	二、〇六五	二、〇六五	二、〇六五	二、〇六五
小名濱	一、〇六九	二四、二六	二、六九一	五、一〇〇	六、八三三	六、八三三	六、八三三	六、八三三	六、八三三	六、八三三	六、八三三	六、八三三	六、八三三	六、八三三	六、八三三	六、八三三
合計	九、四四三	三〇、四八八	三三、〇三三	三三、〇三三	三三、〇三三	三三、〇三三	三三、〇三三	三三、〇三三	三三、〇三三	三三、〇三三	三三、〇三三	三三、〇三三	三三、〇三三	三三、〇三三	三三、〇三三	三三、〇三三

大正七八年各月鯿漁獲高比較表

年次及獲高	尾數	金額	尾數	金額	尾數	金額	尾數	金額
六月	二、三〇五	一、三〇〇	二、三〇五	一、三〇〇	二、三〇五	一、三〇〇	二、三〇五	一、三〇〇
七月	一、三〇〇	一、四〇〇	一、三〇〇	一、四〇〇	一、三〇〇	一、四〇〇	一、三〇〇	一、四〇〇
八月	一、四八一	一、五八八	一、四八一	一、五八八	一、四八一	一、五八八	一、四八一	一、五八八
九月	三、四四八	三、四〇七	三、四四八	三、四〇七	三、四四八	三、四〇七	三、四四八	三、四〇七
十月	三、三三五	二、五〇六	三、三三五	二、五〇六	三、三三五	二、五〇六	三、三三五	二、五〇六
十一月	一〇、五九九	九、五六一	一〇、五九九	九、五六一	一〇、五九九	九、五六一	一〇、五九九	九、五六一
計	一、三〇五	一、三〇〇	一、三〇五	一、三〇〇	一、三〇五	一、三〇〇	一、三〇五	一、三〇〇

一、秋刀魚漁場調査及流網漁業試験

(イ) 趣旨

本漁場調査ハ概畧鯉漁場調査ノ趣旨ニ依ルモノニシテ調査及ビ漁業試験ノ結果ヲ縣下各當業者ニ速報周知セシメ併セテ各漁船出漁上ニ違算ナカラシメントスルニアリ而シテ從來當業者漁船ノ出漁區域ハ宮城縣金華山ヨリ茨城縣沖合ニ止マリシヲ以テ之ガ漁場ノ擴大スルノ必要ヲ認メ本年度ハ十月中旬本場磐城丸ハ率先シテ遠ク岩手縣沖合へ出漁セリ

(ロ) 方法

調査及ビ漁業試験ハ左ノ方法ニ依リ施行シ出漁調査ノ都度ハ前記鯉漁場調査ノ方法ニ倣ヒ一般當業者並ニ主要漁村ニ速報セリ

- 一、調査船 磐城丸
- 二、乗組員 十五名
- 三、調査區域 岩手、宮城、茨城、千葉、本縣ノ各沖合
- 四、調査期間 自十月 至十二月
- 五、漁具 流網二十五反

(ハ) 結果

磐城丸ハ十月十一日小名濱ヲ出帆本縣沖合ヲ調査ノ上漸次北進岩手縣沖合ヲ調査セシニ同月十六日岩手縣三貫島南東及ビ北東七哩ノ兩海區ニ於テ約二萬五千尾ノ漁獲ヲ初メトシ以後本縣沖合ハ勿論主トシテ以北ノ沖合ヲ探檢シ前後十七回ニ亘リ漁場調査及ビ海洋調査ヲナシ傍ラ漁業試験ヲ行ヒ本漁期ハ左表ノ漁獲ヲナシ十二月末日ヲ以テ切り揚ゲタリ而シテ漁況ハ調査ノ都度縣下當業者ニ報導シ併セテ前記趣旨ノ如ク岩手縣沖合へ出漁ヲ促シタルニ同方面ニ出漁セシ漁船ハ概シテ好結果ヲ收メタリ

- 一、調査回数 十七回
- 二、調査中漁獲高 金參千七百拾八圓六拾壹錢

秋刀魚七萬六千九百五十二尾  
烏賊二千四百八十尾

金拾六圓也

鮫二尾

大正八年度磐城丸月別秋刀魚漁獲表

魚種	月次	十月	十一月	十二月	計
秋刀魚	尾數	二天、一六〇	三五、五四五	一五、二四七	五二、九五二
	金額	一、四六五、〇四〇	一、四七一、五三〇	六〇五、〇一〇	三、五四〇、五八〇
烏賊 (イカ)	尾數	1	二、四八〇	1	二、四八〇
	金額	1	一六、〇三〇	1	一六、〇三〇
鮫	尾數	1	1	1	三
	金額	1	三、五〇〇	1	三、五〇〇
計	尾數	1	1	1	三
計	金額	一、四六五、〇四〇	一、六四七、〇六〇	六〇六、五二〇	三、七七八、六一〇

漁業表

(大正八年度磐城丸)

秋刀魚流網漁業

月日	天候	風力	流況	漁具	使用時間	回數	表面温度	水深	比重	潮流	種類	種類	數量	一尾ノ平均重量	價額	摘	要
十月十四日	B.1															午前五時二十分女川出帆出漁	
十月十五日	B.4															午前三時二十分釜石入港同九時五分出漁	
十月十六日	B.1															午前一時投網同六時十分揚網漁獲セシヲ以テ釜石へ歸港ヲナシ再ビ出漁正午投網	
十月十七日	C.3						一七、五					同	三、六〇〇	三五、一、三三〇	二、〇〇〇	午前一時迄操業漁獲ヲナシ午後十時二十分小名濱へ歸港	
十月十八日	C.2															小名濱碇泊石油ノ積載ヲナス	





(三) 漁況

累計	計	卅一日	三十日	廿九日	廿八日	廿七日
		B.2	C.2	C.1	R.2	C.4
					ワ	
					一四、五	
					魚 秋刀	
					一、四八〇	
					二五	
					六、二八〇	
						午前九時三十五分出漁
						未明投網ヲナシ午後二時二十分小名濱へ歸
						小名濱碇泊
						同
						同
						終
						魚
						月
						日
						日
						日
						日
						日
						日
						日
						日
						日
						日

今磐城丸ノ調査セシ漁況並ニ海洋變化状態ヲ摘録スルニ本年度ニ於ケル水温ハ八月迄ハ平年ニ比シ稍々低カリシガ八月以後ハ漸次上昇シ九月初旬ハ其ノ極ニ達シ距岸五哩ノ地點ニ於ケル二十五度五分ヲ最低トシ五十哩最高ク二十九度五分ヲ示シ前日五ケ年間ニ見ザル高温度ヲ表ハンタリ而シテ十月ニ至リ一時水温急下ヲ示シタリト雖モ依然トシテ例年ニ比シ高示度ヲ持續セリ

同月下旬ニ至リテ水温低下スルヤ秋刀魚群ヲ誘致シ二十四日相馬郡原釜三十哩ノ海區ニ於テ當業者漁船ノ一隻ハ四百尾ヲ漁獲セリ之レ本年本縣沖合ノ初漁ニシテ昨年ニ比シ十一日前五ケ年平均ニ比較シテ三日何レモ早キヲ見タリ

左ニ大正三年以降ノ初漁及ビ終漁月日ヲ記シ比較セントス

年次	初漁及終漁日	終漁	漁
大正三年	十月 三十日	翌年 一月 六日	日
大正四年	十月 十五日	翌年 一月 三十日	日
大正五年	十月 十一日	翌年 一月 二十日	日
大正六年	十月 二十四日	翌年 二月 十七日	日

初漁 漁 月 日

終 漁 月 日

同 七 年 度 十 一 月 四 日 翌 年 一 月 三 日 日  
 前 五 ケ 年 平 均 十 月 二十 七 日 同 年 一 月 一 日 日  
 大 正 八 年 度 十 月 二十四 日 (原釜三十哩) 同 年 一 月 一 日 (鹽尾崎東南) 日  
 本年ハ八月下旬以來例年ニ比シ暖流卓越セシヲ以テ秋刀魚漁期ニ入りテモ水温ハ一般ニ高ク爲メニ寒流ハ宮城縣沖合ヨリ東方ニ走リタルモノ、如ク秋刀魚群ハ初期以來岩手縣沖合ニ密集シ未曾有ノ豐漁ヲ呈シタリ而シテ宮城縣沖合ヨリ東進シタル寒流ハ本縣遙カナル沖合ヨリ茨城縣沿岸ヘ一支流ヲ分派シタルモノ、如ク同縣沖合モ相當ノ好況ヲ呈シ本縣及ビ宮城縣ハ概シテ不況ニ終レリ而シテ初期以來十一月末迄ハ特記スベキ漁事ナク各漁村トモ閑散ニシテ多クノ漁船ハ岩手又ハ茨城縣沖合ヘ出漁シ漁獲高モ又不同ナリシ

十二月初旬ニ至リ水温低下スルニ及ビテ魚群ハ本縣沖合ニ南下來遊シ追日濃厚トナリ殊ニ相馬郡原釜三四十哩ノ海區好漁ヲ呈シタルモ須臾ニシテ一時中絶セリ然ルニ中旬ヨリ金華山及ビ原釜三十哩内外ノ海區再度活氣ヲ見タルモ二十三日以後ハ茨城縣沖合豐漁ニシテ小名濱漁船ノ一隻ハ久慈二十五哩ノ海區ニテ十二萬尾ヲ漁獲シ月末迄ハ平均二三萬尾ノ漁事ナリシガ水温降下スルニ及ビテ本漁業ハ一月一日全ク終漁ヲ告グルニ至レリ

魚体ハ初期以來十一月末迄ハ平均三十五匁内外ニシテ終漁期ニ至リ一般ニ小漁トナリ二十五匁内外ヲ示セリ而シテ魚價ハ初漁當時ハ二十五割内外ヲ唱ヘタルモ十二月ニ入りテハ二十割内外ヲ昇降セリ

本年度縣下總漁獲高ハ二百五十九萬一千八百五十五尾金八萬八千參百七拾貳圓ニシテ之ヲ昨年ニ比スレバ尾數ニ於テ百五萬九千九百六十九尾金額ニ於テハ貳萬九百五拾四圓ノ何レモ增收ナルモ該漁獲高ノ大部分ハ岩手縣沖合ヘ出漁シタル漁船ノ漁獲ニシテ本縣沖合ノ漁獲僅少ナリキ

左ニ本年度漁村別漁獲高及ビ昨年度漁獲高ヲ列記比較セントス

大正八年度漁村別各月秋刀魚漁獲高表

漁村及漁獲高	月次	十月	十一月	十二月	計
請 戸 尾 數		1	1	1	11,000
請 金 額		10K	10K	10K	10K
久 濱 戶 尾 數		1	1	1	11,000
久 濱 金 額		10K	10K	10K	10K

年次及獲高漁	大正七年		大正八年		比較	
	尾數	金額	尾數	金額	尾數	金額
四倉	141,000	395,000	155,000	671,000	15%	71%
豐間	67,000	117,000	47,500	132,000	71%	113%
江名	6,000	11,000	8,000	13,000	133%	118%
中ノ作	3,000	3,000	3,000	3,000	100%	100%
小名濱	24,000	115,000	29,000	131,000	121%	114%
計	208,000	641,000	273,500	1,160,000	132%	181%

大正七八年各月漁獲高比較表

年次	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	累計
尾數	1,252,706	55,433	39,015	1,053,600	191,000	2,591,815	28,100	1,677	15,655	93,331	1,774,500	191,000	11,059,949
金額	5,433	3,901	10,536	19,100	25,918	28,100	1,677	15,655	93,331	1,774,500	191,000	1,105,949	11,059,949

三、鮪漁場調査及流網延繩漁業試験

(イ) 趣旨

大正五年度來試驗ノ結果本漁業ハ將來有望ナル重要漁業トシテ認メラレ途年之ニ從事スルモノ漸ク多キヲ見ルモ未タ一般ニ普及スルニ至ラザルヲ以テ前年度ニ引キ續キ漁場調査及ビ魚群去來ノ狀況等ヲ調査シ傍ラ漁業試験ヲナシ縣下當業者ニ速報スルト共ニ益々該漁業ノ普及ヲ計ラントス

(ロ) 方法

一月ヨリ左記ノ方法ニ依リ施行セシガ二月以降ハ目拔魚漁場調査ヲ兼テ調査セリ

- 一、調査船 警 城 丸
- 二、乗組員 十五名
- 三、調査區域 千葉、茨城、本縣ノ各沖合
- 四、調査期間 自一月 至三月
- 五、漁具 流網(二尺一寸目)二十反延繩二十五鉢
- 六、餌料(延繩) 烏賊(イカ)又秋刀魚

(ハ) 結果

前記ノ如ク一月ヨリ調査ニ着手シ二月以降ハ目拔魚漁場調査ヲ兼テ施行セシガ本年ハ一月以來常ニ荒天打チ續キ且ツ又船員ノ移動アリシ爲メ充分ナル調査ヲ遂ゲ得ズ延繩一回流網二回前後三回ノ調査ニ過ギザリシハ遺憾トス、而シテ本縣ニ於テハ延繩ノ餌料タル烏賊(イカ)其ノ他ノ漁獲概シテ少ク爲メニ多クハ三陸地方及東京魚市場ヨリ供給ヲ受ケ出漁スルノ状態ナルヲ以テ從ツテ出漁意ノ如クナラズ加之本年ハ漁況極メテ不振ヲ唱へ警城丸ハ調査ノ傍ラ左ノ漁獲ヲナシタリ

- 一、調査回数 三回 延繩一回、流網二回
- 二、調査中漁獲高 金七拾四圓

内  
金六拾六圓 鮪一尾  
金八圓 鮫四尾

(ニ) 漁況

今其ノ漁況ヲ綜合スルニ本年ハ初期以來漁況不振ニシテ殊ニ本縣沖合ハ殆ンド鮪來遊ヲ認メス僅少ナル鼠鮫ノ漁獲ニ止マリシガ千葉縣沖合ハ稍々好漁ナルヲ以テ本縣漁船ノ多クハ同沖合ニ出漁シタリシ依然トシテ思ハシカラズ二月初旬ニ至リ一時

休漁シ悉皆沖手續網漁業ニ從漁セリ然シテ三月下旬ニ至リ茨城縣沖合ハ概シテ好況ヲ呈シ多少ノ漁獲ヲナシタルモノアリタリ

四、目拔魚漁場調査及延繩漁業試験

(イ) 趣 旨

本漁場調査ハ大正四、五年ノ兩年度ニ於テ施行シ好漁場ヲ調査セシモ該漁業ニ從事スルモノナキヲ以テ之カ普及ヲ計ランカ爲メ本年度モ水温ノ低下ヲ待チ本縣沖合ヲ調査セントス

(ロ) 方 法

- 一、調 査 船 磐 城 丸
- 二、乘 組 員 十 五 名
- 三、調 査 區 域 本縣沖合一帶
- 四、調 査 期 間 自二月至三月
- 五、漁 具 延繩二十餘
- 六、餌 料 蛤刺身及鰻魚(スルメ)

二月以來鮪漁場調査ト併セテ前記方法ヲ以テ施行調査セリ

(ハ) 結 果

本漁場調査並ニ漁業試験ハ曩ニ記述セシ如ク天候不良ノ爲メ調査ヲ意ノ如クナラズ前後二回ノ出漁調査ニ過ギズ概シテ不結果ニ終レリ而シテ魚族ハ蘆屋崎以北距岸卅五哩ヨリ廿哩ニ至ル海區ニ帶ニ棲息スルモノ、如ク來年度モ引キ續キ施行セントス

- 一、調査回数 二回
- 二、調査中漁獲高 漁獲ナシ

漁 業 表

(大正八年度磐城丸)

鮪流網延繩及目拔延繩漁業

月日	天候	漁場	使用漁具	回使用漁具	海面	比	比重	潮流	餌料	漁獲	種類	數量	均重	價	額	摘	要
一月一日	B.1															小名濱港碇泊	
二月二日	B.2															同	
三月三日	B.1															同	
四月四日	B.3															同	
五月五日	B.2															午前九時小名濱港拔錨平潟ニ向フ同十時平潟碇泊	
六月六日	B.2															平潟碇泊	
七月七日	C.1															午前十時平潟出帆同十一時小名濱港歸港	
八月八日	B.3															小名濱港碇泊	
九月九日	B.4															同	
十月十日	B.1															午前四時三十分小名濱港拔錨海洋觀測ニ向フ午後十時四十分觀測終了鮪延繩漁業ノ爲メ南下ス	
十一月十一日	B.4	イ			一八、五	七〇、〇	一〇、一		烏賊	鮫鮪	一	四、〇〇〇	六六、〇〇〇	八、〇〇〇		午前四時三十分延繩投入午後〇時三十五分揚錨ス	
十二月十二日	C.2															午後三時四十分小名濱港歸港	
十三日	B.3															小名濱港碇泊	
十四日	B.4															同	
十五日	B.1															同	
十六日	B.4															同	







累計	計			
	廿八日	廿九日	三十日	卅一日
	R.3	R.2	C.1	B.3
		ホ	=	
鮫鮓	0			
四一	0			
六六,000	0			
八,000				

小名濱港碇泊  
新碇ノ積載ヲナス  
午前八時十分小名濱拔錨流漁業ニ向フ  
午前六時十分鮓流網漁業ヲ終リ午後九時小名濱港碇泊  
小名濱港碇泊  
石油及用水ノ仕込ミヲナス

五、漁況速報

(イ) 趣旨

(ロ) 方法

漁況速報ハ本年度モ前年度ノ趣旨ニ依リ鮫及秋刀魚漁期中施行セリ

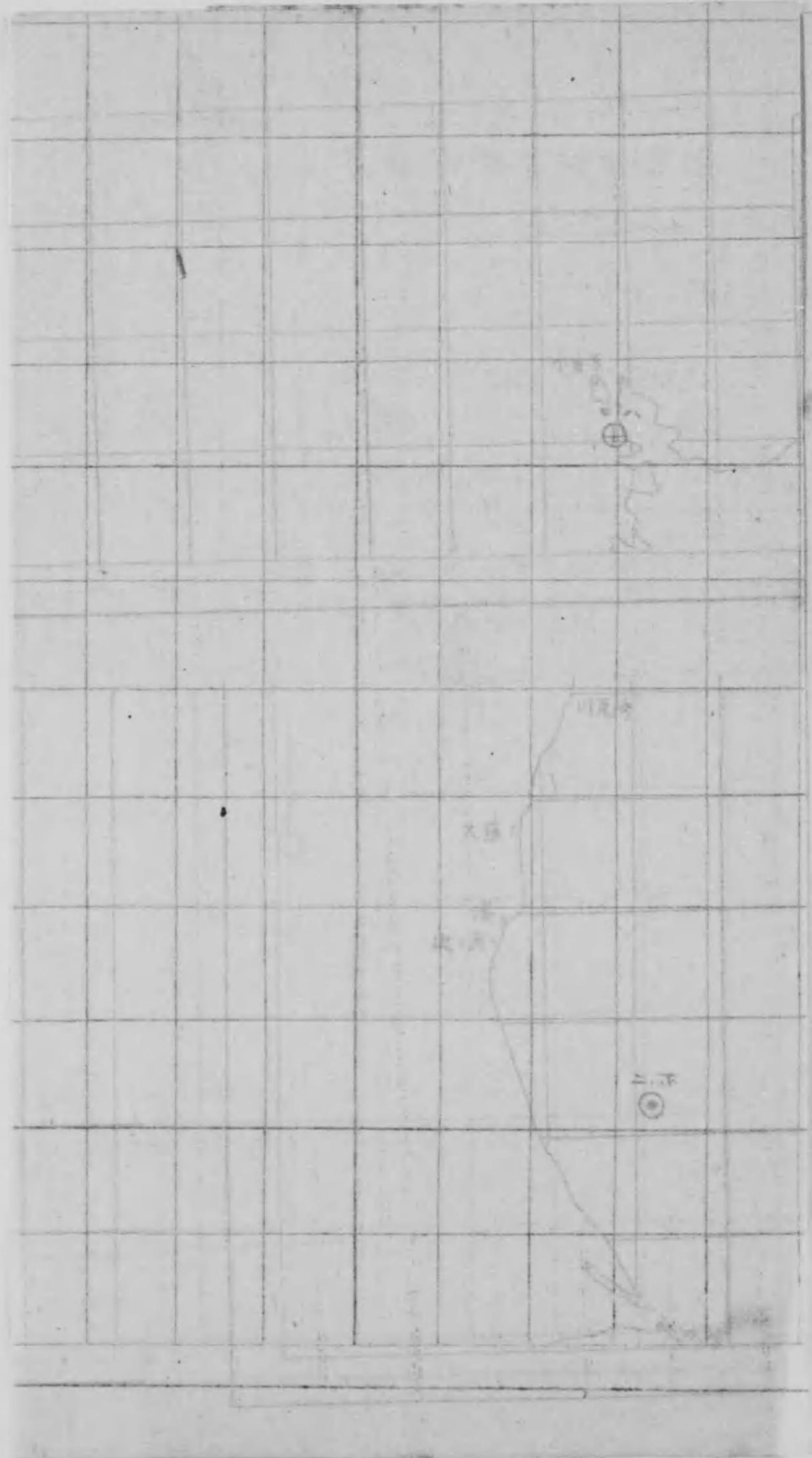
年度初メニ於テ一號様式ノ報告(端書)用紙ヲ縣下重要漁村ニ配付シ漁期中日々本場へ速報セシム

本場ニ速報ノ漁業組合個所及速報用紙左ノ如シ

速報個所、小名濱、中ノ作、江名、豊間、四ッ倉、久ノ濱、請戸ノ七ヶ漁業組合

一號様式 (但シ端書ニシテ各漁業組合ヨリ本場へ速報スルモノ)

漁況報告		月	日	分
魚名	數量			
金額	額			
漁業種類	種類			
船隻種類	種類			
漁獲種類	種類			
餌料供給地	供給地			
漁場	場			





福島縣水産試驗場



本場ニ於テハ前記速報ヲ各漁業組合ヨリ受ケ之ヲ一括綜合ノ上左ノ二號様式用紙ヘ夫々記入シ日々縣下重要漁村及ビ一般業者ヘ速報セリ  
 本場ヨリ速報ノ個所及速報用紙左ノ如シ  
 速報個所 小名濱、中ノ作、江名、豊間、四倉、久ノ濱、請戸ノ各漁業組合、本縣内務部、石城郡役所、茨城、宮城、岩手ノ各水産試験場其ノ他一般業者

事 記	一隻最多數量								
	一隻最少數量								
		沖	沖	沖	沖	沖			
		湍	湍	湍	湍	湍			

様式二二

連日	第幾	漁況速報	月	日	午後九時ヨリ	同	日	漁獲平均		尾	計	累計尾數		事記
								漁獲	高			尾	金額	
大正	年	月	日	月	日	日	日	當日相場	割	船數	金額	尾	金額	
前	捕	後	前	捕	後	前	捕	前	割	船數	金額	尾	金額	
漁見込金額	漁場	漁見込金額	漁場	漁見込金額	漁場	漁見込金額	漁場	漁見込金額	漁場	漁見込金額	漁場	漁見込金額	漁場	漁見込金額
總尾數	總尾數	總尾數	總尾數	總尾數	總尾數	總尾數	總尾數	總尾數	總尾數	總尾數	總尾數	總尾數	總尾數	總尾數
當日相場	當日相場	當日相場	當日相場	當日相場	當日相場	當日相場	當日相場	當日相場	當日相場	當日相場	當日相場	當日相場	當日相場	當日相場
割	割	割	割	割	割	割	割	割	割	割	割	割	割	割
船數	船數	船數	船數	船數	船數	船數	船數	船數	船數	船數	船數	船數	船數	船數
餌料	餌料	餌料	餌料	餌料	餌料	餌料	餌料	餌料	餌料	餌料	餌料	餌料	餌料	餌料
前捕	前捕	前捕	前捕	前捕	前捕	前捕	前捕	前捕	前捕	前捕	前捕	前捕	前捕	前捕
後捕	後捕	後捕	後捕	後捕	後捕	後捕	後捕	後捕	後捕	後捕	後捕	後捕	後捕	後捕

(ハ) 結果

前記ノ方法ニ依リ本場ヨリ日々速報スルヲ以テ各漁船出港ニ際シ本縣ノ漁況ハ勿論各地ニ於ケル前日ノ一般漁況ヲ知悉スル  
ト共ニ出漁方面ノ撰定ニ便宜ヲ與ヘ當業者ニトリテハ利便多カリシヲ認ム

◎製造試験

本年度ニ於テ施行シタル試験項目左ノ如シ

- 一、鯉節製造試験
- 二、鯉魚浸漬試験
- 三、罐詰製造試験
- 四、秋刀魚燻製試験
- 五、竹輪蒲鉾製造試験
- 六、濱千鳥並ニ調味噌製造試験
- 七、分 析

技手 島 真 一  
 技手 中 村 佛 二  
 技手 青 木 佳 年  
 技手 青 木 佳 年

一、鯉節製造試験 (イ) 趣 旨

本年度鯉節製造試験ニ供用セル鯉原料ハ六月二十日始メテ百尾ヲ切り込ミタルガ未タ傳習所ヲ開所スルニ至ラザリシヲ以テ準備整ハズ不備ノ點有リシモ次回ヨリハ傳習生モ漸次増加セシヲ以テ處理ハ至ツテ何等不便ヲ感ゼズ本年ハ鮮魚ノ價格比較的高價ヲ持續セシヲ以テ豫定數量ヲ得ル能ハザリシハ遺憾トスル所ナリ  
 本年度ニ於テ鯉節製造ニ供セシ原料數量ハ左記表ノ如シ

月 日	回 次	重 量	數量	重量累計	計 單	金 價	價額累計	備 考
六・一〇	一	100尾	600斤	100	57,000	57,000	57,000	一五五尾
七・三	二	600斤	300斤	1300	11,500	133,500	133,500	八五尾
七・七	三	100斤	100斤	1400	11,500	155,000	155,000	六〇尾
				16,000		171,000		二〇尾

同日	同日	同日	同日	同日	同日	同日	同日	同日	同日
三、五〇五	二、七〇〇	一、九〇〇	一、四〇〇	一、一〇〇	八〇〇	七〇〇	六〇〇	五〇〇	四〇〇
一、四八〇	一、二七〇	一、〇七〇	〇、八七〇	〇、六七〇	〇、四七〇	〇、二七〇	〇、〇七〇	〇、〇七〇	〇、〇七〇
一六、一五〇	一五、〇〇〇	一三、八五〇	一二、七〇〇	一一、五五〇	一〇、四〇〇	九、二五〇	八、一〇〇	六、九五〇	五、八〇〇
一、六二五	一、五一〇	一、三九五	一、一八〇	一、〇六五	九五四	八三八	七七七	六六六	五五五
一八、五〇〇	一七、三五〇	一六、二〇〇	一五、〇五〇	一三、九〇〇	一二、七五〇	一一、六〇〇	一〇、四五〇	九、三〇〇	八、一五〇
七、〇七	六、九六	六、八五	六、七四	六、六三	六、五二	六、四一	六、三〇	六、一九	六、〇八
一〇、七二	一〇、六一	一〇、五〇	一〇、三九	一〇、二八	一〇、一七	一〇、〇六	九九、九五	九九、八四	九九、七三
九、一九	八、一八	七、〇七	六、九六	六、八五	六、七四	六、六三	六、五二	六、四一	六、三〇

四〇

本節 一千六百四十節  
龜節 九百九十八節

製品ハ縣内各地方ヨリ共同購入又ハ團體等ノ購入豫約ノ申込多數アリテ到底全部ノ要求ニ應ズルヲ得ザルノ状態ナリシ製品數次ノ如シ

一一、節製造ニ供スル鯉浸漬試験

本試験ハ前年度來ノ經績試験ニシテ從來ハ豫備的試験ノミニ止マリシガ前年度ニ於テ施行セル試験ノ結果ヲ綜合スレバ水漬時間ノ短キモノハ永キモノニ比シ頗ル優品ヲ出セルニ反シ永キモノハ頗ル劣レルモノアルヲ見タレバ本年度ニ於テモ前年度ニ準ジ浸漬試験ヲ施行セリ

(ロ) 方法

本試験ニ使用セシ原料ハ盛漁期中ノ物ニシテ真鯉四尾ヲ使用セリ、以上四尾ヲイ、ロ、ハ、ニ、ノ記號ヲ附セリ、イ、ロ、ハ、ニ、各尾ノ重量左ノ如シ

- (イ) 六〇〇匁
- (ロ) 六六〇匁
- (ハ) 六四九匁
- (ニ) 六五五匁

以上ノ(イ)、(ロ)、ハ頭落後水中ニ浸漬スル事四時間、(ハ)及(ニ)、ハ頭付ノマ、四時間浸漬セリ、此レヲ龜節ニ身卸シ(イ)ノ前半片ヲ(イ)ノトシ後半片ヲ(イ)ノトシ(ロ)及(ハ)、(ニ)モ同様ニ記號ヲ附セリ、而シテ工程中ノ變化ハ左表ニ示スガ如シ

工程中ノ變化

種類	重量	頭落後	浸漬四時間後	身卸後	煮熟後
イ 真鯉	六〇〇匁	四四〇	四三三	二、一〇五	一六五
ロ 同	六〇〇	四九五	五〇〇	二、二〇五	一六五
ハ 同	六〇〇	四八三		二、二三八	一七五
ニ 同	六五五	四八八		二、二九九	一七〇
イノ一 水入後	一五匁	一四四		一四三	一二三
イノ二	一七匁	一四三		一四二	一二二
ロノ一	一五匁	一四二		一四一	一二一
ロノ二	一七匁	一四一		一四〇	一二〇
ハノ一	一六匁	一四〇		一三九	一一九
ハノ二	一八匁	一三九		一三八	一一八
イノ一	一五匁	一四四		一四三	一二三
イノ二	一七匁	一四三		一四二	一二二
ロノ一	一五匁	一四二		一四一	一二一
ロノ二	一七匁	一四一		一四〇	一二〇
ハノ一	一六匁	一四〇		一三九	一一九
ハノ二	一八匁	一三九		一三八	一一八

四一





ムル器械ナリトス故ニ胴板ノ切斷面ヲ罐ノ内部ニ露出スル事ナシ且ツ封鎖消費ヲ少カラシム

(ハ) 胴屈折器械

此ノ器械ノ端折シタル胴罐ヲ外方ニ直角ニ折リ曲グル爲メニ用ヒルモノニシテ別圖ニ示セルガ如ク下方ニ存セル二個ノ相對スル「フレンヂローラー」ハ取手ニヨリテ相近接シ此間ニ所要ノ胴ヲ置クトキハ相互間ニ壓着セシムルコトヲ得可シ又其上方ニ存セル二個ノ「ローラー」モ足踏ミ臺ニカヲ加フルコトニ由リテ下方ニ下リ前記下方ノ二「ローラー」間ニ狹メル胴ヲ壓着ス可シ然シテ此ノ機械ヲ運轉セシムルトキニ於テハ四個ノ「ローラー」ハ胴ヲ相應着シツ、廻轉シ上方「ローラー」ノ先端ニ存スル小廻轉車ノ爲メニ外方ニ直角ニ折リ曲グルルニ至ル可シ

(ニ) 二重巻縮機

鐵葉板ノ斷面ヲ罐ノ内部ニ露出セシムルトキハ斷面ヨリ鐵分溶出シ内容物ニ惡影響ヲ及ボスノミナラズ半田ヨリ飴ノ食品中ニ溶出スルコトアリ此等ノ缺點ヲ補フ爲メ此ノ機械ヲ設備セリ而シテ二重巻縮機ハ既ニ胴ノ兩端ハ外方ニ直角ニ折リ曲グラレタルモノ、上ニ置キタル蓋底ヲ胴端直角ノ部分ト共ニ巻縮密封セシムルモノナリ

(ホ) 蓋底打抜機

罐詰ノ蓋及底ヲ製スル機械ニシテ從來使用セルモノハ螺旋式ニシテ使用二人ヲ要シ不便尠カラザルヲ以テ本年度ハ全然之レヲ改メ直壓式トセリ

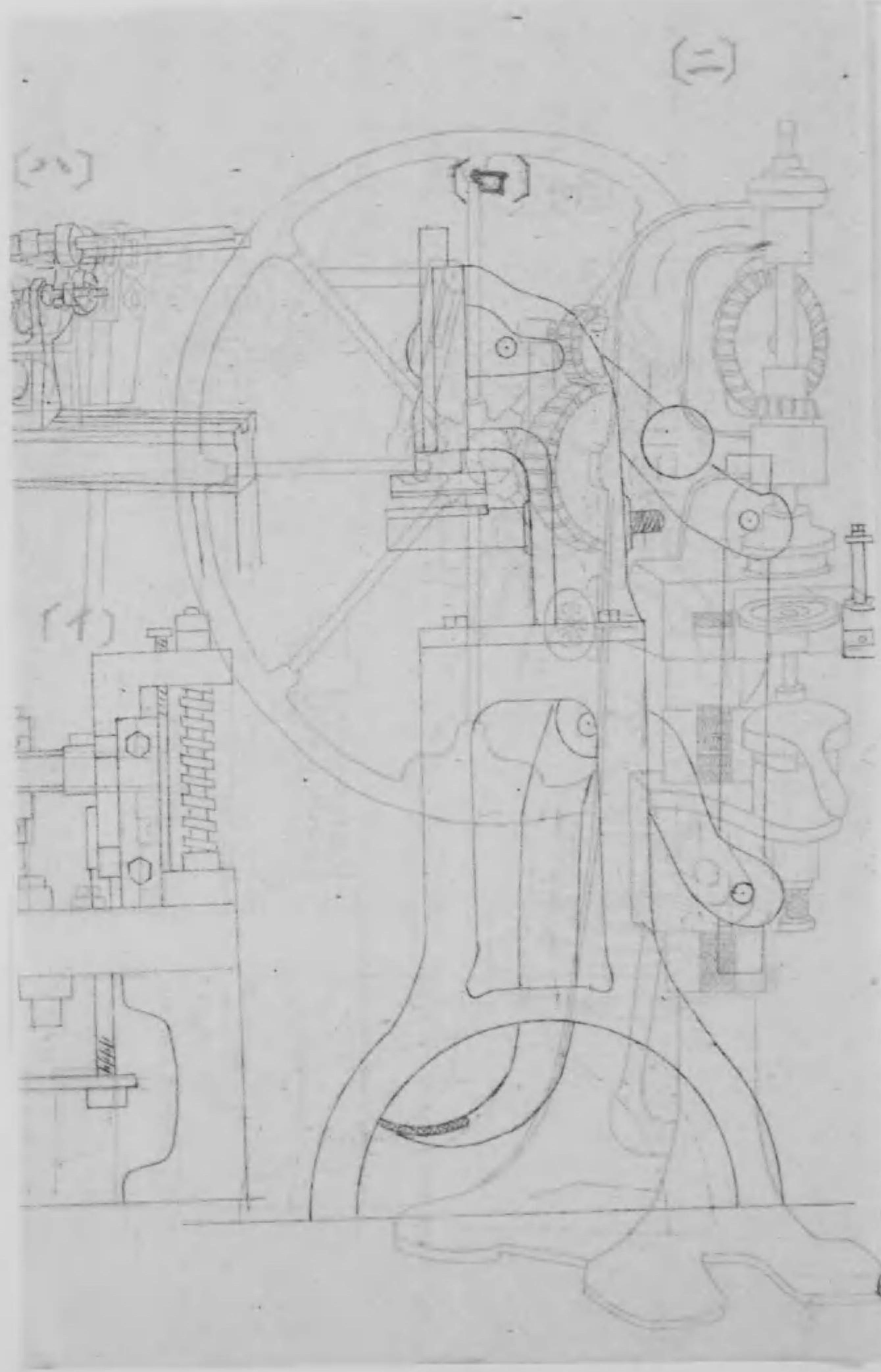
(ニ) 各種罐詰蓋底切縮型

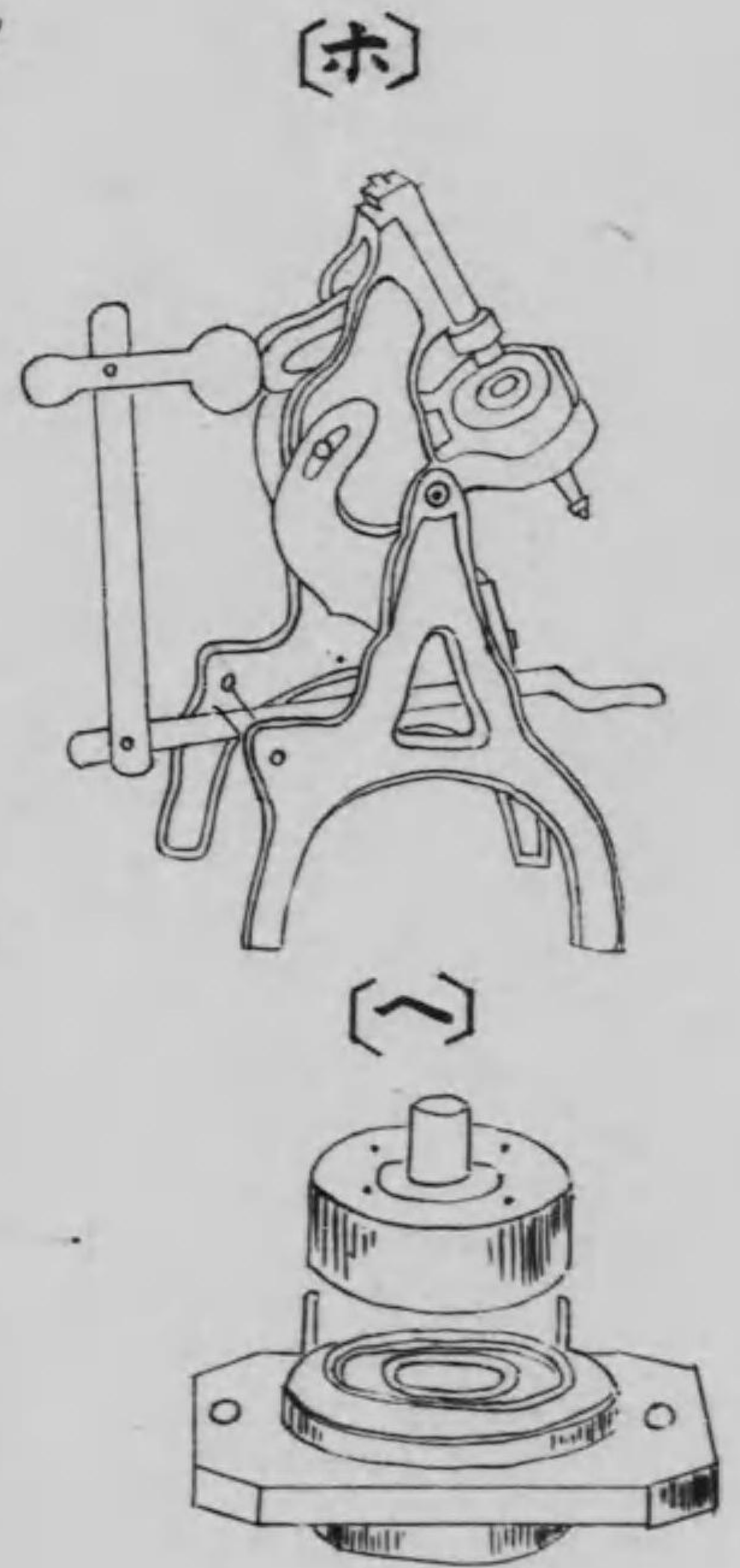
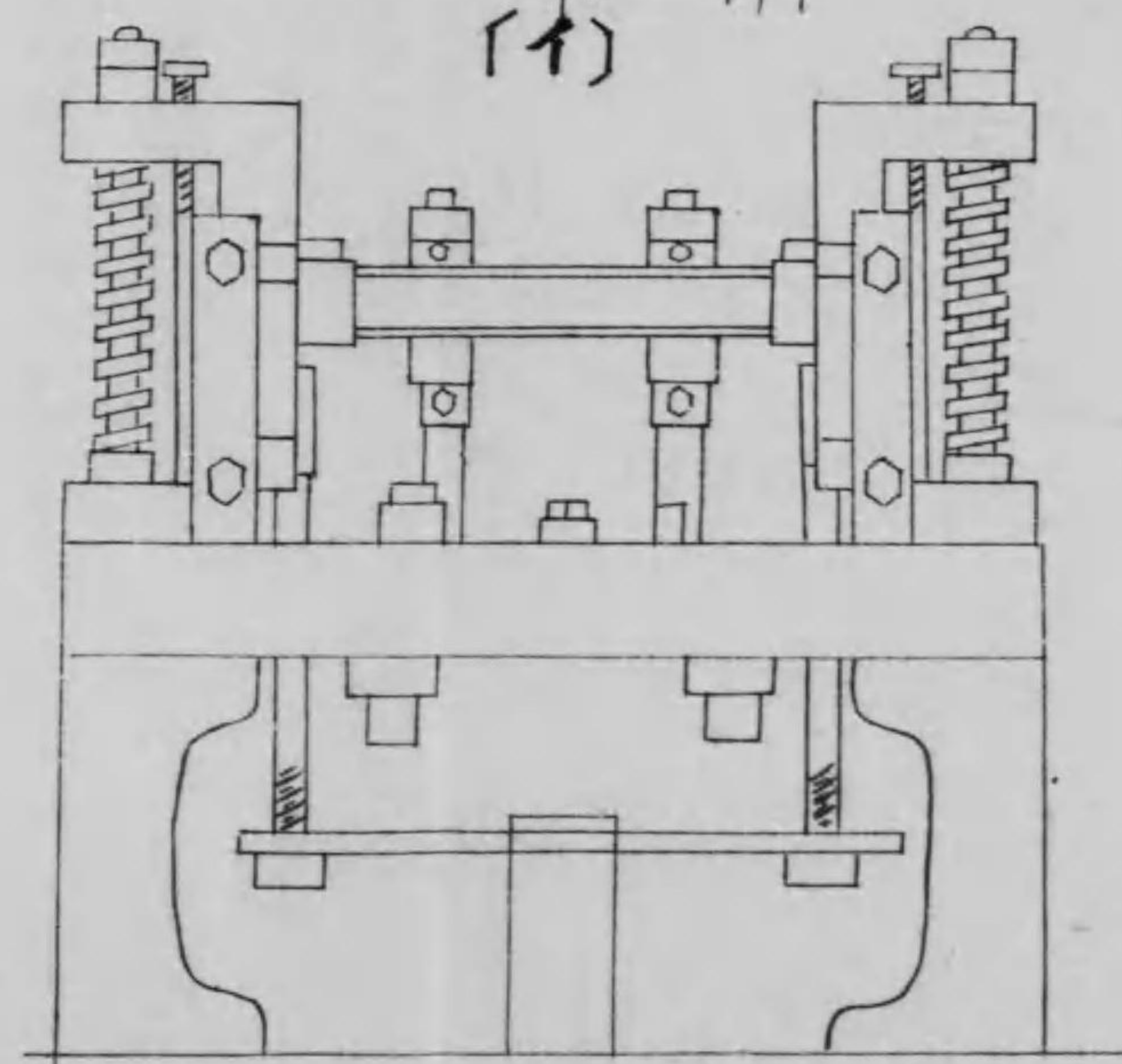
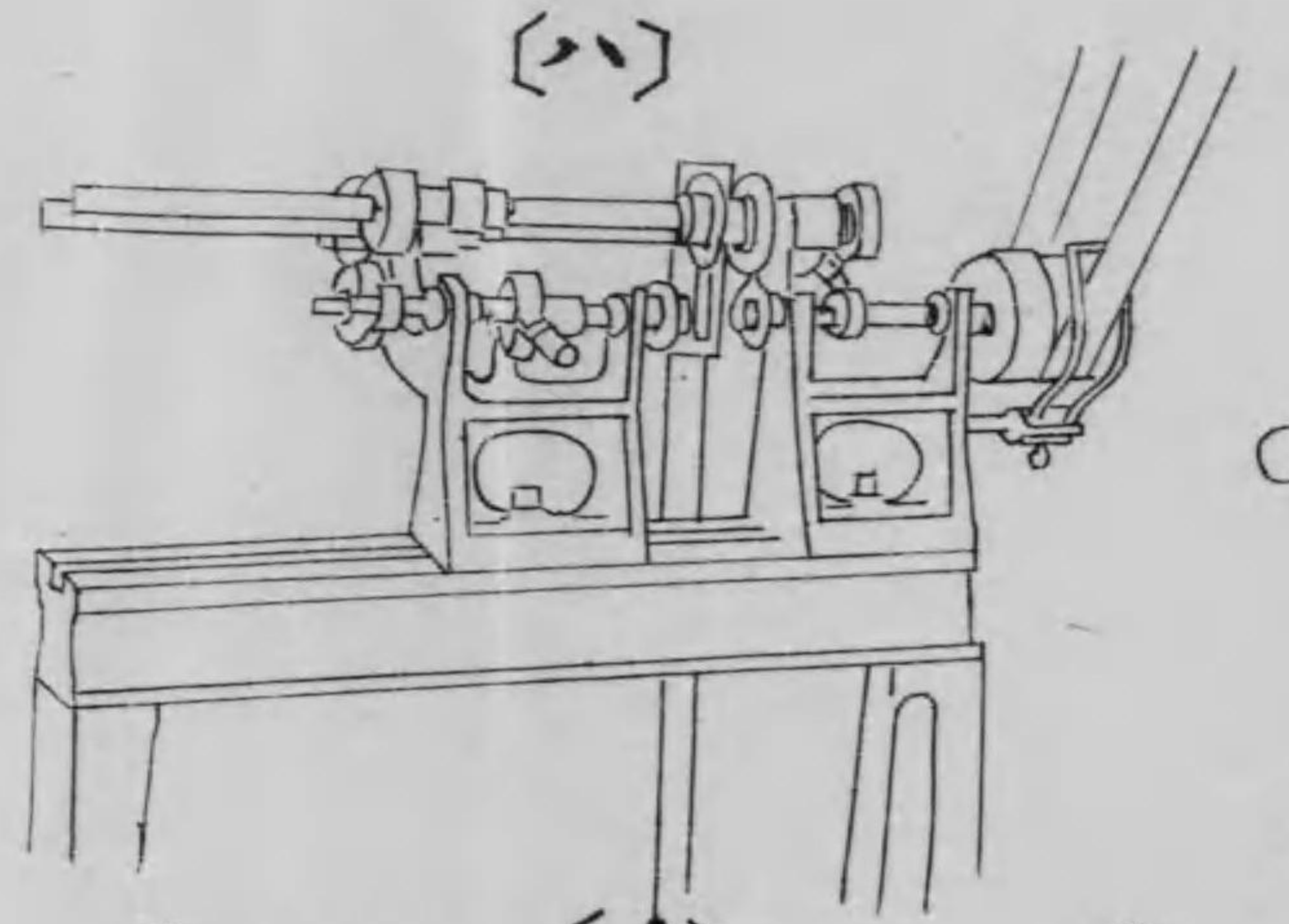
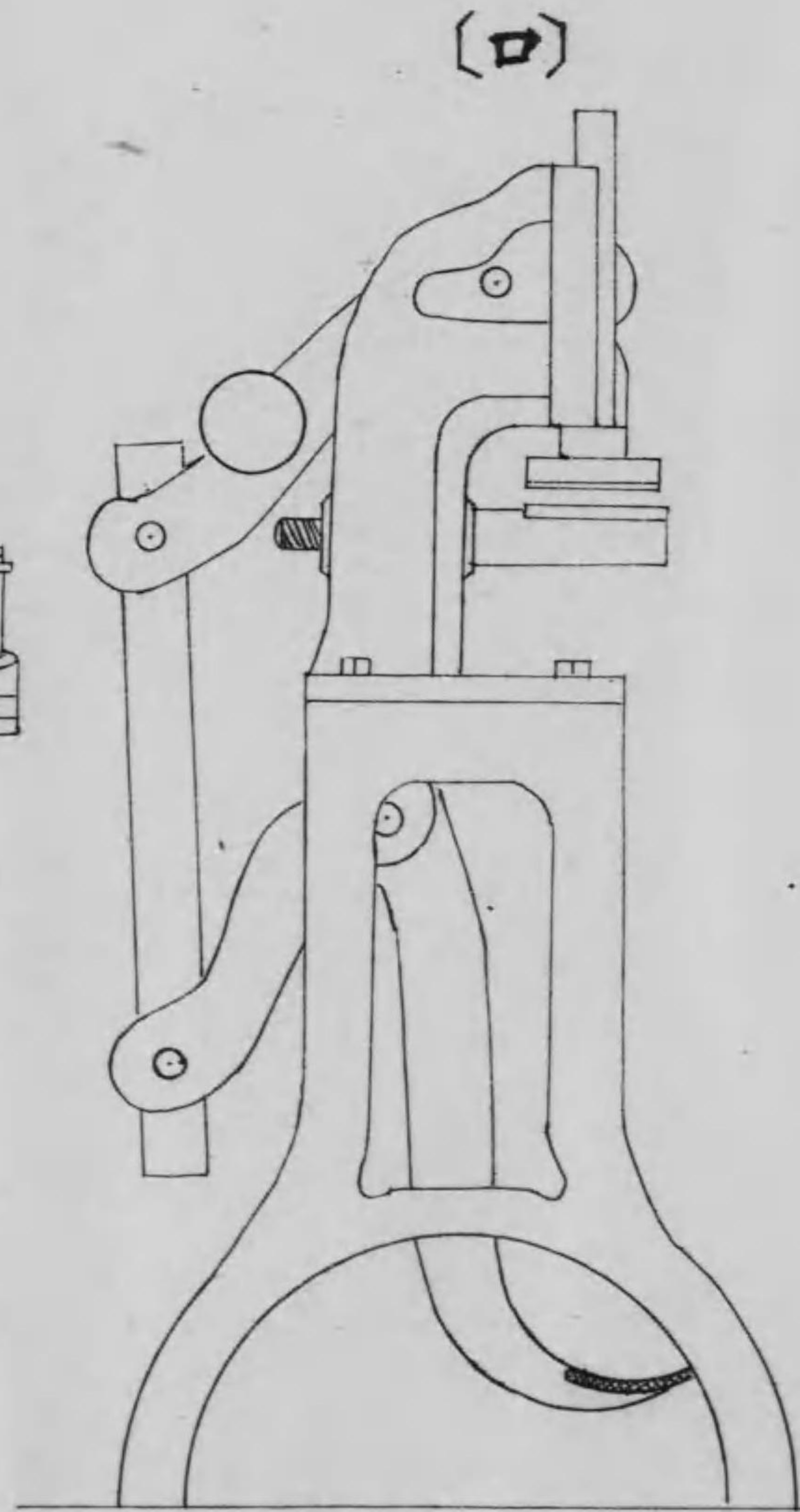
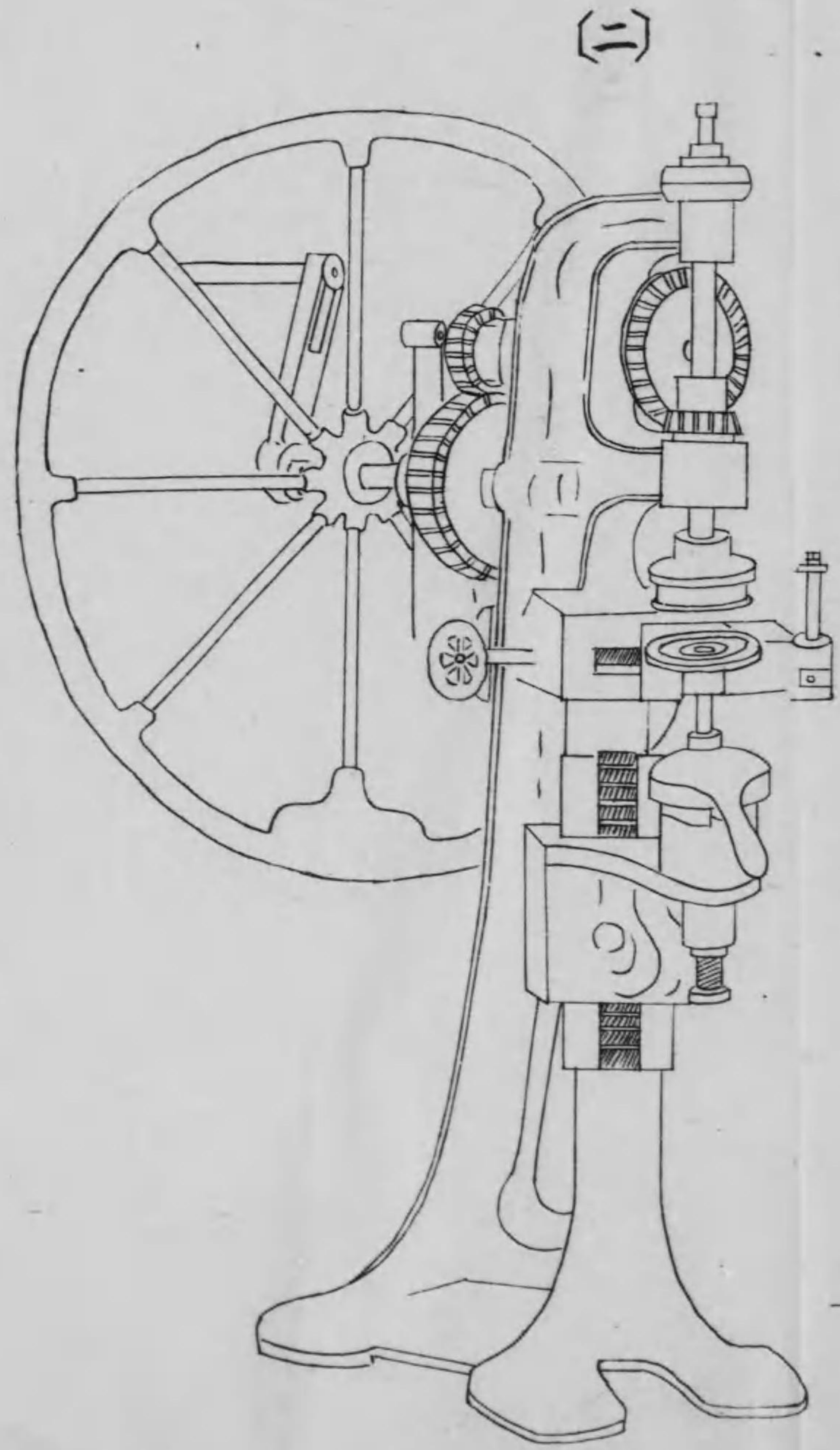
前記蓋底打抜機ニ附隨品ナリ

(一) 鯉大和煮罐詰製造試驗

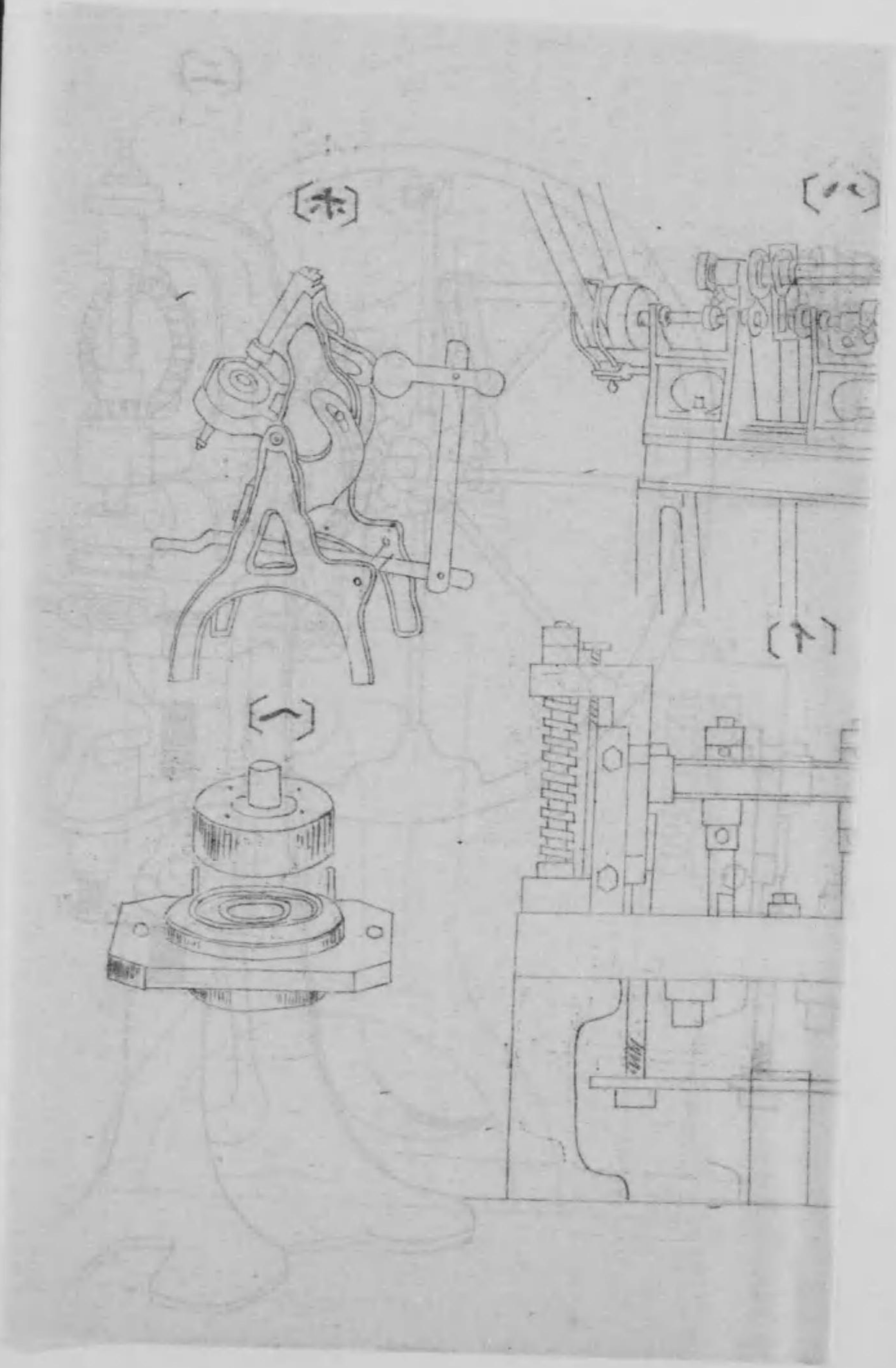
(イ) 趣旨

從來本縣ニ於テハ鯉ノ利用ハ節製造ノ外ハ生鮮ノマ、販賣セラレ他ニ何等ノ製造加工シタルモノヲ見ズ而シテ鯉大和煮罐詰ハ殆ド全國ニ亘リテ製造セラレ味又頗ル美ナルヲ以テ内地ノ需用少ナカラズ價格モ亦他ノ魚類罐詰ニ比シ割合ニ高價ヲ維持セルヲ以テ鯉節製造ノ傍ラ此レガ製造試驗ヲ施行セリ





ハ始下全国ニ亘リテ製造セラレ味又頗ル美ナルヲ以テ内地ノ需用少ナカラズ價格モ亦他ノ魚類罐詰ニ比シ割合ニ高價ヲ維持セムヲ以テ經節製造ノ傍ラ此レガ製造試験ヲ施行セリ



(ロ) 方法

原料ノ處理

原料ノ處理ハ頭落ヨリ籠詰マデ節製造工程ニ異ナラズ煮熟後陰所ニ放給シ肉ノマ、引キ締マルヲ度トシテ粗板上ニテ適宜ノ大サニ切斷シ味付籠ニ入レ先ニ釜中ニ配合シ置キタル調味液ニテ約十分間程煮熟シ取上ゲ放冷ス、調味液ノ配合量左ノ如シ

- 醬 油 一 升
- 水 一 升
- 砂糖 百匁(赤ザラ)

肉詰  
肉詰ハ一封度堅罐ニ正味九十匁ヲ詰メ此レニ前記ノ液汁二十五匁程ヲ注入セリ、  
加熱  
加熱ハ普通釜ニ於テ排氣沸騰後三十分間殺菌沸騰後二時間トス  
本試驗ニ供セシ原料數量左記表ノ如シ

經罐詰原料領収表

月 日	數量	單位	價 格	計 金	數量累計	價格累計
七月 七日	五九、二〇〇	七五尾	九五〇	七、二五〇	五九、二〇〇	七、二五〇
八月 五日	三三、五〇〇	四五五	六五〇	二九、二五〇	九二、七〇〇	一〇〇、五〇〇
八月 十九日	一〇、〇〇〇	四〇〇	一、〇五〇	四、二〇〇	一〇二、七〇〇	一〇四、七〇〇
八月 三十日	一八	元	九五〇	一七、一〇〇	一二〇、八〇〇	一二一、六五〇
九月 十二日	一〇、〇〇〇	三〇〇	三、五〇〇	二〇、六〇〇	一三〇、四〇〇	一四二、二五〇
(ハ) 結 果						

製了罐數 五百六十四罐也  
 而シテ本試驗ノ經過ハ最初ハ機械ノ使用不馴ノ爲メ完全ナル製罐ヲ得ズ不良罐續出スル有様ナリシガ漸次機械ノ使用ニ馴レ  
 又使用者ノ技術ノ向上ニ從ヒ從來ノ缺陷ヲ補ヒ製罐モ増加シ殆ド不良罐ヲ出ス事ナカリキ、而シテ本製罐ノ二重卷締罐ナル  
 ヲ以テ從來ノ内嵌罐ノ場合ノ如キ多量ノ半田ヲ使用スル事ナク僅少ノ半田ヲ以テ完全ニ封罐スルヲ得ル點ニ於テ經濟上利便  
 少カラズ之レガ試賣ノ結果ハ大部分地方賣トシ賣行又良好ナリキ

(二) 秋刀魚罐詰製造試驗

趣 旨

近年秋刀魚漁場ノ擴張セラレ、ト共ニ漁獲物モ又著シク増加スルニ至レリ而シテ之レ等漁獲物ノ處理方法トシテハ本縣ニ於  
 テハ全部生魚ノマ、ニテ移出スルノミナルヲ以テ此レガ利用試驗トシテ前年度來ヨリ秋刀魚罐詰試驗ヲ施行シ來レルガ本年  
 度ニ於テハ更ニ罐詰ヲ試製シ販路及製品ニ就キ調査セリ試製セル罐詰種類左ノ如シ

秋刀魚大和羹罐詰

同 燻製油漬罐詰

同 燻製酢漬罐詰

(イ) 秋刀魚大和羹罐詰

先ツ原料ハ生鮮ナルモノヲ撰ビ頭ヲ落シ臟肺ヲ除去シ此レヲ裏籠ニナラベ釜中ニテ煮熟スルコト二三十分ニシテ熱ノ浸透ス  
 ルヲ見計ヒ取上グ陰所ニ放冷ス熱ノ去ラザル内ハ肉脆弱ニシテ作業ニ困難ナルヲ以テ冷却ト共ニ肉ハ引締ルモノナレバ冷却  
 後、此レヲ叮嚀ニ一尾ツ、組板上ニ取り適宜ノ大サニ切斷シ此ヲ味付籠ニ入レ調味液中ニテ煮熟スル事十分間位ニシテ取り  
 上グ調味液配合量左ノ如シ

- 醬 油 一 升
- 水 八 合
- 砂糖 百二十匁

肉詰  
 肉詰ハ四分ノ一基角型罐ヲ上下二段ニ詰メ肉詰量正味六十匁トス此レニ注入液二十匁程ヲ注入シ蓋ヲナシ封鐵ス  
 加熱

加熱ハ排氣沸騰後三十分殺菌沸騰後一時間半ヲ施行セリ

(ロ) 秋刀魚燻製油漬罐詰

燻煙法ニ依リテ燻煙ヲ了セシモノヲ一尾ツ、懸垂セル竹ヨリ取りハブシ組板上ニテ適宜ノ大サニ切斷ス(此際ナルベク表皮  
 ヲ剝離セザル様注意スルヲ要ス)

肉詰  
 四分ノ一基角型罐ニ上下二段ニ詰メ此レニ「オロコブ」油二勺程ヲ注入シ密封ス

加熱

加熱ハ含氣法ニテ五十分間トス

(ハ) 秋刀魚燻製酢漬罐詰

酢漬製罐詰ハ酢ヲ以テ内容物ニ加味シ又之レニ辛子ヲ加ヘテ更ニ味ヲ添ヘタルモノアリ、調味製品トシテ優 ナルモノナリ  
 處理  
 前油漬罐詰ト同ジク燻煙ヲ終リタルモノヲ適宜ノ大サニ切斷シ四分一基角罐ニ肉詰メセリ

肉詰  
 罐底ニ花型ニ切リタル人參ヲ一二枚宛並べ其ノ上ニ原料ヲ並べ上ニモ二三枚ノ花型人參ヲ置キ此レニ前ニ調合シ置キタル酢  
 ヲ注入シ密封ス、酢ノ配合量左ノ如シ

- 酢 二 升
- 水 五 合
- 食 鹽 一 匙
- 白 砂 糖 十 匁

加熱  
 沸騰後三十分殺菌沸騰後一時間ヲ施行セリ

(ニ) 結 果

以上大和羹、油漬、酢漬、ノ製造數量及製品數次ノ如シ  
 オロコブ油漬罐詰 百五十七罐 四百七十尾

大和煮罐詰 二百九十八罐 九百六十五尾  
酢漬罐詰 六十五罐 二百二十五尾

以上三積試賣ハ東京及地方賣トナセシガ地方ニ於テハ相當ニ賣レ行キタルモ東京ニ試賣セシモノ概シテ不成績ニ終レリ

### 秋刀魚罐詰收支計算

(大和煮ノ部)

#### 支出之部

- 一金八拾九圓四拾壹錢貳厘也
- 内 譯
  - 秋刀魚九百六十五尾也
  - 一尾五錢也
  - 金四拾八圓貳拾五錢也
  - 醬油一斗
  - 一升七拾錢
  - 金七圓也
  - 砂糖一貫百匁
  - 一貫參拾貳錢
  - 金參圓五拾貳錢也
  - 空罐二百九十八罐
  - 一罐七錢九厘
  - 金貳拾參圓五拾四錢貳厘也
  - 薪材十把
  - 一把五拾錢
  - 金五圓也
  - 木炭六貫匁
  - 一貫參拾五錢
  - 金貳圓拾錢也

#### 收入之部

- 一金百四圓參拾錢也
- 大和煮罐詰二百九十八罐

### (三)南光貝大和煮罐詰製造試驗

#### (イ)趣旨

本縣沿岸及茨城縣沿岸ニ多産スル南光貝殻ハ貝ばたん等ニ加工セラル、モ肉ハ捨去セラル、カ或ハ煮熟シテ頗ル廉價ニ賣買セラル、ノミニシテ此レガ利用製品トシテ見ル物ナキ有様ナルヲ以テ此レヲ大和煮罐詰ニ試製シ販路及製品ニ就キ調査セリ

#### (ロ)方法

原料ノ處理

原料ハ剝身ニシテ一度煮熟セルモノナリ、剝身ハ黃色ノ粘液附着シ居ルヲ以テ清水中ニテ數回洗淨シ籠ニ取り上ゲ水切りヲナシ一個ツ、ヲ取り中央部ヨリ縦ニ割リ味付籠ニ入レ釜中ニテ調味ヲナス之レヲ一封度堅罐ニ正味七十匁ヲ肉詰シ注入液ニ十五匁ヲ注入密封ス

#### (ハ)結果

製了罐數 百七十八罐  
試賣ノ結果ハ重ニ地方賣ニシテ相當ノ賣行ヲ見タリ

### 南光貝大和煮罐詰收支計算

#### 支出之部

- 一金六拾九圓八拾八錢也
- 内 譯
  - 南光貝二千五百八十個
  - 一個壹錢五厘五毛
  - 金參拾貳圓貳拾五錢也
  - 醬油一斗四升
  - 一升七拾錢
  - 金九圓八拾錢也
  - 砂糖一貫七百匁
  - 一貫參圓貳拾錢
  - 金五圓四拾四錢也
  - 空罐百七十八罐
  - 一罐拾錢五厘
  - 金拾八圓六拾九錢也
  - 薪材六把
  - 一把五拾錢
  - 金參圓也
  - 木炭二貫匁
  - 一貫參拾五錢
  - 金七拾錢也

#### 收入之部

- 一金八拾圓拾錢也
- 大和煮罐詰百七十八罐代

### (四)櫻桃ジャム罐詰製造試驗

#### (イ)趣旨

本試驗ハ前年來ノ繼續試驗ニシテ本年度モ前年度ニ準ジ本試驗ヲ施行セリ

一、原料

產地 縣内信夫郡

品種 那翁 二、六四五匁

若紫 一、七九〇

六、八六〇(那翁若紫混同秤量ス)

豫メ淡水ヲ沸騰セシメ置キ之レニ原料ヲ投入シ煮熟セリ、熟度ハ原料ノ水面ニ浮上スルヲ度トス、此ノ作業ヲ行ハザレバ製  
品ニ酸味及濕氣ヲ催シ著シク味ヲ損ス

煮熟後 那翁 二、五四四匁

若紫 一、七〇〇

六、六〇〇(那翁若紫混同)

煮熟ヲ了シタル原料ハ一粒ツ、柄及種子ヲ去リ肉ノミトセリ

種子除去後那翁 一、八八八匁

若紫 一、〇四五

五、一三二(那翁若紫混合)

鍋ヲ大爐ニ裝置シ前記ノ工程ヲ經タル原料ヲ投ジ左記ニ依リ砂糖ヲ混ジ最初ハ兩手ヲ以テ充分原料ト砂糖ヲ混和シ後ハ木筥  
ニテ絶エズ攪拌シ燒着ヲ防ギ水飴狀ヲ呈スルニ至リ之レヲ止ム

煮熟後 那翁 一、六七三匁

若紫 五、〇三八(那翁若紫混同)

使用砂糖 三、〇〇〇

肉詰、半封度内嵌罐ニ六十匁宛ニ詰メ封鎖セリ

加熱

斯瓦拔、沸騰後十五分

(ハ) 結果

製了實罐數百十三個ニシテ重ニ地方賣ニミ止メタリ

櫻桃ジャム罐詰收支計算

支出之部

一金四拾貳圓九拾八錢四厘

內譯

金拾八圓也

金貳圓也

金九圓六拾錢也

金七圓六拾八錢四厘也

金五圓也

金七拾錢也

那翁十貫匁

若紫二貫匁

砂糖三貫匁

空罐百十三個

薪材十把

木炭二貫匁

一貫壹圓八拾錢

同 壹圓也

同 參圓貳拾錢

一罐六錢八厘

一把五拾錢

一貫參拾五錢

收入之部

一金參拾九圓五拾五錢也

ジャム罐百十三個賣拂代

四、秋刀魚燻製試驗

(イ) 趣旨

本試驗ハ前年度來ノ經績試驗ニシテ從來施行シ來タル方法ハ冷燻法ニシテ時日ヲ要スル事及燃料ノ消費多大ナリシヲ以テ  
本年度ニ於テハ温燻場ニ依リ本試驗ヲ施行セリ  
而シテ近年漸次漁場ノ擴張ト共ニ著シク漁獲物ヲ増加スルニ至レルヲ以テ之レ等ノ簡單ナル製法ニ依リテ多數ノ原料ヲ短時  
間ニテ處理シ得ル温燻製法ヲ施スハ最モ有利ナル事トス

(ロ) 方法

原料ハ可成新鮮ナルモノヲ撰ビ頭及臍布ハ除去セズ原形ノマ、清水中ニテ良ク洗淨シ、此ヲB氏鹽水、一七一―一八度位ニ浸  
漬スル事一夜間トス、浸漬終ラバ一尾宛ヲ叮嚀ニ取り尾根ヲ綿絲ヲ以テ結ビ細竹ニ適當ノ間隔ヲ置キテ懸垂シ陰乾スル事三  
四時間ニシテ燻室ニ移ス、(燻室ハ從來ノ手大山ヲ代用シテ使用セリ)

煙煙時間ハ攝氏七十度乃至八十度ニ於テ六時間乃至七時間トス、煙煙ハ堅木ニ鋸クズヲ混ジ焙ト共ニ煙ヲ出サシム  
煙煙ヲ終リタルモノハ一尾ヅ、一オリーブ「油ヲ塗リ外見ヲ調へ製了ス

(ハ) 結果

供試原料數ハ一千三十五尾ニシテ一尾平均五錢ナリキ  
試賣ハ重ニ地方賣ノミニ止メタリシガ一尾六錢ニ賣却セリ  
本品ハ地方ニ於テハ未ダ一般ノ嗜好ニ適スル迄ニ行カザルモ一度試食シタル後ハ案外其美味ナルヲ認メ漸次需用ヲ増加スル  
傾向アリ

秋刀魚燻製收支計算

支出之部

一金六拾圓八拾錢也	
内 譯	
金五拾壹圓七拾五錢也	秋刀魚一千三十五尾
金壹圓參拾五錢也	鹽一斗五升
金七圓五拾錢也	薪材十五把
金貳拾錢也	鋸クズ
	一尾五錢
	一貫參拾錢
	一把五拾錢
	一俵貳拾錢

收入之部

一金六拾貳圓拾錢也 煙製秋刀魚一千三十五尾賣拂代

五、竹輪蒲鉾製造試驗

(イ) 趣旨

本試驗ハ前年度來ノ經驗試驗ニシテ從來ハ毎年傳習生ヲ募集シ試驗ノ傍ヲ傳習所ヲ開所シ來タリシガ漸次沖手繰網漁業ノ發  
展ニ伴ヒ漁獲物ヲ増加シ爲メニ本業ニ從事スルモノアリ何レモ相當ノ製品ヲ出スニ至レルヲ以テ本年度ニ於テハ傳習生ヲ募  
集セズ僅カニ竹輪製造ニノミ止メタリ

(ロ) 試驗ノ經過

本試驗ニ使用セシ原料數量左ノ如シ

鯪	九九、七〇〇
エンキリ	一二、〇〇〇
カラス	九、七五〇
右原料一貫ニ對スル配合物量左ノ如シ	
メリケン粉	三十匁
片栗粉	三十匁
砂	三十五匁
鹽	二十匁
味淋	二匁

(ハ) 結果

本試驗ニ依ル製品數量一千七百五十二本ニシテ地方賣リノ外縣外ニ試賣セルモノ左ノ如シ  
東京市 河市商店 東京 安藤商店、大津 會社、高崎市 今勇、名古屋市 丸川組魚問屋  
地方賣ノモノハ相當ノ賣レ行キヲ見タルモ縣外移出ノ時期既ニ春暖ノ候ナリシ爲メ發送途中腐敗シ且ツ容器等モ一定セザリ  
シ爲メ概シテ不成績ニ終レリ

六、雜魚利用製造試驗

本縣ニハ比較的低廉ナル雜魚類、ダラリエンキリカラス沖鯨等ノ諸原料豊富ナルニ拘ラズ未ダ之ヲ利用スルモノナク漁獲  
ノ多キトキハ肥料ト爲スノ状態ナルヲ以テ本場ニ於テハ之ヲ利用シテ地方ノ名産品ニ化製セントス而シテ製品ハ本場ニ於テ  
はまらどりノ名稱ヲ付セリ

(一) 濱千鳥一名あられ製造

(イ) 方法

主要原料タル魚ハ唐人魚、鯨(ダラリ)、エンキリ、カラス等)沖鯨等ニシテ比較的低廉ナルモノ、中ヨリ一種又ハ三種以上混用ス

原料ノ處理

新鮮ナル原料魚水洗ノ後三枚ニ卸シ更ニ表皮ヲ除去シ(蒲鋒、竹輪製造工程ニ於ケルト同様)一夜乃至一晝夜淡水中ニ浸漬ス水洒セル肉ハ能ク水切(壓搾)シテ肉碎器(石臼ニテモ可)カケ崩肉ス

調味配合

摺身一貫匁ニ對シ左ノ品々ヲ配合シ石臼ニテ能ク攪拌(或ハ麵類製造工程ニ於ケル足踏混合法)ス

原料ノ肉 一貫匁

メリケン 五百匁

片栗粉 五百匁

寒酒 二百匁

砂糖 二百匁

重曹 五匁

食鹽 二十匁

蒸養及型抜

配合セル肉ハ之ヲ組板上ニ取リ能ク打チ返シ圓棒ニテ可及的薄ク展延シ(蒸養後容積増大スルモノナリ)適當ノ大サニ切斷シテ蒸籠ニ容レ蒸養十五分時間ニテ取出シ放冷ノ後模樣拔型ニテ拔出ス或ハ庖丁ヲ以テ丹冊形ニ細切ス

是レニ供スル油ハ種油、白絞油、落花生油又ハ胡麻油等アレドモ食味ニ於テハ胡麻油最モ優レリトス

先ツ油ヲ加熱シ前記原料ヲ少量ツ、投入シ其浮上狐色ニ著色セルヲ度トシテ擲上グ新聞紙等ヲ敷キ其上ニ濾グ完製スルモノトス

本試驗ニ使用セシ原料數量左ノ如シ

沖鯨 四十二貫七百匁  
カラス 十七貫

エンキリ 十二貫

右原料ヨリ得シ精肉

沖鯨 十四貫

カラス 三貫

エンキリ 二貫

配合物使用量

メリケン 九貫五百匁

片栗粉 九貫五百匁

寒酒 一貫九百匁

砂糖 三貫八百匁

重曹 九十五匁

食鹽 三百八十匁

製了品數量十一貫百六十匁

(ロ) 結果

之レガ試賣ノ結果ハ一斤四拾五錢賣ニシテ大部分地方賣ノミナリシガ頗ル好評ヲ得タリ

濱千鳥收支計算

支出之部

一金九拾壹圓八拾壹錢也

內 譯

金參拾貳圓八拾七錢九厘也

金四圓貳拾錢也

金貳圓四拾錢也

金拾壹圓四拾錢也

金九圓九拾七錢五厘也

鯨沖四十二貫七百匁代

カラス十七貫代

エンキリ十二貫

メリケン九貫五百匁

片栗九貫五百匁

一貫壹圓貳拾錢

一貫壹圓五錢

五五



金拾貳圓五拾四錢也  
 金參拾壹錢四厘也  
 金拾五錢貳厘  
 金四圓也  
 金貳圓四拾五錢  
 金拾壹圓五拾錢也

收入之部

一金百貳拾九圓六拾錢也 製品二十八貫八百九代

(二) 鯛味噌製造

採魚肉ノ製造

鯉類(ダラリ、エンキリ、カラス、大魚ヲヨシトス)鱈又ハ目拔魚等ヲ頭及内臟除去ノ後淡水ニテ煮熟シ(鯉類ハ先ヅ身卸シ絞布漉ニカケ)肉身ノミヲ撰別シ水中ニテ揉ミ更ニ壓搾シ焙乾ヲ施ス此際充分揉ミ潰シ置カサレバ乾了後ニ於テハ作業困難ナリ

練製

調味材料配合量

先ヅ水中ニ寒天ヲ細切投入シ其ノ溶スルヤ砂糖ヲ入レ次ニソボロヲ加ヘテ十數分間煮熟シ味噌ヲ徐々ニ投ジテ攪拌後給ヲ滴下シ片栗粉ヲ撒布ス火ハ文火ヲ可トス一時間餘氣永ニ練リ上グベシ放冷後ハ硬度甚シク増加スルモノナリ

- ソボロ 一貫 匁
- 味噌(赤甘漉) 十貫 匁
- 飴 一貫 匁
- 砂糖(赤ザラ) 三貫三百匁
- 片栗 百匁
- 寒天(角) 六本
- 水 三升 餘

練製放冷セル調味噌ハ適當ノ木曲、又ハ罐内ニ詰メ製了スルモノトス  
 本試験ニ使用セシ原料左ノ如シ

第一回

- ソボロ(ダラリ原料) 一貫 匁
- 味噌 一〇貫 匁
- 飴 一貫 匁
- 砂糖 三貫三百匁
- 片栗 百匁
- 寒天 六本
- 水 三升

第二回

- ソボロ(ダラリ原料) 二貫 匁
- 味噌 二〇貫 匁
- 飴 二貫 匁

出來上リ總量七十三貫六百匁  
 製了味噌ハ全部半封度平罐ニ充填シ罐詰トナス

鯛味噌罐詰收支計算

支出之部

- 一金貳百六拾五圓八拾七錢五厘 內 譯
- 金五拾圓也 味噌五十貫 匁
- 金貳拾五圓也 ソボロ五貫 匁
- 金七圓五拾錢也 水飴五貫 匁
- 金五拾四圓四拾五錢也 砂糖十六貫五百匁

第三回

- 砂糖 六貫六百匁
- 片栗 二百匁
- 寒天 一二本
- 水 六升
- ソボロ(ダラリ原料) 二貫 匁
- 味噌 二〇貫 匁
- 飴 二貫 匁
- 砂糖 六貫六百匁
- 片栗 二百匁
- 寒天 一二本
- 水 六升 餘

- 一貫 匁壹圓也
- 一貫 匁五圓也
- 一貫 匁壹圓五拾錢
- 一貫 匁參圓拾錢

金五拾貳錢五厘  
金九拾也  
金參圓五拾錢也  
金百貳拾參圓也  
金拾圓也

片栗五百匁  
寒天三十本  
木炭十貫匁  
空罐千五百個  
薪材二十把

收入之部

一金參百七拾五圓也

罐詰一千五百個賣拂代

一罐貳拾五錢

七、分 析

(イ) 趣 旨

從來試驗ハ豫備的試驗ノミニ止マリシガ本年度ニ於テハ新ニ分析用諸器具及藥品設備シ鯨脂肪分析及各種ノ分析試驗ヲ施行セリ

鯨脂肪分析試驗

主 旨

本試驗ハ夏期各月ニ於ケル鯨ノ脂肪含有量ノ多寡及此レガ節製造ニ及ボス關係ヲ知ラントスルニ有リ

(ロ) 方 法

本分析ニ使用セシ器具ハソツクスレート氏ノ脂肪浸出器トス  
定量法

供試品、鯨ノ生肉ヲ水浴ヲ以テ乾燥シ細粉トナシタルモノヲ使用セリ  
以上ノ供試品三瓦ヲ採リ脫脂紙ヨリ成ル紙筒ニ納ム紙筒ハ浸出器ノ直徑ヨリ約四耗小ナル直徑ヲ有セシメ紙筒ノ底部ニ脫脂綿ノ少許ヲ入レ其上ニ供試品ヲ置キ其ニ上ニ脫脂綿ヲ置ク此ノ如ク供試品ヲ入レタル紙筒ヲ九五度ノ温ヲ有スル蒸氣浴内ニテ二―三時間置キ充分ニ乾燥シタル後脂肪浸出器ニ入レ純エーテルヲ用エテ約一六時間即チ脂肪ヲ悉ク浸出セラル、マデ浸出ス是ニ於テ脂肪定量量ヲ取り去リ湯煎上ニ温メエーテル分ヲ悉ク蒸留シ去ルトキハ壺内ニ脂肪ヲ殘留スベシ脂肪定量量ハ

之ヲ蒸氣浴内ニ一―二時間置キ乾燥シタル秤量シ浸出前ニ豫メ秤量シ置キタル脂肪定量量ヲ減ジテ脂肪ノ量トナシタリ

(ハ) 結 果

第一回 七月七日

検体重量 四九四匁  
内供試肉量 五二匁  
摺肉後 四四匁  
乾燥後 一四匁  
脂肪定量量重量 四七・〇一七〇瓦  
供試品量 三瓦  
三瓦中ニ含有脂肪量 瓦・三三二〇  
乾燥粉四匁中ノ含有量 二匁七一四二  
検体重量四九四匁中ノ含有量 二五匁八一四四〇  
約五%ニ

第二回 七月廿六日

検体重量 六〇八匁  
内供試肉量 五八匁  
摺肉後 五四匁  
乾燥後 二〇匁  
脂肪定量量重量 四〇瓦八五〇  
供試品量 三瓦  
三瓦中ノ含有脂肪量 瓦二九四九一  
乾燥粉二〇中ニ 三四三三三  
検体重量六〇八匁中ニ 三四匁七六九四三  
約五%ニ

第三回 八月廿二日

五八

検体重量

五六九匁  
内供試肉量 六〇匁  
摺肉後 五二匁  
乾燥後 二一匁  
脂肪定量量重量 四八瓦二五〇〇  
供試品量 四〇瓦八四四七  
三瓦  
三瓦中ニ含有脂肪量 瓦五四〇七  
乾燥粉二一匁中ニ 三匁七八九六  
検体重量五六九〇中ニ 三五匁六二二二  
約六%ニ

第四回 九月十二日

検体重量 三八〇匁  
内供試肉量 四五匁  
摺肉後 三八匁  
乾燥後 一五匁七〇  
脂肪定量量重量 四四瓦〇六七〇  
供試品量 三瓦  
三瓦中ニ含有脂肪量 瓦四五五八  
乾燥粉一五匁中ニ 二匁三八八八  
検体重量三八〇匁中ニ 二〇匁六九二  
約五%ニ

第五回 五月十九日

検体重量 三六〇匁  
五九

月 日	検体全量	供試量	摺肉後	乾燥粉	脂肪検査	三瓦中ノ脂肪量	乾燥粉中脂肪量	検体全量中脂肪
七月 七日	四四八	五八	四四	四四	三瓦	三三〇	二九七	二五八
七月廿六日	六〇八	五九	五五	五九	三瓦	三三〇	三三三	三三九
八月廿二日	五九	六〇	五五	三三	同	三三〇	三三三	三三九
九月十二日	五〇	四五	三五	一五七	同	三三〇	三三三	三三九
九月十九日	三〇	三三	三三	一三六	同	三三〇	三三三	三三九
九月廿四日	三〇	三三	三三	一三〇	同	三三〇	三三三	三三九

第六回 九月二十四日	約四%一	約八%三
内供試肉量	三九八	六〇
摺肉後	三三九	三六〇
乾燥後	一三三	三七八
脂肪定量最重量	四八瓦四二二五	三三三
供試品量	四〇瓦二一五五	一三三
三瓦中ニ含有脂肪量	三瓦	四八瓦四二二二
乾燥粉一三瓦六中ニ	五三五四五	四〇瓦二一四五
検体三六〇中ニ	一瓦六〇九〇七	三瓦
約四%一	一四瓦八〇二八〇	瓦七〇七五
		三瓦〇六九六
		二九瓦七七五二

◎養殖試験

本年度ニ於テ試験シタル項目左ノ如シ  
 一、猪苗代湖養殖經營  
 (一) 鱒人工孵化放養

- (二) 虹鱒養成試験
- (三) 鱒族漁獲試験並ニ漁場調査
- (四) 公魚移殖
- (五) 小鮎移殖豫備試験
- 二、養鯿經濟委託試験
- 三、淺海利用
- 四、松川浦養蠟試験
- 五、鮭連絡調査

一、猪苗代湖養殖經營

(一) 鱒人工孵化放養  
 大正八年度猪苗代湖ニ於ケル鱒魚ハ五月初旬ヨリ原川、舟津川、小澤川及長瀬川等ニ鮎ノ浜上スルモノアリ十月ニ入りテヨリ孵化場附近ノ小渠ニ浜上スルモノ稍多キヲ認メタルガ舟津川ニテハ採卵者撰定ニ就テ部落内ニ紛擾ヲ生ジ漁期ヲ失シテ天神濱ノ簀立テ亦湖水位ノ減退ニヨリテ自然消滅ノ姿トナリ只小澤川及北岸小田川トニ於テ六萬四千五百粒ヲ採卵シタルニ過ギズ、収容豫定數ニ滿タザリシガ本年度本邦各養鱒湖沼、十和田湖ヲ始メ支笏湖、阿寒湖、丸沼等何レモ親魚ノ浜上僅少ニシテ採卵數モ從ツテ各湖共ニ大ナル不足ヲ生ジ遂ニ補給ヲ受クル能ハズシテ終レリ

小澤川採卵狀況

漁獲期間	自十月一日至十一月十六日	四十七日間
漁獲 尾數	雄 五十七尾 雌 三十三尾	計九十尾
採卵用親魚數	雄 五十三尾 雌 三十尾	計八十三尾
採卵 數	四万四千五百粒	
雌魚一尾平均孕卵數	八百四十粒	

小田川其他附近田用水ニハ本年度九月中旬ヨリ漲上スルモノ例年ニ比シテ多ク極力採卵ニ努メシメ何レモ農家ノ自家用ニ供セラレテ親魚ヲ得ルニ難ク漸ク十月卅一日ノ降雨ニヨリ各小渠共出水多ク十一月二日姫鱒三十七尾ヲ漁獲シテ内雌魚十五尾雄九尾ヨリ二万粒ヲ得タリ

小田川採卵狀況

採卵月日	漁獲數		親魚數		採卵數
	雌	雄	雌	雄	
十月一日	三三	一一	一一	一一	一、五〇〇
十月五日	四一	二四	一三	一二	四、〇〇〇
十月八日	三四	一一	一六	一三	四、〇〇〇
十月九日	二二	一一	二八	一三	二、五〇〇
十月十一日	二二	一一	一三	一三	二、五〇〇
十月十二日	二二	一一	一三	一三	二、五〇〇
十月二十一日	六三	二二	一三	一三	一〇、〇〇〇
十月二十三日	二五	一一	一〇	一五	一〇、〇〇〇
十月二十九日	四二	一一	一〇	一五	一〇、〇〇〇
十一月三日	五三	二五	二二	一五	一〇、〇〇〇
十一月十六日	五七	二五	二二	一五	一〇、〇〇〇
十一月計	三三三	一一二	一一一	一一一	四、五〇〇
十月計	三三三	一一二	一一一	一一一	四、五〇〇
累計	三三三	一一二	一一一	一一一	四、五〇〇

孵化成績

卵化地

小猪苗代湖東岸

小猪苗代湖北岸

種類	採卵時日	採卵用親魚數	收容時日	發眼時日	發眼率	採卵ヨリ發眼迄ノ死卵數	發眼後孵化迄ノ死卵數	發眼後孵化迄ノ死卵率	孵化時日	採卵ヨリ孵化迄ノ死卵數	採卵ヨリ孵化迄ノ死卵率	孵化中ノ平均水温	孵化魚兒數
雌	自十一月五日	五十三尾	自十一月十六日	自十一月十六日	八七%三五	五千六百二十一粒	自十一月二十二日	八六%三三	四日	五千八百七十一粒	八六%三三	攝氏十度	三万八千六百廿二尾
雄	自十一月五日	三十三尾	自十一月十六日	自十一月十六日	八七%三五	五千六百二十一粒	自十一月二十二日	八六%三三	四日	五千八百七十一粒	八六%三三	攝氏十度	三万八千六百廿二尾
雌	自十一月二日	十五尾	自十一月四日	自十一月四日	九二%五	一千五百粒	自十一月七日	九一%八一	九日	一千六百三十七粒	九一%八一	十二度五分	一万八千三百六十三尾
雄	自十一月二日	九尾	自十一月四日	自十一月四日	九二%五	一千五百粒	自十一月七日	九一%八一	九日	一千六百三十七粒	九一%八一	十二度五分	一万八千三百六十三尾

姫鱒兒飼育成績

飼育ノ種類	採卵時日	孵化時日	孵化尾數	飼育中斃死數	飼育中平均水温	放流時數	飼育場面積	飼育日數	飼育中斃死數	飼育場面積	飼育日數	飼育中平均水温	備考
小澤川採卵姫鱒	自十一月五日	自十一月十六日	三萬八千六百二十二尾	八十六尾	五度六分二厘	四月十六日	川桁養殖試驗部孵化室內	自十一月一日	八十六尾	川桁養殖試驗部孵化室內	自十一月一日	五度六分二厘	本年度川桁孵化場ニ收容シタル猪苗代湖産姫鱒卵六萬四千五百粒ハ表示ノ如キ成績ヲ以テ魚兒一寸以上ニ成育シタルヲ以テ四月十六日午前六時半孵化場ヨリ擔桶ニ容レテ湖岸月輪村辨天濱ニ運ビ活魚船ニ移シテ靜カニ曳航シ小澤川河口附近ニ放養セリ放養尾數五萬六千八百六十四尾ナリ
小田川採卵姫鱒	自十一月二日	自十二月二十一日	一萬八千三百六十三尾	三十二尾	五度六分	四月十六日	孵化槽 一面	自十二月一日	三十二尾	孵化槽 一面	自十二月一日	五度六分	

(二) 虹鱒養成試驗

虹鱒原産地ハ米國カリフォルニア州ノ山間溪流ナルガ鱒族中ノ優良種ニシテ性強壯ニ肉美味ニ成長速カニヨク湖水ノ蕃殖ニ適スルヲ以テ御料局及水産局ニ於テ卵ヲ輸入シ現今各地ニ移植シテ好結果ヲ得タリ依テ猪苗代湖ニモコレガ増殖ヲ圖ランカタメ川桁養殖試驗部ニ親魚ヲ養成シテ卵ノ自給自足ノ途ヲ講スル目的ヲ以テ青森縣相坂孵化場ヨリ虹鱒卵子ノ分譲ヲ受ケテ飼育セリソノ概要左ノ如シ

採卵地	採卵時日	採卵用親魚數	發眼時日	發眼率	分讓時日	到着時日	孵化時日	孵化後死卵數	發送後ノ孵化率	孵化ヲ始メテヨリ終リシ迄ノ日數	採卵後ノ日數	孵化中ノ平均水温	孵化魚兒數
青森縣相坂	大正八年三月二七日	♀ 三 ♂ 二	大正八年四月十一日	不	大正八年四月十六日	同	自四月二十八日	五四八	九七、二六%	八日間	自三十三日間	十度	一九、四五二
青森縣相坂	大正八年四月二日	二〇	大正八年四月十七日	不	大正八年四月廿三日	同	自五月八日	五九〇	九四、六四%	八日間	自三十七日間	十度二分	一〇、四一〇
青森縣相坂	大正八年四月十三日	一〇	大正八年四月廿七日	不	大正八年五月八日	同	自五月十一日	二〇二	九七、六四%	八日間	自二十九日	十度四分	八、八九八
青森縣相坂	大正九年三月一日	七五	大正九年三月十六日	八九% 五弱	大正九年三月二十三日	同	自四月三日	四五五	九八、八六%	九日間	自三十四日間	六度三分	三九、九四五
計													計三八、七六〇

虹鱒兒飼育成績

飼育ノ種類	米	國	種	虹	鱒	米	國	種	虹	鱒
採卵時	大正八年三月廿七日	大正八年四月二日	大正八年四月十三日			大正九年三月一日				
孵化時	自四月二十八日	自五月一日	自五月十一日			大正九年四月三日				
孵化尾數	一九、四五二	一〇、四一〇	八、八九八			三九、五四五				
飼養吸了期	自五月十二日	自五月十五日	自五月二十七日							
投餌開始期	自五月十八日	自五月廿一日	自六月九日							
飼料種類	自六月五日	自六月五日	自六月九日							
飼育中斃死數	八十三日間	八十三日間	七十八日間							
飼育場	川桁養殖試驗部孵化室	川桁養殖試驗部孵化室	川桁養殖試驗部孵化室							
放流時	八月二十七日	八月二十七日	八月二十七日							
飼育中平均水温	十一度二分	十一度二分	十一度二分							

大正七年度青森縣相坂孵化場ヨリ分讓ヲ受ケタル四萬粒ノ内三萬三千五百粒ハ四歲親魚ヨリ採卵シタルモノニシテ殘餘ノ一萬六千五百粒ハ七歲親魚ヨリ採取シタルモノナリ、春暖ノ候ナリシガ運搬途中斃死シタルモノ三回ヲ通シテ計七百〇二粒即チ千分ノ十七ニ過キス、收容後モ經過良好ナリシガ七月下旬以降氣温ノ上昇スルニ從ヒテ水温モ消昇騰ノ傾向ヲ示シ斃死スルモノ相繼ギタレバ八月二十七日投餌ヲ中止シテ孵化場附屬九號池ニ移殖シ目下二年魚トシテ飼育中ニ屬ス、大正九年三月二十四日收容シタル四萬粒(内五才親魚卵二萬五千粒、八才親魚卵一萬五千粒)ハ運搬途中ニ於テ三百七十粒收容後百粒斃死シ他ハ極メテ健全ニシテ四月三日ヨリ孵化ヲ始メ同十一日孵化了セリ

(二) 鱒族漁獲試驗並漁場調査

前年度ニ引續キ猪苗代湖ニ於テ直接孵化放養ニ關係アル鱒族ノ蕃殖狀況調査ノタメ延繩及刺網ヲ以テ漁獲試驗ヲ行ヒタルガ魚ノ季節ニヨル棲息場及水温、食餌等ニ依ル移動ノ關係等ハ未ダ充分ニ之ヲ簡明ナラシムルコト能ハザリシモ本結果湖ノ東岸及東南岸ハ五月下旬ヨリ六月上旬ニ亘リテハ水深五尋ヨリ二十尋ニ至ル區域ニハ漁獲至ツテ薄ク長瀬川口沖合ノ湖棚ニ大型ノモノ稍多キヲ確メタリ、然レドモ本湖産ノモノハ體肥滿セズ胃中ヲ檢スルニ大型餌料少ク將來公魚、鮎、蝦、等天然大型餌料ノ増殖ヲ企劃スベキコトノ肝要ナルヲ首肯セシメタリ

漁業日誌

月日	調査場	投網時	揚網時	天候	風	氣温	表面水温	尋使用漁具	水深	種類	獲物
五月二十三日	町小屋前—大崎前	午前九時十分	午前九時十分	晴	北西和	三、四	七、一	延繩二	底	鮎	七尾 五〇〇
二十七日	大崎前	午後四時十分	午後四時十分	晴	北西和	二、〇	七、一	生糸網	底	ナシ	
二十三日	大崎前	午後四時十分	午後四時十分	曇	北西和	一、九	七、一	生糸網	底	ナシ	
二十七日	大崎前	午後四時十分	午後四時十分	曇	北西和	一、九	七、一	生糸網	底	ナシ	
二十三日	金比羅崎前	午後六時廿分	午後六時廿分	晴	北西和	一、八	七、一	延繩二	底	ナシ	
二十七日	金比羅崎前	午後六時廿分	午後六時廿分	曇	北西和	一、八	七、一	延繩二	底	ナシ	
二十七日	金比羅崎前	午後五時十分	午後五時十分	曇	北西疾	一、八	七、一	延繩二	底	ナシ	
二十七日	金比羅崎—加賀濱前	午前八時四十分	午前八時四十分	晴	北西疾	一、九	七、一	延繩三	底	鮎	八 八〇〇
二十九日	大崎	午前九時十分	午前九時十分	晴	北西疾	一、九	七、一	延繩三	底	鮎	八 八〇〇
二十九日	大崎	午後五時十分	午後五時十分	晴	北西疾	一、九	七、一	延繩三	底	鮎	八 八〇〇
二十七日	大崎	午後五時十分	午後五時十分	晴	北西疾	一、九	七、一	延繩三	底	鮎	八 八〇〇

二十九日		午後十二時	雨	北西疾 二、六、一〇、一	底	鮎	一、一〇〇
二十八日	壺下前	午前九時三十分	快晴	北和 一九、七、九、七	底	鮎	一、一〇〇
三十一日		午後五時十五分	驟雨	北東疾 一八、八、九、九	底	鮎	六、四〇〇
二十八日	辨天前	午前十時四十分	快晴	北和 一九、九、九、七	底	鮎	七、五〇〇
三十一日		午後四時三十分	曇	東靜 二〇、一、一〇、七	底	鮎	七、五〇〇
二十八日	前羽濱前	午前十一時三十分	快晴	北和 二〇、七、二〇、九	底	鮎	一〇、二〇〇
三十一日		午後三時四十分	曇	東靜 三、三、一〇、二	底	鮎	一〇、五〇〇
二十八日	古川前—三城潟	午後二時	雨	北東和 二、六、三、一	底	鮎	一〇、二〇〇
三十一日		午前十一時十五分	曇	東和 二〇、七、一〇、三	底	鮎	一五、四〇〇
六日	長瀬川口—烏帽子前	午前九時	晴	東疾 一八、二、二、二	底	鮎	一五、四〇〇
三日		午後一時三十分	曇	北東疾 一八、〇、二、九	底	鮎	一五、四〇〇
二日	三城潟前(烏帽子前)	午後一時十分	曇	東疾 一九、六、三、一	底	鮎	一五、四〇〇
三日		午前十時四十分	晴	北東疾 一七、三、一、〇	底	鮎	一五、四〇〇
二日	蟹澤前	午後二時三十分	雨	東疾 一八、九、三、六	底	鮎	一五、四〇〇
三日		午前九時二十分	曇	北和 一七、二、二、四	底	鮎	一五、四〇〇
計	就漁期間	自五月二十二日至六月五日					

出漁回数十二回  
延縄 八回  
漁獲數  
鮎 五一尾 一、一三三、〇〇  
姫鮎兒 一 一〇  
鮎 三六 二、四二〇  
(四) 公魚 移殖

大正七年度ニ繼承シテ茨城縣ノ好意ニ依リ霞ヶ浦志戸崎孵化場ヨリ大正九年二月二十二日ヨリ同二十七日ヨリ公魚卵約五  
 百万粒採卵ノ上分譲ヲ受ケ翌二十八日川桁孵化場天然九號池ニ飼育中三月二十五日全部發眼シタルヲ以テ四月二日孵化槽ヲ  
 蓮包トナシ早朝川桁發湖ノ北岸耶麻郡月輪村辨天濱入江ニ移シ四月十六日全部孵化了シ自然ニ放養シタルヲ概要左ノ如シ

一、親魚産地 茨城縣霞ヶ浦  
 一、採卵時日 大正九年二月二十二日ヨリ同二十七日  
 一、親魚ノ大イサ 平均體長三二寸  
 一、採卵數 約五百万粒  
 一、荷造時日 二月二十八日 自午前八時 至午後一時  
 一、川桁着時日 二月二十九日 午前五時三十分  
 一、放置時間 二時間(船車連絡上ノ都合)  
 一、移殖地 福島縣猪苗代湖

一、親魚漁獲方法 公魚張網  
 一、着卵枚數 雄 一、八三〇尾  
 雌 一、八六八尾  
 一、發送時日 二月二十八日 午後二時  
 一、汽船運搬時間 二時間  
 一、汽車運搬時間 十二時間  
 一、孵化槽數 四個

移殖公魚卵孵化發生成績

茨城縣志戸崎孵化場ニ於テ採卵シタル公魚卵約五百万粒ハ二月二十八日志戸崎ヨリ土浦迄ハ汽船便ニテ土浦ヨリ川桁迄ハ鐵  
 道便ヲ以テ輸送シ翌二十九日午前八時三十分川桁養殖試驗部ニ到着即刻九號池ニ収容セリ  
 到着時ノ天候少雪、氣温一度五分池水温四度運搬箱内温度二度依ツテ數回池水ヲ注ギ兩者ノ温度ヲ調節シタル後孵化槽一個  
 ニ對シ着卵枚三十枚宛ヲ挿入シテ池中ニ繋留セリ運搬途中ノ死卵極メテ少ク着卵一枚ニ對シ平均四十粒(但採卵時ニ於ケ

ル死卵ヲモ含ム一ヲ檢シタルニ過ギズ解育中ニ於テハ三月十五日迄日々多少ノ斃死卵ヲ見タルモ以後ハ少ク同月二十五日ニ至リ肉眼ヲ以テ發眼セルヲ認メタリ

發眼率ヲ檢スルニ着梓卵枠中普通棕栞枠一寸平方中總卵數三百八十粒ノ中五十五粒(運搬途中斃死卵三十粒)他ノ三百二十五粒ハ健全ニ發眼セリ而シテ採卵ヨリ發眼ニ至ル日數三十日乃至三十三日間ヲ要シタリ、採卵ヨリ發眼ニ至ル氣温及水温ノ平均ハ四度二分、五度一分ナリ

四月三日午前六時着卵枠ヲ解化槽ニ挿入シタルマ、水ヲ含メル水苔ヲ填充シ之ヲ蓮包トシテ人夫四人背負ヒテ湖ノ北岸月輪村辨天濱入江ニ移シタリ運搬中死卵ナク四月九日解化ヲ始メ同十六日全ク解化了リ自然ニ湖中ニ浮出セリ、採卵ヨリ解化ニ至ル迄五十日乃至五十五日ヲ要シタリ

湖水移殖後解化ニ至ル 平均氣温 十二度九分  
平均水温 九度四分 ナリ

猪苗代湖ニ公魚卵ヲ移殖シタルハ大正七年二月ニシテ爾後毎年相當卵數ヲ移殖シタルモ本縣現行漁業取締規則ニテハ猪苗代湖ニ於テ網目ヲ一寸四分五厘(五寸間ニ八節以上)ニ制限セラル、公魚ノ漁獲ニ適スル漁具ナク從ツテ解化游出後ノ蕃殖狀態詳ナラズサレド大正八年六月湖ノ北岸天神濱ニ於テ體長三寸五分ノモノ五尾同七月湖ノ南岸鬼沼ニテ體長四寸ノモノ五十七尾ヲ捕ヘタル所ヨリ見レバ相當蕃殖ヲナセルモノナルベク大正九年度ニ於テハ公魚張網ニヨリ漁獲試驗ヲナサントス

(五) 小鮎移殖豫備試驗

小鮎ハ琵琶湖ノ特産ニシテ鮎ノ小型ノモノナリ、身長三寸餘小沼ノ蕃殖ニ適ス從來猪苗代湖ニハ鱒族ノ大型餌料比較的豊富ナラズ之カ補足填充ト且ツハ小型有用魚種ノ蕃殖ヲ來サシムトシテ曩ニ公魚ヲ移シ今亦琵琶湖ヨリ小鮎卵約八十萬粒ヲ移殖シテコレヲ猪苗代湖ノ北岸小田川ニ繫留シ發眼率七十三%ハノ成績ヲ得タリ

- 一、親魚產地 佐賀縣琵琶場
- 一、採卵時日 大正八年九月二十四日
- 一、河水温 攝氏二十度及二十一度
- 一、採卵法 鳥羽上ニ於テ乾導交接法ニ依ル
- 一、荷造 九月二十四日午後七時
- 一、發眼率 約八十萬粒(棕栞皮枠六十枚)
- 一、採卵數 約八十萬粒(棕栞皮枠六十枚)
- 一、九月二十五日南濱ヨリ長濱迄汽船便 午前六時發 同六時卅分長濱着

午前八時十五分長濱發北陸線ニ依リ客車便貴重品取扱トシテ發送

一、到着時日 九月二十六日午前七時三十分到着

一、解化槽繫留池 川桁養殖試驗部九號池

一、放養地川桁解化場ヲ去ル西方八丁ノ小田川ト稱スル清澄ナル小谿ニシテ下流約六丁ニシテ猪苗代湖辨天濱入江ニ注グ

一、運搬箱内温度 二十度五分

一、發眼時日 十月三日ヨリ肉眼ニテ發眼セルヲ認ム

一、解化時日 十月七日ヨリ一、二尾ノ解化ヲ始メ同九日ニハ大多數解化シ十二日全部終了セリ

移殖小鮎卵解化發生成績

九月廿四日採卵同月二十五日長濱發送シタル琵琶湖産小鮎卵八十萬粒ハ同二十七日川桁養殖試驗部ニ到着直チニ附屬九號地ニ収容セリ、棕栞枠六十枚ノ中二枚ハ解化場ニ収容ス

運搬途中ニ於ケル箱内温度二十度五分ニシテ九號池水温二十度ナレバ數回沖水ノ後棕栞枠ハ解化槽ニ挿入シテ解育セリ到着時ニ於ケル卵ハ稍死卵多ク殊ニ外箱ノ中央部ニアリシ十枚ハ約五割ノ斃死卵ヲ認メ他ハ一割五分乃至一割七八分ニ止マリシガ收容後ハ幸ニ斃死スルモノ少ク十月三日ニ至リ肉眼ニテ發眼セルヲ認メタリ

採卵ヨリ發眼ニ至ル日數 十日間  
採卵ヨリ發眼ニ至ル平均水温 攝氏二十度

十月四日發眼率ヲ檢セシニ棕栞皮枠ノ着卵中一寸平方中總卵數百二十六粒中死卵三十三粒他ノ九十三粒ハ何レモ健全ニ發眼シ卵膜内ニテ發達セリ、發眼率七三、八%十月五日發眼ヲ終了シタルヲ以テ解化槽ヲ莖ニ包ミ解化場ヲ去ル西方八丁ノ小田川ト稱スル渠中ニ繫留セリ

十月七日ヨリ一二尾解化ヲ始メ九日ニハ約六割卵出シ十二日全ク解化了レリ解出後ハ小田川下リ猪苗代湖ニ生育中ナラムモ其後ノ狀況詳カナラズ

發眼ヨリ解化ニ至ル日數 九日間  
發眼ヨリ解化ニ至ル平均水温 十九度

一、養鱒經濟依托試驗

本縣大沼郡沼澤沼ノ養鱒經營ハ大正二年以來本場指導ノ下ニ部落民共同施設ニヨリ繼續シ來レルガ沼ノ四邊ハ懸崖ニレテ蜜林多ク昆虫其他虫、獸、小鯉等ノ天然餌料豊富ナレバ蕃殖ノ極メテ良好ニシテソノ増殖率ノ如キ逐年甚ダ顯著ナルモノアツ



（大正七年度本場事業報告参照）シカ大正八年度ニ至リ琵琶湖ヲ除ク他ノ養鱈湖沼ト等シク春夏ノ刺網其他ニヨリテ例年ノ如ク漁獲アリシガ秋季産卵ノ時季ニ至リ姫鱈ノ湖上スルモノ殆ント皆無ニシテ僅カニ北海道西別移殖鱈ノ浜上スルモノアリシモ天然ノ産卵ニ任セ僅カニ左記ノ通り春季虹鱈ヲ採卵セルニ過ギズ之カ原因ニ就キテ研究中ナリ

漁獲及採卵状況

月	日	雌	雄	累計	親魚	採卵
大正八年四月三日		虹鱈	四			
四	日	二	三	九		
五	日	一	四	一〇		
六	日	二	三	一二		
七	日	一	二	一三		
八	日	一	一	一四		
九	日	三	一	一七		
十	日	一	一	一八		
十一	日	一	一	一九		
十二	日	一	一	二〇		
一	日	二	一	二二		
二	日	一	一	二三		
三	日	一	一	二四		
四	日	一	一	二五		
五	日	一	一	二六		
六	日	一	一	二七		
七	日	一	一	二八		
八	日	一	一	二九		
九	日	一	一	三〇		
十	日	一	一	三一		
十一	日	一	一	三二		
十二	日	一	一	三三		
計		二	三	五		

三、浅海利用

日	種	類	數量	供給地	採集時日	移殖時日
二月十四日	北	寄	八〇〇個	相馬郡原	一月十六日	一月十九日
二月十六日	北	寄	一、二〇〇	相馬郡原	一月十八日	一月二十二日
二月十八日	北	寄	一、二五〇	相馬郡原	一月二十日	一月二十四日
二月二十日	北	寄	一、二五〇	相馬郡原	一月二十二日	一月二十五日
二月二十二日	北	寄	一、二五〇	相馬郡原	一月二十四日	一月二十七日
二月二十四日	北	寄	一、二五〇	相馬郡原	一月二十六日	一月二十九日
二月二十六日	北	寄	一、二五〇	相馬郡原	一月二十八日	一月三十一日
二月二十八日	北	寄	一、二五〇	相馬郡原	一月三十日	二月二日
二月三十日	北	寄	一、二五〇	相馬郡原	二月一日	二月四日
計			一、七〇〇			

前年度來ノ繼續事業ニシテ本縣沿岸砂泥ノ淺海並ニ海ニ通スル内灣浦江等ニ親貝ヲ移殖シ各組合ト協議ノ上放養地區ニ於ケル採捕ヲ禁止シ只管親貝ノ養成ニ努メ之ニヨリテ種苗ヲ豊富ナラシメ組合地先ノ生産ヲ安全有利ナラシメトス。本年度ニ於ケル北寄貝四千二百二十個ハ原釜ヨリ給十石ハ劔濱ヨリ撰擇購入シ前年ノ例ニ倣ヒ（大正七年度事業報告参照）コレヲ各移殖地ニ送リテ放養セルガ概要左ノ如シ

移殖場所	種類	數量	供給地	採集時日	移殖時日
石城郡中田浦	北寄	八〇〇個	相馬郡原	一月十六日	一月十九日
小名濱	北寄	一、二〇〇	相馬郡原	一月十八日	一月二十二日
江名濱	北寄	一、二五〇	相馬郡原	一月二十日	一月二十四日
沼ノ内	北寄	一、二五〇	相馬郡原	一月二十二日	一月二十五日
四ノ倉	北寄	一、二五〇	相馬郡原	一月二十四日	一月二十七日
相馬郡磯部	北寄	一、二五〇	相馬郡原	一月二十六日	一月二十九日
須賀	北寄	一、二五〇	相馬郡原	一月二十八日	一月三十一日
原釜	北寄	一、二五〇	相馬郡原	二月一日	二月四日

### 四、松川浦養蠶試驗

(イ) 趣 旨

本試驗ハ前年度ノ繼續事業ニシテ從來松川浦ニ於テ行ハレタル養蠶ノ方法ハ極メテ幼稚ニシテ松丸太ヲ附屬材料ニ使用シ附  
着シタル稚貝ノ重着スルヲ顧ミズ其儘二三年間自然ニ放置シテ其間管ニ一回ノ手入レヲモ加フルコトナク極メテ非生産的ノ  
方法ナリシヲ以テ介殼ハ徒ラニ歪形トナリ身入惡シク市賣品トシテハ至ツテ劣等品ヲ作り出スニ過ギザリシヲ以テ本場ハ之  
カ改良ヲ計ランカタメ在來ノ松丸太養蠶ノ生産高、收支經濟ト佛國式養蠶法ノ夫レトヲ比較シ生産的ナル改良養蠶法ヲ浦畔  
民ニ示シ養蠶ニ對スル經濟思想ヲ普及セシムルト同時ニ漸時該浦養蠶業ノ進歩發展ヲ促サムトス

(ロ) 方 法

前年度計劃通り、浦内地島及十二本松ノ間追川地内一反歩ヲ區劃シ稚介附着臺六十臺ヲ建設シ之ニ隣接シタル他ノ一反歩ニ  
ハ松丸太五千本ヲ挿入シ各収支經濟ヲ比較試驗スル豫定ナリシガ種々都合上充分ナル結果ヲ得ラレズ本年度ニ於テ試驗施行  
シタル事項左ノ如シ

前年度ノ稚介ヲ剝離シ身入場ニ移育スルト同時ニ瓦ニ石灰乳ヲ塗布シ約一週間乾燥シタル後浦中ニ沈設シ之ニ附着シタル稚  
介ヲ剝離シテ稚介飼育箱ニ収容ス其附着數甚タ饒多ナリ、松丸太モ其附着成績良好ナリト雖モ三分ノ二ハ砂泥ニ埋没セラレ  
タルヲ以テ完全ニ附着數ヲ調査シ得ラレズ附着材料沈設ノ期日ハ畧前年度ニ等シク七月十二日終了ス、松丸太ハ前年度ニ於  
テ挿入シタルマ、放置ス、越エテ大正九年六月十日稚介ヲ剝離シ離レ崎ヲ去ル西方二十間ノ個所更ニ西方三十間ノ個所ニ五  
個ノ稚介飼育箱ヲ沈設シ全部ノ稚介三石六斗ヲ收容ス使用材料及ビ手間左ノ如シ、人夫ハ該浦岸松川村(約三十戸)ノ住民ヲ  
シテ交代ニ其任ニ當ラシメタリ

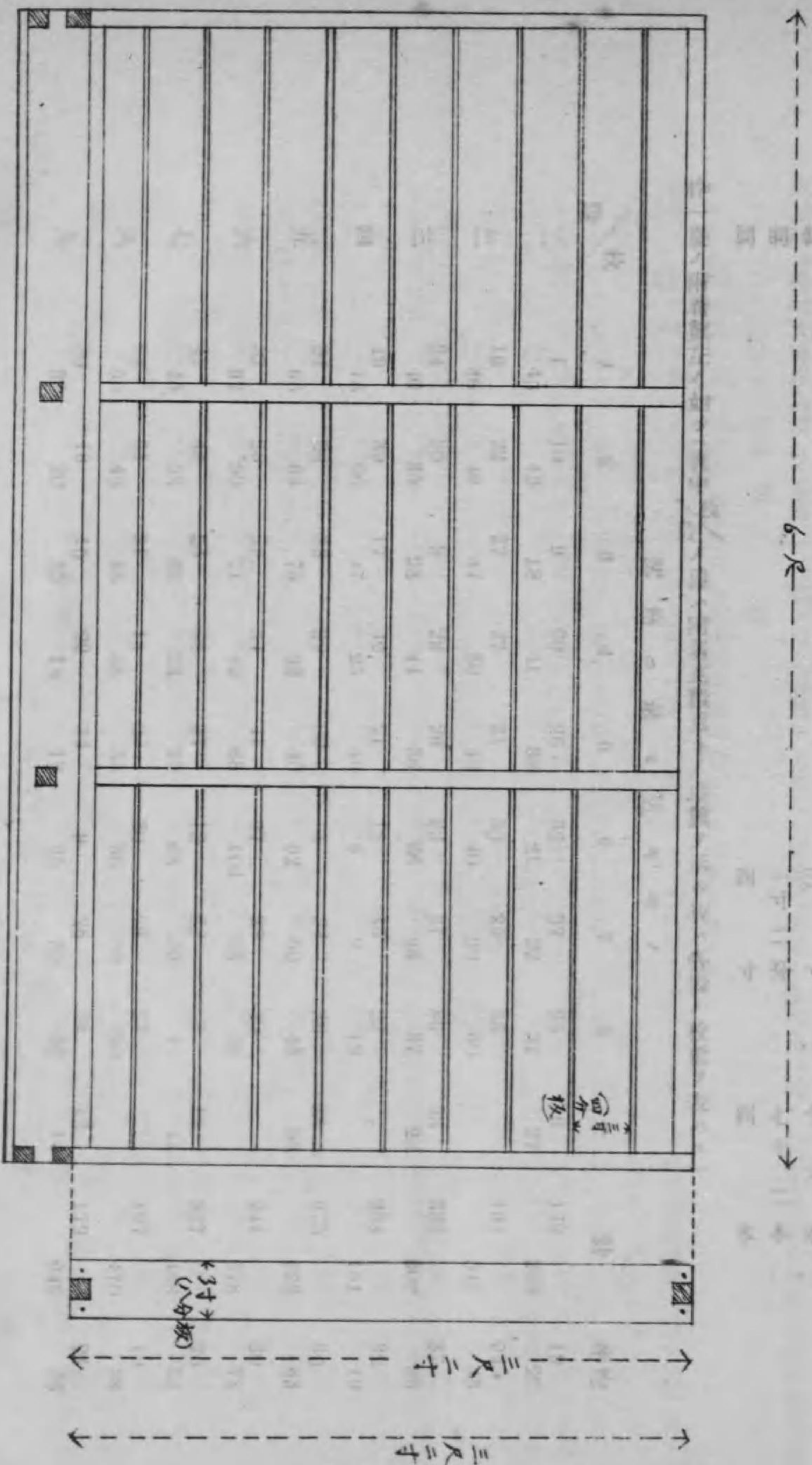
稚貝飼育箱 十個 船 四盃 人夫 三十五人

稚貝剝離及瓦掃除ノ能率ハ極メテ少ク平均一人一時間ニ約十枚ニシテ武州金澤灣等ニ比スレバ其三分ノ一ニ過ギズ之レ住民  
ノ改良養育ノ作業ニ不慣ノ結果ニシテ殊ニ人夫ハ老幼婦女子ヲ撰バレザルカ爲メ能率ノ低減ハ免レサルトコロナリ

稚貝飼育箱一個ノ用材左ノ如シ

種 類	材 質	寸 法	厚 分	長 尺	員 數
稚貝飼育箱	十個	三 寸	八 分	六 尺	二 員
船	四盃				
人夫	三十五人				

(稚貝飼育箱平面圖)





段	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	平均
一	3	0	2	1	5	3	4	1	0	19	2
二	10	25	10	30	20	21	27	20	17	180	18
三	15	11	24	20	12	23	17	25	43	147	18
四	22	57	34	9	20	21	41	43	28	267	33
五	30	40	46	37	31	38	43	50	52	343	39
六	25	39	60	57	47	20	28	32	32	360	38
七	25	32	57	40	20	26	35	50	33	290	36
八	37	40	34	30	37	70	65	33	36	346	41
九	27	18	16	25	14	20	25	30	36	211	22
十	125	85	76	46	78	40	74	81	63	668	74
十一	10	21	34	24	27	30	24	22	22	182	24
十二	89	101	70	63	61	75	89	70	81	618	77
十三	32	21	30	24	19	17	23	15	14	198	23
十四	70	63	91	73	70	65	35	95	19	551	73
十五	24	22	30	25	17	12	27	15	17	172	20
十六	40	34	20	21	19	40	22	27	20	223	28
十七	12	22	15	21	10	21	25	25	42	194	22
十八	30	15	21	16	20	18	63	29	20	254	20

備考 概シテ表中ニ見ル如ク添筋ニ近ク潮汐干満ノ影響甚タシク肥料分多キ所ノモノハ稚貝ノ附着數多ク且ツ又一臺ノ中ニテモ上下兩段ヨリモ中段最モ其數多ク稚貝成長度モ亦同様ノ現象ヲ示シタリ

(一) 結果

本試験ハ佛國式養蠟及松丸太養蠟一反歩ノ收支經濟ヲ比較スル目的ナリシガ本年度ニ於テハ翌大正九年度猪苗代湖養魚經營擴張ノ爲メ當事者ノ多忙ナリシト同浦ノ甚ダ遠隔ノ地ニシテ万事不都合ナリシトヲ以テ意ノ如クナラザリシヲ恨トス尙來年度ニ於テハ專任者ヲ増シ更ラニ養蠟監視人ヲ設ケテ盜難ノ恐レナカラシメ充分ナル試験ノ結果ヲ表ハナムトス

五、鮭聯絡調査

河川調査

本調査ハ農商務水産局ノ發意ニ依リ鮭ノ産スル各縣ニ於テ爲ス聯絡的調査ニシテ前年度ニ繼續シテ相馬郡新田川、石城郡鮫川ノ二河川ヲ撰ビ左記各項ニヨリテ調査セシメタルモ鮫川ノ分ハ鮭蕃殖組合ノ都合上缺測ヲ重ネテ充分ナル調査ノ結果ヲ得ナリシハ甚ダ遺憾トス、新田川ニ於ケル本年度ノ狀況ヲ示セバ左ノ如シ

月 日	水 温		水 位	
	觀測點ニ於ケル水温	河口ニ於ケル水温	觀測點ニ於ケル水位	河口ニ於ケル水位
九月五日	二五°五	二五°〇	平水深一尺	潮汐干満ノ影響ニヨリ量ルヲ得ズ
九月十五日	二四°四	二四°〇	一七五尺	
九月二十五日	二三°〇	二三°〇	一二尺	
十月五日	二〇°〇	二〇°〇	平	
十月十五日	一五°〇	一五°〇	平	
十月二十五日	一六°〇	一六°〇	〇・八尺	
十一月五日	一四°〇	一四°〇	一二尺	
十一月十五日	一三°〇	一三°〇	平	
十二月五日	一三°〇	一三°〇	平	
十二月十五日	九°〇	九°五	水	
十二月二十五日	七°四	八°〇	〇・八尺	
一月五日	五°〇	六°〇	一二尺	
一月十五日	五°〇	六°〇	〇・九尺	
一月二十五日	七°〇	七°〇	〇・八尺	

(五) 漁期及漁況

二月五日	七〇	六〇	〇・八五尺
二月十五日	八〇	七〇	平
二月二十五日	七〇	六〇	〇・九尺
三月五日	一〇〇	一〇〇	〇・八五尺
三月十五日	八五	八五	一・二尺

河川ニ於ケル漁獲數

平	六千四百二十二尾	九千六百拾參圓拾貳錢
七	一尾平均八百五十九尾	五千七百七拾參圓貳拾錢
八	四千五百三十六尾	一尾平均一貫百三十五匁

河川ノ漁獲時期日

初	自九月中旬至十月中旬約七百六十一尾
盛	自十月中旬至十二月初約三千七百二十六尾
終	十二月約四十九尾

(六) 沿海調査

新田川ノ沿海ニ於ケル鮭漁獲ノ狀況

漁獲場所	漁具	漁獲尾數	投網月日	終漁月日
相馬郡眞野村大字島崎濱	魚網	二、五〇〇	九月十五日	十一月三十日
相馬郡磯部村大字磯部濱	魚網	一、五〇〇	九月二十五日	十一月三十日
相馬郡原ノ町大字下流佐濱	地曳網	五〇〇	九月十日	十二月二十日
相馬郡大壺村大字萱濱	地曳網	二〇〇	九月二十日	十一月三十日
相馬郡大壺村大字宇濱	魚網	八〇〇	九月三十日	十一月三十日
相馬郡松ヶ江村大字原釜濱	魚網	不明	同	同
相馬郡八澤村大字海老濱	魚網	一、〇〇〇	九月二十五日	十一月三十日

(七) 鮭魚ノ形態調査

- 一、平均體長 雌 二尺四寸 雄 二尺四寸
- 一、雌雄ノ割合 雌 三 雄 一
- 一、人工孵化放流數 五十四萬四千二百八十五尾
- 一、平均體重 雌 一貫二十匁 雄 一貫二百五十匁
- 一、生殖素熟否割合、體色、年齡等不明ニツキ畧ス

(八) 稚魚保護ノ狀況

毎年三月二十五日ヨリ四月三十日迄毎日二名ノ監視人ヲシテ河口ヨリ原町大字南新田附近迄巡回セシメ 害敵鳥類ハ空砲ヲ以テ威嚇シ稚魚ノ保護ニ勉ム

(九) 天然産卵場調査

- 一、河口ヨリ上流迄ノ里程約三十町
- 一、産卵床面積四ヶ所約一万五千坪
- 一、産卵床面積四ヶ所約一万五千坪

(十) 河川湖沼魚類放流事業調査

河川湖沼魚類放流事業ニ關シテハ前年度來新田川、鮫川ノ二河川ヲ撰ビテ聯絡調査中ナルモ本年度ヨリハ新ニ左記要項ニ就キ 新田川、鮫川、泉田川、夏井川ノ四河川ノ調査ヲ開始シタリ

新田川鮭人工孵化場

相馬郡原町上流佐字前屋敷百八十四番地

新田川鮭蕃殖組合

大正八年十月十九日

大正八年十二月五日

新田川

親魚捕獲場所 四千五百三十六尾

總漁獲尾數 雌三百六十七尾 雄百二十三尾

採卵用親魚尾數

採卵用親魚体長  
 雌 最大二尺六寸 最小二尺 十尾平均二尺一寸  
 雄 最大三尺 最小二尺二寸 十尾平均二尺四寸

採卵用親魚体重  
 雌 最大一貫五百二十匁 最小七百五十匁 十尾平均一貫二十匁  
 雄 最大一貫九百五十匁 最小八百匁 十尾平均一貫百五十匁

死卵粒數 三万四千三百六十六粒

死魚尾數 千八百尾

放流尾數 五万四千二百八十五尾

放流日 大正九年三月二十一日

放流場所 新田川

備考 孵育中平均水温氣温並ニ天候ヲ示セバ次表ノ如シ

漁況ハ例年ニ比シ極メテ良好ナリ

月	平均氣温		平均水温		天候	
	外	内	水	河	晴	曇
十月	一七度	一六、二	一四	一四	五	七
十一月	一三、五	一三、三	一三	一三	二	七
十二月	七、一	六、三	九、二	九、二	二	七
一月	六、八	六	五、七	六、三	二	四
二月	四、一	三、七	一	一	二	四
三月	八、四	八、三	一	一	二	四

事業經費

一金五千五百八拾九圓八拾壹錢

事務所費	豫算高	精算高	差引増減
外氣室	一〇、八、四〇	一、三、八、七〇	九、四、五三〇
育水	一、〇、五、五〇	七、一、五〇	三、四、〇〇
河	一、〇〇〇	一、〇〇〇	〇
水	一、〇〇〇	一、〇〇〇	〇
晴	一、〇〇〇	一、〇〇〇	〇
曇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	〇
雨	一、〇〇〇	一、〇〇〇	〇
雪	一、〇〇〇	一、〇〇〇	〇
候	一、〇〇〇	一、〇〇〇	〇

會計	費	金額	合計
會費	八四、五〇	七、一、五〇	九一、六〇
事費	一、〇、五、五〇	七、一、五〇	一、〇、五、五〇
救濟費	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
積立金	一、八、〇〇〇	一、三、〇、〇〇〇	一、三、〇、〇〇〇
配當金	三、五、八、一〇〇	三、〇、三、〇〇〇	三、〇、三、〇〇〇
豫備費	三〇、〇〇〇	五、一、六、九〇	五、一、六、九〇
臨時費	五、九、五、四〇	四七、二、八九〇	四七、二、八九〇
合計	五、九、五、四〇	五、五、八、八〇	五、五、八、八〇

鮫川調査

孵化場名稱 鮫川鮭蕃殖組合人工孵化場  
 孵化場所在地 石城郡山田村大字小山田字瀧川  
 事業經營者又ハ擔當者氏名 鮫川鮭蕃殖組合  
 採卵着手月日 大正八年十月十日  
 採卵終了月日 大正八年十一月三十日  
 親魚捕獲場所 石城郡鮫川村大字植田字御堂  
 總漁獲尾數 千三百七十二尾  
 採卵用親魚尾數 雌二百四十三尾 雄八十一尾  
 採卵用親魚体長 雌 最小二尺一寸 最大二尺六寸 十尾平均二尺二寸五分  
 雄 最小二尺 最大二尺四寸 十尾平均二尺一寸  
 採卵用親魚体重 雌 最小一貫百匁 最大一貫八百匁 十尾平均一貫三百五十匁  
 雄 最小八百五十匁 最大一貫三百匁 十尾平均一貫五十匁  
 死卵粒數 十萬七千六百粒

死魚尾數 二萬四千三百尾  
 放流尾數 四十六萬三千三百尾  
 放流月日 大正九年四月九日  
 放流場所 石城郡山田村大字小山田字東作澁川  
 備考 野育中平均氣温、水溫、並ニ天候ヲ示セバ次表ノ如シ

月	外氣		室氣		育水		河水		天候	風
	平均	均	平均	均	平均	均	平均	均		
十月	一九.三	二一.七	一七.三	一七.三	一八.五	一八.五	一九.九	一九.九	晴	和
十一月	二二.八	二二.七	二二.七	二二.七	二二.八	二二.八	二二.八	二二.八	曇	和
十二月	一〇.七	九.三	九.三	九.三	一〇.一	一〇.一	一〇.一	一〇.一	雨	和
一月	一〇.五	八.一	八.一	八.一	八.三	八.三	八.三	八.三	雨	和
二月	八.一	六.七	六.七	六.七	六.七	六.七	六.七	六.七	雨	和
三月	二二.四	二二.四	二二.四	二二.四	二二.四	二二.四	二二.四	二二.四	晴	和
四月	一三.七	一三.七	一三.七	一三.七	一三.七	一三.七	一三.七	一三.七	晴	和

漁況ハ例年ニ比シ不漁ナリ

一金千四百拾圓貳拾錢

科目	費目	金額
事務	事務所費	三八〇.〇〇〇
會議	會議費	八五.八〇〇
事業	事業費	四一九.〇〇〇
株金	株金返	三三三.〇〇〇
豫備	豫備費	一〇〇.〇〇〇
計		一,四〇〇.〇〇〇

附記  
 諸員報給備品消耗品費等ヲ含ム  
 書記給印刷費等ヲ含ム

泉田川調査

孵化場名稱 泉田川鮭人工孵化場  
 孵化場所在地 双葉郡幾世橋村大字北幾世橋字羽場下  
 事業經營者又ハ擔當者氏名 紺野芳綱  
 採卵着手月日 大正八年十月二十九日  
 採卵終了月日 大正八年十一月二十八日  
 親魚捕獲場所 双葉郡幾世橋村大字幾世橋北幾世橋字廣内ノ二ヶ所  
 總漁獲尾數 千二百九十二尾  
 採卵用親魚尾數 雌九百七十尾 雄三百二十三尾  
 採卵用親魚體長  
 雌 最小一尺六寸 最大二尺三寸 十尾平均一尺六寸  
 雄 最小一尺五寸 最大二尺六寸 十尾平均一尺七寸  
 採卵用親魚體重  
 雌 最小六百匁 最大二貫四百匁 十尾平均一貫匁  
 雄 最小六百三十匁 最大一貫五百匁 十尾平均九百匁  
 死卵粒數 二千五百九十三粒  
 死魚尾數 九百七十六尾  
 放流尾數 三十二萬二千八百三十一尾  
 放流月日 大正九年三月十六日、十七日、十八日、十九日、二十日迄五日間  
 放流場所 親魚捕獲場所ニ同シ  
 備考 野育中ノ平均氣温水溫並ニ天候等ヲ示セバ次表ノ如シ

月	外氣		室氣		育水		河水		天候	風
	平均	均	平均	均	平均	均	平均	均		
十月	一八	一七	一三.九	一三.九	二一.八	二一.八	二一.八	二一.八	晴	弱
十一月	二六.九	二六.八	二六.八	二六.八	二六.八	二六.八	二六.八	二六.八	曇	弱
十二月	二二.五	二二.六	二二.六	二二.六	二二.六	二二.六	二二.六	二二.六	雨	弱

一月	二六	一〇二	九七	二四	一
二月	七二	七七	九八	一八	稍強
三月	一〇一	九五	一〇一	二六	和
計				二二	

一金貳千貳百參拾六圓五拾八錢五厘

內 譯

事務所費	六天、四九	會議	二〇〇〇
孵化事業費	一、〇〇〇、三四	其他費	四〇天、七二
計			二、三六、九五

夏井川調查

孵化場名稱 夏井川鮭蕃殖組人工孵化場  
 孵化場所在地 石城郡下小川村大字關場  
 事業經營又ハ擔當者氏名 佐藤庄太郎  
 探卵着手月日 大正八年十月二十日  
 探卵終了月日 大正八年十一月七日  
 親魚捕獲場所 石城郡下小川村大字關場  
 總漁獲尾數 二百二十五尾  
 採卵用親魚尾數 雌五十六尾 雄二十尾

採卵親魚體長	雌 最大二尺五寸 最小一尺六寸 十尾平均二尺一寸
	雄 最大二尺八寸五分 最小一尺五寸 十尾平均二尺三寸
採卵用親魚體重	雌 最大一貫四百匁 最小五百三十匁 十尾平均八百六十匁
	雄 最大二貫百匁 最小六百匁 十尾平均九百匁
死卵粒數	二千五百五十粒

死魚尾數 二千七尾  
 放流尾數 二十一萬六千二百四十三尾  
 放流月日 大正九年三月二十五日、同月三十日  
 放流場所 石城郡下小川村關場  
 備考 稚魚飼育中ノ氣象極メテ順調ナリシモ缺測ヲ重ネテ綜合的報告スルヲ得ズ、漁況ハ極メテ不漁ニ終レリ

事業經費

一金千五拾四圓五拾壹錢五厘	內 譯	雜費	四三、六四〇	計	一、〇〇〇、五一一
			三八四、〇九		三三六、五五

講習講話及指導設計

一、漁業見習生養成

第三回漁業見習生ハ大正七年度ニ於テ卒業セシヲ以テ本年度ハ新ニ第四回見習生五名ヲ募集セシモ半途退學者アリシ爲メ現在左ノ二名ヲ養成シツ、アリ

石城郡四倉町字新町百二十六番地 鈴木 久太郎 雙葉郡久ノ濱町大字久ノ濱字南荒蒔三十三番地 大須賀 勝利

明治三十七年二月四日生

明治三十七年三月二十六日生

二、鯉節製造傳習

前年度ノ如ク製造試驗ノ傍ヲ當業者ノ子弟ヲ募リ七月十一日ヨリ九月二十八日迄八十日間ニ亘リ鯉節製造ニ關スル學理及技術ノ傳習ヲナシ出席生徒十四名中成績考査ノ上左記十三名ニ對シ修得證書ヲ交付セリ



石城郡小名濱町	白岩末子吉	堀江喜一
同	佐藤清助	佐川繁太郎
同	高橋忠治	吉田豐吉
同	小野詮季	沼田清太郎
同	小野榮吉	坂本昇
同	松澤鐵之助	鈴木基治
同	小野輝壽	以上十三名

三、水産教育

前年度ノ如ク左記學校ニ對シ水産學ノ一班ヲ教授セリ  
 石城郡小名濱町實業補習學校  
 同 江名實業補習學校  
 同 四倉尋常高等小學校高等科  
 同 小名濱尋常高等小學校高等科  
 同 江名尋常高等小學校高等科  
 同 双葉郡久ノ濱尋常高等小學校高等科

四、指導設計

隨時場員ヲ派遣シ漁撈製造養殖ニ關シ指導設計ヲナシタリ

◎海洋觀測

一、北海道、東北六縣、及茨城縣聯絡海洋觀測

第五回聯絡海洋觀測協議會ハ岩手縣水産試驗場主催ノ下ニ大正八年七月一日ヨリ同月三日迄三日間同地ニ於テ開催シ聯絡各通縣水産試驗場長及主任者並ニ各測候所長三十二名出席シ從來ノ聯絡事項中ノ不備ナル點ヲ改メ其ノ他一般ニ亘リ協議セリ協議決定事項左ノ如シ

(イ) 觀測點

一、觀測點 鹽屋崎正東距岸五、十、二十、三十、四十、五十、六十、七十、八十、九十、百哩ノ各點計十一ヶ所  
 二、觀測水層 表面、半層、五層、十層、二十五層、五十層、百層、百五十層、計七ヶ水層

(ロ) 聯絡觀測事項及方法

本年八月以降ハ左記第五回協議會ニ依リ決定シタル觀測事項並ニ方法ニ依リ施行セリ

(一) 聯絡地名

北海道水産試驗場並ニ測候所	青森縣水産試驗場並ニ測候所
秋田縣同	山形縣同
岩手縣同	宮城縣同
福島縣同	茨城縣同

(二) 橫斷觀測

地名	觀測點	觀測日期
北海道	釧路ヨリ正南百二十哩ノ點ヲ經テ鮫ニ至ル間	七月十日上旬各三十哩毎
同	襟裳崎ヨリ正南五十哩ノ點ヲ經テ矢岬ニ至ル間	九月十一日
同	納砂布崎ヨリ正南五十哩ノ點ヲ經テ釧路ニ至ル間	八月初旬一回
青森縣	鮫角正東當分ノ間距岸五哩ヨリ六十哩	各月初旬一回
秋田縣	土崎正西距岸三哩ヨリ五十哩	同上
山形縣	加茂距岸五哩ヨリ三十哩	同上
岩手縣	閉伊崎月山正東距岸二哩半ヨリ百哩	同上
宮城縣	金華山燈臺正東燈臺面ヨリ百哩	同上
福島縣	鹽屋崎燈臺正東距岸五哩ヨリ百哩	同上
茨城縣	茨城水産試驗場新造ニツキ施行ノ如何ハ直接報告ノ答	同上

右觀測ノ海區ニテハ次ノ八ヶ水層ノ水溫及比重ヲ觀測スルモノトス  
 表面、半層、五層、十層、二十五層、五十層、百層、百五十層  
 但シ百層以內ノ箇所ニ於テハ水底ノ觀測ヲ施行シ最下層百五十層ハ十、三十、五十、七十、九十哩ノ五海區ニ於テハ適

宜トス觀測ニ出帆スルハ毎月初日トシ若シ事故アル時ハ事故止ミ次第可成速ニ出帆スルコト

(三) 縱斷觀測

毎年五月、八月ノ兩月ニハ縱斷觀測ヲ施行ス其ノ觀測ハ橫斷觀測ノ終點百哩ノ海區ヨリ各南方隣接縣橫斷觀測基點ニ針路ヲ取リ(福島縣ハ犬吠崎ヲ目標トス)(秋田、山形兩縣ハ未ダ協定ナシ)其十哩毎ニ表面ヲ二十哩毎ニ垂直觀測ヲナシ(垂直觀測度數其他ハ橫斷觀測ニ準ジ)歸途沿海ノ重要點ニ於ケル觀測ハ適宜トシ報告様式其他ハ橫斷觀測ニ依ルモノトス

(四) 觀測要項

各觀測點ニ於テ施行スベキ觀測事項左ノ如シ

- 一、天候 候 全空ヲ十分シテ雲量ニ依リ記載ス
- 快晴 〇一ニ 晴 二一八 曇 八以上 雨 強、和、微
- 一、雲形 十種ニ區分ス 十六方位ヲ以テス
- 一、風速 中央氣象臺ノ〇ヨリ六ニ至ル階級ニ依ル 水温測定用ト別ノ寒暖計ヲ使用シ日光ノ直射温熱ヲ避クル位置ニアリテ(無風ノ場合ハ少シク廻轉シテ水銀柱ノ一定セルヲ待テテ測ル
- 一、氣温 觀測航海中ハ午前二時、六時、十時、午後二時、六時、十時ノ海上氣温ヲ測ルモノトス 耗ヲ以テ表ハシ小數以下五ノミヲ記入シ歸港後ハ誤差ヲ檢査スベシ
- 一、水重 檢定附ケノモノヲ使用スベシ 同 上
- 一、氣壓 フォーレル氏水色標準液ノ號數ニ依リ表記ス 但シ普通ノ記事ニハ次ノ如キ和名ヲ用フ
- 一、水色 標準液ハ一ケ年乃至一ケ年半ノ限度ニテ取扱フルヲ可トス

水色標準液符號

- 一、濃青色 二、淡青色 三、青藍色 四、濃藍色 五、淡藍色 六、藍綠色
- 七、濃綠色 八、淡綠色 九、綠黃色 十、濃黃色 十一、淡黃色

一、透明度 直徑一尺ノ透明度板ニ白ペンキヲ完全ニ塗リタルモノヲ用ヒ其ノ見(ザルニ至レル深度薄ヲ以テ表ス

一、潮流 潮流、海流ノ方向及速度ハ可成記入スルコトトシ其不正確ナルモノハ(？)ノ符號ヲ附ス

一、プランクトン 右二項夜間ノ缺測ハ補測スルニ及バズ プランクトンハ十哩、五十哩、百哩ニ於テ適宜採集シ著名ナル事項ヲ備考欄ニ記入スルコト

(五) 觀測報告

一、報告並ニ附圖

觀測終了シ歸港スル場合ハ即日又ハ翌日中ニ觀測表ヲ調製シ(比重ハ換算セズ測定溫度比重ヲ記載ス)速カニ聯絡水産試驗場即チ甲號簡所ニ互報シ詳細ナルモノモ速カニ乙號簡所ニ報告スルモノトス而シテ缺測セル場合ハ其旨聯絡水産試驗場及ビ測候所即チ乙號簡所ヘ通報シ尙此ノ觀測表ニハ平面圖及ビ水温比重垂直分布圖ヲ作製シ之ヲ青寫真トナシ添附スルコト 但シ天候其他ノ關係上青寫真トナスニ困難ナル地方ニハ自然遲延ヲ免レザルモ勉メテ實行ヲ期スルコトトス

二、觀測表様式

觀測番號	觀測日時	觀測點	深度	水温	比重	換算比重	水色	透明度	海流	天氣	風速	氣温	氣壓	參考事項

乙號簡所ニ詳細ナル報告ヲナス場合ハ一、觀測ノ狀況ニ、沖合ニ於ケル水帶三、來游魚ノ狀況等其他必要ナル事項ヲ記載シ前記觀測表ニ換算、比重ヲ記入ノ上陸上氣象觀測表ヲ添附報告スルモノトス 比重ノ記載方ハ一、〇ヲ省略シ一、〇二五三〇ハ二五三〇ト記入スルガ如ク換算ハ大正八年一月一日ヨリ四捨五入トス 觀測ヨリ歸港後其ノ航跡並ニ水温分布ノ狀況等ヲ斟酌シ觀測點ト位置ニ著シキ異動アリト觀測者ニ於テ推定シタル場合ハ觀測點ノ位置ヲ修正ノ上報告スルモノトス

報告箇所次ノ如シ

甲號報告箇所

茨城、福島、宮城、岩手、青森、秋田、山形、北海道、樺太ノ各水産試験場及内務部水産係、水産講習所

乙號報告箇所

茨城、福島、宮城、岩手、青森、秋田、山形、北海道、樺太ノ各水産試験場及内務部水産係、水産講習所、水産局、茨城、福島、宮城、岩手、青森、秋田、山形、北海道、樺太ノ各測候所

附圖ノ製圖法トシテ協定セルモノ左ノ如シ

海面百哩ヲ六寸ニ縮尺シ百五十哩ヲ三寸ノ割合トシテ分割ヲ作リ(イ)同温線、同比重線ハ内挿法ニ依リテ描キ描キ方ノ不明ナル箇所ハ點線ヲ用フ(ロ)同温線ハ偶數温度ニ依リ(〇)度、二度、四度、六度等(特ニ十五度ヲ加フ(ハ)同比重線ハ二六〇、二五〇、二四五、二四〇、二三〇、二二〇、一八〇、一六〇、一四〇、一二〇、一〇〇、ニ區分ス

三、觀測原簿ニ關スル件

原簿ハ福島縣水産試験場立案配布ノモノヲ使用シ報告ヲ受ケタル場合ハ其都度原簿ニ記入ス(原簿様式畧)

四、電報符號採用ノ件

電報ヲ以テ海洋觀測水温及漁況ニ關スル速報ノ場合ハ連絡共通ノ符號ニ依ルベシ

五、氣象概要報告

毎年ノ協議會ニ於テ開催縣ハ前年度ニ於ケル左記事項ノ當該管内ノ氣象狀況ト東北地方ニ於ケル一般氣象ノ概要ヲ報告スルコト

一、前年ニ於ケル低氣壓通過ノ狀況並ニ程度被害ノ狀況ヲ可成簡易ニ報告スルコト

二、前年ニ於ケル東北地方ノ氣候一般ヲ通報スルコト

右報告スルニツキ各測候所ノ規約

三、其月ニ起リタル事項ヲ翌月十五日迄ニ報告スルコト

四、低氣壓通過ノ頻度

六、連絡海洋觀測ノ結果ヲ綜合統一シテ報告スルノ件

年末又ハ年度末ニ於テ綜合シ印刷物トナシ之レヲ適合本シ適當ノ専門家ニ之レヲ總括的説明ノ添附ヲ乞フコト

(イ)大正四年度ヨリ同八年十二月迄ノ曆年海洋調査ヲ綜合シテ印刷ニ附シ得ル程度ニ原稿ヲ作製シ大正九年六月迄ニ水産

講習所海洋調査部へ送附スルコト

(ロ)右ハ材料ニ依リ水産講習所ニ於テ之ヲ取經メ所屬海洋調査船ト相俟ツテ之ヲ總括的説明ヲ加ヘ各断面圖ト共ニ尙右連絡平面圖ヲ調製添附シタル報告書ヲ印刷配付アラントラ本會ヨリ申請スルコト

(六)調 査

一、重要魚族ノ調査

連絡各縣ハ左記魚族ノ調査ヲナシ毎年漁期ノ終リニ於テ當該水産試験場ニ相互通報シ生物學上並ニ漁業上ノ結果ヲ比較考察シテ之ヲ前項ノ同一ノ方法ニヨリ討議研究ノ結果ヲ印刷配付スルコト

記

一、漁期及豐凶

二、魚體ノ大小漁期中ニ於ケル變遷ノ模様

三、雌雄ノ割合

四、生殖素ノ熟否

五、胃腸ノ内容物

六、游泳層ノ水温比重

七、稚魚發生ノ多少及廻游ノ狀況

八、其ノ他

(北海道)烏賊、鯖、鮪、秋刀魚、大羽鰺、鯉、鱈、鮭、鱈

(青森)大羽鰺、鯉、鮪、鮫、鱈

(岩手)鯉、秋刀魚、鮪、鮫、鰺

(宮城)鯉、秋刀魚、鮪、鮫、鰺、油鮫

(福島)鯉、秋刀魚、鮪、鮫

(茨城)鯉、秋刀魚、鮪、鮫

(秋田)鯉、鯖、鰺、鮫

(山形)鰺、鮭

(樺太)未定

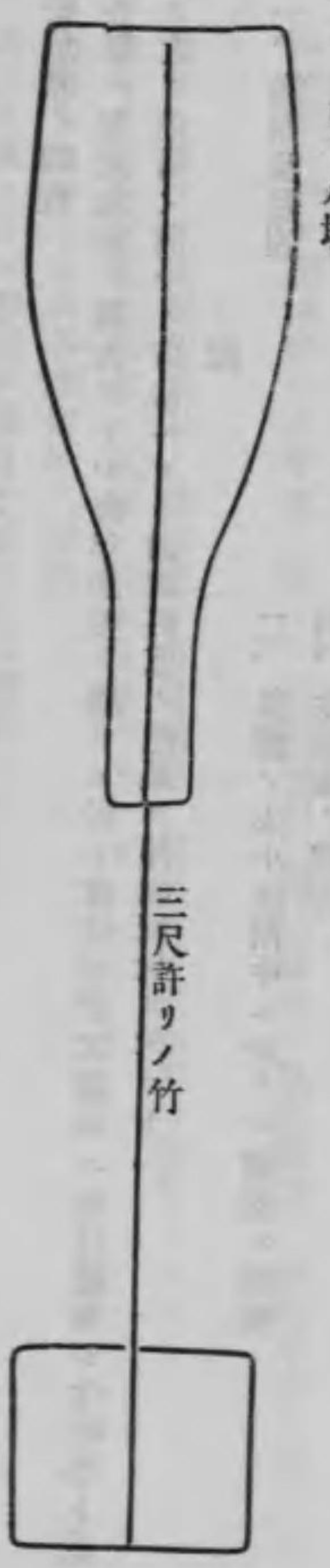
二、海霧連絡調査

海霧ノ濃度ニカ、ハラズ其ノ現象ヲ認メタル場合ハ時刻、濃淡ノ方向並ニ風向、風力、船ノ位置、霧ニ遷ハル時刻

濃度 〇 一、〇〇〇米以上

一 五〇〇米  
 二 一〇〇米  
 三 一〇米

前項霧ノ消散時刻及位置  
 以上ハ水産試験場ニ於テ横断観測其ノ他海上勤務中海霧ヲ認メタル場合トス  
 報告ノ方法  
 前記ノ報告ハ北海道及各縣測候所ニ於テ取纏メ之ヲ聯絡水産試験場並ニ測候所ニ報告スルト共ニ一方次年ノ主催縣ニ於テハ各縣ノ報告ニヨリテ之カ調査ノ結果ヲ毎年ノ協議會ニ於テ發表スルコト  
 報告ハ毎十日宛取纏メ發送スルコト  
 三、浮流瓶投入連絡調査  
 投入點ハ二十哩六十哩百哩ノ各觀測點トス  
 投入時期ハ太平洋方面ニ於テハ五、六、十、十一ノ四ヶ月トシ日本海方面ニ於テハ四、九、十ノ三ヶ月トス  
 尙事故ノタメ當到期間ニ支障アル場合ハ便宜線上又ハ繰下ヲナシ勉メテ既定期ニ接近施行スルノ方法ヲトルコト  
 各點ノ一回投擲數ハ十本以上トス  
 投入環ハ左ノ構造ニ定ム  
 ビール環



(ハ) 観測ノ狀況

本年ニ於ケル五月分ノ観測ハ磐城丸船体修繕ノタメ缺測シ其ノ他ノ各月ハ施行セシモ一、四、八、十二月ノ四ヶ月ハ荒天ノタメ所定百哩迄ノ観測ヲ遂行スルヲ得ザリシハ遺憾トス而シテ八月以降ノ観測ハ前掲第五回協議會ニ於ケル議決事項及方法ニ基キ観測施行セリ

観測ノ成績ハ從來年度ヲ以テ掲記セシガ本年度ヨリ自一月至十二月分ヲ掲ゲントス 本年ニ於ケル観測左ノ如シ	施行日	観測點	摘要
大正八年一月十六日	鹽屋崎正東	自距岸五哩至三十哩	荒天ノ爲メ中止シ三十哩ハ表面及ビ三尺ニ止ム
同 年二月七日、八日	同	自距岸五哩至百哩	同
同 年三月五日、六日	同	同	同
同 年四月一日	同	自距岸五哩至六十哩	荒天ノタメ中止シ六十哩ハ百哩ニ止ム
同 年六月二日、三日	同	同	同
同 年七月一日、二日	同	同	同
同 年八月三日、四日	同	自距岸五哩至八十哩	荒天ノ爲メ中止シ八十哩ハ五十哩ニ止ム
同 年九月一日	同	自距岸五哩至百哩	同
同 年十月三日、四日	同	同	同
同 年十月四日、五日	鹽屋崎百哩沖	ヨリ宮城縣沿岸ニ至ル(縦断)	同
同 年十一月七日、八日	鹽屋崎正東	自距岸五哩至百哩	荒天ノ爲メ中止シ六十哩ハ五十哩ニ止ム
同 年十二月六日	同	自距岸五哩至七十哩	同

(ニ) 各月海洋状態ノ概要

大正八年一月  
 水温、荒天ノタメ三十哩観測點ニ達シタルノミニテ観測ヲ中止スルノ止ムナキニ至リ爲メニ海洋状態ヲ詳カニスルヲ得ザル  
 モ水温ハ依然低下シテ荒天ノ爲メ混水混亂サレタル爲メカ上下層トモ十度内外ノ水温ヲ以テシ前月ニ比シ各觀測點トモ三四度内外ノ低下ヲ見タリ  
 比重、何レモ二五〇内外ニシテ十層以下ノ深層概シテ低ク前月ニ比シ稍々示度低キガ如シ  
 大正八年二月  
 水温、本月モ天候ノ爲メ九十哩及ビ百哩ノ兩點ハ半薄迄ノ観測ナリシガ水温ハ低下シ本年中最モ低溫ヲ示スニ至レリ而シテ其ノ分布狀況ハ三十哩ノ海區最モ低ク上層ヨリ下層ニ至ル迄七度内外ノ水温ヲ示シ五十哩點ヨリ漸次示度ヲ高メ六十哩ニ達シテ初メテ十度以上ノ水温ヲ示スニ至レリ七十哩ノ表面最モ高ク十一度八分ヲ見タルモ八十哩ヨリ漸次下降セ

リ而シテ下層水温モ表層ニ於ケルモノト其ノ差極メテ少ナク四十湮點ニ於ケル五度七分ヲ絕對最低水温トシ三十湮以  
内ノ中層以下ハ何レモ六度五分内外ノ水温ヲ示シ全海區ヲ通ジ水温ノ差極メテ僅少ナリ  
比重、距岸四十湮以内ハ各層トモ二五〇以下ニシテ其ノ高低ノ差少ク變化ニ乏シク以上沖合ハ漸次上昇セリ  
大正八年三月

水温、前月最モ低下シタル水温ハ本月ニ入り漸次上昇スルニ至レリ而シテ其ノ分布状態ハ甚ダシク趣ヲ異ニシ沿岸ヨリ六十  
湮迄ニ至ル海區ハ上下層ニ依ル水温ノ差殆ンドナク五十湮ニ至ル迄漸次低下シ五十湮點最モ低ク上層ヨリ下層ニ至ル  
迄四度五分乃至四度八分ノ水温ヲ示シ之レヨリ沖合ニ至ルニ從ヒ再ビ示度ヲ増シ其ノ表面水温ハ百湮ノ沖合ニ至リ十  
七度七分ノ高温ヲ示スニ至レリ  
比重、大部分二四五乃至二五〇ノ比重ヲ以テシ二五〇以上ノ比重ハ十以上ノ水温ヲ示セル六十湮以上ノ沖合ニ存在セリ  
之ヲ大正七年同期ノモノニ比スルニ距岸六十湮迄ハ大ナル差異ヲ認メザルモ七十湮以上ノ沖合ハ著シク高温ナリキ  
大正八年四月

水温、本月ハ荒天ノ爲メ六十湮迄ノ觀測ニ止マリシヲ以テ以上沖合ノ水温分布ヲ知悉スルヲ得ザリシモ水温ハ漸次上昇ヲ來  
シ距岸二十湮以内ノ海區ハ前月ニ比シ大差ナキモ三十湮ヨリ五十湮ニ至ル區間ハ二度五分乃至四度ノ高キヲ示シ六十  
湮ニ及ビテハ急激上昇ヲナシ八度ノ大差ヲ認メタリ  
比重、沿岸ハ比重前月ト較差少キモ沖合ニ出ツルニ高ク二五〇以上ヲ呈セリ  
本月ノ海洋状態ハ前記ノ如クニシテ之ヲ昨年同期ニ比スルニ本年ハ各海區ニ亘リ水温一般ニ高キヲ見タルモ比重ニア  
リテハ其ノ差少カリキ  
大正八年五月

本月ハ船体修繕ノ爲メ缺測セリ  
大正八年六月

水温、表面中最モ高キハ九十湮ノ十八度五分最モ低キハ四十湮ノ十度五分ニシテ基點即チ五湮ハ十二度三分ヲ表ハシ十湮ニ  
至リテハ稍々上昇セシモ沖合ニ出ツルニ從ヒ水温却ツテ低下ヲ來シ四十湮最モ寒冷ニシテ五十湮點ヨリ七十湮ニ至ル  
區間ハ十三度内外ニ上昇シ八十湮ニ及ビテ急激十八度トナリ九十湮最モ高ク終點即チ百湮ノ地點ハ十八度一分ニ低下  
セリ而シテ中層ニアリテハ五湮ヨリ七十湮迄各海區トモ表面ニ比シ二、三度内外ノ低温ヲ見九十湮ニ至リテ矢張急昇シ  
テ十三度以上ノ水温ヲ示シ四十湮ヨリ七十湮ニ及バル海區ハ寒冷帶ニシテ四十湮ノ下層(百五十湮)ノ三度六分ハ本觀  
測中ノ絕對最低トス

比重、距岸四十湮以内ノ表面比重ハ全海區中ニ比シ一般ニ低ク二四六ヨリ二四八ヲ昇降シ五十湮ニ及ビテ漸ク二五〇以上ヲ  
示シ八九十湮ノ兩點最モ高ク七十湮以内ノ中層ハ表面ニ比シ却ツテ高ク八十湮以上ハ反對ノ現象ヲ呈セリ  
大正七年同期ニ比スルニ表面水温ニアリテハ距岸三十湮以内ハ前年ト相似シ以上七十湮沖合海區ハ之ト正反對ノ現象  
ヲ見全平均ニアリテハ僅カニ一分ノ降下ニ過ギザルモ中下層ハ三度内外ノ降下ニシテ本年ハ例年ニ比シ寒流稍々卓越  
シ本月初旬ニアリテハ七十湮以内ノ海區迄寒流域ナルモノ、如シ比重ハ亦一般ニ高ク八十湮以上ハ其ノ差大ナリキ  
大正八年七月

水温、本月ニ入りテ水温ハ漸次上昇ヲ來シ距岸五十湮以内ハ十六度乃至十八度内外ヲ示シ以上九十湮迄ハ二十度内外ヲ見百  
湮ニ達シテハ二十三度ニ急昇シ全海區中最モ高ク垂直の分布ヲ見ルニ深層ニ及ブニ從ヒ二、三度内外順次低下シ概  
シテ低温ナルハ三、四、五十湮ノ三ヶ點ニシテ三十湮百五十湮ノ二度八分ハ本觀測ノ絕對最低トシ八十湮以上ノ沖合  
ハ概シテ高ク暖流ハ六、七十湮迄接近シ前月ニ比シ各表面ハ一般ニ上昇シタルモ下層ニアリテハ却ツテ低下シ絕對最  
低ニ於テハ一度二分ノ降下ヲ見タリ  
比重、沿岸ハ比較的低温六十湮以上ノ沖合ハ高シ而シテ全海區中百湮最モ高ク同觀測點ノ十湮及ビ二十五湮ノ二六四ハ絕對  
最高ニシテ距岸五湮表面ノ二五一ハ絕對最低トス表面ハ概シテ低ク下層ニ及ビテ其ノ示度高キヲ見前月ニ比シ各海區  
トモ一般ニ上昇セリ  
而シテ水温ハ昨年同期ヨリ一般ニ低ク表面平均ニアリテハ〇度五分ノ低温ヲ表ハシ表面比重ハ〇・〇〇二ノ六又低  
キヲ示シタルモ中下層ハ却ツテ高シ  
大正八年八月

水温、全海區ニ亘リ益々上昇シ五湮點ニ於ケル十九度二分ヲ最低トシ沖合ハ遂次上昇ヲ來シ八十湮ノ點ニ於テハ二十五度二  
分ノ高温ヲ示シ平均二十二度五分ノ表面水温ヲ見タリ而シテ二十湮乃至四十湮點ノ下層ハ概シテ低ク殊ニ四十湮百五  
十湮ニ於ケル四度一分ハ本觀測ノ絕對最低水温トシ之等状態ヨリ考察スルニ暖流ハ漸次沿岸ニ接近シ距岸五十湮内外  
迄其ノ影響ヲ及ボスニ至レルモノ、如ク前月ニ比較スルニ全海區ニ亘リ水温平均ハ上昇シタルノミニシテ局部的變化  
ヲ認メズ即チ暖流ノ接近ニヨリテ一般ニ水温ノ高騰ヲ來シタルニ止マレリ  
而シテ表面平均ハ二十二度五分ニシテ前年ニ比シ一度四分本年低キヲ表ハシタリ  
比重、比重ハ一般ニ示度ヲ減ジ前月存在シタル二六〇以上ノ影ヲ潜メ二五〇以下ノ比重新タニ五十湮點以内ノ表面ニ表ハレ  
タリ而シテ二五五以上ノ比重ハ僅カニ三十湮ヨリ五十湮ニ亘ル二十五湮乃至五十湮及六十湮以上ノ五十湮層ニアルノ  
ミトナレリ水温最モ低キ二十湮及四十湮ノ下層ニ於テハ此比重モ亦示度低キヲ見ルベシ

大正八年九月

水溫、本月ニ入り極メテ上昇ヲ來シ表面水溫ハ距岸五哩點ニ於ケル二十五度五分ヲ最低トシ五十哩點最モ高ク實ニ本海洋觀測開始以來初メテ見ル二十九度五分ノ高溫ヲ示シ其ノ平均ハ二十七度七分ナリトス、而シテ深度ヲ増スニ伴レ漸次水溫低下スルト雖モ二十五哩下ニアリテ尙平均二十二度八分ノ高溫ヲ見五十哩下ニ於テモ五十哩六十哩ノ二點ハ二十度ヲ超ヘタリ、百五十哩ノ下層ニ於テハ三十哩ニ於ケル十一度四分ヲ本觀測中ノ絕對最低水溫トシ平均十四度三分ノ比較的高キ水溫ヲ示セリ

大正八年九月

比重、本月ニ至リテ一般ニ示度ヲ増シ前月五十哩以内ノ表層ニアリシ二五〇以下ノ比重ハ影ヲ潜メ之レニ代リテ二六〇以上ノ比重五十哩點ノ中層ニ表ハレ二五五以下ノ比重ハ三十哩及六、七十哩ノ表層ニ殘サレ二五五乃至二六〇ノ比重一般ニ瀰漫スルニ至レリ

大正八年十月 (橫斷)

水溫、九月ニ於テ水溫最高極ニ達シタルガ本月ニ至リ著シク下降シ表面ニ於テハ五十哩ニ於ケル十八度九分ヲ最低トシ九十哩及百哩ニ於ケル二十四度ヲ最高トセル平均二十一度二分ノ表面水溫ヲ示シ表面ヨリ十哩ニ至ル上層ハ荒天ノ爲メ海水攪拌サレテ水溫統一サレ其ノ平均ニ於テハ僅カニ二分ノ差ヲ示スニシテ二十五哩以下ノ下層ニアリテハ漸次水溫低下シ百五十哩層ニ於テハ平均八度五分ヲ示シ表面ト同ジク五十哩點最モ低ク六度ヲ示セリ

比重、前月五十哩ノ中層ニ介在シタル二六〇以上ノモノ消滅シ疊海區ヲ通ジ二五五内外ノ比重ヲ以テ占據セラル、ニ至レリ大正八年十月 (縱斷)

水溫、水溫ハ北東方ニ航進スルニ從ヒ漸次低下シ急激ナル變化ヲ認メズ一般ニ橫斷觀測ニ比シ低シ

大正八年十一月

水溫、表面水溫ノ平均ハ十七度三分ニシテ最モ高キハ百哩ノ十八度一分低キハ七十哩ノ十六度九分ニシテ前月來漸次低下ヲ見タリシガ之カ水溫ハ逐次低下シ二十度以下トナリ距岸八十哩以内ハ十七度乃至十七度五分ニシテ沖合九十、百哩ノ兩點ハ比較的暖水帶ナリキ而シテ垂直深層ヲ増スニ伴レ多少ノ低下ニ過ギザリシモ四十尋以上沖合ノ五十尋以下ノ深層ニ至リテハ急激降下シ表面水溫ト其ノ差極メテ大ニシテ九十哩百五十尋ノ三度ハ本觀測中ノ絕對最低水溫ニシテ平均三度七分トス

大正八年十二月

比重、全海區ヲ通ジ二五〇以上ナリシガ本月ニ及ビテ一般ニ低ク最高二五八、最低二四五ニシテ概シテ十尋以下ノ深層一般ニ高カリキ要之本月ニ於ケル水溫ハ距岸四十哩ヨリ八十哩ノ間ハ比較寒冷ナルモノ介在シ以上ノ沖合ハ稍々上昇シ表面水溫ハ各觀測點ヲ通ジ平均セラレ其ノ高低ノ差ハ極メテ少ク先月ニ比シ著シク低溫ヲ來シ寒流ハ逐次擴大シ暖流ハ漸次沖合ヘ壓セラレタルモノノ如シ

大正八年十二月

水溫、本月ハ荒天ノ爲メ七十哩迄ノ觀測ニ止メタルガ表層水溫ノ最高ハ距岸三十哩ノ十七度二分ニシテ最低ハ五十哩ノ十六度六分トス而シテ距岸五哩ノ海區ハ前述ノ如ク最モ低ク其ノ他ノ海區ハ十七度内外ニ止マリ深度ヲ増スニ伴レ多少ノ低下ヲ見タルモ五十尋迄ハ其ノ差大ナラズ以下ノ深層即チ下層ハ五、六度内外ノ下降ヲ表ハシ四十哩百五十尋ノ四度七分ハ本觀測ノ絕對最低トス

大正八年十二月

比重、表面比重ノ高キハ三十哩ノ二六〇ニシテ沖合ニ出ツルニ從ヒ漸次其ノ示度ヲ低下シタルモ各海區ノ中層迄ハ概シテ二五九内外ヲ示シ下層ニアリテハ表面及ビ中層ニ比シ低下シ四十哩百五十尋ノ二五四ハ本觀測中ノ絕對最低トス之等本月ノ海洋狀態ヲ前月ニ比スルニ各海區ニ亙リ水溫多少ノ低下ヲ來シタルモ其ノ差極メテ少ク五十尋以下ノ深層ハ前月ヨリ却ツテ高キヲ示シ比重モ本月ニ至リテ先月ニ比シ高ク差大ナリキ

(ホ) 本年海洋狀態ノ變遷概要

而シテ九月ニ入りテハ水温急昇ヲナシ五十湊ノ表面最モ高ク實ニ本海洋観測開始以來初メテ見ル二十九度五分ノ高温ヲ示シ其ノ平均ハ二十七度七分トス元來本縣沖合ニ於ケル水温ハ毎年八月ヲ以テ最高極ニ達スルヲ例ニスルモ本年ハ九月其ノ極ニ達シ表下層共ニ稀レニ見ル高温ヲ示セルニ依レバ暖流ハ九月ニ入り益々卓越セルヲ認ムベク十月以降ハ漸次下降シタルモ昨年及ビ例年同期ニ較ベ依然高温ヲ持續シ之等海洋状態ヨリ考察スルニ十月ニ至リテモ本縣沖合ハ大ナル寒流ノ影響ヲ受ケズ寒流ノ本流ハ十一月中旬以來宮城縣沖合ヨリ東進シタルモノノ如シ

各層水温平均比較表 (自距岸五湊至同百湊平均)

月次	水層	表面	半湊	五湊	十湊	二十五湊	五十湊	百湊	百五十湊
大正八年一月	同	九、九	九、七	一〇、三	一〇、四	九、八	九、八	九、九	一〇、三
同	二月	九、〇	八、八	八、五	八、四	七、九	七、七	七、四	七、〇
同	三月	九、四	九、四	九、一	七、五	六、八	六、四	六、〇	六、〇
同	四月	八、三	八、四	八、三	八、三	八、二	八、〇	五、九	四、七
同	五月	一	一	一	一	一	一	一	一
同	六月	一三、八	一三、九	一三、二	一三、四	一三、〇	一三、〇	九、三	七、二
同	七月	一八、六	一八、二	一六、五	一五、三	一五、二	一三、三	一三、一	一五、二
同	八月	二三、五	二三、五	二二、五	二〇、五	二〇、五	二二、七	一八、二	一六、二
同	九月	二七、七	二七、四	二六、八	二五、八	二二、八	一八、〇	一五、二	一四、三
同	十月	三二、二	三二、二	三二、一	三二、〇	一八、五	一五、三	一〇、八	八、五
同	十一月	一七、三	一七、三	一七、三	一七、〇	一四、六	九、四	五、四	三、七
同	十二月	一七、〇	一六、九	一六、九	一六、九	一六、九	一五、五	九、四	五、六

表面ハ半湊半湊以下至湊迄ハ  
半湊百湊百湊半湊半湊ノ各平均

各層比重平均比較表 (自距岸五湊至同百湊平均)

月次	水層	表面	半湊	五湊	十湊	二十五湊	五十湊	百湊	百五十湊
大正八年一月	同	二四、九	二五、一	三五、〇	二四、九	二四、九	二四、九	二四、九	二四、九
同	二月	二五、〇	二五、一	二五、〇	二四、九	二四、九	二四、九	二四、九	二四、九
同	三月	二五、一	二五、一	二五、一	二四、九	二四、九	二四、九	二四、八	二四、九
同	四月	二五、〇	二五、一	二五、一	二五、一	二五、一	二五、〇	二五、〇	二四、九
同	五月	一	一	一	一	一	一	一	一
同	六月	二五、一	二五、一	二五、一	二五、一	二五、一	二五、一	二五、一	二五、一
同	七月	二五、五	二五、五	二五、五	二五、七	二五、八	二五、六	二五、六	二五、五
同	八月	二四、九	二四、九	二五、〇	二五、一	二五、一	二五、一	二五、一	二五、一
同	九月	二五、五	二五、五	二五、四	二五、四	二五、四	二五、七	二五、八	二五、六
同	十月	二五、三	二五、三	二五、三	二五、三	二五、三	二五、六	二五、六	二五、五
同	十一月	二五、一	二五、一	二五、三	二五、三	二五、三	二五、三	二五、一	二五、一
同	十二月	二五、九	二五、九	二五、九	二五、九	二五、八	二五、八	二五、八	二五、五

表面ハ半湊半湊以下至湊迄ハ  
十湊ノ各平均

各観測點水温平均比較表 (自表面至百五十湊平均)

月次	観測點	五湊	十湊	二十湊	三十湊	四十湊	五十湊	六十湊	七十湊	八十湊	九十湊	百湊
大正八年一月	同	一〇、三	一〇、三	九、三	一	一	一	一	一	一	一	一
同	二月	七、三	六、九	六、九	六、八	六、八	八、三	九、二	一〇、一	九、六	一	一
同	三月	六、六	六、六	六、三	五、一	五、一	四、七	五、四	一〇、四	一三、一	一	一
同	四月	六、二	六、六	六、五	七、三	七、二	七、九	一〇、〇	一三、一	一三、一	一	一
同	五月	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

五湊ハ表面ヨリ廿五湊迄十湊ハ  
五十湊迄廿五湊ハ百湊迄ノ各平均  
五十湊ハ二十五湊迄十湊ハ五十湊  
迄二十湊ハ百湊迄ノ各平均

船體修繕ノ爲メ缺測





二	一	二	三	九	八	七	六	五	四	三	二
同月同日 自午前九時四十分 至午前十時十分	同月同日 自午前八時五十分 至午前九時十分	同月同日 自午前二時四十分 至午前二時五十分	同月同日 自午前一時四十分 至午前一時五十分	同月同日 自午後十一時四十分 至午後十二時十分	同月同日 自午後十時十八分 至午後十時十八分	同月同日 自午後八時二十分 至午後八時三十分	同月同日 自午後六時三十分 至午後六時五十分	同月同日 自午後四時四十分 至午後五時七十分	同月同日 自午後三時二十分 至午後三時二十分	同月同日 自午後一時二十分 至午後一時四十分	同月同日 自午前十一時五十分 至午後零時十四分
一〇哩	正鹽屋崎 五哩	一〇〇哩	九〇哩	八〇哩	七〇哩	六〇哩	五〇哩	四〇哩	三〇哩	二〇哩	一〇哩
七五〇〇 〇〇〇〇	七五〇〇 〇〇〇〇	三〇〇〇 〇〇〇〇	三〇〇〇 〇〇〇〇	三〇〇〇 〇〇〇〇	三〇〇〇 〇〇〇〇	三〇〇〇 〇〇〇〇	三〇〇〇 〇〇〇〇	三〇〇〇 〇〇〇〇	三〇〇〇 〇〇〇〇	三〇〇〇 〇〇〇〇	三〇〇〇 〇〇〇〇
六六六六 三三三三	六六六六 三三三三	二〇〇〇 〇〇〇〇	二〇〇〇 〇〇〇〇	二〇〇〇 〇〇〇〇	二〇〇〇 〇〇〇〇	二〇〇〇 〇〇〇〇	二〇〇〇 〇〇〇〇	二〇〇〇 〇〇〇〇	二〇〇〇 〇〇〇〇	二〇〇〇 〇〇〇〇	二〇〇〇 〇〇〇〇
二二二二 九八〇〇	二二二二 九八〇〇	二二二二 二二二二	二二二二 二二二二	二二二二 二二二二	二二二二 二二二二	二二二二 二二二二	二二二二 二二二二	二二二二 二二二二	二二二二 二二二二	二二二二 二二二二	二二二二 二二二二
九、〇	五、〇	同	同	同	同	同	夜不 入	一、〇	九、〇	一〇、〇	二、〇
快晴	快晴	曇	曇	晴	快晴	快晴	晴	晴	曇	雨	曇
		層〇	層〇	積二	積一		積卷	卷積	層〇	亂〇	層積
軟南	和西	強北	強北	疾南	疾南	疾南	疾南	軟北	和北	和西	和西
七、七〇	七、七〇	一〇、五	七、六	七、八	七、七	七、六	七、九	七、五	七、四	七、五	七、五

大正八年三月分鹽屋崎百哩橫斷海洋觀測表

本觀測點ニ達スル  
ヤ波浪高ク深層ノ  
觀測スルヲ得ス

三	二	一	二	二	九
同月十一時四十分	同月九時四十分	同月八時四十分	同月八時五十分	同月九時十分	同月九時五十分
二〇	一〇	正鹽屋崎 五東	二〇	九〇	八〇
表 尺面	表 尺面	表 尺面	表 尺面	表 尺面	表 尺面
五〇〇〇 五〇〇〇 五〇〇〇 五〇〇〇 五〇〇〇 五〇〇〇 五〇〇〇 五〇〇〇 五〇〇〇 五〇〇〇	六六六六 六六六六 六六六六 六六六六 六六六六 六六六六 六六六六 六六六六 六六六六 六六六六	五五五五 五五五五 五五五五 五五五五 五五五五 五五五五 五五五五 五五五五 五五五五 五五五五	二二二二 二二二二 二二二二 二二二二 二二二二 二二二二 二二二二 二二二二 二二二二 二二二二	九九九九 九九九九 九九九九 九九九九 九九九九 九九九九 九九九九 九九九九 九九九九 九九九九	三三三三 三三三三 三三三三 三三三三 三三三三 三三三三 三三三三 三三三三 三三三三 三三三三
五、〇七	四、〇七	三、〇八	同	同	同
快晴	快晴	快晴	曇	快晴	快晴
卷積一	卷積一		積八北々西		
疾西	和西	和西	強	北西	北々西
七、五、〇	七、四、八	七、三、八	七、六、〇	七、六、〇	七、六、〇

大正九年四月分鹽屋崎正東百哩橫斷海洋觀測表

本觀測點ニ達スルヤ風波強ク深層ノ觀測不可能

八	七	六	五	四	三
同月八時七十分	同月六時四十分	同月四時三十分	同月二時五十分	同月一時四十分	同月十一時二十分
七〇	六〇	五〇	四〇	三〇	二〇
表 尺面	表 尺面	表 尺面	表 尺面	表 尺面	表 尺面
七六六六 七六六六 七六六六 七六六六 七六六六 七六六六 七六六六 七六六六 七六六六 七六六六	四四四四 四四四四 四四四四 四四四四 四四四四 四四四四 四四四四 四四四四 四四四四 四四四四	三三三三 三三三三 三三三三 三三三三 三三三三 三三三三 三三三三 三三三三 三三三三 三三三三	五五五五 五五五五 五五五五 五五五五 五五五五 五五五五 五五五五 五五五五 五五五五 五五五五	九九九九 九九九九 九九九九 九九九九 九九九九 九九九九 九九九九 九九九九 九九九九 九九九九	八八八八 八八八八 八八八八 八八八八 八八八八 八八八八 八八八八 八八八八 八八八八 八八八八
同	夜ニ入 不明	一〇、八	九、四	九、四	二、四
快晴	快晴	快晴	快晴	快晴	快晴
疾北西	軟南西	疾南西	和南	軟南	軟東
七、五、五	七、六、七	七、七、五	七、三、〇	七、四、五	七、七、五

午後零時二十分ニ十四哩ノ海區ニ於テ「オットセイ」一頭ヲ認ム

四	同月同日 自午後一時十分至午後三十分	三〇哩	表面 一五〇〇 同 一五〇〇 同 一五〇〇 同 一五〇〇 同 一五〇〇 同	四一七 四一八 四一九 四二〇 四二一 四二二 四二三 四二四 四二五 四二六 四二七 四二八 四二九 四三〇 四三一 四三二 四三三 四三四 四三五 四三六 四三七 四三八 四三九 四四〇	二〇、五	快晴	卷層一 和北西	七二、二 七二、五
---	-----------------------	-----	------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------	----	------------	--------------

五	同月同日 自午後三時〇九分至午後三時四十分	四〇哩	表面 一五〇〇 同 一五〇〇 同 一五〇〇 同 一五〇〇 同 一五〇〇 同	四二〇 四二一 四二二 四二三 四二四 四二五 四二六 四二七 四二八 四二九 四三〇 四三一 四三二 四三三 四三四 四三五 四三六 四三七 四三八 四三九 四四〇	六〇、四	晴	卷積二 疾北	七二、〇 七二、二
---	--------------------------	-----	------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------	---	-----------	--------------

六	同月同日 自午後四時四十分至午後五時〇七分	五〇哩	表面 一五〇〇 同 一五〇〇 同 一五〇〇 同 一五〇〇 同 一五〇〇 同	四二三 四二四 四二五 四二六 四二七 四二八 四二九 四三〇 四三一 四三二 四三三 四三四 四三五 四三六 四三七 四三八 四三九 四四〇	四〇、四	快晴	疾北	七二、〇 七二、五
---	--------------------------	-----	------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------	----	----	--------------

七	同月同日 自午後六時三十分至午後六時四十分	六〇哩	表面 一五〇〇 同 一五〇〇 同 一五〇〇 同 一五〇〇 同 一五〇〇 同	四三六 四三七 四三八 四三九 四四〇	五〇、四	快晴	疾北東	七二、〇 七二、五
---	--------------------------	-----	------------------------------------------------------	---------------------------------	------	----	-----	--------------

大正八年五月分鹽屋崎正東百哩海洋橫斷觀測表

一	六月二日 自午前八時二十一分至午前八時四十分	一〇哩	表面 一五〇〇 同 一五〇〇 同 一五〇〇 同 一五〇〇 同 一五〇〇 同	四四〇 四四一 四四二 四四三 四四四	七〇、四	快晴	疾北東	七二、〇 七二、五
---	---------------------------	-----	------------------------------------------------------	---------------------------------	------	----	-----	--------------

本場磐城丸船体修繕及検査ノ夕メ缺測

二	同月同日 自午前九時三十分至午前九時四十分	一〇哩	表面 一五〇〇 同 一五〇〇 同 一五〇〇 同 一五〇〇 同 一五〇〇 同	四四一 四四二 四四三 四四四	七〇、三	快晴	疾北東	七二、〇 七二、五
三	同月同日 自午前十一時十分至午前十一時四十分	二〇哩	表面 一五〇〇 同 一五〇〇 同 一五〇〇 同 一五〇〇 同 一五〇〇 同	四四二 四四三 四四四	八〇、三	快晴	疾北東	七二、〇 七二、五
四	同月同日 自午後一時十二分至午後一時三十分	三〇哩	表面 一五〇〇 同 一五〇〇 同 一五〇〇 同 一五〇〇 同 一五〇〇 同	四四三 四四四	八〇、四	晴	卷雲二 疾北東	七二、〇 七二、五
五	同月同日 自午後三時五十分至午後四時二十分	四〇哩	表面 一五〇〇 同 一五〇〇 同 一五〇〇 同 一五〇〇 同 一五〇〇 同	四四四 四四五	五〇、四	曇	卷層一〇 疾北東	七二、〇 七二、五
六	同月同日 自午後四時五十分至午後五時二十分	五〇哩	表面 一五〇〇 同 一五〇〇 同 一五〇〇 同 一五〇〇 同 一五〇〇 同	四四五 四四六	五〇、四	曇	卷層八 疾北東	七二、〇 七二、五
七	同月同日 自午後六時五十分至午後七時二十分	六〇哩	表面 一五〇〇 同 一五〇〇 同 一五〇〇 同 一五〇〇 同 一五〇〇 同	四四六 四四七	夜不明	晴	積卷二 疾北東	七二、〇 七二、五

午後零時十分二十  
三ノ海區ニ於テ  
三イルカ群ヲ認

八 同月同日 自午後九時十分至午後十時三十分 七〇哩

七 同月同日 自午後十時五十分至午後十一時二十三分 六〇哩

六 同月同日 自午後八時五十分至午後九時十七分 五〇哩

五 同月同日 自午後六時五十分至午後七時十六分 四〇哩

四 同月同日 自午後五時三十分至午後五時三十分 三〇哩

三 同月同日 自午後三時十五分至午後三時三十分 二〇哩

表面 二〇〇 二〇〇 二〇〇 二〇〇 二〇〇 二〇〇

二〇〇 二〇〇 二〇〇 二〇〇 二〇〇 二〇〇

二〇〇 二〇〇 二〇〇 二〇〇 二〇〇 二〇〇

同 同 同 夜ニ入 一〇、一 三〇、一

曇 曇 曇 曇 曇 曇

層〇 層〇 層〇 層〇 層〇 層〇

北東 北東 北東 北東 北東 北東

七、四〇 七、四〇 七、四〇 七、四〇 七、四〇 七、四〇

午後十一時本海區ニ於テ漂流標五十分ニ於テ投入ス

本海區ニ於テ午後三時二十分漂流標三十分ニ於テ投入ス

三十分ニ於テ漂流標二十分ニ於テ投入ス

二十分ニ於テ漂流標十分ニ於テ投入ス

十分ニ於テ漂流標五分ニ於テ投入ス

五分ニ於テ漂流標五分ニ於テ投入ス

八 同月同日 自午後九時十分至午後十時三十分 七〇哩

九 同月同日 自午後十一時五十分至午後十二時三十分 八〇哩

〇 同月同日 自午後一時五十分至午後二時三十分 九〇哩

二 同月同日 自午後三時五十分至午後四時三十分 一〇〇哩

一 同月同日 自午後一時二十分至午後一時四十分 一〇哩

表面 二〇〇 二〇〇 二〇〇 二〇〇 二〇〇 二〇〇

二〇〇 二〇〇 二〇〇 二〇〇 二〇〇 二〇〇

二〇〇 二〇〇 二〇〇 二〇〇 二〇〇 二〇〇

同 同 同 同 同 同

快晴 快晴 快晴 快晴 快晴 快晴

層〇 層〇 層〇 層〇 層〇 層〇

北東 北東 北東 北東 北東 北東

七、四〇 七、四〇 七、四〇 七、四〇 七、四〇 七、四〇

大正八年七月分 鹽屋崎正東百哩 橫斷海洋觀測表

九	八	七	六	五	四
同月同日 自午前四時三十分 至午前四時五十分	同月同日 自午前一時三十分 至午前一時五十分	同月同日 自午後十一時十分 至午後十一時五十分	同月同日 自午後八時四十分 至午後九時十五分	同月同日 自午後六時四十分 至午後七時七十分	同月同日 自午後四時二十分 至午後四時五十分
八〇哩	七〇哩	六〇哩	五〇哩	四〇哩	三〇哩
表面 五〇〇 同尋尺 二〇〇 同尋尺 一〇〇 同尋尺	表面 五〇〇 同尋尺 二〇〇 同尋尺 一〇〇 同尋尺	表面 五〇〇 同尋尺 二〇〇 同尋尺 一〇〇 同尋尺	表面 五〇〇 同尋尺 二〇〇 同尋尺 一〇〇 同尋尺	表面 五〇〇 同尋尺 二〇〇 同尋尺 一〇〇 同尋尺	表面 五〇〇 同尋尺 二〇〇 同尋尺 一〇〇 同尋尺
二二五 二二五 二二五 二二五 二二五 二二五	二二五 二二五 二二五 二二五 二二五 二二五	二二五 二二五 二二五 二二五 二二五 二二五	二二五 二二五 二二五 二二五 二二五 二二五	二二五 二二五 二二五 二二五 二二五 二二五	二二五 二二五 二二五 二二五 二二五 二二五
不明	不明	不明	不明	一〇、二	一〇、三
曇 層積 和南東	曇 層積 和南東	曇 層九 和南東	曇 層九 和南々東	曇 層九 軟東南	曇 層九 北々東
七五、〇	七五、〇	七五、〇	七五、〇	七五、〇	七五、〇
波浪高ク船体動搖 シ觀測不能ノタメ 百測以下ノ觀測 中止シ歸港ス			夜間ニツキ水色透 明度ノ觀測不能	午後五時十五分三 十二哩ノ海區ニ於 テ鯨群「トロミ」ヲ 認ム	午後四時二十七哩 ノ海區ニ於テ鯨群 「ハネコ」ヲ認ム

三	二	一	二	二	九
同月同日 自午後二時〇七分 至午後二時四十分	同月同日 自午後零時三十分 至午後零時五十分	八月三日 自午前十一時五分 至午前十一時二十分	同月同日 自午前六時五十分 至午前七時二十分	同月同日 自午前四時四十分 至午前五時十五分	同月同日 自午前二時五十分 至午前三時十九分
二〇哩	一〇哩	正鹽屋崎 五哩東	一〇哩	九〇哩	八〇哩
表面 五〇〇 同尋尺 二〇〇 同尋尺 一〇〇 同尋尺	表面 五〇〇 同尋尺 二〇〇 同尋尺 一〇〇 同尋尺	表面 五〇〇 同尋尺 二〇〇 同尋尺 一〇〇 同尋尺	表面 五〇〇 同尋尺 二〇〇 同尋尺 一〇〇 同尋尺	表面 五〇〇 同尋尺 二〇〇 同尋尺 一〇〇 同尋尺	表面 五〇〇 同尋尺 二〇〇 同尋尺 一〇〇 同尋尺
二二五 二二五 二二五 二二五 二二五 二二五	二二五 二二五 二二五 二二五 二二五 二二五	二二五 二二五 二二五 二二五 二二五 二二五	二二五 二二五 二二五 二二五 二二五 二二五	二二五 二二五 二二五 二二五 二二五 二二五	二二五 二二五 二二五 二二五 二二五 二二五
一三、三	七、三	九、三	六、二	同	同
晴 層五 軟北	曇 層二 和北	曇 層二 北東	曇 層二 和北東	曇 層二 和北東	曇 層積層九 和北東
七五、〇	七五、〇	七五、〇	七五、〇	七五、〇	七五、〇
			本海區ニ於テ午前 七時漂流標七十一 號ヨリ九十號迄二 十本投入		

大正八年八月分鹽屋崎正東百哩橫斷海洋觀測表

大正八年九月分 檣屋崎正東百漙横斷海洋觀測表

日	時間	風	浪	雲	天候	其他
九	午前四時十分	正	五	漙	晴	層積四 七二、〇
九	午前四時三十分	正	五	漙	晴	層積四 七二、〇
九	午前四時	正	五	漙	晴	層積四 七二、〇
九	午前四時三十分	正	五	漙	晴	層積四 七二、〇
八	午前五時十五分	一	〇	漙	晴	層積四 七二、〇
八	午前五時四十分	一	〇	漙	晴	層積四 七二、〇
八	午前五時	一	〇	漙	晴	層積四 七二、〇
八	午前五時十五分	一	〇	漙	晴	層積四 七二、〇
八	午前七時十五分	一	〇	漙	晴	層積四 七二、〇
八	午前七時四十分	一	〇	漙	晴	層積四 七二、〇
八	午前七時	一	〇	漙	晴	層積四 七二、〇
八	午前七時十五分	一	〇	漙	晴	層積四 七二、〇
八	午前九時	一	〇	漙	晴	層積四 七二、〇
八	午前九時二十分	一	〇	漙	晴	層積四 七二、〇
八	午前九時	一	〇	漙	晴	層積四 七二、〇
八	午前九時二十分	一	〇	漙	晴	層積四 七二、〇
八	午後一時五十分	五	〇	漙	晴	層積四 七二、〇
八	午後二時	五	〇	漙	晴	層積四 七二、〇
八	午後二時三十分	五	〇	漙	晴	層積四 七二、〇
八	午後二時	五	〇	漙	晴	層積四 七二、〇
八	午後二時三十分	五	〇	漙	晴	層積四 七二、〇
八	午後十一時	同	同	同	晴	層積四 七二、〇
八	午後十一時十分	同	同	同	晴	層積四 七二、〇
八	午後十一時五十分	同	同	同	晴	層積四 七二、〇
八	午後十一時	同	同	同	晴	層積四 七二、〇
八	午後十一時十分	同	同	同	晴	層積四 七二、〇
八	午後十一時五十分	同	同	同	晴	層積四 七二、〇

二二二

午後三時二十分大鯨ノ「ハネコ」群ヲ見ル

大正八年十月分 鹽屋崎正東百漙横斷海洋觀測表

日	時間	風	浪	雲	天候	其他
七	午前三時二十分	六	〇	漙	晴	卷四 北東 七三、〇
七	午前三時五十分	六	〇	漙	晴	卷四 北東 七三、〇
七	午前三時	六	〇	漙	晴	卷四 北東 七三、〇
七	午前三時二十分	六	〇	漙	晴	卷四 北東 七三、〇
七	午前五時	七	〇	漙	晴	卷六 北東 七三、〇
七	午前五時四十分	七	〇	漙	晴	卷六 北東 七三、〇
七	午前五時	七	〇	漙	晴	卷六 北東 七三、〇
七	午前五時四十分	七	〇	漙	晴	卷六 北東 七三、〇
七	午後七時	八	〇	漙	晴	卷二 和南 七三、〇
七	午後七時四十分	八	〇	漙	晴	卷二 和南 七三、〇
七	午後七時	八	〇	漙	晴	卷二 和南 七三、〇
七	午後七時四十分	八	〇	漙	晴	卷二 和南 七三、〇
七	午後九時	九	〇	漙	晴	卷二 和南 七三、〇
七	午後九時二十分	九	〇	漙	晴	卷二 和南 七三、〇
七	午後九時	九	〇	漙	晴	卷二 和南 七三、〇
七	午後九時二十分	九	〇	漙	晴	卷二 和南 七三、〇
七	午後十一時	同	同	同	晴	卷二 和南 七三、〇
七	午後十一時十分	同	同	同	晴	卷二 和南 七三、〇
七	午後十一時五十分	同	同	同	晴	卷二 和南 七三、〇
七	午後十一時	同	同	同	晴	卷二 和南 七三、〇
七	午後十一時十分	同	同	同	晴	卷二 和南 七三、〇
七	午後十一時五十分	同	同	同	晴	卷二 和南 七三、〇

二二二



		二		一		二		二		九		八		七		六		五		四		三		二														
		至	同	至	同	至	同	至	同	至	同	至	同	至	同	至	同	至	同	至	同	至	同	至	同													
		午前十一時	分前十一時	午前十時	分前十時	午前九時	分前九時	午前八時	分前八時	午前七時	分前七時	午前六時	分前六時	午前五時	分前五時	午後十時	分後十時	午後九時	分後九時	午後八時	分後八時	午後七時	分後七時	午後六時	分後六時	午後五時	分後五時	午後四時	分後四時	午後三時	分後三時	午後二時	分後二時	午後一時	分後一時			
		一〇	一〇	五	五	正	正	五	五	二〇	二〇	九	九	八	八	六〇	六〇	五	五	四〇	四〇	三〇	三〇	二〇	二〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇				
		表	表	表	表	表	表	表	表	表	表	表	表	表	表	表	表	表	表	表	表	表	表	表	表	表	表	表	表	表	表	表	表	表	表			
		〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇			
		三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三		
		八	八	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七		
		同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	
		曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	
		層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	
		和東	和東	和東	和東	和東	和東	和東	和東	和東	和東	和東	和東	和東	和東	和東	和東	和東	和東	和東	和東	和東	和東	和東	和東	和東	和東	和東	和東	和東	和東	和東	和東	和東	和東	和東	和東	
		七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	
		〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	
		九	九	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七
		〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	
		一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
		一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	

大正八年十二月分鹽屋崎正東百湮橫斷海洋觀測表

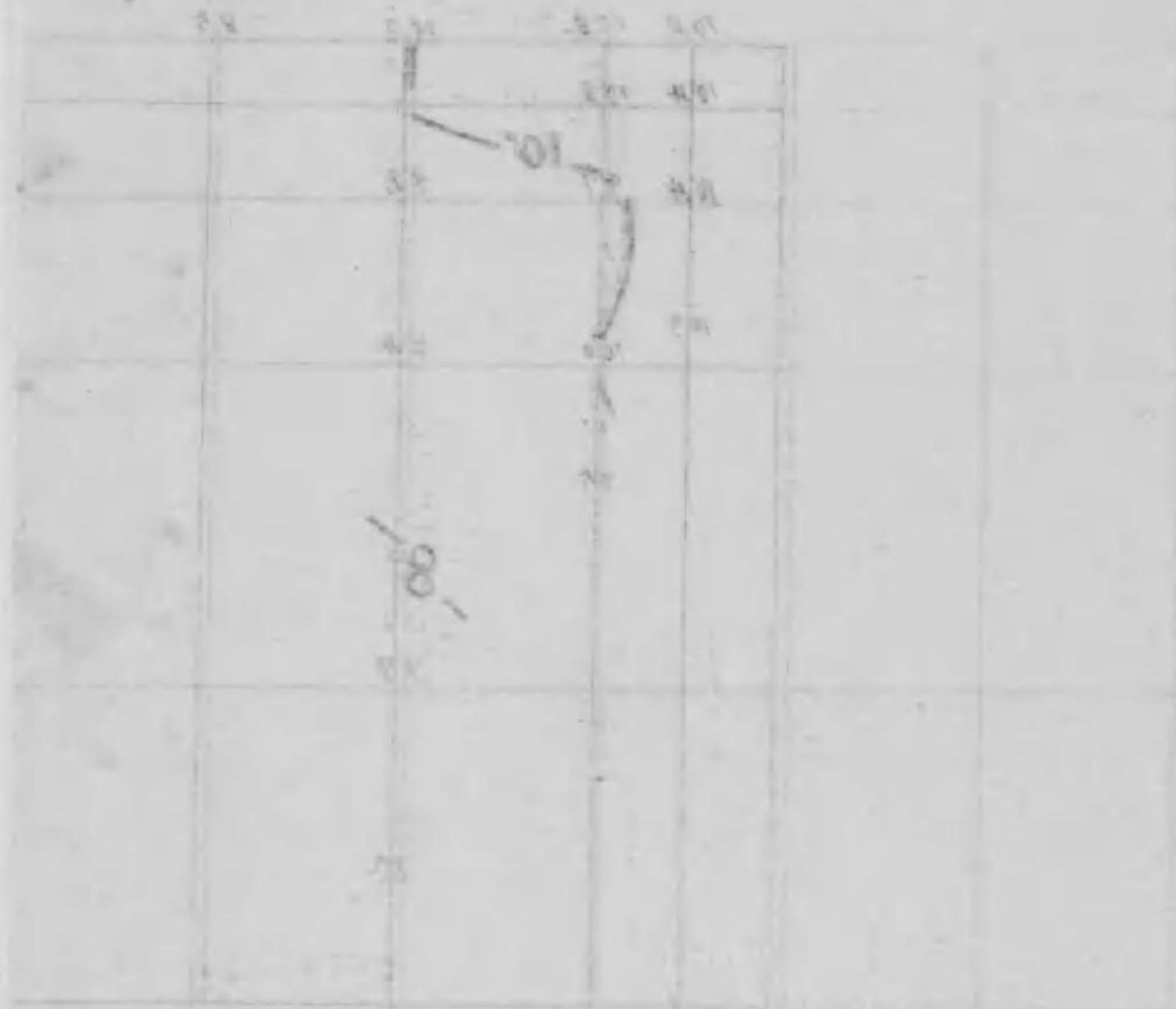
午前六時四十分浮  
流壩百四十一號ヨ  
リ百五十號迄十本  
投入ス

午後七時五十分  
浮流壩百三十一號  
ヨリ百四十號迄十  
本投入ス

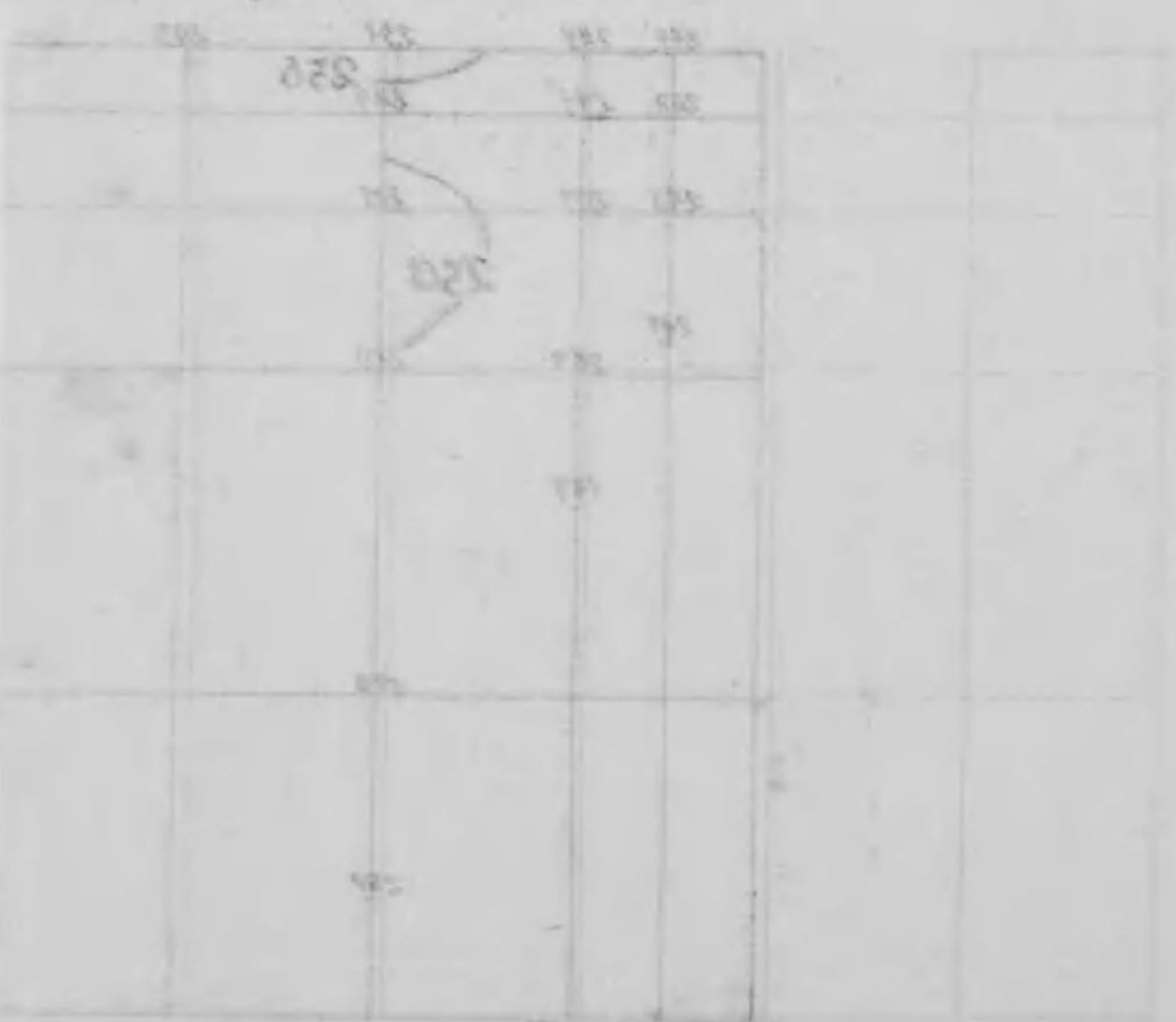
本海區ニ於テ鯨群  
ヲ認ム  
午後一時二十五分  
浮流壩百二十一號  
ヨリ百三十一號迄十  
本投入ス



大正八年  
水溫圖



比重圖

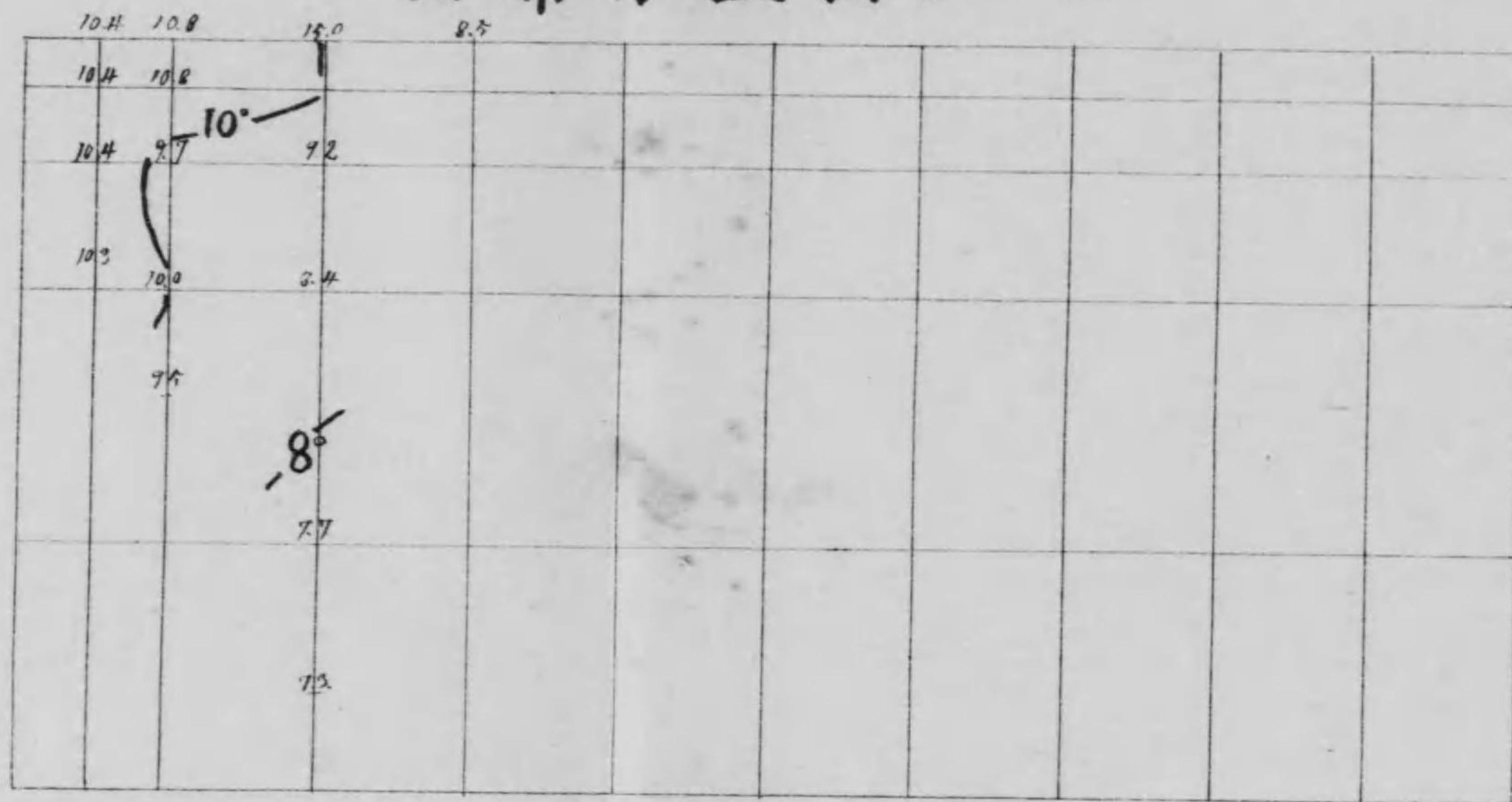


本年ニ於ケル海洋状態ハ既記ノ如クニシテ八月以前ハ水温例年ニ比シ概シテ低キヲ見爲メニ本縣沖合ハ鮪ノ來游ヲ認メズ鼠

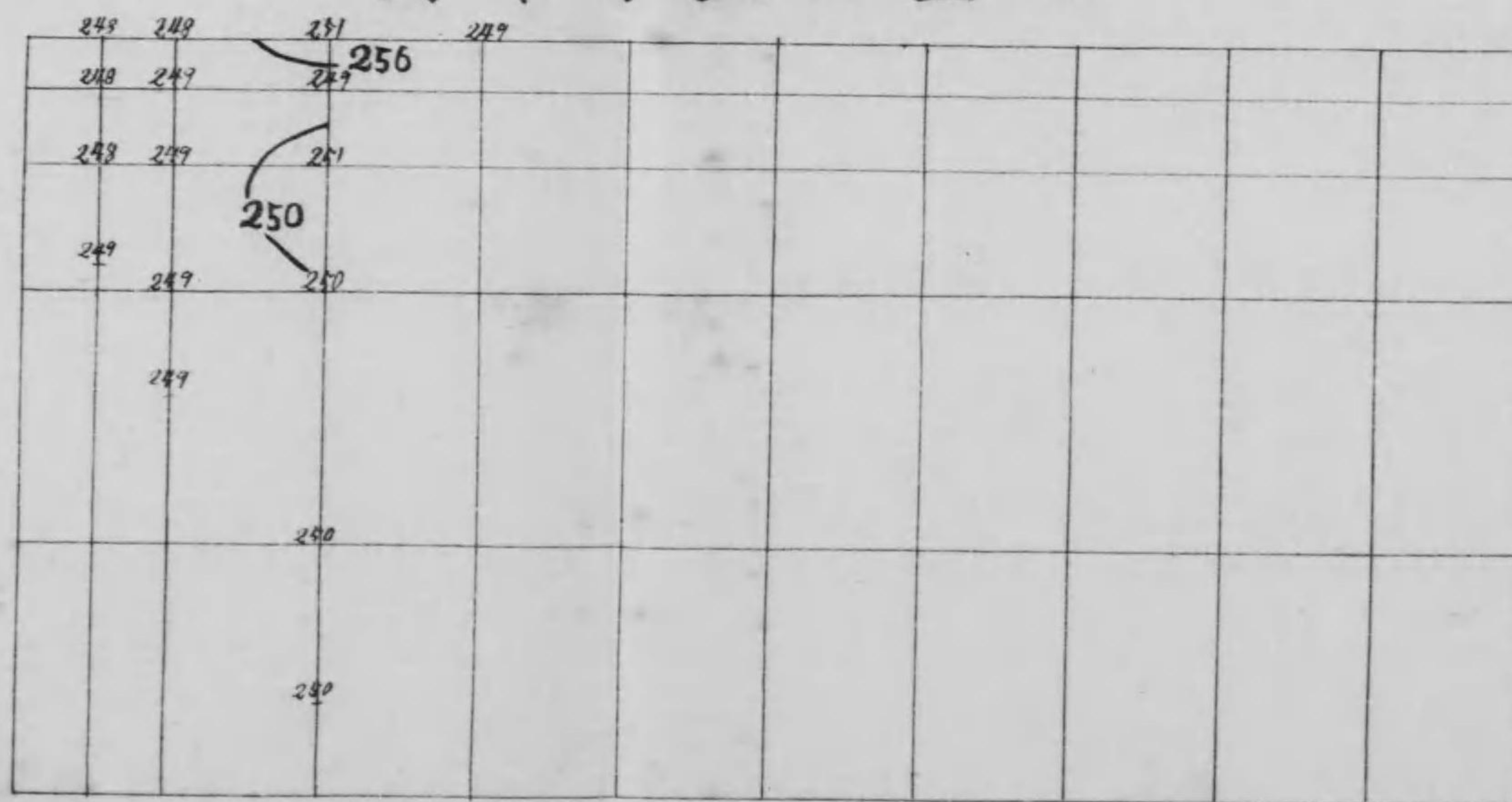
(ト) 本年海洋状態ト各種漁業トノ關係概況

八	七	六	五	四	三
同月 午後十一時 五分	同月 午後九時 十分	同月 午後六時 十分	同月 午後五時 十七分	同月 午後三時 十七分	同月 午後一時 二十分
七〇哩	六〇哩	五〇哩	四〇哩	三〇哩	二〇哩
表面 一六八	表面 一七〇 一七〇 一七〇 一七〇 一七〇 一七〇 一七〇 一七〇 一七〇	表面 一六八 一六八 一六八 一六八 一六八 一六八 一六八 一六八 一六八 一六八	表面 一七〇 一七〇 一七〇 一七〇 一七〇 一七〇 一七〇 一七〇 一七〇 一七〇	表面 一七〇 一七〇 一七〇 一七〇 一七〇 一七〇 一七〇 一七〇 一七〇 一七〇	表面 一七〇 一七〇 一七〇 一七〇 一七〇 一七〇 一七〇 一七〇 一七〇 一七〇
同	同	同	夜ニ入 不明	七〇三	七〇三
雨 亂 強	雨 亂 疾	曇 層 疾	曇 層 積	曇 層 和	曇 層 和
東南東 七三、〇	東南東 七五、〇	東南東 七三、〇	東南東 七二、〇	東南東 七〇、五	東南東 七〇、二
荒天ノタメ歸港ノ 途ニツケリ		荒天ノ爲メ以下浮 游生物採取セス			

大正八年一月  
水溫垂直分布圖



比重垂直分布圖

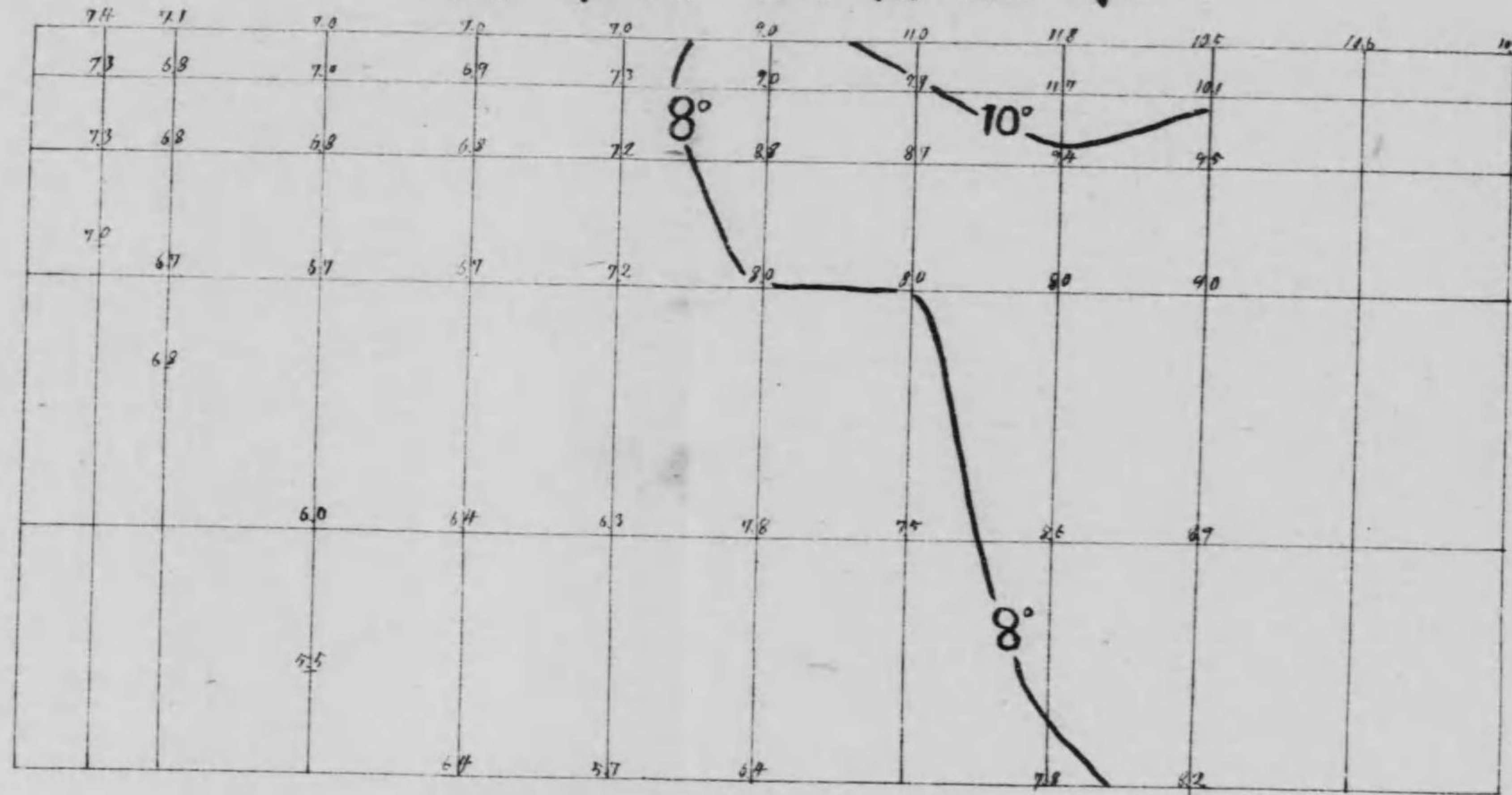


本年ニ於ケル海洋状態ハ既記ノ如クニシテ八月以前ハ水温例年ニ比シ概シテ低キヲ見爲メニ本縣沖合ハ鮪ノ來游ヲ認メズ

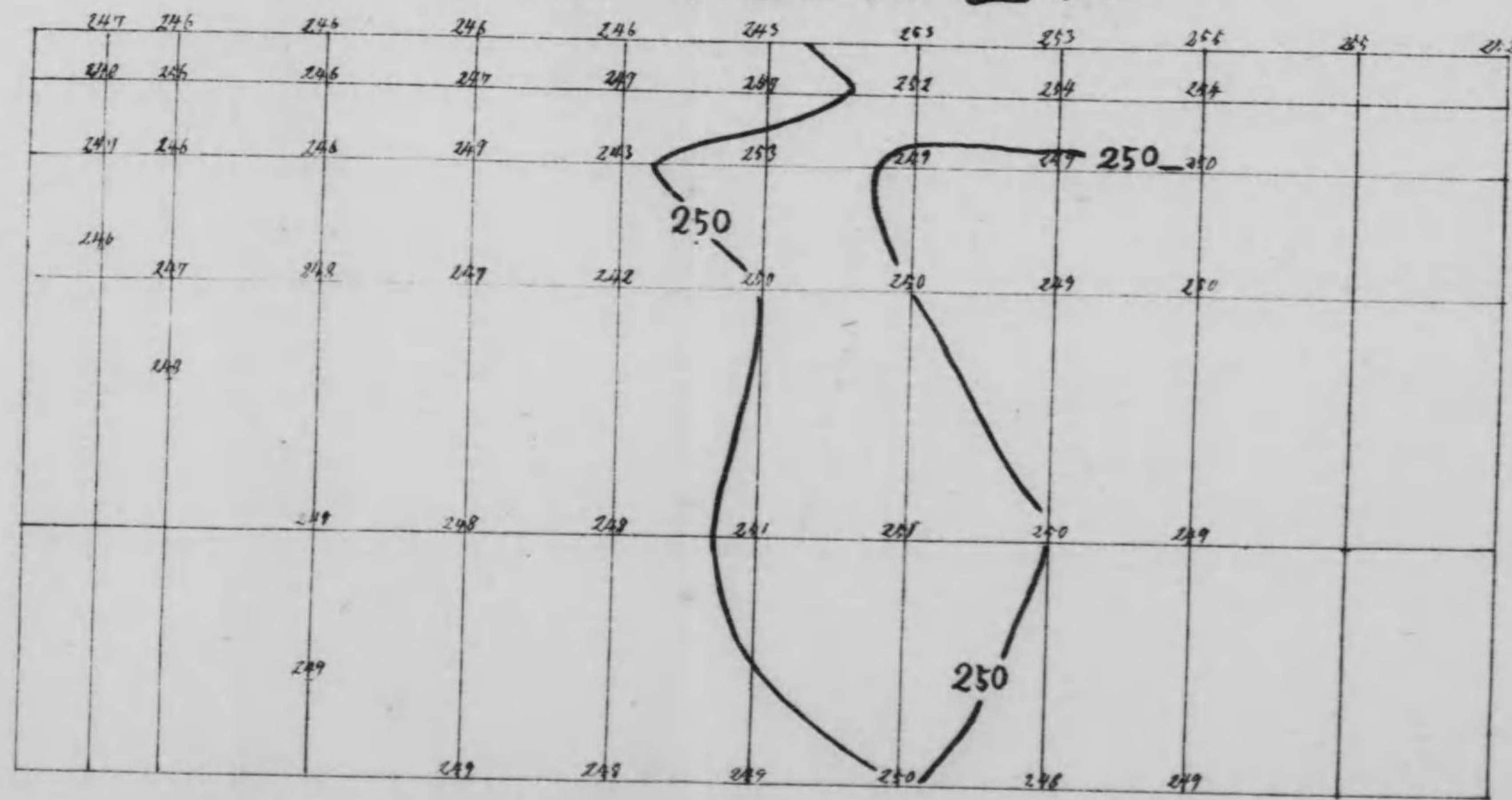
(ト) 本年海洋状態ト各種漁業トノ關係概況

八	七	六	五
同月二十日午後十一時五分	同月十五日午後九時三十分	同月十四日午後七時	同月十七日午後五時
七〇哩	六〇哩	五〇哩	四〇哩
表面	表面	表面	表面
一六八	一七〇	一七〇	一七〇
同	同	同	リ不 入
雨	雨	曇	曇
亂	亂	層	層
強	疾	疾	疾
一三、六	一三、七	一三、〇	一三、二
途ニツケリ	荒天ノタメ歸港ノ	荒天ノ爲メ以下浮	

大正八年二月  
水溫垂直分布圖



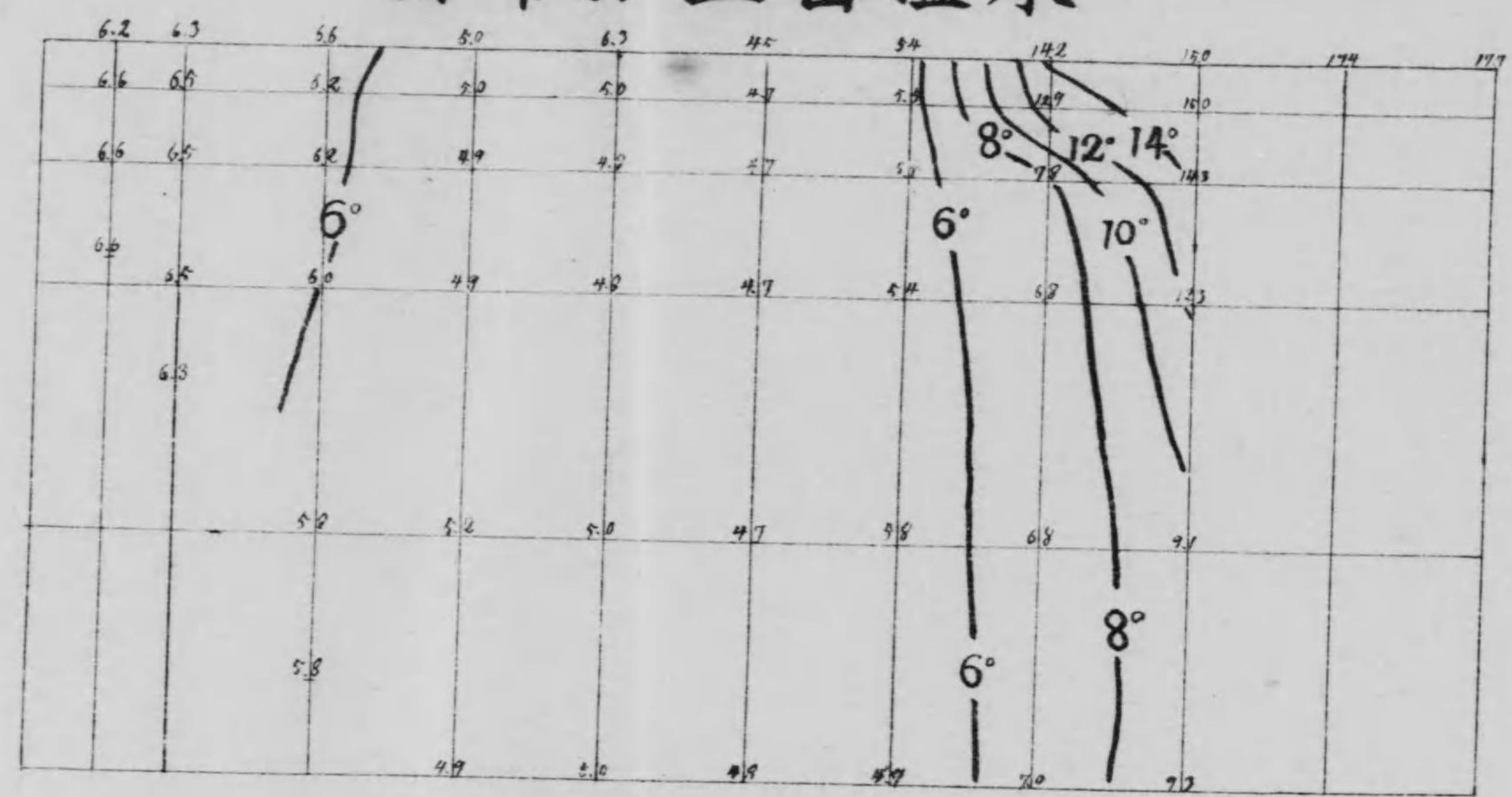
比重垂直分布圖



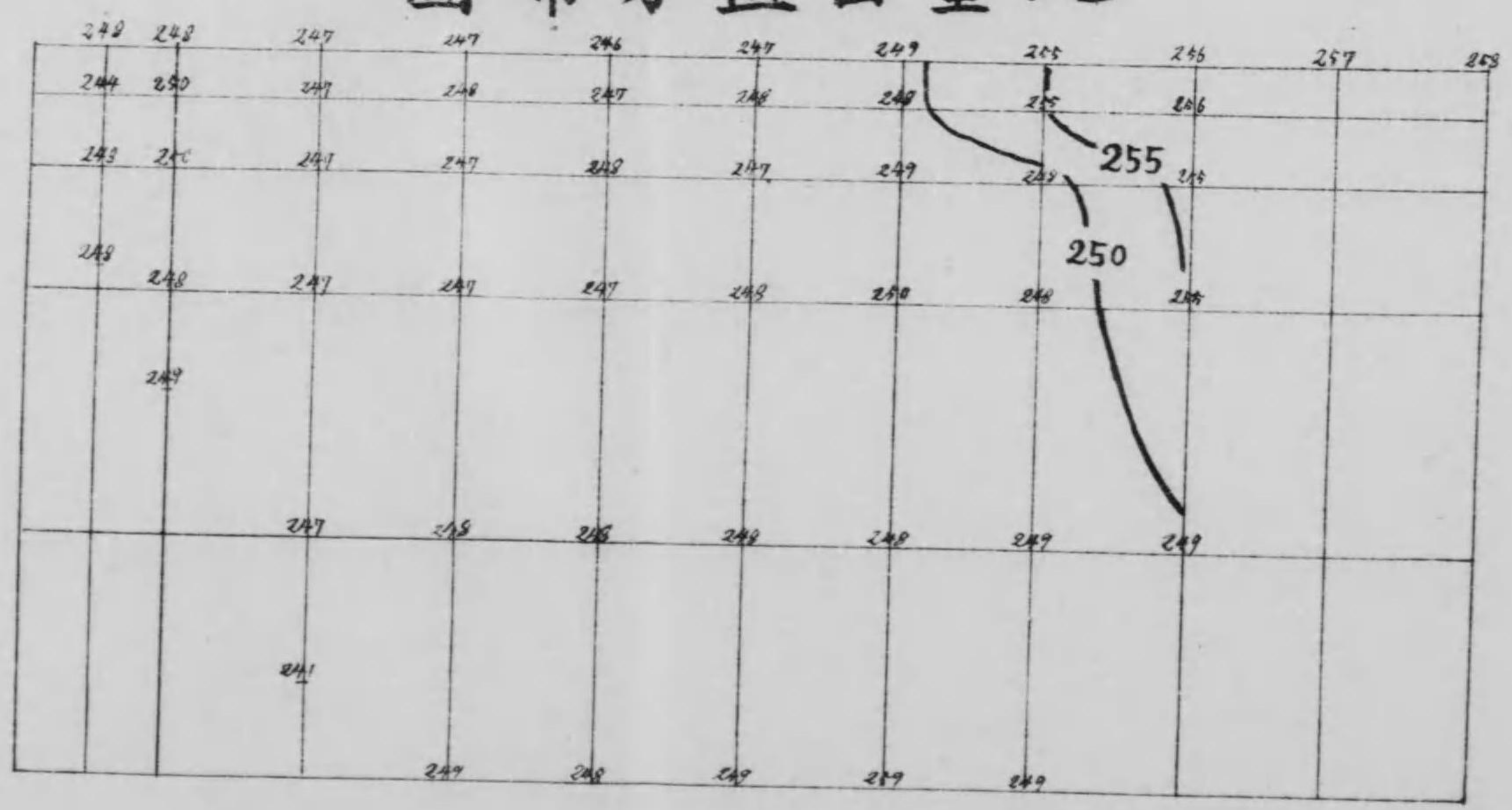
中華民國二十一年一月二十七日  
水溫垂直分布圖



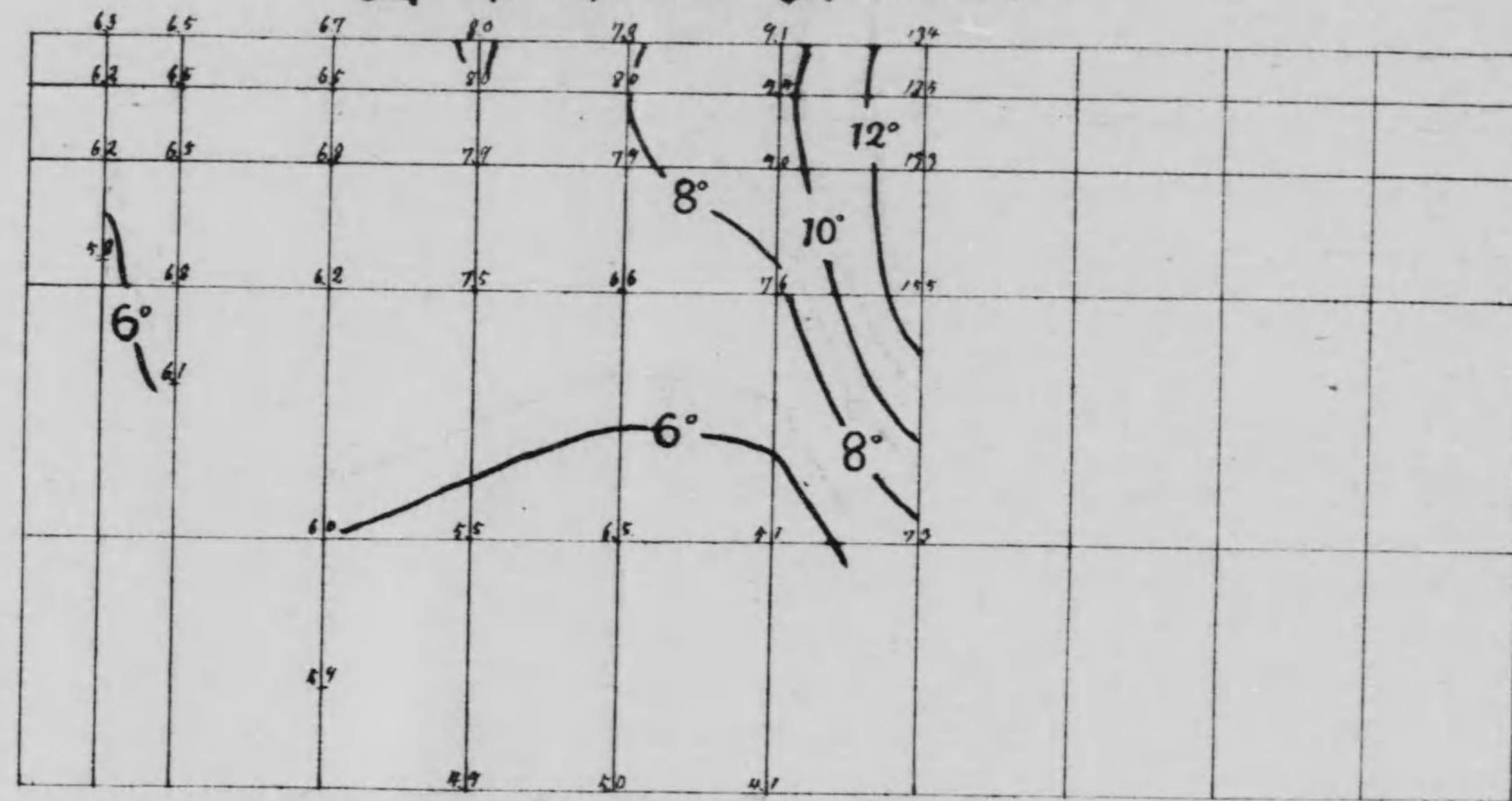
大正八年三月  
水溫垂直分布圖



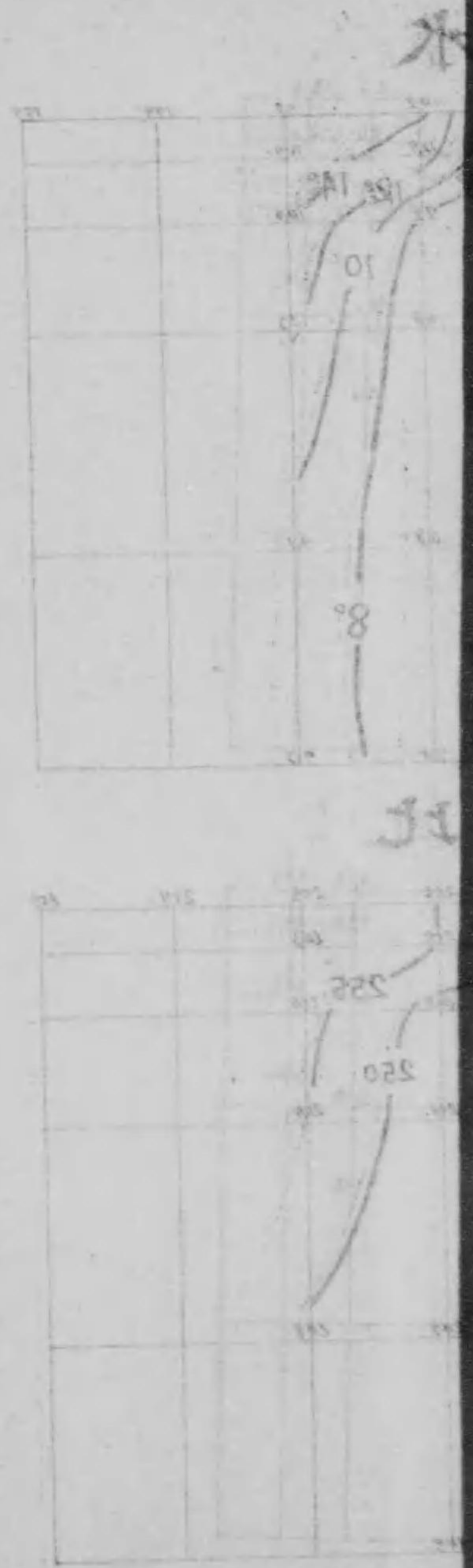
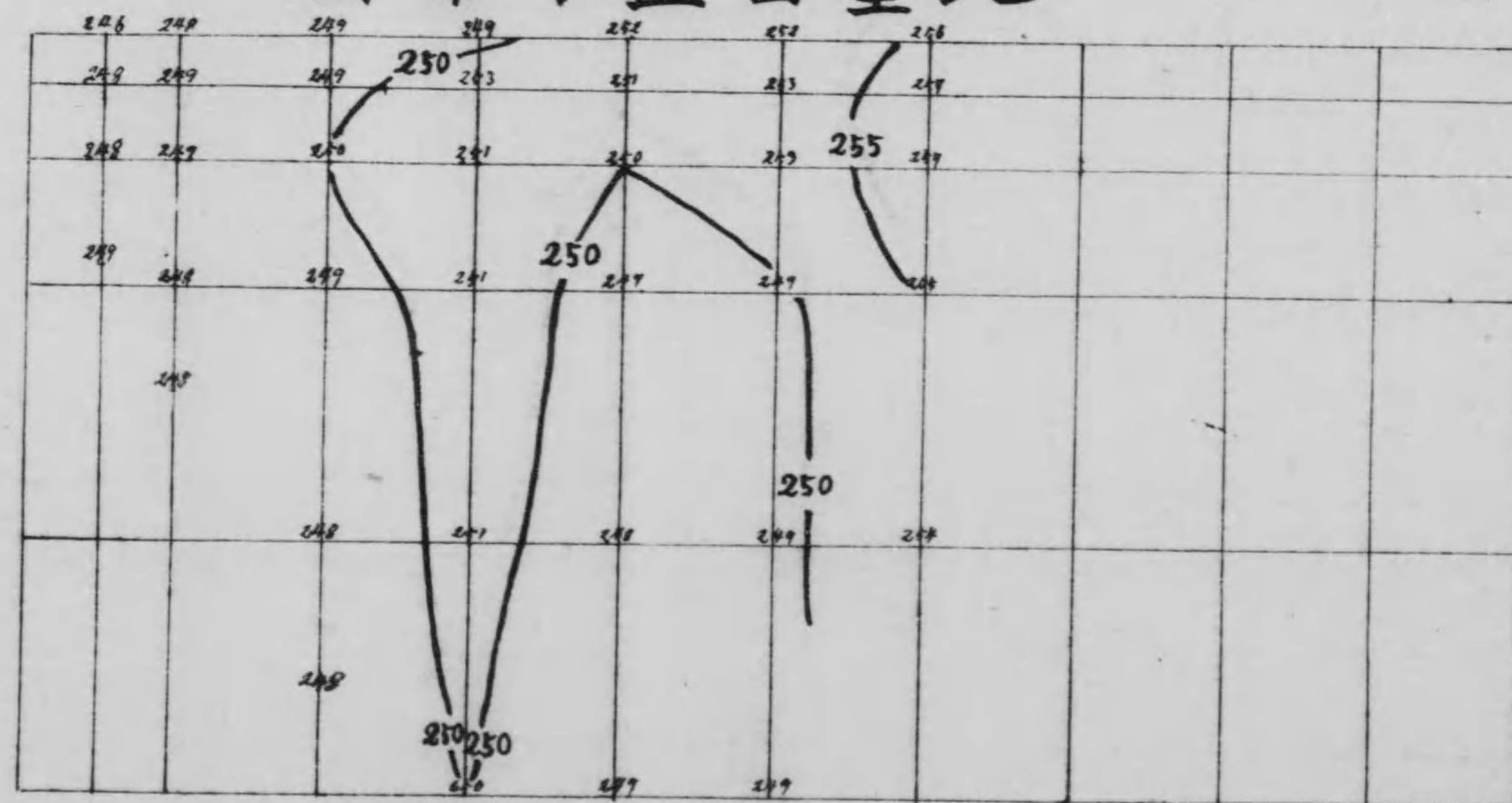
比重垂直分布圖



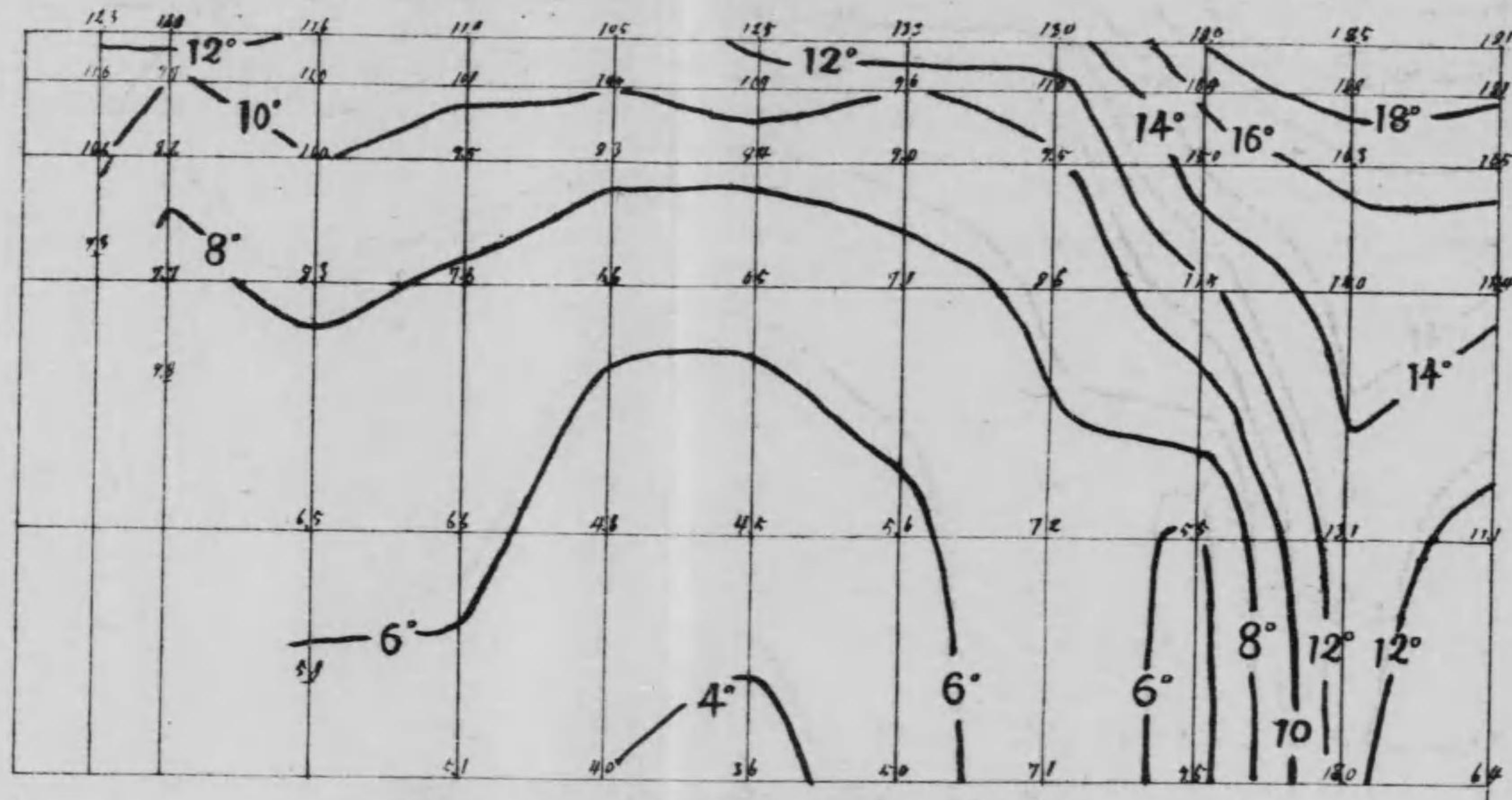
大正八年四月  
水溫垂直分布圖



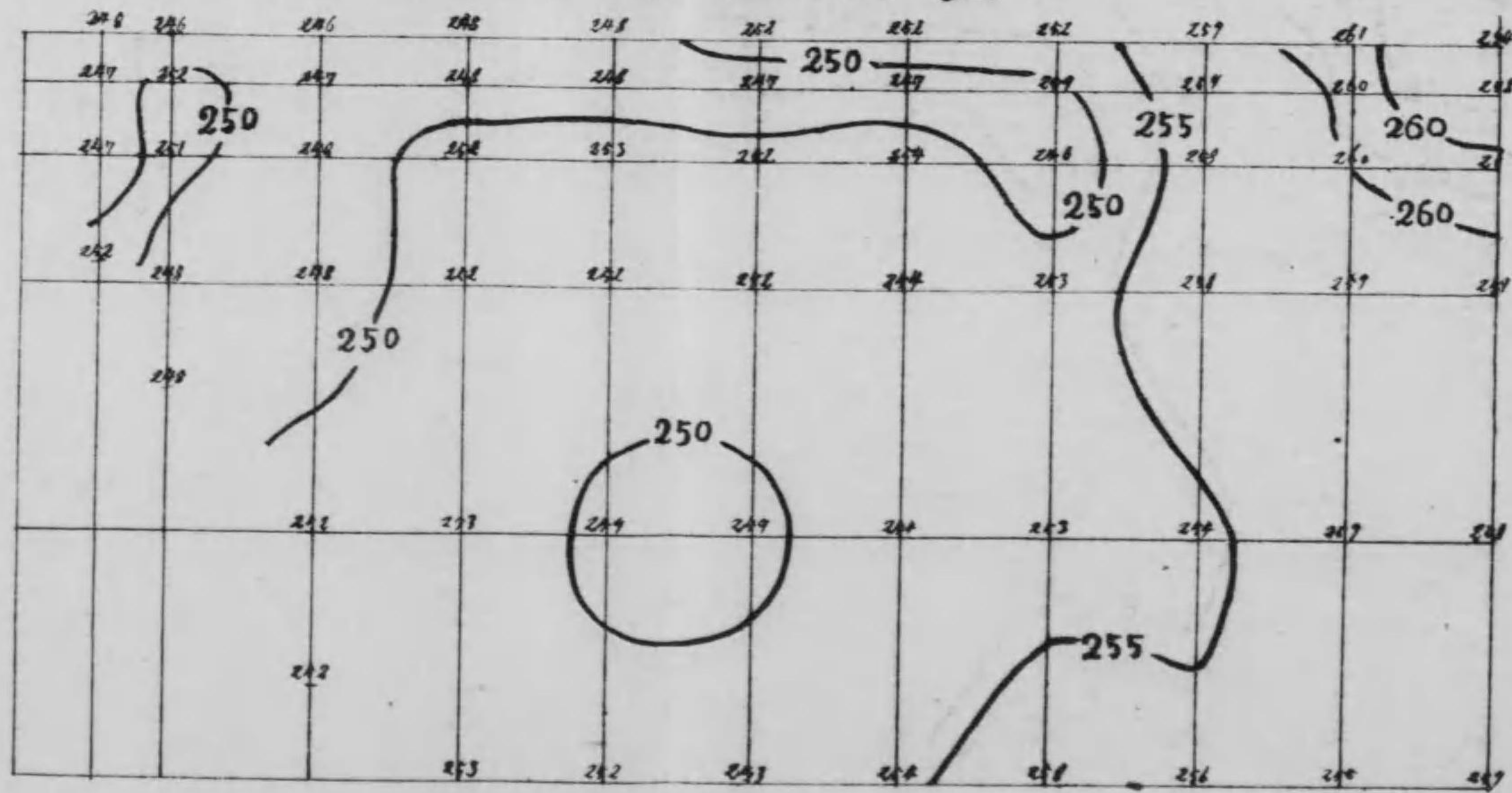
比重垂直分布圖



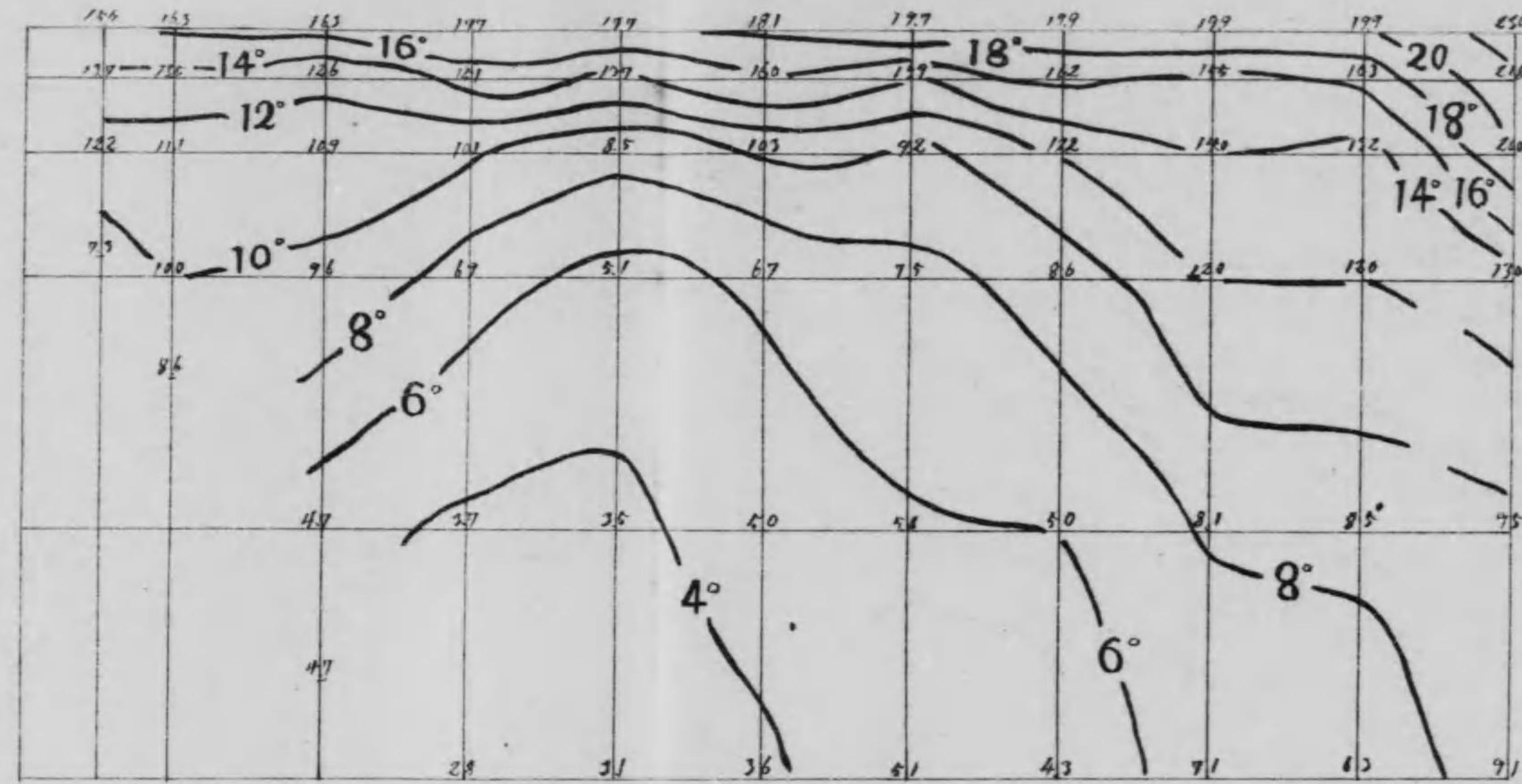
大正八年六月  
水溫垂直分布圖



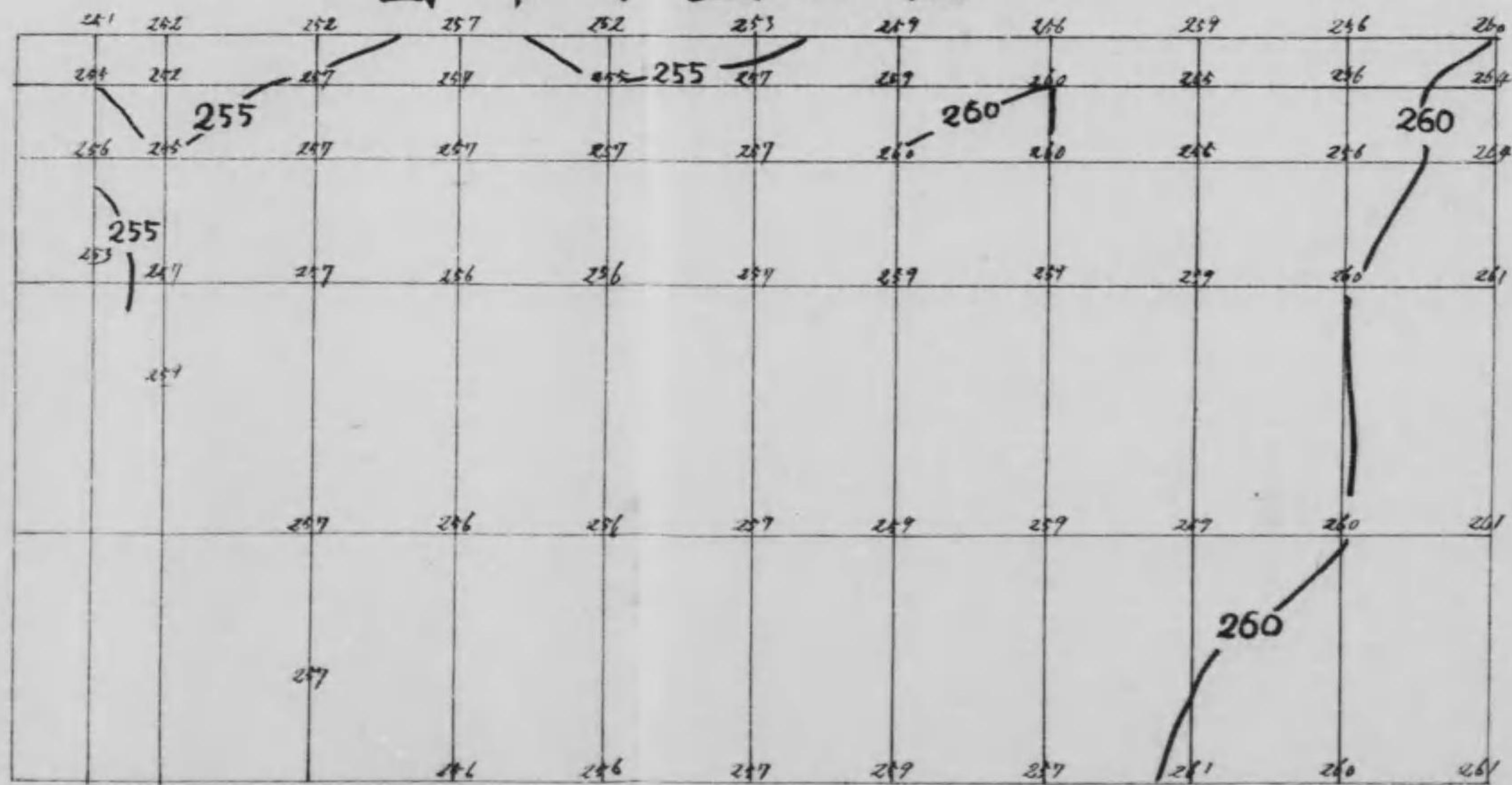
比重垂直分布圖



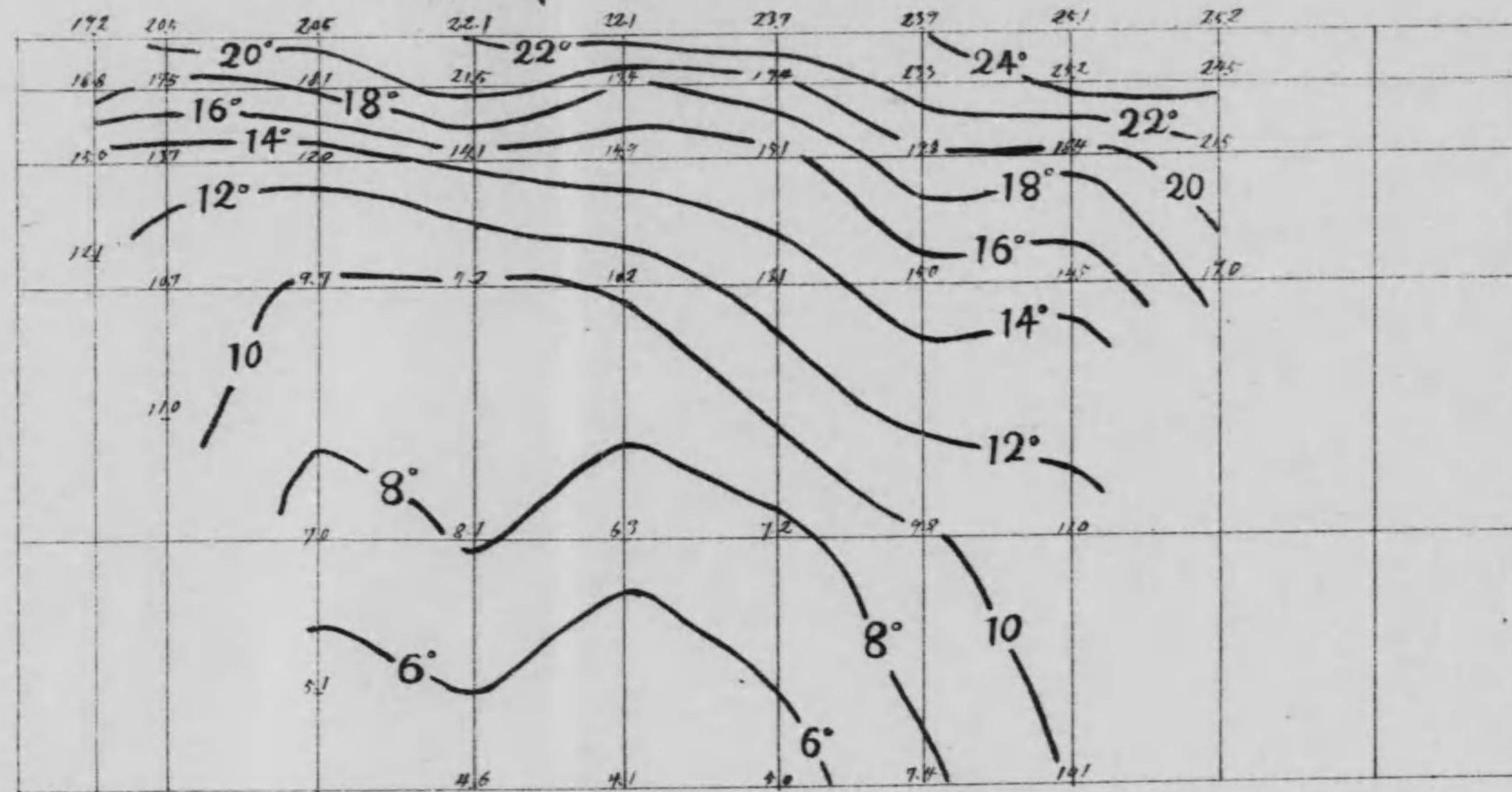
大正八年七月  
水溫垂直分布圖



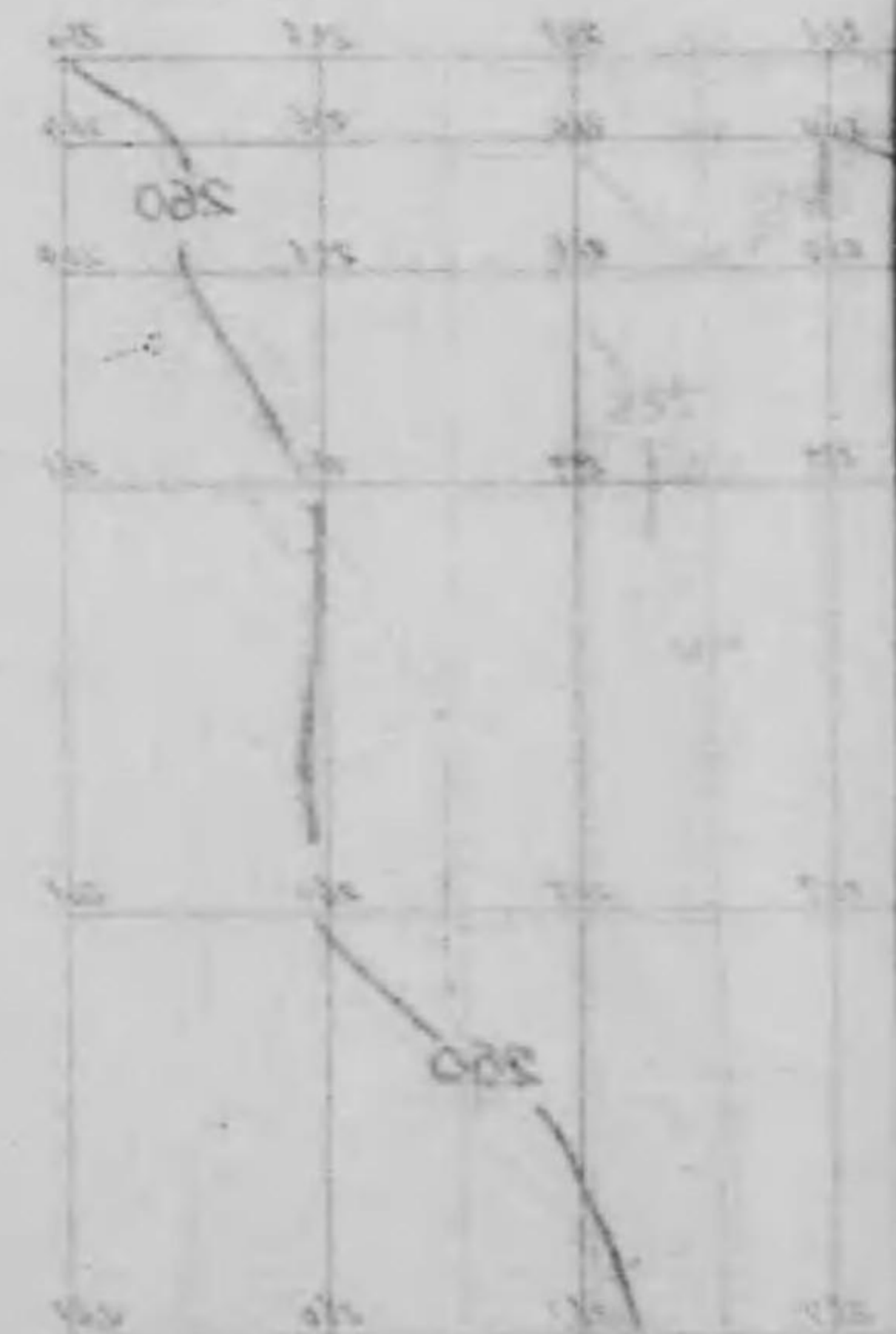
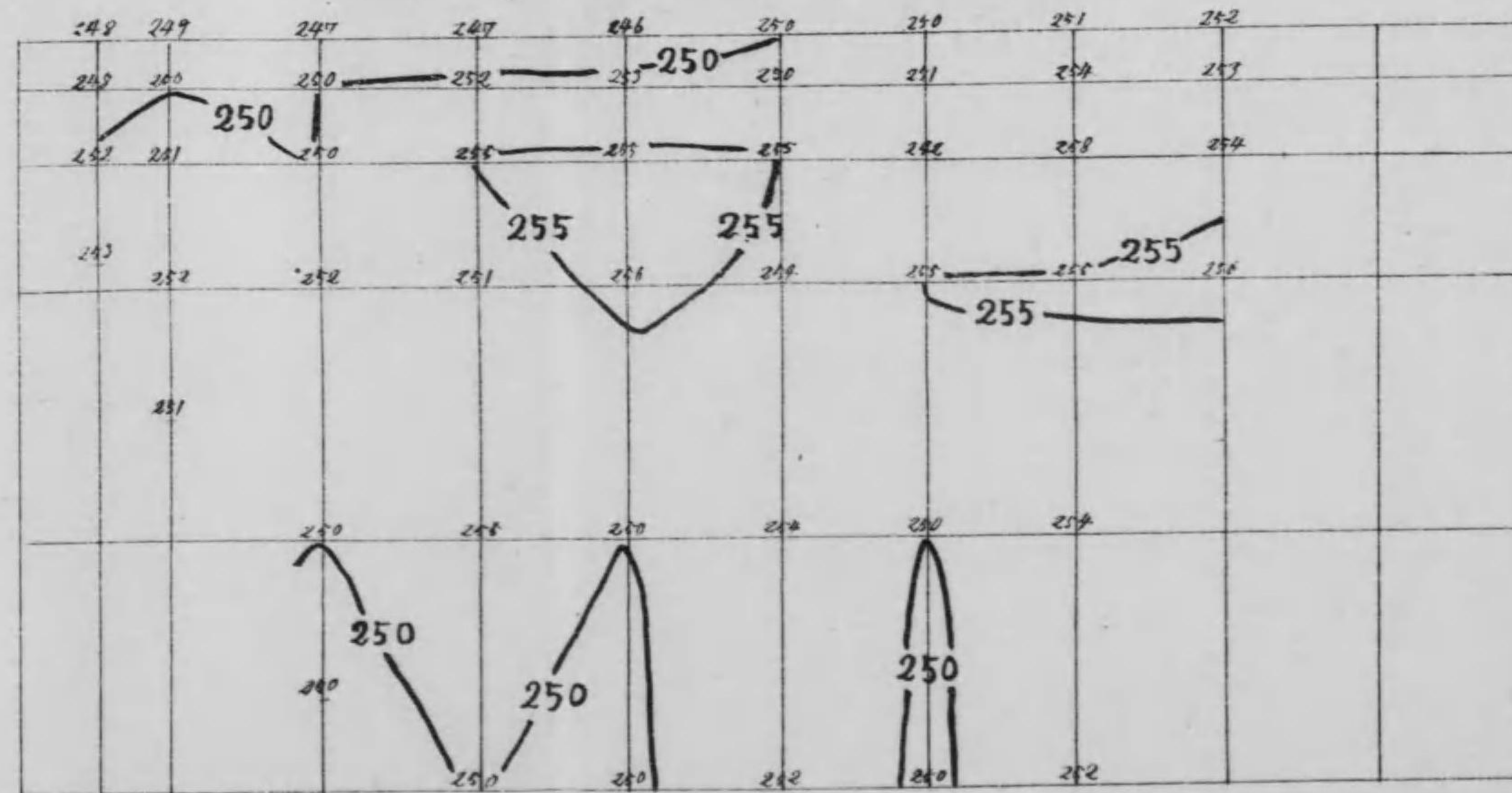
比重垂直分布圖



大正八年八月  
水溫垂直分布圖

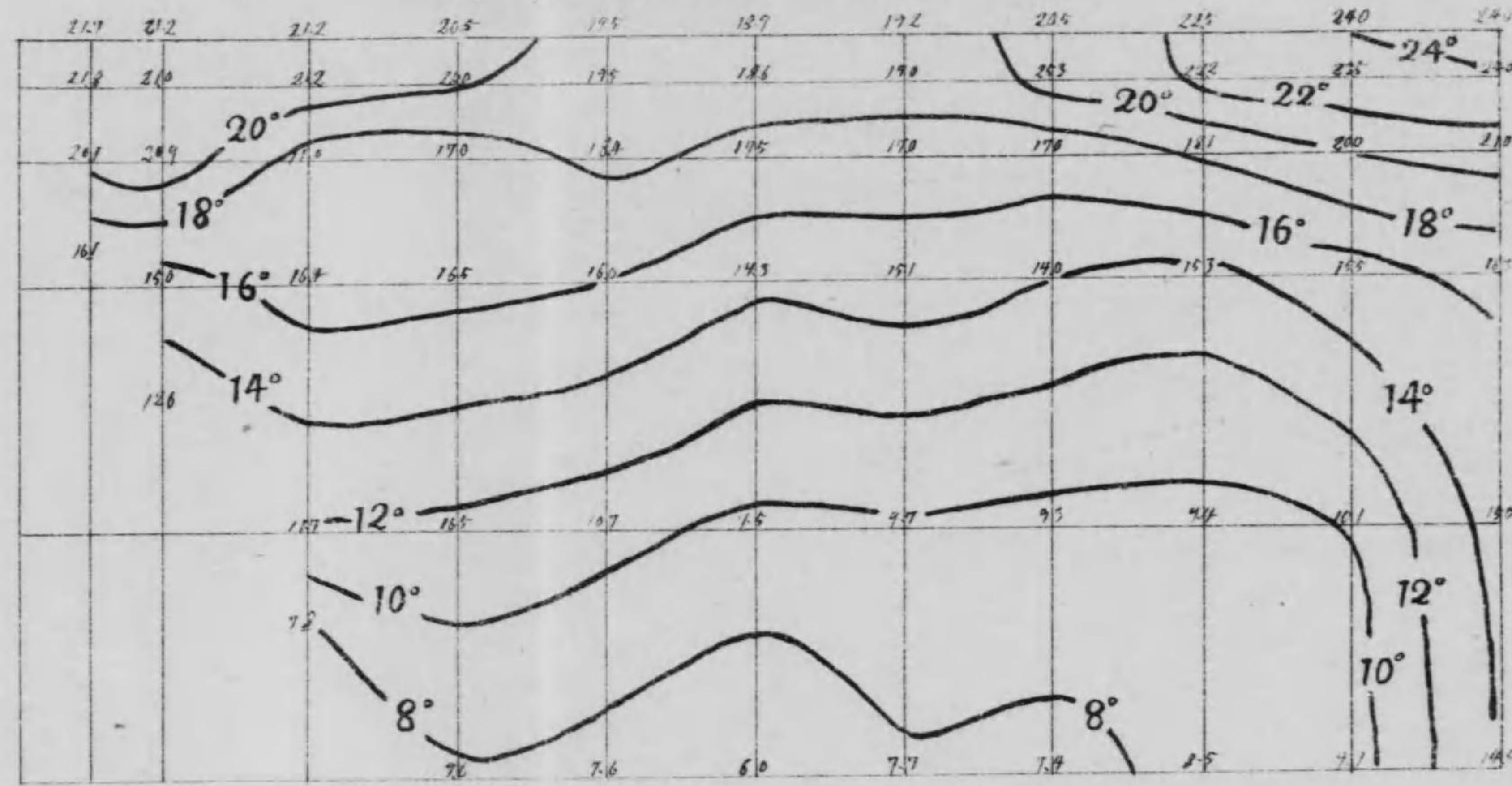


比重垂直分布圖

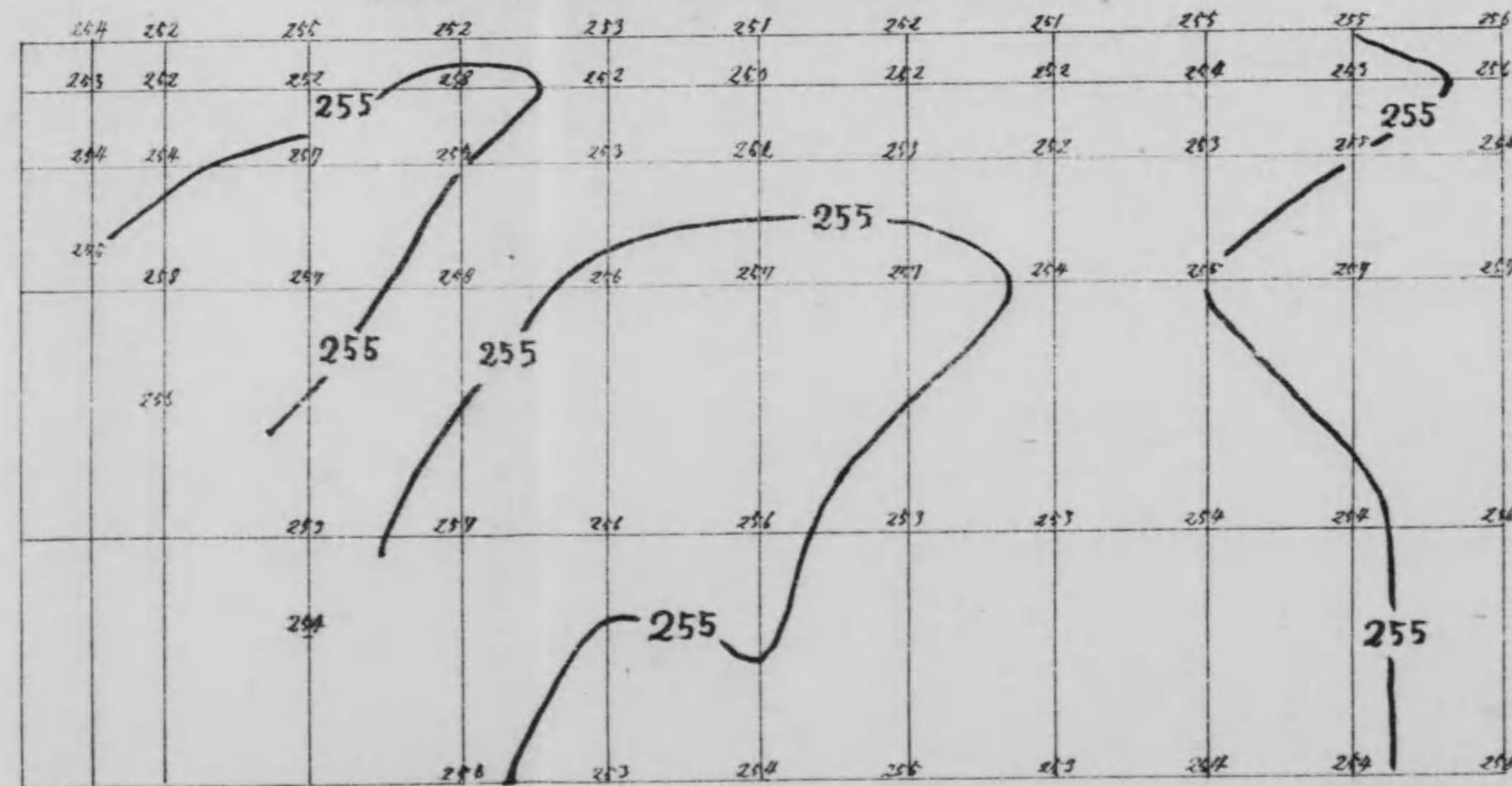




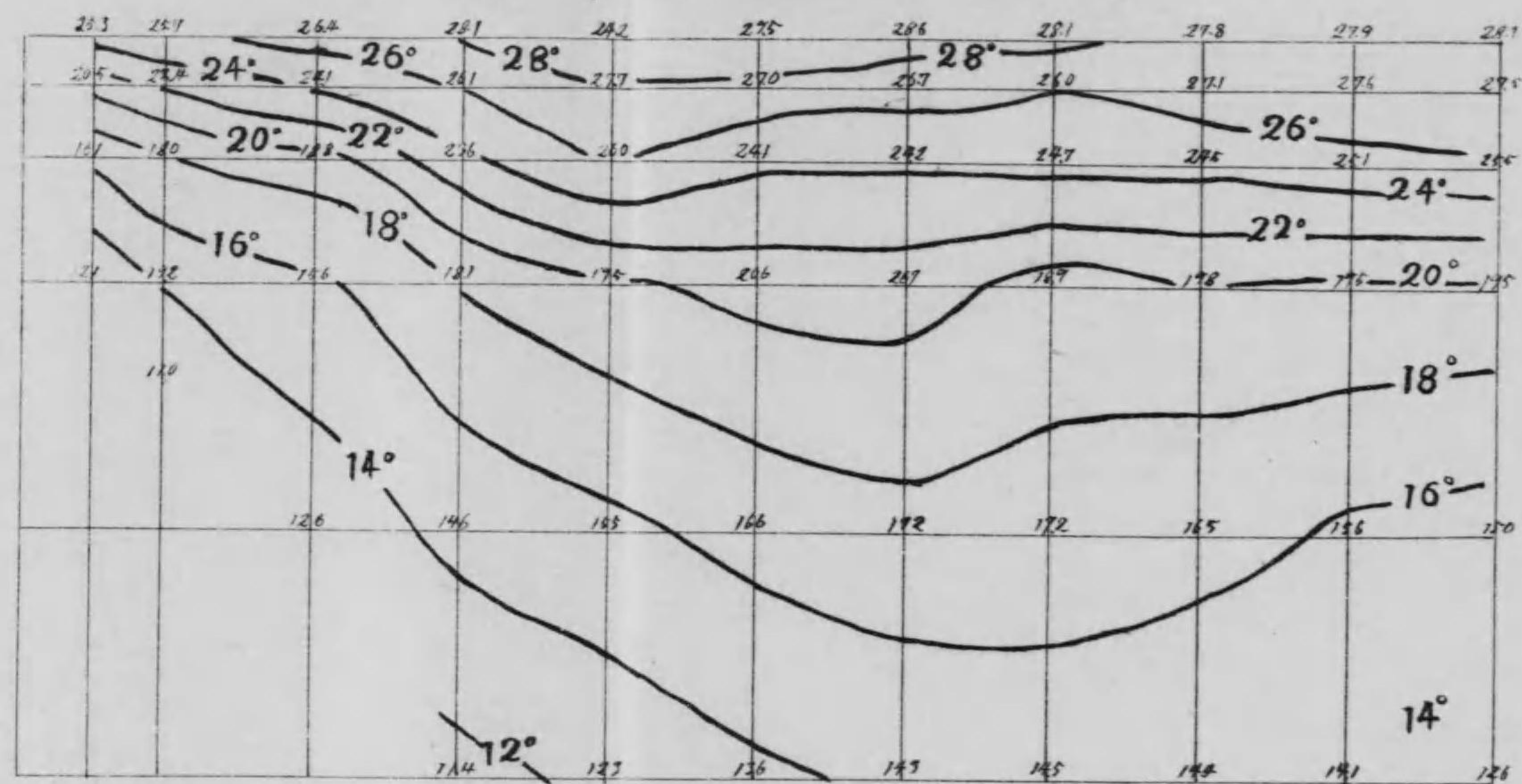
大正八年九月  
水溫垂直分布圖



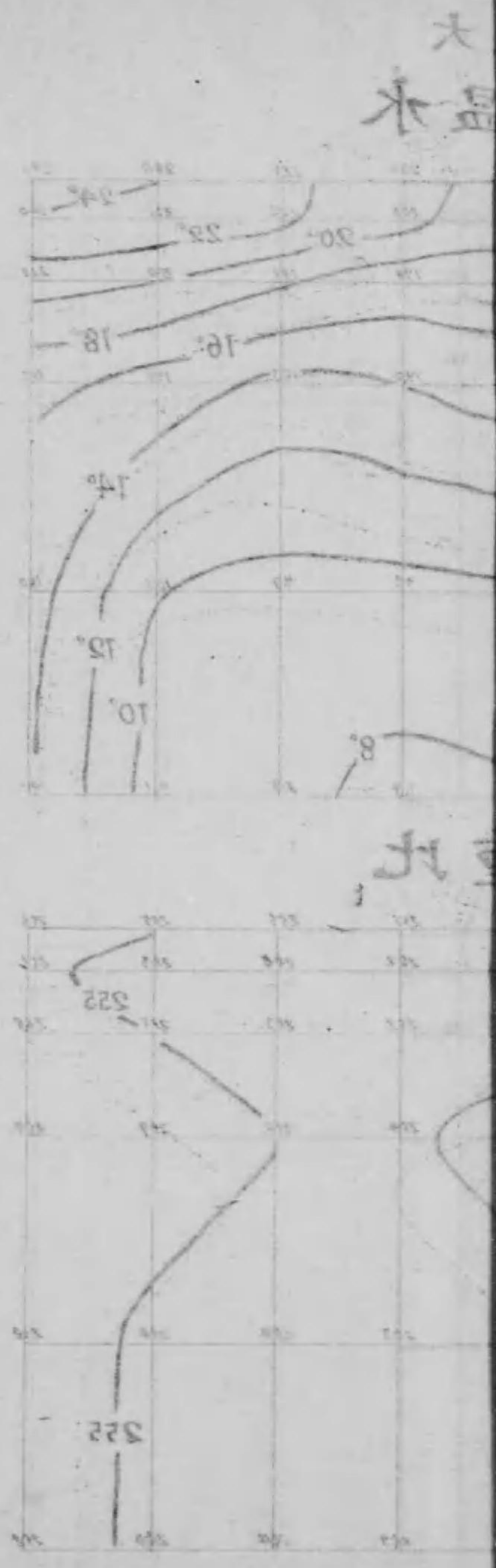
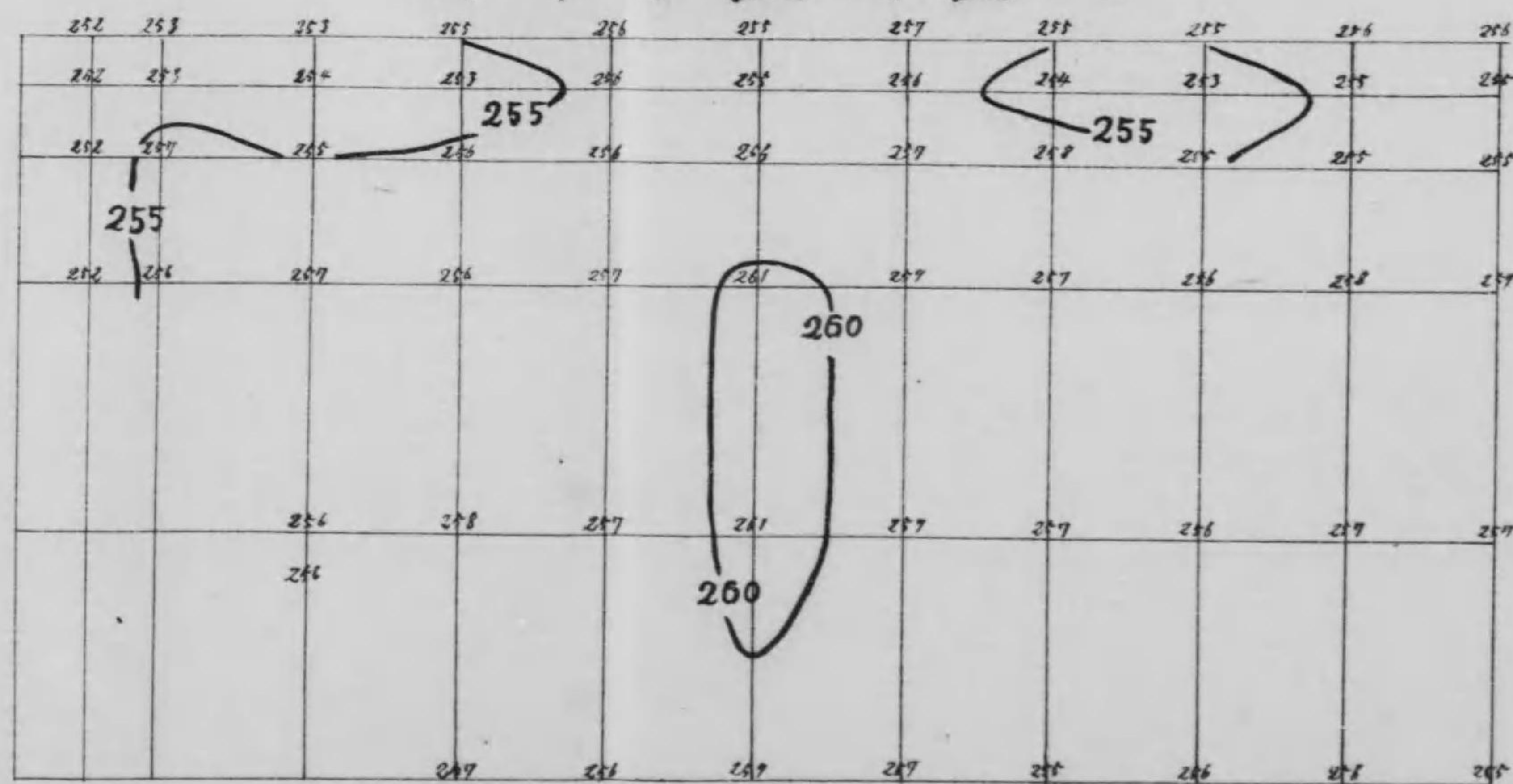
比重垂直分布圖



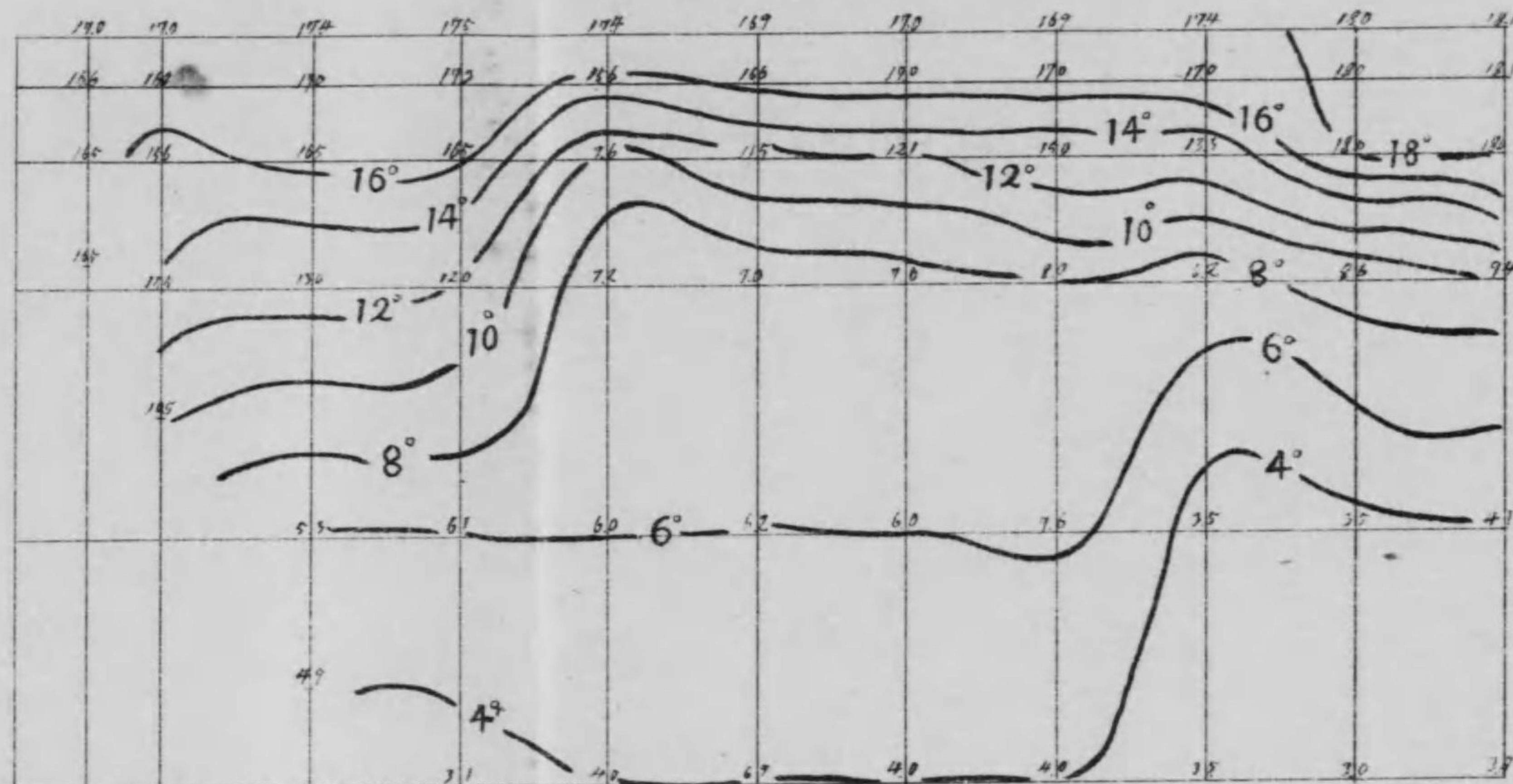
大正八年十月  
水溫垂直分布圖



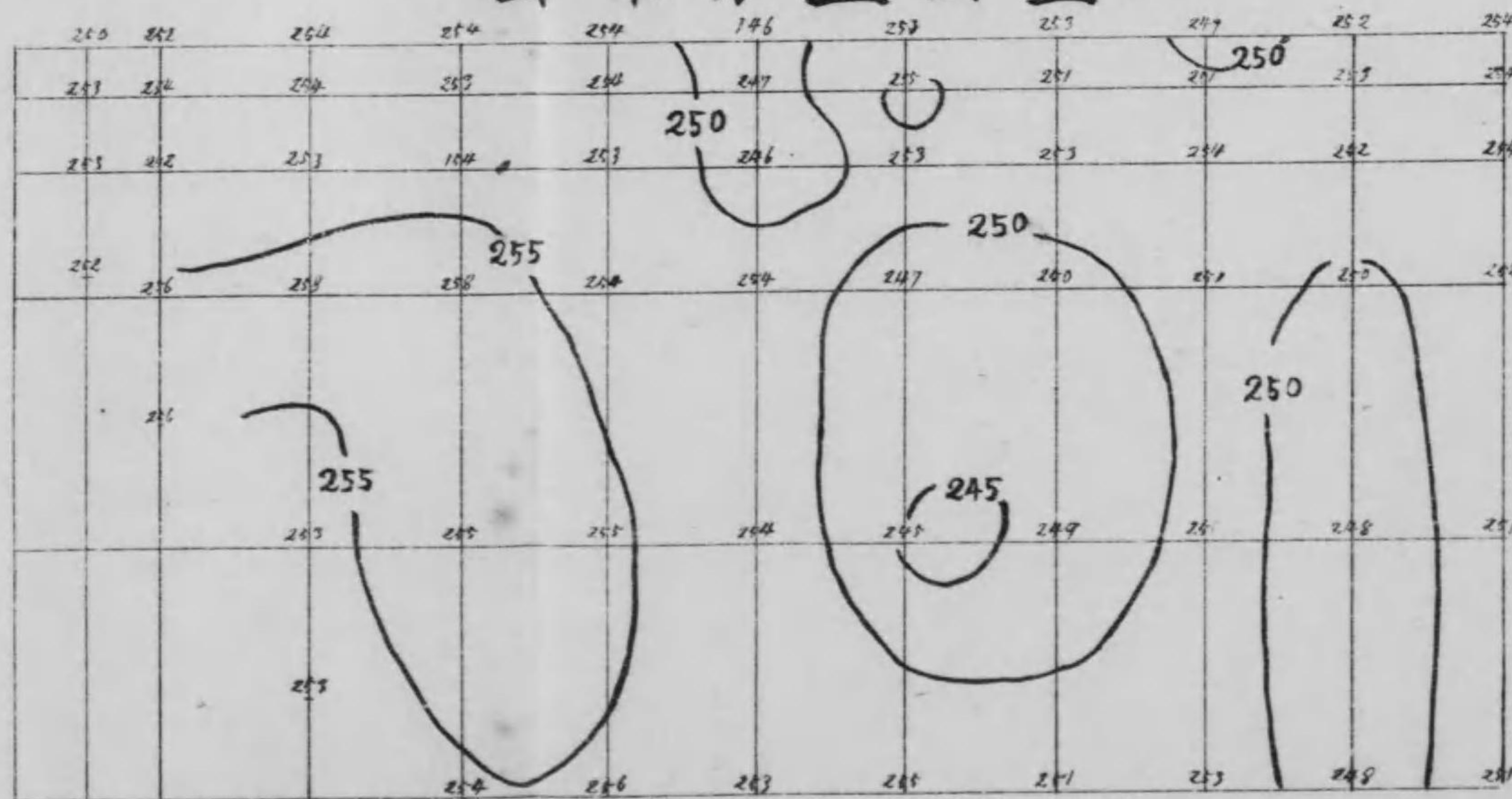
比重垂直分布圖



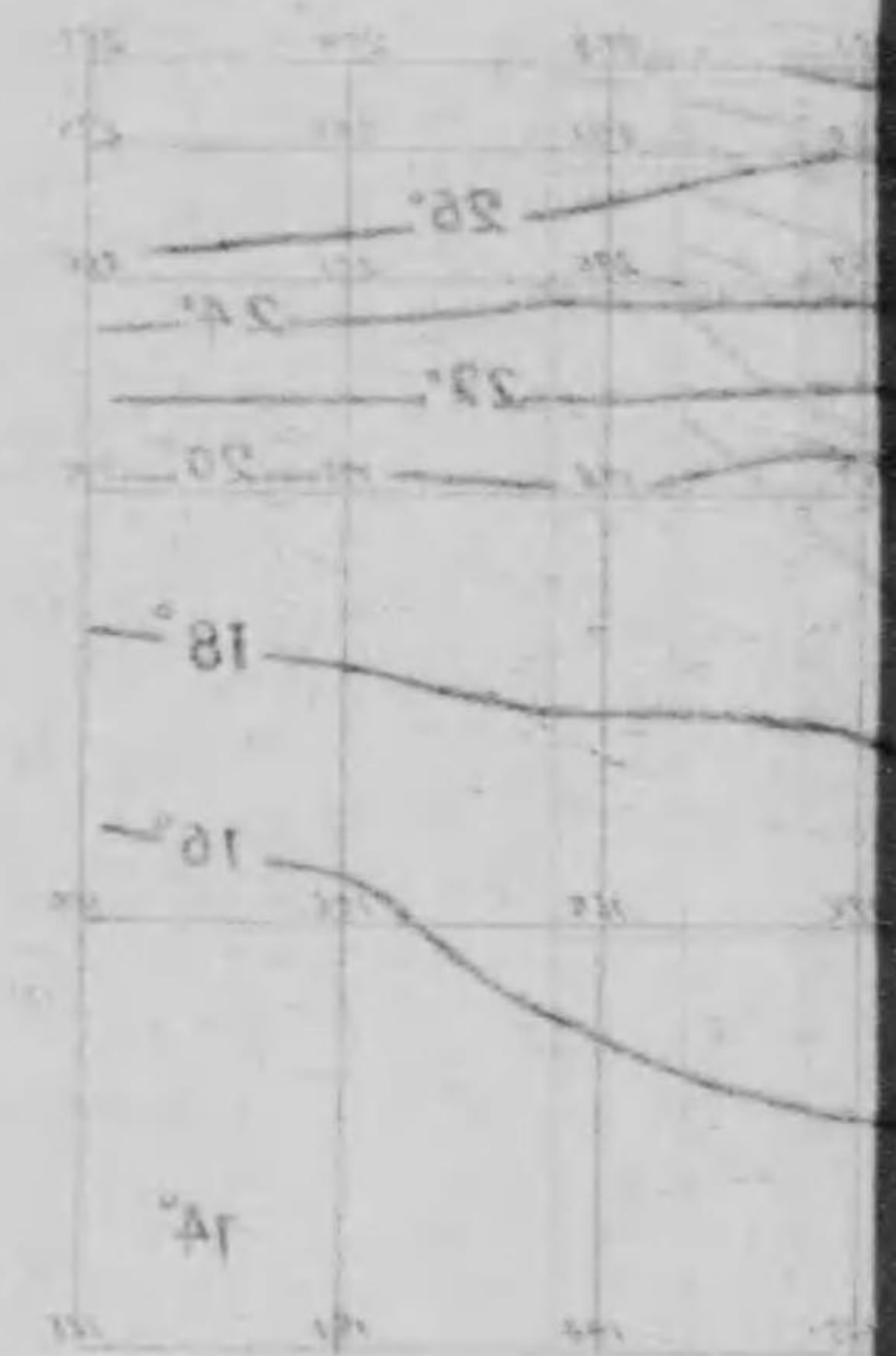
月一十年八正大  
圖布分直垂溫水



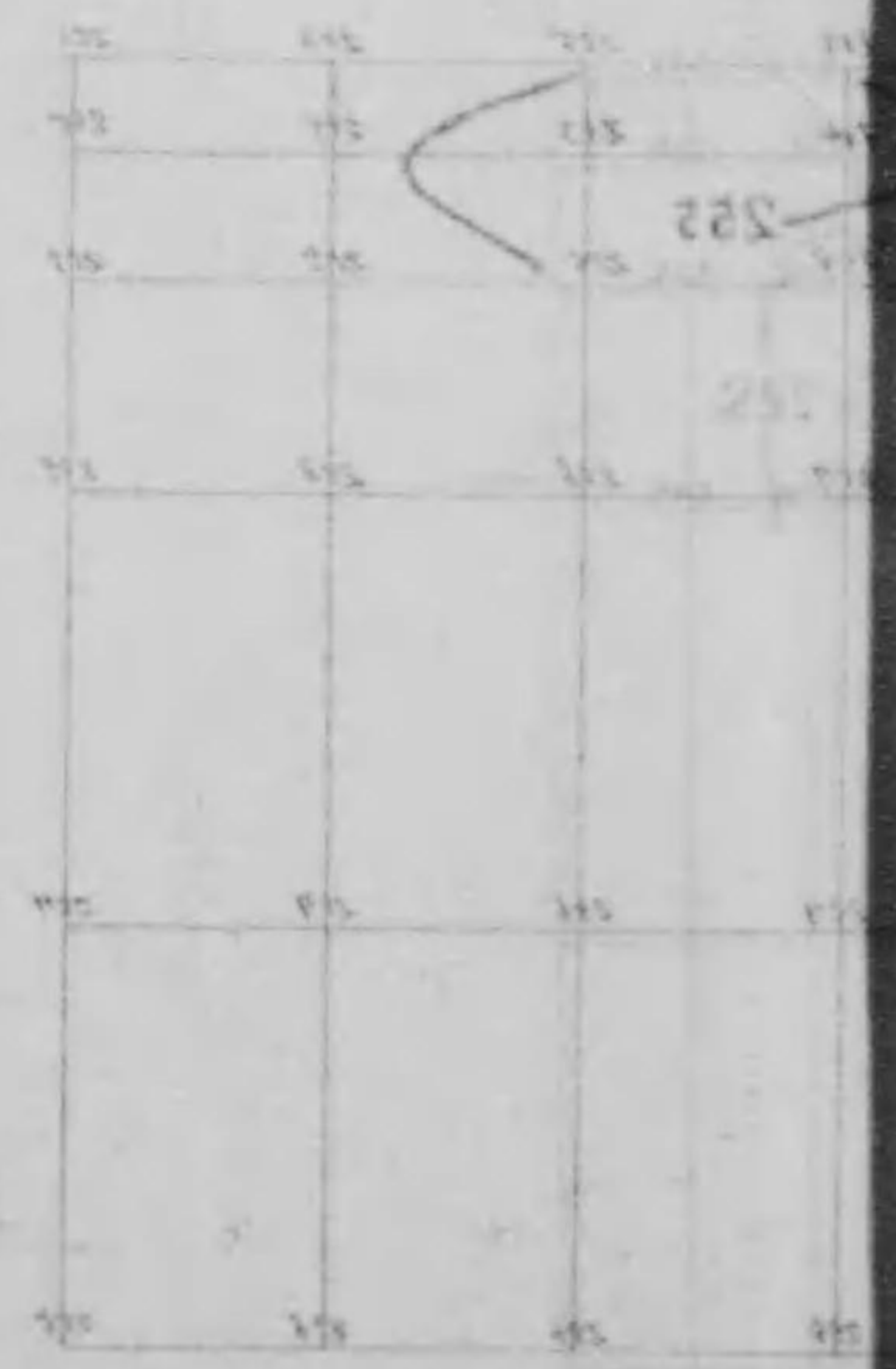
圖布分直垂重比



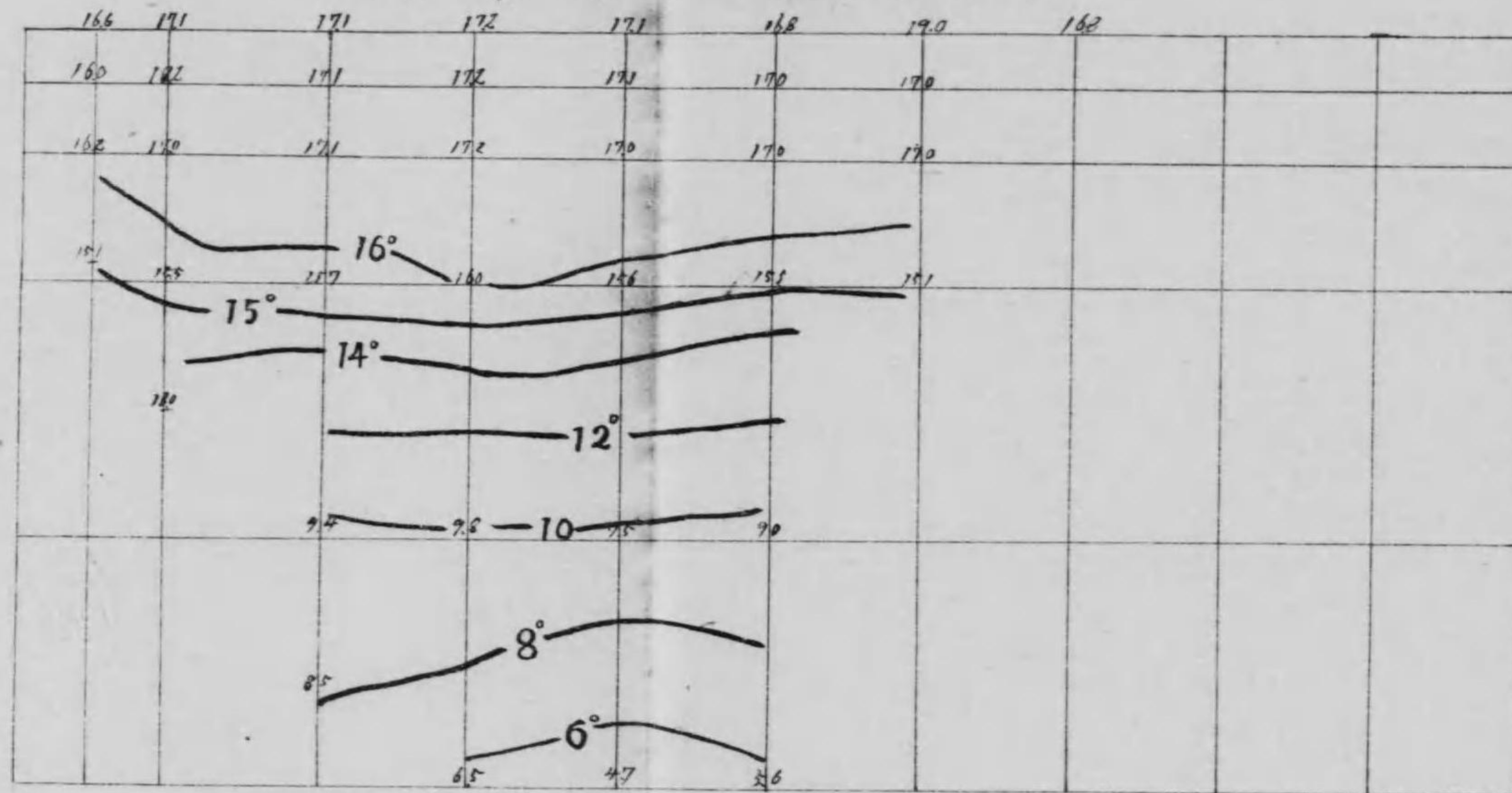
水



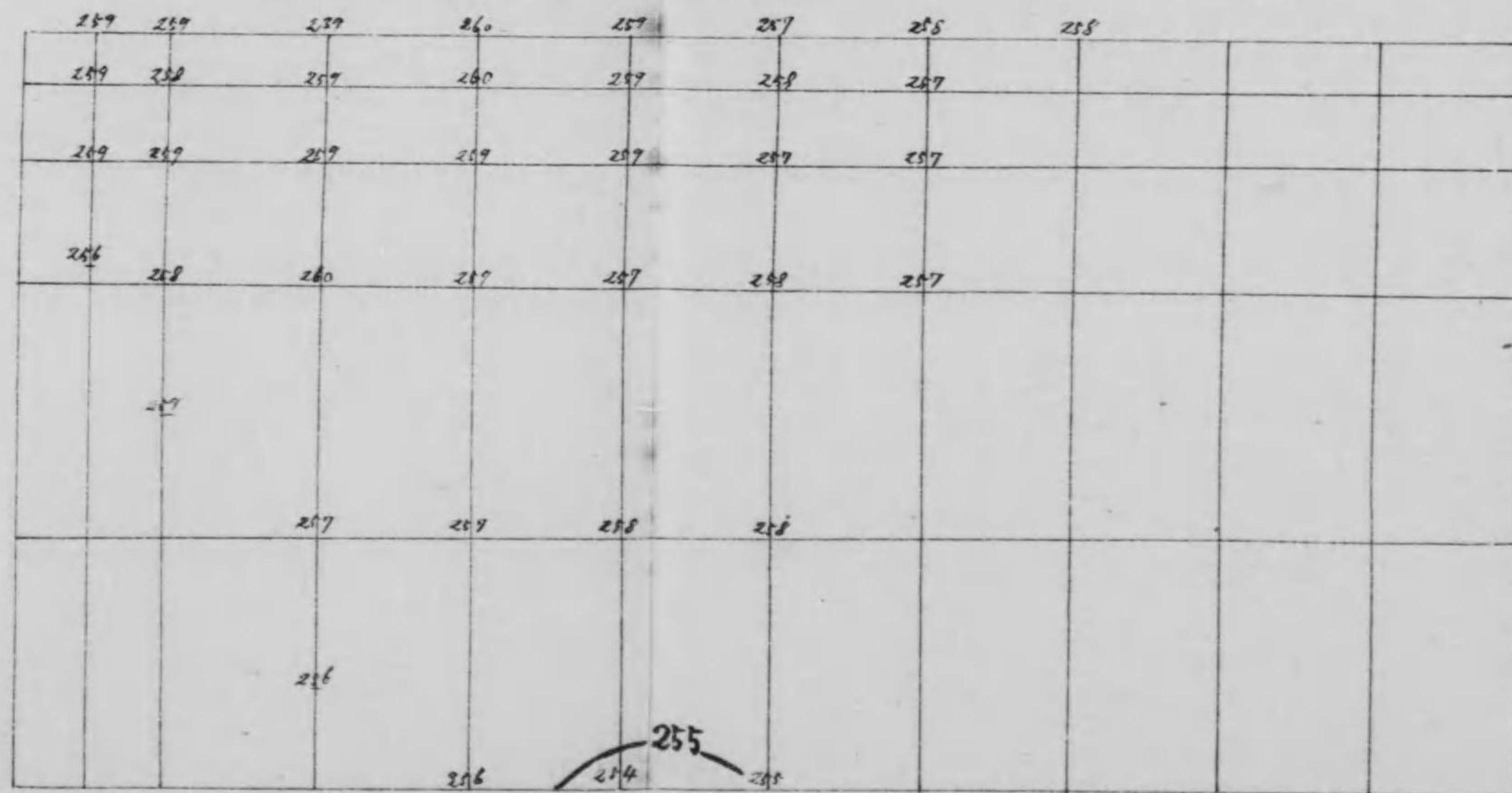
比



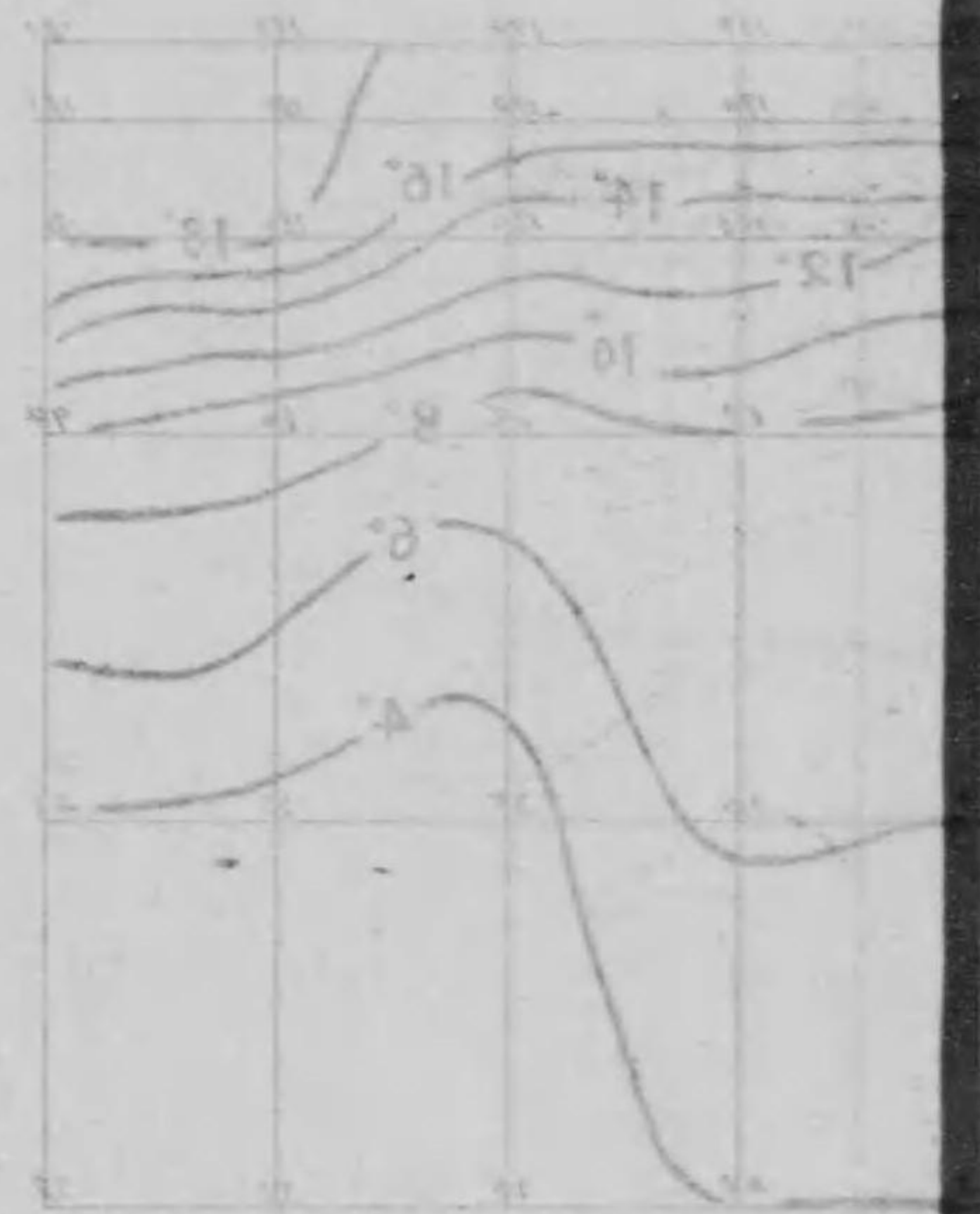
大正八年十二月  
水溫垂直分布圖



比重垂直分布圖



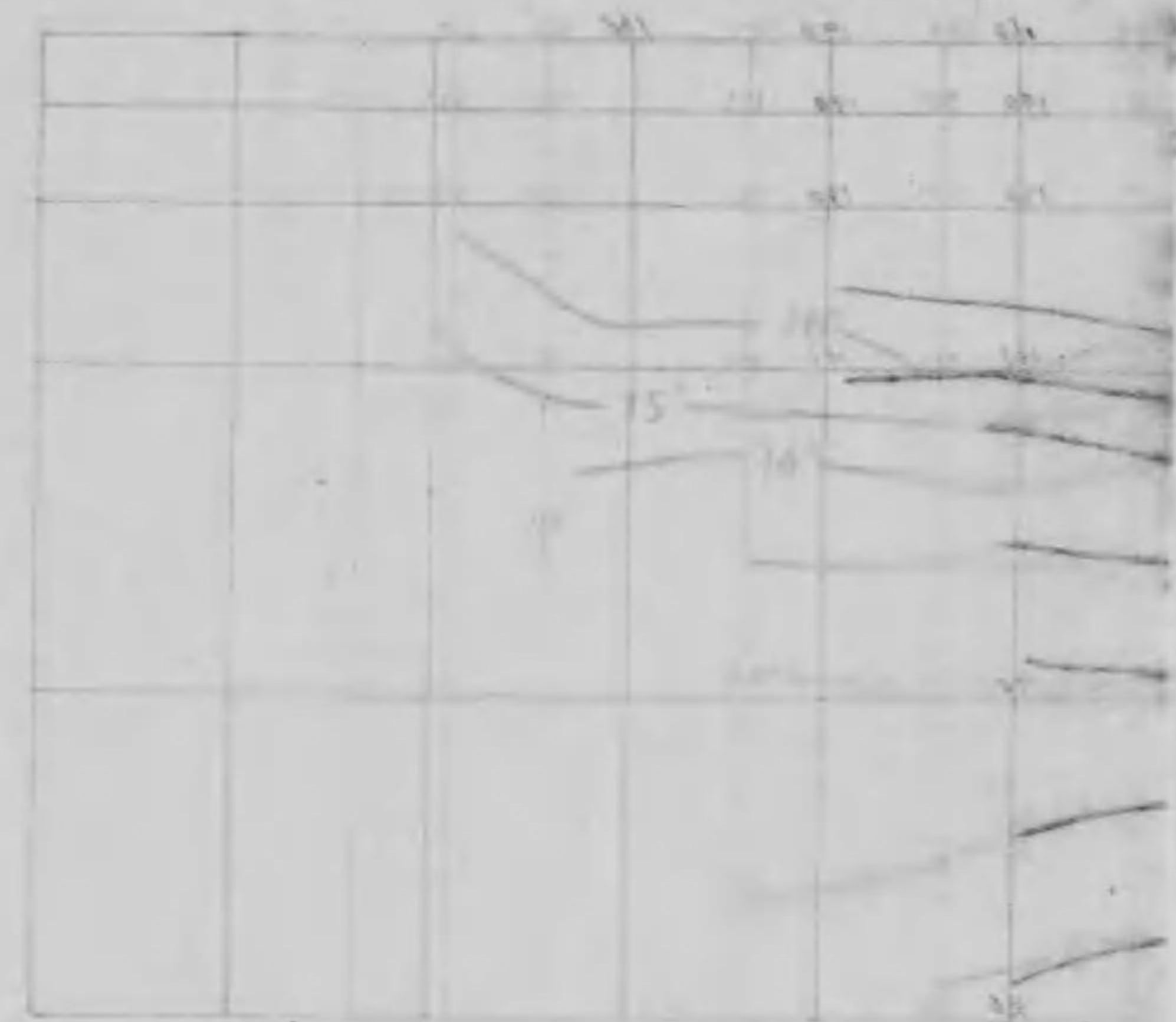
大正  
水溫



比重



大正八年  
直島漁業



直島漁業



鯨ノ僅少ナル漁獲ニ止マリ捕漁業ハ極メテ不結果ニ終レリ  
 鯨漁業ニアリテモ大正七年ニ比シ尾數ニ於テ二十三萬八千七百六十八尾ノ減収ヲ呈シタリ然ルニ價格ニ於テハ却ツテ拾萬四  
 千八拾貳圓ノ増額ヲ表ハシタルハ之物價騰貴ノ必然ノ結果ニ外ナラズシテ昨年ニ比シ不況ナリシハ尾數ノ減収ニ依リ明カナ  
 ルベシ今其ノ概況ヲ記述センニ本年ニ於ケル初漁ハ六月十六日ニシテ水温比較的寒冷ナル爲メ其ノ來游稍々遅延ヲ來シ昨年  
 六月十日ノ初漁ニ比シ六月半年ニ比シテハ一日何レモ本年運キヲ見タリ而シテ六月十八日以來水温ハ急激上昇シ本縣鹽屋崎  
 以南茨城縣沖合ニ至ル距岸七十哩ハ二十度以上ヲ示シ暖流ハ漸次瀾漫シ本縣北岸迄接近シタルモノノ如ク爲メニ鯨群ハ茨城  
 縣川尻距岸六十哩ヨリ百哩ニ亘ル海區ニ廣ク來游シ殊ニ川尻七十哩ノ海區ハ魚群密集シ十九日本縣漁船中五千尾ヲ最多トシ  
 其ノ他平均三四千尾ノ好漁ニシテ之ガ漁況ハ二十二日迄打チ續キ各濱般賑ヲ極メタリシモ午後荒天ト化シ出漁スルヲ得ズ荒  
 天ノ爲メ海水混亂セラレタルタメカ急速ナル出シ眞潮トナリシヲ以テ魚群ハ北方遠洋ニ移動シ潮流急速ナルタメ餌付キ思ハ  
 シカラズ漁況沈頓シテ月末迄ハ各漁村トモ一般ニ閑散ヲ呈シタリ七月七日ニ至リ漁況稍々挽回シ請戸百五十哩ハ比較的良好  
 ニシテ相應ノ漁獲ヲ占メツツアリシガ漁場ハ逐次遠洋ニ偏シ遠キニ二百哩内外ヲ示シ普通百二十哩ニ出漁スルニ至リタル  
 ニ依リ歸港ニ多大ノ日子ヲ費シ從ツテ漁獲物ノ腐敗免レズ依ツテ各漁船ハ水ヲ積載シ鮮度ノ保全ヲ計ルニ至レリ而シテ前記  
 急速ナル出シ眞潮ハ中旬ニ及ビテ漸ク消滅シ水温上昇シ魚群ハ三四十哩ノ近海ニ來遊シ殊ニ請戸三十哩内外ノ海區良好ヲ呈  
 シタルモ十八日以後ハ日歸リニテ少許ノ漁獲ニ止マリ茨城縣川尻、久慈沖合出漁シタルモノハ却ツテ好漁ヲ得同魚群ハ下旬  
 ニ至リ本縣沿岸一帶ニ浮流セシニ八月初旬ニ及ビテ水温著シク上昇スルヤ鹽屋崎五六哩ノ極メテ沿岸ニ來遊セシカ多クハ餌  
 持チノ爲メ釣獲意ノ如クナラズ十七日前後ハ漁獲全ク中絶セルヲ以テ繫船休漁スルモノ續出セリ此ノ際本場磐城丸ハ銳意調  
 査ヲナシタルニ二十一日四倉二十五哩ニ於テ稍々濃厚ナル魚群ヲ認メ相當ノ漁獲ヲナスニ至リテ中旬來不振ナリシ漁況モ茲  
 ニ於テ再度活氣ヲ呈シタルモ下旬ニ達シテハ水温俄然上昇ヲ來シ距岸五哩ノ沿岸ニアリテ既ニ二十五度以上ノ示度ヲ見二十  
 五哩ノ海區ハ近年稀ナル實ニ二十八度ノ高温ヲ示シ水温高キニ失シ魚群ハ原釜十五哩乃至三十哩ノ水温比較的寒冷ナル沖合  
 へ移動シ本月ハ概シテ不況ニ終レリ  
 九月ニ入りテ魚群ハ再度四倉、小名濱區間五六哩迄來游シ小名濱漁船ノ如キハ同月二日二回出漁シ稀有ノ豐漁ヲ見各漁船共  
 相應ノ釣獲ヲナシツツアリシカ中旬ハ荒天ノ襲フ所トナリ天候恢復後漁場ハ鹽屋崎二三十哩トナリ二十一日以後月末迄ハ特  
 記スベキ漁事ナク「ソーダ」鯨及鱈ヲ混ゼリ而シテ十月十日頃ヨリ久ノ濱三十哩内外ノ海區好況ヲ示シ一隻最多五千八百尾最  
 少一千二百尾ノ漁況ナリシモ永續セズ十一月ニ入りテハ十日前後迄平均二三百尾ノ釣獲ニシテ以後水温低下スルト共ニ見ル  
 可キ漁事ナク本年度鯨漁業ハ十一月十七日全ク終漁ヲ告ゲタリ  
 秋刀魚漁業ハ本縣沖合ニ於ケル漁獲高極メテ少ク其ノ大部分ハ岩手縣沖合ニ於テ收メタルモノニシテ本年ハ概シテ不況ニ終

レリ其ノ概況ヲ示サシ本年九月以來ノ暖流卓越セシヲ以テ漁期ニ入りテモ水温依然トシテ高ク寒流ハ宮城縣沖合ヨリ東方ニ走リタルモノノ如ク魚群ハ初期以來若手縣沖合ニ密集シ未曾有ノ豐漁ヲ呈シタリ而シテ宮城縣沖合ヨリ東進シタル寒流ハ本縣遙カ沖合ヨリ茨城縣沿岸ヘ一支流ヲ分派シタルモノノ如ク同縣沖合モ相當ノ好況ヲ呈シ本縣及ヒ宮城縣ハ概シテ不結果ニ終レリ

(チ) 海流調査(浮流堰投入)

一、堰ノ構造

「ビール」空壇ヲ使用シ頭部ニ白「ペンキ」ヲ塗布シ以テ發見ヲ容易ナラシメ堰中ニハ浮上スル程度ニ砂ヲ入レ報告用端書(印刷シタルモノ)ヲ白紙ニテ之ヲ細ク巻キ細絲ニテ懸垂シ然ル後「コルク」栓ヲ以テ密封シ更ニ赤「チャン」及ビ白「ペンキ」ヲ以テ浸水ノ慮ナキ様密封セリ

二、投入月日時及場所、個數

本調査ハ本年四月以來左記ノ通り前後四回ニ亘リ百五十個投入試行セリ

投入月日時	投入場所	投入個數	番號及個數	天候概況
大正八年四月一日午前十一時四十分	鹽屋崎東二十湮	自一號 至十號	十個	西疾風晴
同 日午後六時四十分	同	自十一號 至三十號	二十個	北東疾風快晴
同 七月一日午後三時二十分	同	自三十一號 至五十號	二十個	北東疾風快晴
同 日午後十一時〇分	同	自五十一號 至七十號	二十個	北東和風晴
同 二日午前七時〇分	同	自七十一號 至九十號	二十個	北東和風曇
同 十月三日午前十時四十五分	同	自九十一號 至百號	十個	北和風雨
同 日午後七時〇分	同	自百一號 至百十號	十個	北東疾風快晴
同 同四日午前四時十五分	同	自百十一號 至百二十號	十個	北北東強風晴
同 十一月七日午後一時二十五分	同	自百二十一號 至百三十號	十個	南東和風快晴
同 日午後七時五十五分	同	自百三十一號 至百四十號	十個	東南東和風曇
同 八日午前六時四十分	同	自百四十一號 至百五十號	十個	南東和風曇
計			百五十個	

三、拾得月日時及場所

本年ハ前後四回ニテ計百五十個投入セシカ左記ノ通り計十一個發見拾得セリ

壘番號	月日時	場所	拾得	場所
一	四月一日午前十一時四十分	鹽屋崎正東二十湮	一	同
二	同	同	一	同
三	同	同	一	同
四	同	同	一	同
五	同	同	一	同
六	同	同	一	同
七	同	同	一	同
八	同	同	一	同
九	同	同	一	同
一〇	同	同	一	同
一一	四月一日午後六時四十分	同六十湮	一	同
一二	同	同	一	同
一三	同	同	一	同
一四	同	同	一	同
一五	同	同	一	同
一六	同	同	一	同
一七	同	同	一	同
一八	同	同	一	同
一九	同	同	一	同



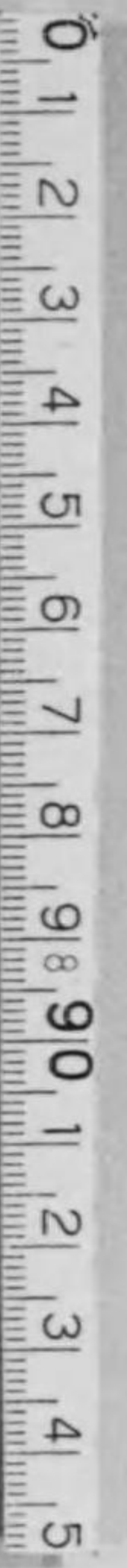
九三	九四	九五	九六	九七	九八	九九	一〇〇	一〇一	一〇二	一〇三	一〇四	一〇五	一〇六	一〇七	一〇八	一〇九	一一〇	一一一	一一二	一一三	一一四	一一五	一一六	一一七	一一八
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
								同日午後七時〇分																	
								同六十湮																	

十月十五日 茨城縣多賀郡高鈴村海岸

六九	七〇	七一	七二	七三	七四	七五	七六	七七	七八	七九	八〇	八一	八二	八三	八四	八五	八六	八七	八八	八九	九〇	九一	九二
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
		同日午前七時〇分																					
		同百湮																					

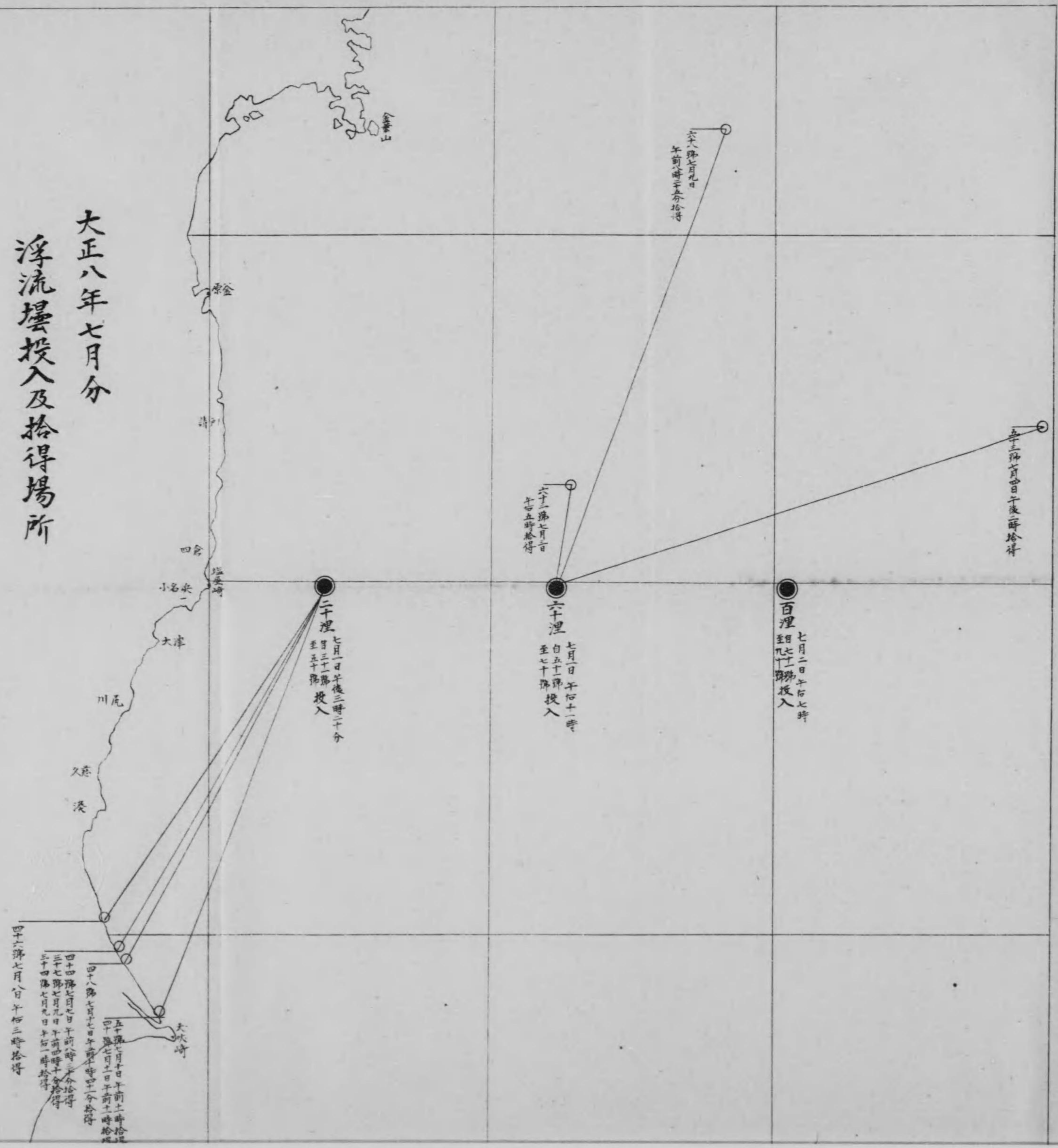






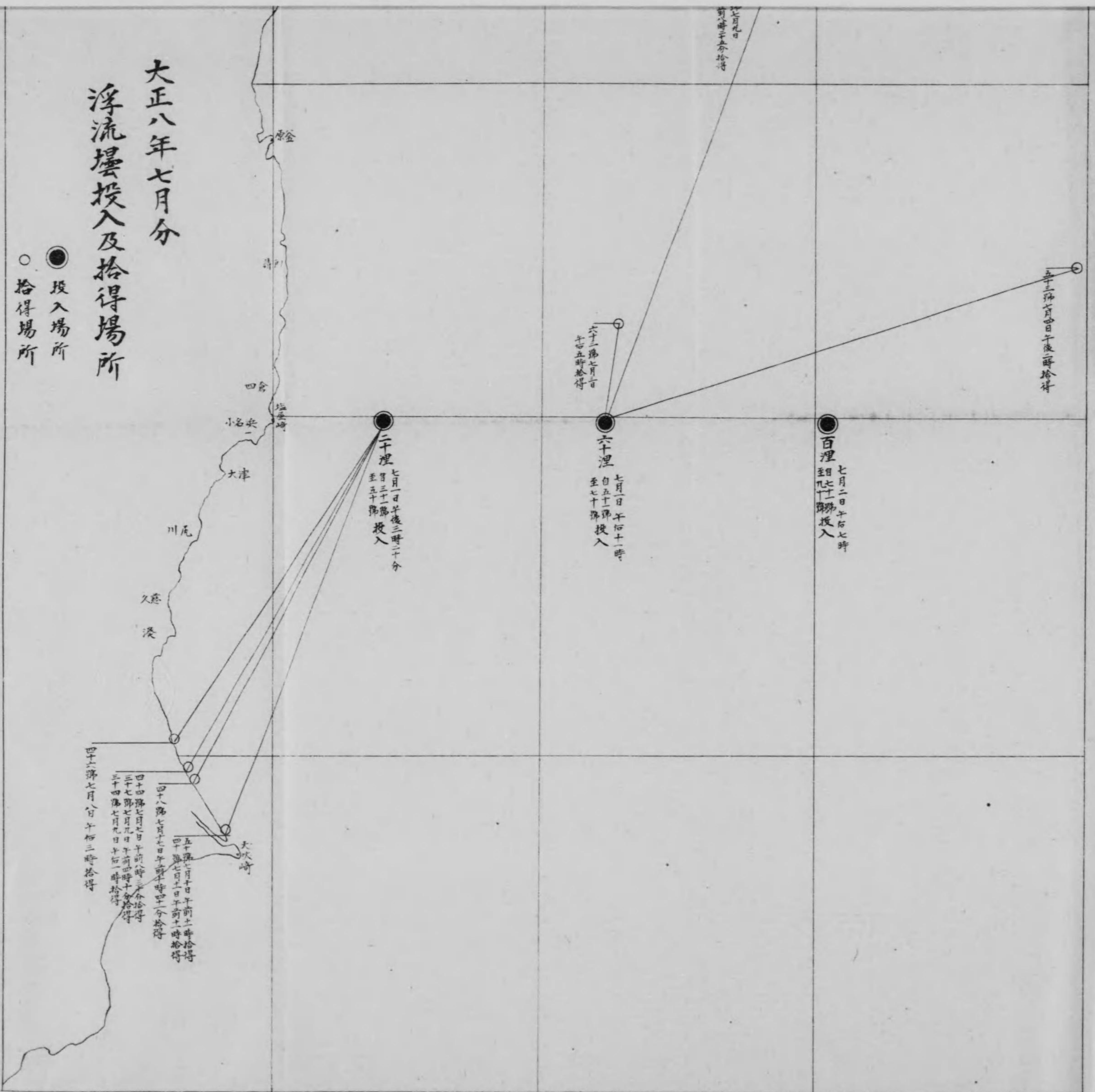
# 大正八年七月分 浮流罾投入及拾得場所

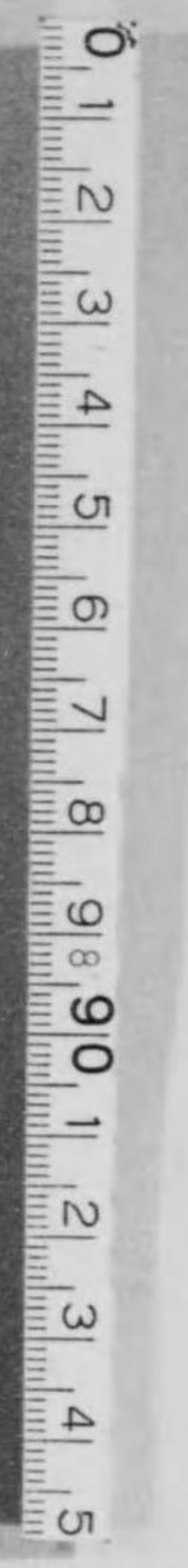
● 投入場所  
○ 拾得場所



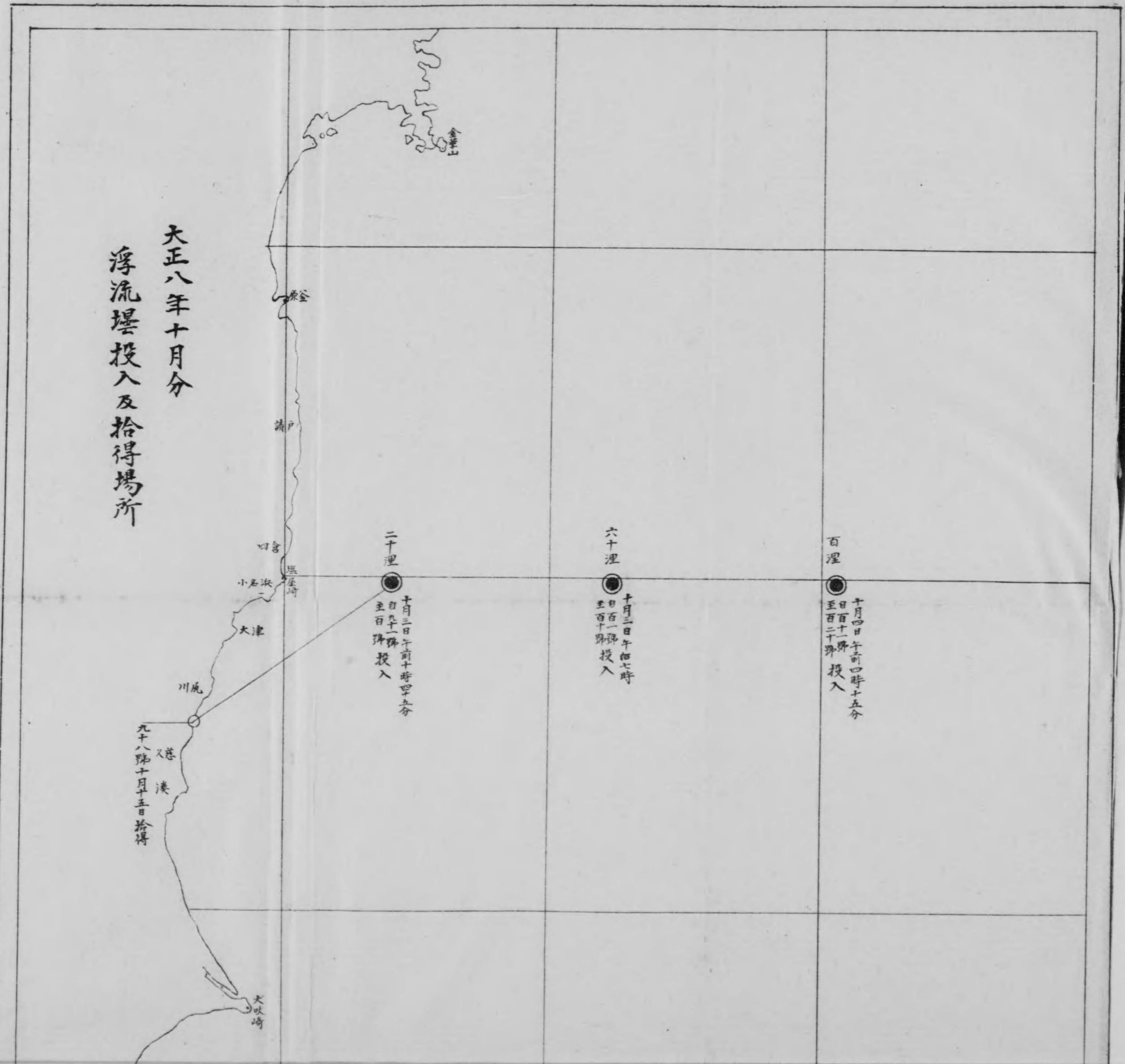
大正八年七月分  
浮流層投入及拾得場所

● 投入場所  
○ 拾得場所

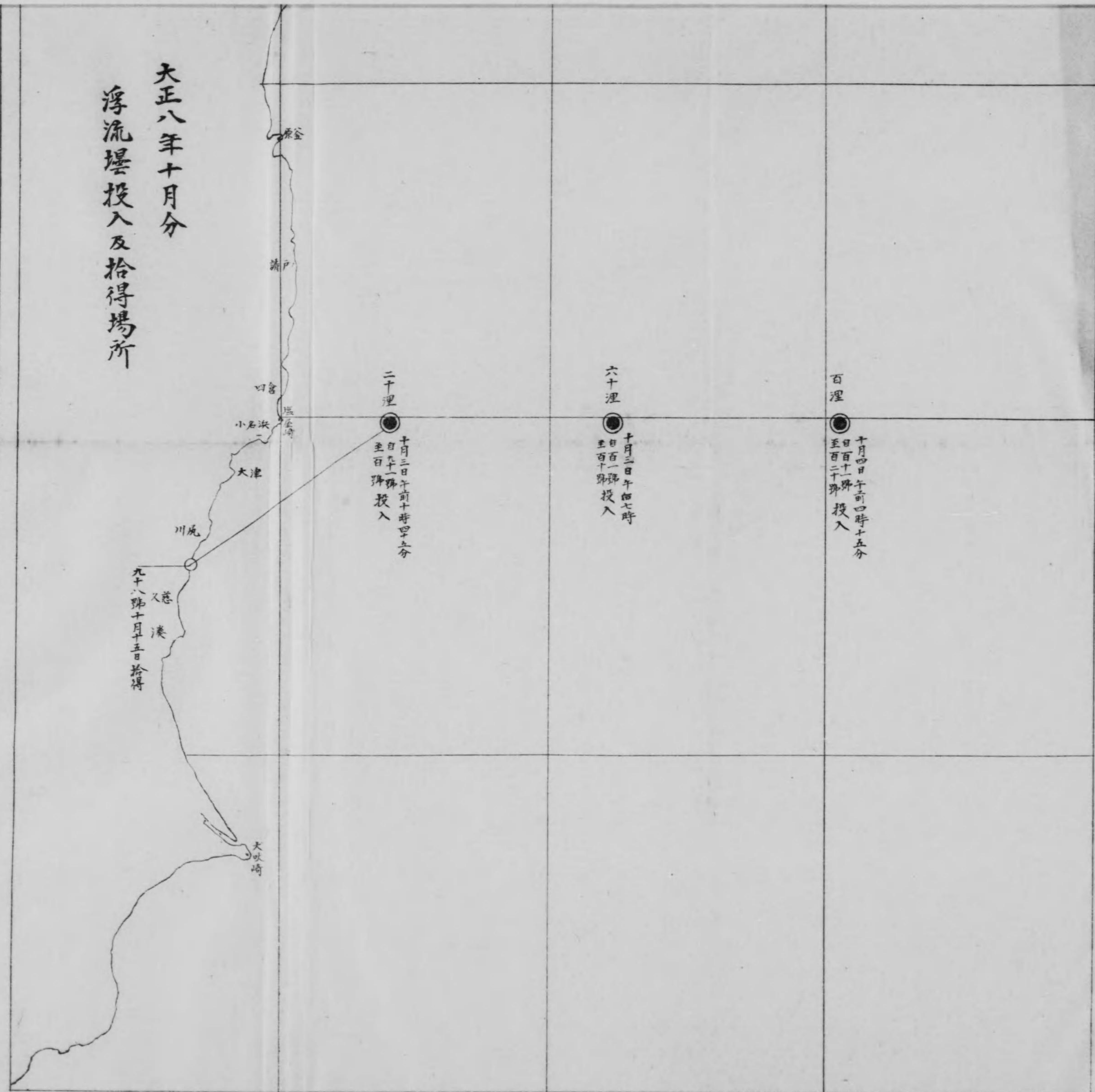




大正八年十月分  
浮流堰投入及拾得場所



大正八年十月分  
浮流堰投入及拾得場所



観測回数及観測時

一四二	同
一四三	同
一四四	同
一四五	同
一四六	同
一四七	同
一四八	同
一四九	同
一五〇	同

|||||  
|||||

浮流場ハ四月分投入三十個拾得零七月分投入六十個ニ對シ拾得十個即チ六分ノ一十月投入三十個拾得一個三十分ノ一十一月ハ投入三十個拾得零ニシテ計百五十個ニ對シ十一個ノ拾得即チ十五分ノ一ニ過ギザルヲ以テ充分ナル海流ノ方向ヲ考察シ得ザレトモ大體ニ於テ左記ノ狀況ヲ知り得ベシ

七月中寒流ノ餘派ヲ受ケタル沿岸流ハ金華山ヨリ本縣沿岸ヲ洗ヒ茨城縣沿岸ニ向ヒシモノノ如ク暖流ハ犬吠崎ニ接シ北北東ニ進行シ本縣五六十哩ヨリ金華山沖ニ向ヒシモ岩手縣方面ヨリ來ル寒流ノ影響ヲ受ケ方向ヲ沖合ニ轉セルモノノ如シ

十月中七月同様ニ沿岸水ハ寒流ノ影響ヲ蒙リ南流セルモノノ如ク當時北東ノ風多キヲ以テ陸ニ漂着セルモノノ如シ沖合ハ拾得場ナキヲ以テ推スルヲ得ザレトモ當時ノ觀測ニ依レハ暖流ハ本縣沖ヨリ北東ニ去リシモノノ如シ

四月、十一月ハ拾得場ナキヲ以テ海流ノ狀況ヲ推斷シ得ズモ前同様ニ沿岸流ハ偏南シ沖合ハ偏北セルモノト推シ大差ナカラシ

一、沿岸海洋觀測

(一)小名濱網取崎沖合海洋觀測(大正八年)

助手 松澤勇吉

觀測點 石城郡小名濱町網取崎南西一哩水深十五呎  
觀測回数及観測時 月六回午前十時

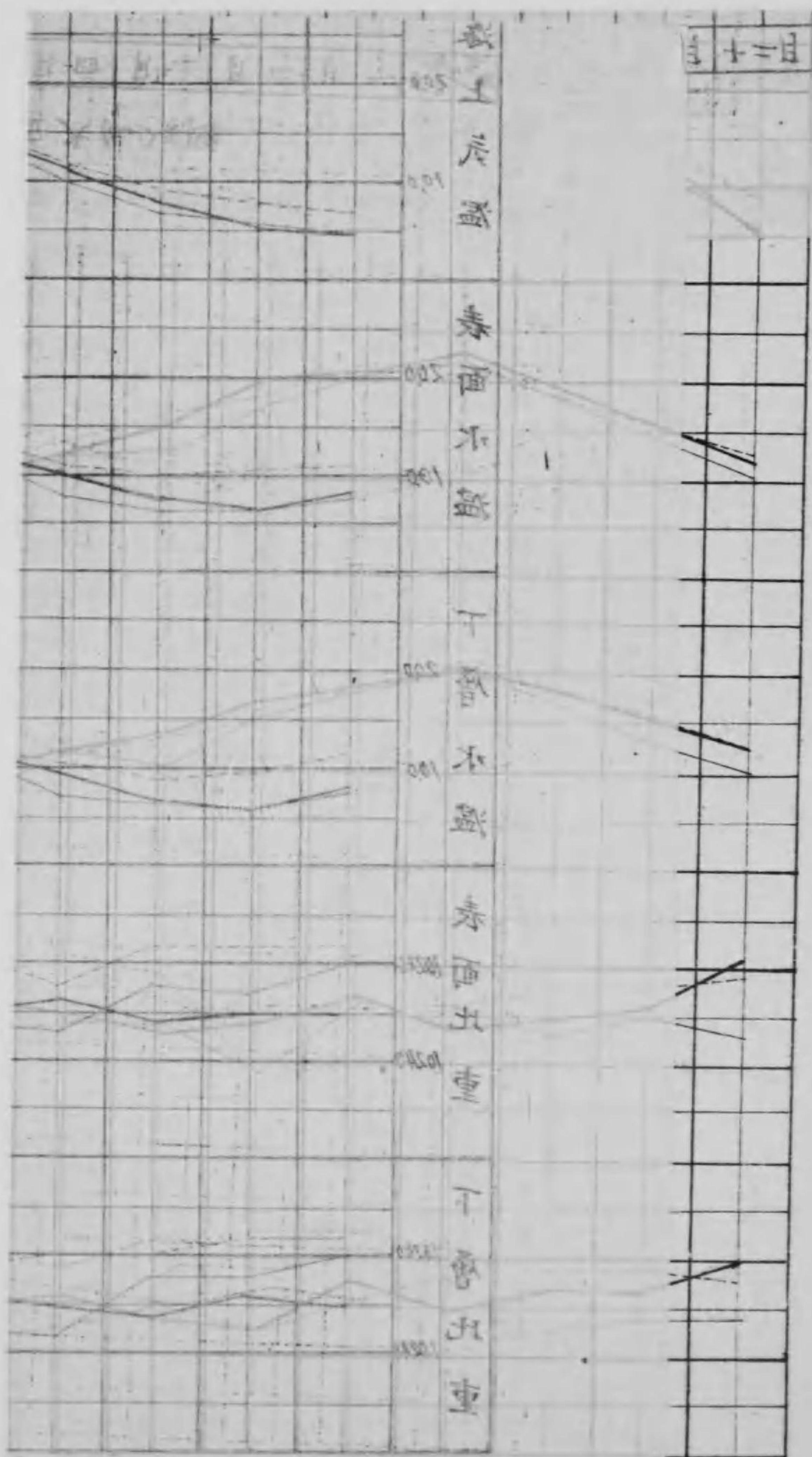
觀測概況

本年觀測セシ海洋ノ概況ヲ觀ルニ水温ハ前年ニ比シ表面及ビ下層トモ概シテ高ク表面ノ年平均ハ十四度二分ヲ示シ下層ハ十





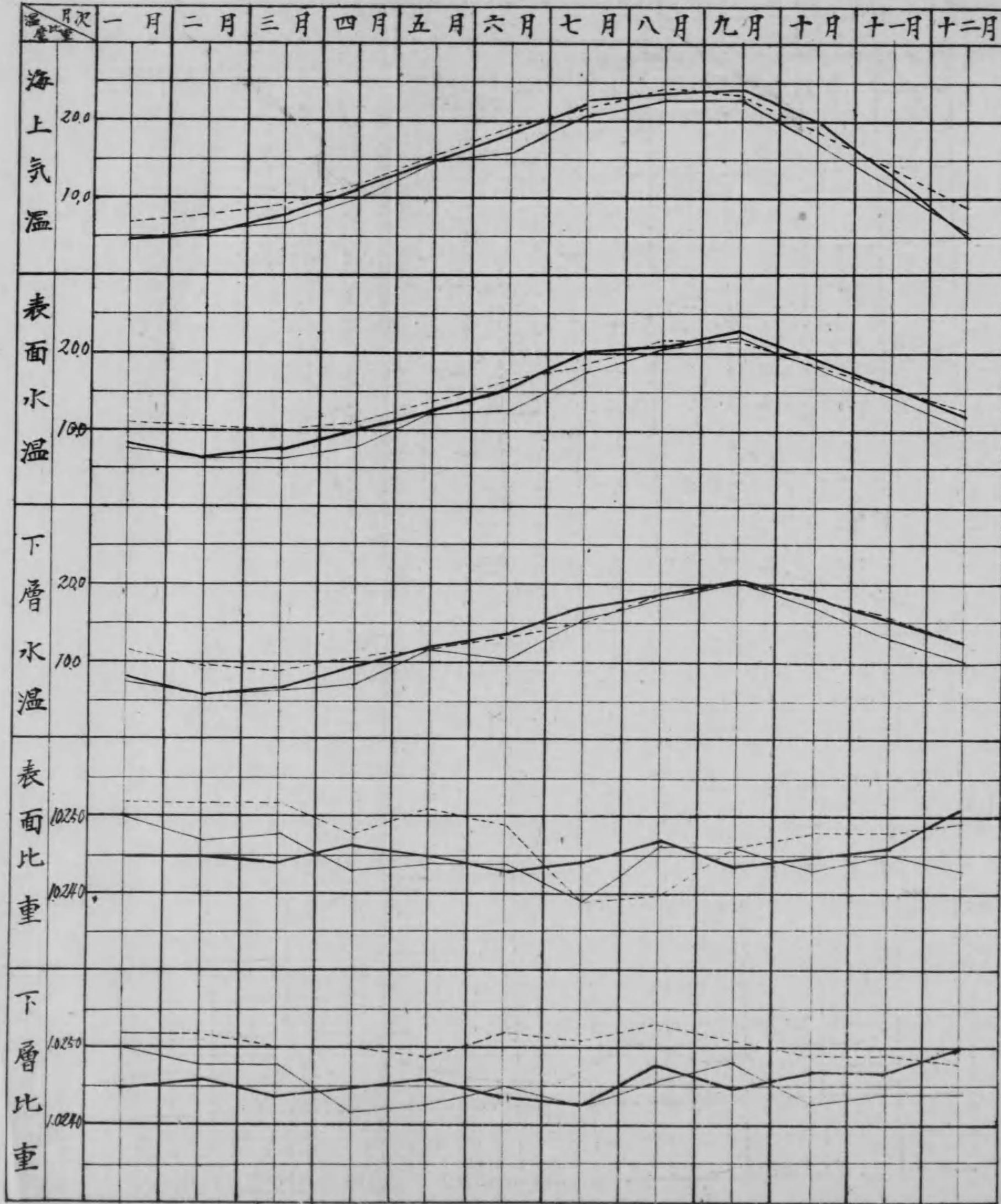




種別	月次	溫水面表			溫氣上海			種別	月次	種別	月次
		本年	前年	平均	本年	前年	平均				
北西	一月	二〇、四	二〇、四	二〇、四	二〇、四	二〇、四	二〇、四	北西	一月	北西	一月
北西	二月	二〇、五	二〇、五	二〇、五	二〇、五	二〇、五	二〇、五	北西	二月	北西	二月
北西	三月	二〇、六	二〇、六	二〇、六	二〇、六	二〇、六	二〇、六	北西	三月	北西	三月
北西	四月	二〇、七	二〇、七	二〇、七	二〇、七	二〇、七	二〇、七	北西	四月	北西	四月
北西	五月	二〇、八	二〇、八	二〇、八	二〇、八	二〇、八	二〇、八	北西	五月	北西	五月
北西	六月	二〇、九	二〇、九	二〇、九	二〇、九	二〇、九	二〇、九	北西	六月	北西	六月
北西	七月	二〇、〇	二〇、〇	二〇、〇	二〇、〇	二〇、〇	二〇、〇	北西	七月	北西	七月
北西	八月	二〇、一	二〇、一	二〇、一	二〇、一	二〇、一	二〇、一	北西	八月	北西	八月
北西	九月	二〇、二	二〇、二	二〇、二	二〇、二	二〇、二	二〇、二	北西	九月	北西	九月
北西	十月	二〇、三	二〇、三	二〇、三	二〇、三	二〇、三	二〇、三	北西	十月	北西	十月
北西	十一月	二〇、四	二〇、四	二〇、四	二〇、四	二〇、四	二〇、四	北西	十一月	北西	十一月
北西	十二月	二〇、五	二〇、五	二〇、五	二〇、五	二〇、五	二〇、五	北西	十二月	北西	十二月
北西	年平均	二〇、〇	二〇、〇	二〇、〇	二〇、〇	二〇、〇	二〇、〇	北西	年平均	北西	年平均

〔二十四日原釜三十湮ノ海區ニ於テ秋刀魚初漁〕

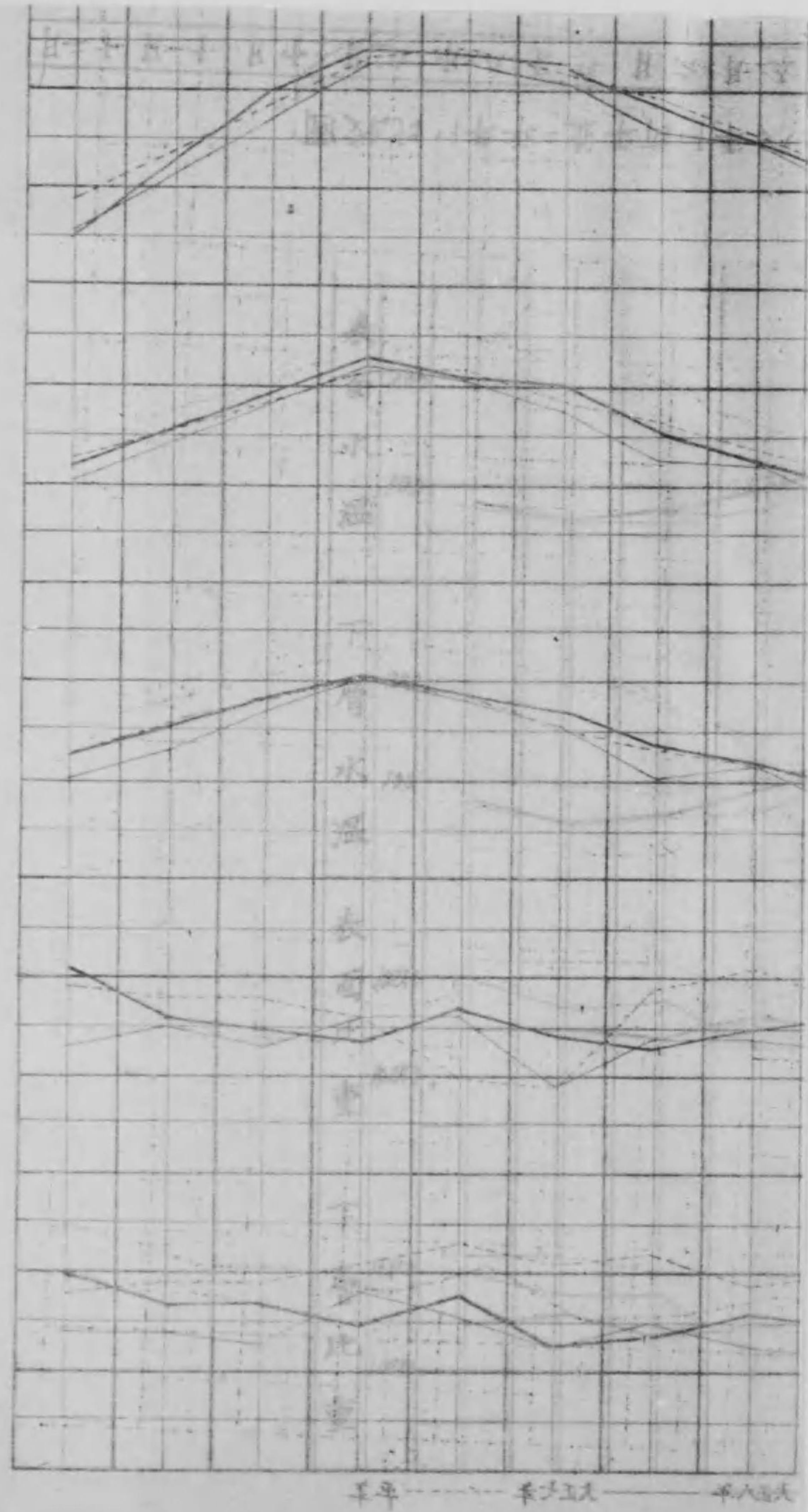
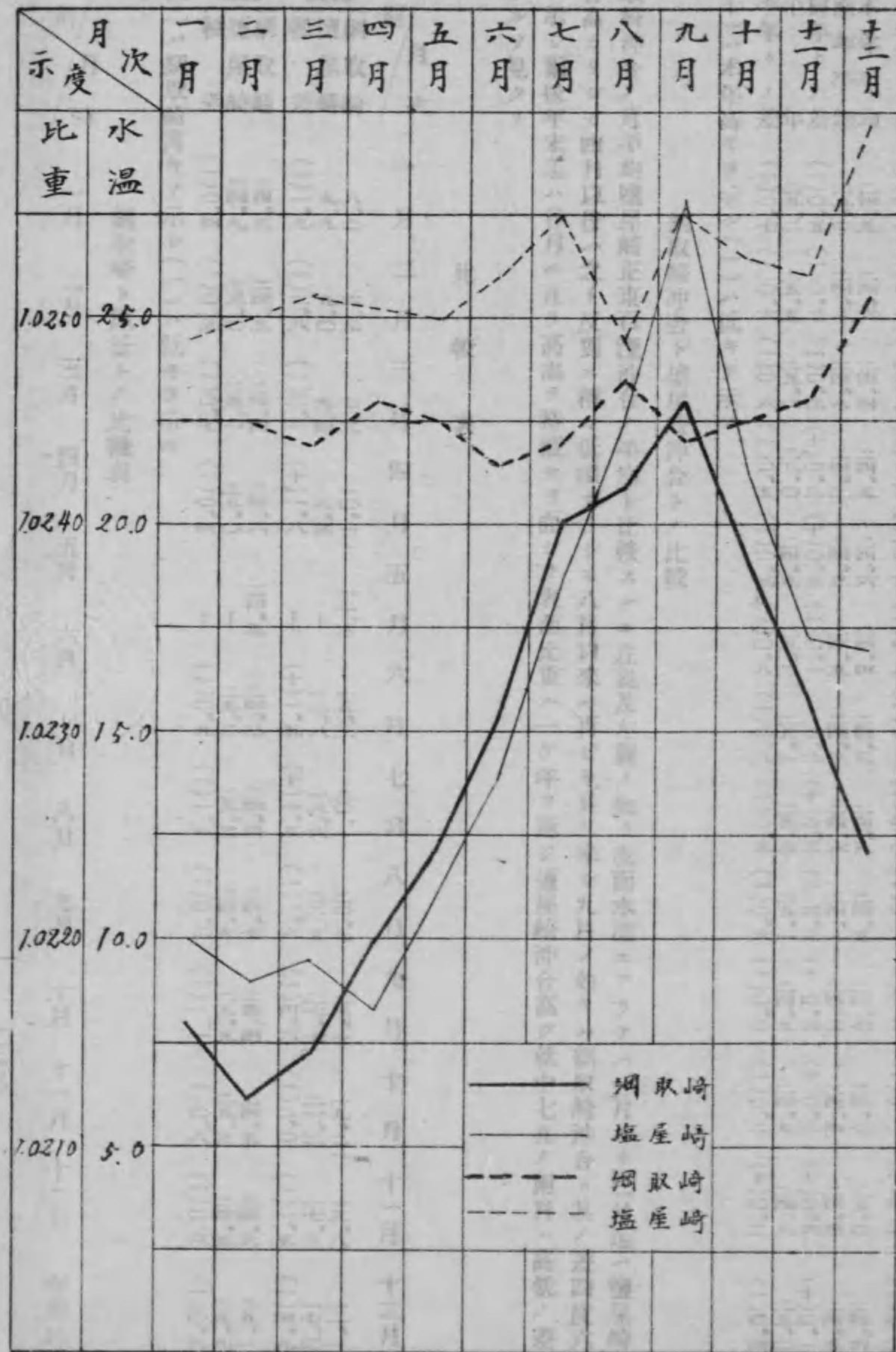
網取崎大正八年と前年並ニ平年とノ比較圖

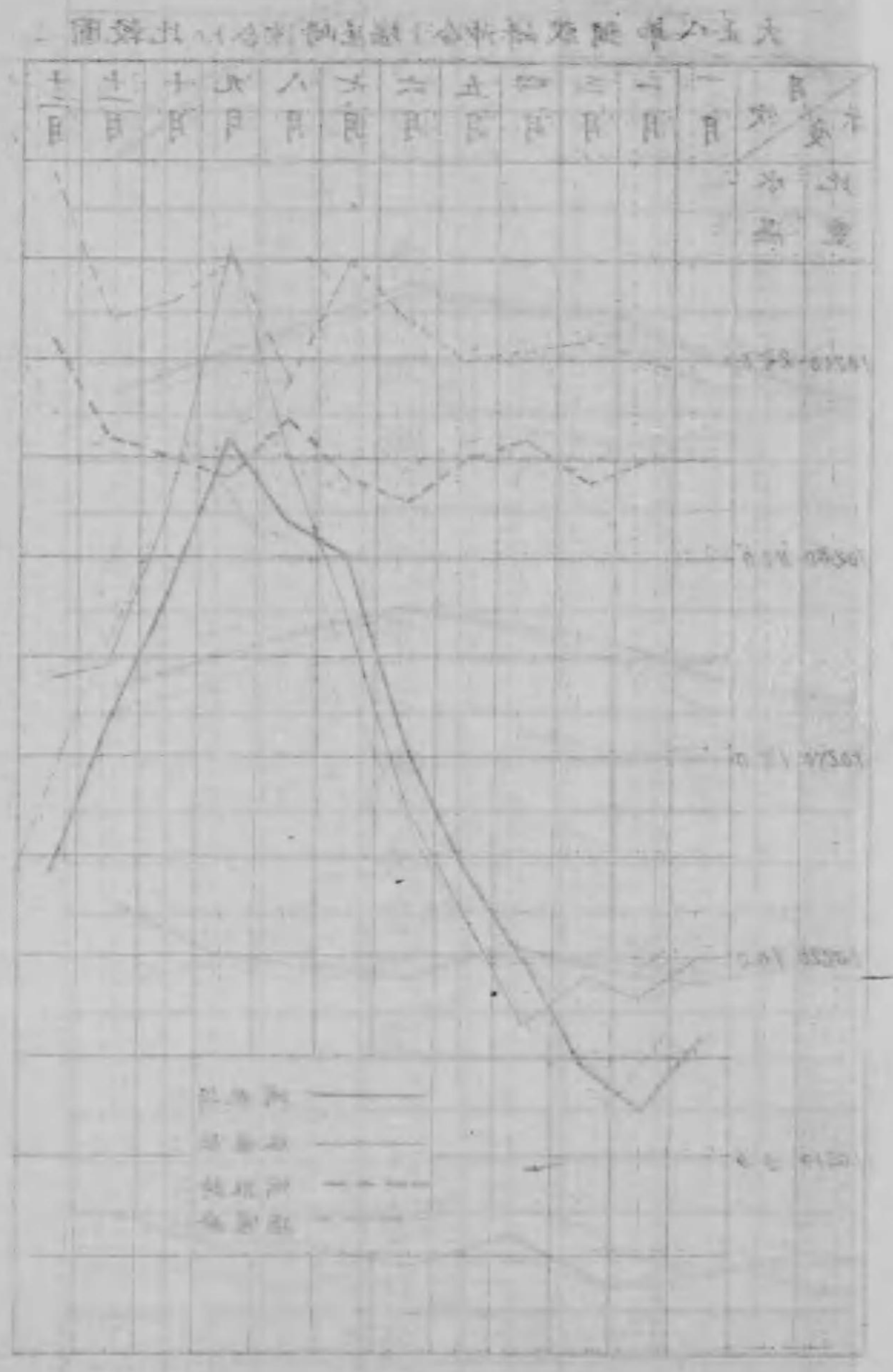


——大正八年——大正七年-----平年

種別	溫水面表				溫氣上海				月次	本年と前年並ニ平年とノ比較	種別	月次
	平年	前年	本年	平均	平年	前年	本年	平均				
北西	10.9	10.7	10.8	10.8	10.9	10.7	10.8	10.8	一月	北西	和	一月
西	10.9	10.7	10.8	10.8	10.9	10.7	10.8	10.8	二月	西	軟	二月
北西	10.9	10.7	10.8	10.8	10.9	10.7	10.8	10.8	三月	北西	和	三月
西	10.9	10.7	10.8	10.8	10.9	10.7	10.8	10.8	四月	西	軟	四月
北西	10.9	10.7	10.8	10.8	10.9	10.7	10.8	10.8	五月	北西	和	五月
西	10.9	10.7	10.8	10.8	10.9	10.7	10.8	10.8	六月	西	軟	六月
北西	10.9	10.7	10.8	10.8	10.9	10.7	10.8	10.8	七月	北西	和	七月
西	10.9	10.7	10.8	10.8	10.9	10.7	10.8	10.8	八月	西	軟	八月
北西	10.9	10.7	10.8	10.8	10.9	10.7	10.8	10.8	九月	北西	和	九月
西	10.9	10.7	10.8	10.8	10.9	10.7	10.8	10.8	十月	西	軟	十月
北西	10.9	10.7	10.8	10.8	10.9	10.7	10.8	10.8	十一月	北西	和	十一月
西	10.9	10.7	10.8	10.8	10.9	10.7	10.8	10.8	十二月	西	軟	十二月
										及年平均		

大正八年網取崎沖合ノ塩屋崎沖合ノ比較圖





重比層下				重比面表			
平年	前年	本年	平均	平年	前年	本年	平均
(1)0.7	(1)0.5	(1)0.5	(1)0.57	(1)0.7	(1)0.5	(1)0.5	(1)0.57
(1)0.5	(1)0.2	(1)0.2	(1)0.3	(1)0.5	(1)0.2	(1)0.2	(1)0.3
(1)0.2	(1)0.1	(1)0.1	(1)0.13	(1)0.2	(1)0.1	(1)0.1	(1)0.13
(1)0.1	(1)0.0	(1)0.0	(1)0.07	(1)0.1	(1)0.0	(1)0.0	(1)0.07
(1)0.0	(1)0.0	(1)0.0	(1)0.0	(1)0.0	(1)0.0	(1)0.0	(1)0.0

網取崎沖合ノ月平均鹽屋崎正東百濯沖合ノ平均ト比較スルニ左表及左圖ノ如ク表面水温ニアリテハ一月ヨリ三月迄ハ鹽屋崎沖合高カリシガ四月以後ハ之ト反對ニ稍々低温ナリシモ八月以來ハ再び上昇ヲ來シ九月ノ如キハ網取崎沖合ト其ノ差四度六分ヲ示シ爾後年末迄ハ各月ニ亘リ高温ヲ持續セリ而シテ表面比重ハ一ケ年ヲ通ジ鹽屋崎沖合高ク就中七九月兩月ハ高低ノ差大ナルヲ見タリ

種別	月次	水面		層下	
		平年	本年	平年	本年
一月		24.5	25.0	24.8	25.1
二月		24.5	25.0	24.8	25.1
三月		24.5	25.0	24.8	25.1
四月		24.5	25.0	24.8	25.1
五月		24.5	25.0	24.8	25.1
六月		24.5	25.0	24.8	25.1
七月		24.5	25.0	24.8	25.1
八月		24.5	25.0	24.8	25.1
九月		24.5	25.0	24.8	25.1
十月		24.5	25.0	24.8	25.1
十一月		24.5	25.0	24.8	25.1
十二月		24.5	25.0	24.8	25.1
年平均		24.5	25.0	24.8	25.1